

Battle Spirits—ガールズスピリッツパーティー—

背徳の炎

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

バトルスピリッツ全国大会：強敵ぞろいの中で一人の少年は勝ち制覇した。

そんな少年は全国を制覇後唐突に姿をくらましてしまう。この物語は少年とバンドリキャラを中心にバトスピをする物語である。

リンクエスト受け付け中←

<https://syosetu.org/?mode=kappo|view&kid=227681&uid=183649>

目次

第0ターン目	帰ってきた六色使い	由	65
1			
第1ターン目	天魔王対想獣		6
第2ターン目	納得いかないなら…		18
第3ターン目	王の創界神（キングスグ ランウォーカー）とは		29
第4ターン目	ある日の日常		34
第5ターン目	再会と出会い		44
第6ターン目	あの日の約束、星竜対古 竜		50
第7ターン目	光導12宮を使わない理 竜		114
第8ターン目	アイドルと王の創界神の と遭遇		71
第9ターン目	対決！武竜対殺人		80
第10ターン目	こんな日も悪くない		90
第11ターン目	破天荒な女子とその仲 間		94
第12ターン目	転召せよ！星竜対死竜		99
第13ターン目	気になることが…		114

	第14ターン目	Pastel Pale	
	ttesとの1日		119
	第15ターン目	うん、知ってたよ	
123			
	第16ターン目	再起動の光導対大抜刀	
			128
	第17ターン目	防御マジックを入れよ	
	うな		141
	第18ターン目	兎対妖精	145
	第19ターン目	反省点とこれから	
155			
	第20ターン目	合宿のスタート前	
159			
	第21ターン目	合宿 スタートの時	
			166
	第22ターン目	合宿その1	
	第23ターン目	合宿その2	
		白の王遭	171
	第24ターン目	合宿その3	
		ギリギリ	176
	第25ターン目	合宿その4	
		その後と	183
	第26ターン目	合宿その5	
	第27ターン目	合宿その6	
	第28ターン目	合宿その7	
		兄弟対決	203
			207
			199
			213

第29ターン目 合宿その8 | 224

第30ターン目 合宿その9 終幕

229

第31ターン目 友人の家に行こう。

233

第32ターン目 え、これでいいのか：

? | 240

第33ターン目 これも、人助げだ。

247

第34ターン目 再会したのは…まさかの許嫁

| 260

第35ターン目 これはいったいどうす

れば… | 266

第36ターン目 天霊対劍聖 | 272

第37ターン目 え、聞いてないぞ

284

第38ターン目 緑の王 ユグドラシル

| 292

第39ターン目 前に進むために

298

第40ターン目 日常の中で… | 310

第41ターン目 赤のお嬢様とホワイト

な鳥 | 317

第42ターン目 皇獣対星竜 | 322

第43ターン目 予選に向けて | 337

第44ターン目 なんだ…これ…

388	第52ターン目	甲竜&遊精対地竜	
	第51ターン目	御曹司現る	384
	第50ターン目	戦う理由	379
	第49ターン目	異界の創界神	374
	怖		364
359	第48ターン目	弱者の恐怖と強者の恐	
	第47ターン目	だからやめられない	351
	ない		
	第46ターン目	転神ビートは伊達じゃ	347
	第45ターン目	新弾環境	
341	第53ターン目	創界神戦争の行方	
	第54ターン目	現れた青年と現状	398
	第55ターン目	弾、蓮華と行動する	404
410	第56ターン目	星竜対ゲーマー	
415	第57ターン目	やっぱりノヴァは強	
	かった…		426
444	第58ターン目	デジモン対決	431
	第59ターン目	青く凜とした少女	

第60ターン目	青の王と憧れ抱くの少	450
女		
第61ターン目	Rose liaは蓮華	456
ともつと親睦になりたい上		
第62ターン目	Rose liaは蓮華	461
ともつと親睦になりたい中		
第63ターン目	Rose liaは蓮華	466
ともつと親睦になりたい下		
第64ターン目	蓮華、花咲川に行く。	471
第65ターン目	学校生活が辛いよ	477
第66ターン目	ライバル遭遇	484
第67ターン目	ライバル対決 蓮華対	490
權斗		
第68ターン目	本命つとは…	505
第69ターン目	王たちの願い	510
第70ターン目	バトスピチャンピオン	515
シップ予選		
第71ターン目	圧倒的打点、モカの甲	520
竜デッキ		
第72ターン目	凶器の赤、滅龍	528
第73ターン目	同時アタックの脅威	540
第75ターン目	蓮華と權斗	554

現在の人間関係

559

第76ターン目 悪夢の紫、コア除去

575

六道蓮華の旅日記1

588

六道蓮華の旅日記2

608

六道蓮華の旅日記3

624

六道蓮華の旅日記4

636

六道蓮華の旅日記5

648

六道蓮華の旅日記6

669

六道蓮華の旅日記7

677

第0ターン目 帰ってきた六色使い

? 「アタックステップ、超神光龍サジットヴルム・ノヴァでアタック。界放の効果で創界神（グランウォーカー）ネクサスからコア3個をこのスピリットに置くことで系統「光導」を持つ自分のスピリットの数まで、相手のライフのコアをボイドに送る。」

男「う！負けました。」

アナウンス「勝者六道蓮華!!」

蓮華「しゃー!!」

全国を制覇した六道蓮華（ろくどうれんか）、彼は無名から有名な6色使いとして名が広まった。全国を制覇してわずか1か月、六道蓮華はバトスピ界から姿をくらました。

理由も告げることなく…誰もが混乱した。

だが、蓮華には目的があった。その目的は…王の創界神（キングスグランウォーカー）

と言われるカードの散策することだった。そのカードはいつたどこにあるのかそれは未だに謎なのだ。

それから：2年後、六道蓮華は高校2年となり普通の高校生活を送っていた。

とある男子校

男子生徒「六道、バトスピやろうぜ！」

蓮華「わりい今日バイトなんだわ。」

蓮華は申し訳ないように言う。男子生徒は「しょうがねえーよ。」と言ってその場を去った。

蓮華は学校からいつものようにバイト先に向かう。ただ、王の創界神のカードがどこにあるのが気掛かりでありながら。全部で6枚のカード存在する王の創界神、蓮華はただそのカードがすぐに見つかるよう祈るだった。

—カードショップCiRCLE—

蓮華「ちわーす。」

まりな「あ、蓮華君」

まりなは蓮華に近づいて「今日よろしくね。」つと言う。蓮華も「はい」つと返事をする。

着替えて仕事していると5人の団体が来た。

？「まりなさん、バトルスペース借りに来ました。」

まりな「Roseliaのメンバーね、いいよ。蓮華君、案内してあげて！」

蓮華「はい！」

そうやってRoseliaのメンバーをバトルスペースに案内する

蓮華 「ここだ。」

? 「ええ、ありがとう。それと貴方もしかして六道蓮華?」

蓮華 「へー知っているだ。俺のこと。」

? 「ええ。私は湊友希那（みなとゆきな）よ。申し訳ないけど貴方にバトルを申し込むわ。」

唐突出会ってバトルを申し込まれたにもかかわらず蓮華は表情も変えずに友希那をみて「いいよ。やろうか。」と言う。

互いはデツキを取り出してテーブルに着く

友希那、蓮華 「ゲートオープン解放!!」

この戦いが蓮華にとって久々の楽しいバトスピなのだ。この戦いよって蓮華は沢山の仲間ができることも…そして王の創界神が関わることになるとも知らずに…。

第1ターン目 天魔王対想獣

蓮華と友希那手札4枚、コアをライフ5、リザーブに4と置く。

蓮華「先行はあんたからでいいよ。」

友希那「そうさせてもらうわ。私のスタートステップ、ドローステップ…。…メインステップ、2コストでゴッドシーカー猫女神バステトをレベル1で召喚。」

蓮華「想獣か…面倒だな。」

友希那「召喚時効果、デッキの上から3枚オープン。」

オープンされたカード：創界神ラー、中フィinks、宝石の獣カーバンクル。

友希那「対象カードはラーと中フィinks、手札に加えるわ。残りはデッキ下に。」
蓮華「(相性的には最悪だ。)」

友希那「さらに軽減1でコスト1、創界神ラーを配置。配置時効果、デッキから3枚
オーブン。」

オーブンされたカード。選ばれし探索者アレックス、闇輝石六将幻想獣神キリング
ス、子フィンクス

友希那「対象は2体。ラーにコア2個チャージ。ターンエンド。」

友希那

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：ゴッドシーカー猫女神バステトへソウルコアへ

ネクサス：創界神ラーへ2へ

リザーブへ0へ

コアトラッシュへ3へ

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。5コスト、神の化身呉爾羅を配置。」

友希那「呉爾羅ですって!?!」

蓮華「配置時効果、デッキから3枚オープン。」

オープンされたカード：ゴジラ「1971」、ゴジラ(2016)第2形態、天魔王ゴッド・ゼクス

蓮華「対象は2。呉爾羅にコア2チャージ、バーストセットしてターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：3

フィールド

ネクサス：神の化身呉爾羅へ2

リザーブへ0

コアトラッシュへ4、ソウルコア

バーストあり

友希那「私のスタートステップ、コアスタッフ、ドローステップ、リフレッシュステツプ、メインステツプ。軽減2で子フィinksスをレベル2で2体召喚。コアチャージ発揮、ラーにコアを追加、ターンエンド。」

蓮華「攻撃しないだね。」

友希那「下手に攻撃したら呉爾羅の餌食になるからね。」

友希那

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：子フィinksス×2へ2ずつ、ゴッドシーカー猫女神バステト<ソウルコア>

ネクサス：創界神ラー<4>

リザーブ：<0>

コアトラツシュ：<0>

バーストなし

そういうと、他のメンバーの二人が疑問に思っていた。

？「ねえねえリサ姉、呉爾羅の餌食ってどうゆうこと？」

リサ「そうね、呉爾羅の神域（グランフィールド）ってBP6000以下のスピリットまたはアルティメットがアタックしたとき、破壊するこうかだったわ。」

？「えー！しやあ、低コストのスピリット、アルティメットじゃ攻撃できないよ！」
そう言っているとは蓮華はターンを進める。

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減2マジック、ブレイヴドロロー。デッキから2枚ドロロー、その後デッキから3枚オープン。」

オープンされたカード：大神剣アラマンディー、魔王ゴッド・ゼクスー終ノ型、
魔王ゴッド・ゼクスーソウルドラゴンノ型

蓮華「対象はアラマンディー、手札に加えて残りはデッキ上へ。順番はソウルドラゴンノ型を一番上にする。さらに2軽減さつき加えたアラマンディー召喚し、呉爾羅にブレイヴ。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：4

フィールド

ネクサス：神の化身呉爾羅へ2（アラマンディーブレイヴ中）

バーストあり

リザーブ：へソウルコア

コアトラツシユ：へ4

バーストあり

友希那「マズイわね、ゴッド・ゼクスが出たらこちらが不利になる。スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ、メインステップ。2軽減、闇輝石六将幻想獣神キリングスをレベル1で召喚。コアシャージ發揮、ラーにコアを追加。アタックスステップ。」

蓮華「とうとう来るか。」

友希那「キリングスでアタック。」

蓮華「呉爾羅の効果でBP2000のキリングスを破壊。」

友希那「効果でボイドから1個をキリングスに置いて疲労状態で残るわ。」

蓮華 「フラッシュはないよ。」

友希那 「こちらもないわ。」

蓮華 「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ：5↓4

蓮華 「ライフ減少時、バースト発動。宇宙凶悪戦闘獣スペースゴジラをレベル2で召喚。バースト効果でシンボル1つのスピリットまたはアルティメットを破壊する。この効果で破壊されたやつは効果を発揮しない。子フィックス2体破壊。」

友希那 「やられたわ、ターンエンド」

友希那

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：闇輝石六将幻想獣神キリングスへ2（疲労中）、ゴッドシーカー猫女神
バステトへソウルコアへ

ネクサス：創界神ラーへ5

リザーブ：〈4〉

コアトラツシユ：〈0〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシユステップ、メ
インステップ。軽減3で大六天魔王を配置。配置時は使わない、さらに軽減3でゴジラ
「1971」をレベル1で召喚。呉爾羅のコアチャージ発揮、ゴジラ「1971」の効果
でトラシユのスピリットカードを手札に、対象は天魔王ゴッド・ゼクス。そして、大六
天魔王を疲労させることによってゴッド・ゼクスを含むスピリットをすべての軽減をみ
たしたとして扱う。」

友希那「なんですって!？」

? 「それしやあ、まさか…。」

蓮華「そのまさかさ…フル軽減、2コストで天魔王ゴッド・ゼクスをレベル1で召喚。
大六天魔王をコアチャージ発揮。さらにスペースゴジラに乗っているソウルコアを
ゴッド・ゼクスに置き、バーストをセットしてターン終了。」

蓮華

ライフ：4 手札：2

フィールド

スピリット：天魔王ゴッド・ゼクスへソウルコア、1へ、宇宙凶悪戦闘獣スペースゴジラへ1へ、ゴジラ「1971」へ1へ

ネクサス：神の化身呉爾羅（アラマンディーブレイヴ中）へ4へ、大六天魔王（疲労中）へ1へ

リサーブ：へ0へ

コアトラツシュへ3へ

バーストあり

友希那「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ。」友希那がスピリットを疲労から回復させようとした時、蓮華が「ゴッド・ゼクスの効果、六天連鎖（ろくてんラツシュ）発揮！この効果はシンボル3色あるとき、スピリットとアルティメットすべては回復できない。」と言った。

友希那「これじゃあキリングスでアタックできない。（それどころかセクメトウームに煌臨できない。ブレイブの姫銃―雅―がダブっついていて動きがとれないわ。）ターンエンド…。」

友希那

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：闇輝石六将幻想獣神キリングスへ2（疲労中）、ゴッドシーカー猫女神

バステトへソウルコア

ネクサス：創界神ラーへ5

リザーブ：へ5

コアトラツシュ：へ0

バーストなし

？「湊先輩…。」

リサ「手札事故だね。これはキツイわ。」

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。大六天魔王を疲労させ、フル軽減で3コスト、天魔王ゴッド・ゼクスー
ソウルドラゴンノ型―をレベル1で召喚。大六天魔王のコアチャージ発揮。呉爾羅に
ブレイヴしているアラマンディーをソウルドラゴンノ型にブレイブ。さらにスペース

ゴジラとゴジラ「1971」のコアをソウルドラゴンノ型に移動させて2体を消滅させる。これでソウルドラゴンノ型はレベル2。」

友希那「くう！」

蓮華「アタックステップ、アラマンディーをブレイブしたソウルドラゴンノ型でアタック。ソウルドラゴンノ型のレベル2効果、相手スピリットのコア2個ずつをトラッシュに。」

友希那「キリングスの効果でボイドからコア1個をキリングスにおいて疲労状態で残るわ。バステトは消滅。」

蓮華「ソウルドラゴンノ型の六天連鎖発揮。3色以上あるときさっきの効果で消滅したスピリットの数、ライフを削る。」

友希那：5↓4

友希那「フラッシュないわ…。」

蓮華「ソウルドラゴンノ型はトリプルシンボル。」

友希那「ライフで受ける。」

友希那：4↓1

蓮華 「続けて天魔王ゴッド・ゼクスでアタック。ゴッド・ゼクスの効果でソウルコアが置かれている間、2色以上のスピリットがアタックしたことによりキリングスのコアを2個トラッシュに送る。」

友希那 「フラッシュはないわ…。」

蓮華 「こちらもない。」

友希那 「ライフで受ける。」

友希那：1↓0

蓮華：WIN 友希那：LOSE

第2ターン目 納得いかないなら…

蓮華の勝利し友希那も悔しそうにしていたが実力をしれて満足のようなようだった。だが、1人納得していない人がいた。

友希那「負けたわ…。でも貴方の実力が分かった気がするわ。」

蓮華「そうかな？これでもまだまだなだけ…。」

？「あ、あのく、六道さんって。」

蓮華「蓮華でいいよ。」

？「は、はい。蓮華さんは2年前ぐらいにバトスピ全国大会に出ていませんでしたか…？」

蓮華「ああ、出ていたよ。ええつと…」

？「すみません私、白金燐子（しろがねりんこ）って言います…。」

蓮華「そうか、燐子さんは全国大会のまじかで見えたかもしかしくはテレビ中継とか見たの？」

燐子「はい。その時はテレビ中継で。」

？「あ、私も見ましたよ！」

蓮華「そうなのか？えつと…。」

？「私宇田川（うだがわ）あこ、よろしくね。蓮兄！」

蓮華「あ、ああ。」

リサ「それにしても友希那に勝つなんてね。あ、私今井（いまい）リサ、よろしくね。でもってこっちの貴方を睨んでいるのが氷川紗夜（ひかわさや）よ。」

紹介された紗夜は「よろしくお願いします。」というが睨んだままである。

どうやらさっきのバトルが納得いかないらしい。

蓮華「ええつと、どうしたの？」

紗夜「納得いかないんです。確かに貴方は強いわ。でも、貴方は手加減しているように見えるわ。」

友希那「それはないわ。彼は楽しくバトスピをしていたのよ。」

蓮華「納得していないなら俺とバトスピしようぜ。」

蓮華はさっきとは違うデツキを取り出す。

紗夜「ええ、やりましょ。貴方の實力見させてもらうわ。」

お互いのデッキをシャッフルしライフとりザーブをそれぞれ準備する

蓮華「はじめようか。」

紗夜「ええ。」

蓮華・紗夜「ゲートオープン解放！」

紗夜「先行は私がやるわ。スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神アルテミスを配置。」

蓮華「ほう、白デッキの機獣か…。」

紗夜「配置時効果、デッキから3枚オープン。」

オープンされたカード：紅炎の戦姫ブリュンヒルデ、月天神獣ファナテックエルク、白夜の宝剣ミッドナイト・サン

紗夜「対象は2枚、コア2個をアルテミスにチャージ。ターン終了。」

紗夜

ライフ：5 手札：4

フィールド

ネクサス：創界神アルテミスへ2

リザーブへソウルコア、1

コアトラッシュへ2

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。ソウルコア使用し4コスト、エイプウィップをレベル1で召喚。召喚時効果、ボイドからコアをエイプウィップに。さらにソウルコアを召喚コストに使用したことでボイドからコアトラッシュに2個コアチャージ。バーストをセットしてターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：エイプウィップ〈2〉

リザーブ：〈0〉

コアトラツシュ〈ソウルコア、5〉

バーストあり

紗夜「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユスステップ、メ
インステップ。ゴッドシーカーメガズボックをレベル1で召喚。アルテミスのコア
チャージ發揮。召喚時効果、デツキから6枚オープン。」

オープンされたカード：リーディング・オリツクス、月天神獣フアナティック・エル
ク、黒皇機獣ダークネス・グリフォンX、メタルガルルモン、ネメアー・レオSVL
00、リーディング・オリツクス

紗夜「対象はフアナティック・エルクを手札に、残りをデツキ下に。」

蓮華「この瞬間、バースト発動。聖皇ジークフリーデンをレベル1で召喚。不足コア
はエイプウィップから1つジークフリーデンへ。ジークフリーデンの召喚時効果、デッ

キから3枚オープンその中の古竜、武装を持つスピリットを好きなだけ手札に。」

オープンされたカード：煌龍皇シン・ジークフリード×2、天星12宮炎星竜サジタ
リウス・ドラゴン

蓮華「対象3枚、すべて手札に。」

紗夜「くう！ターンエンド。」

紗夜

ライフ：5 手札：5

フィールド

スピリット：ゴッドシーカー・ネガズボックへ1

ネクサス：創界神アルテミスへ3

リザーブ：へソウルコア、2

コアトラッシュへ0

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。ジークフリーデンをレベル3にアップ。アタックステップ、ジークフリーデンでアタック。」

紗夜「フラッシュはないわ。」

蓮華「フラッシュタイミング、ソウルコアをコアトラッシュにジークフリーデンに煌龍皇シン・ジークフリードに煌臨。煌覚醒発揮、ソウルコアをシン・ジークフリードに乗せてBP2000以下のスピリット、アルティメットを破壊する。ネガズボックを破壊し、シン・ジークフリードを回復。」

あこ「つてことは…。」

リサ「煌臨がもう一度できる。」

紗夜「ライフ受けるわ。」

紗夜ライフ：5↓4

蓮華「シン・ジークフリードでアタック。」

紗夜「フラッシュタイミング、創界神アルテミスの神技（グランスキル）発揮。アルテミスのコア3個ボイドに送りこのバトルの間アタックではライフはへらないわ。」

蓮華「関係ねえ。バトルでライフを削れないなら効果で削るまでだ。フラッシュタイミング、ソウルコアをコストに煌龍皇シン・ジークフリードを煌龍皇シン・ジークフリードに煌臨。煌覚醒発揮、ソウルコアをシン・ジークに。」

紗夜「ライフで受ける。」

蓮華「これで準備は整った。シン・ジークでアタック。」

紗夜「フラッシュはないわ。」

蓮華「フラッシュタイミング、ソウルコアをコストにオメガモンに煌臨。」

紗夜「っな!!」

蓮華「オメガモンの煌臨時効果でこのスピリットのBP以下のスピリット、アルティメットを破壊するが対象は不在、ターンに1回このスピリットは回復する。」

リサ「これはやられたわね…。」

燐子「あの状態だと…アルティミックスシールドは…ないようですね…。」

紗夜「フラッシュはないわ、ライフで受ける。」

蓮華「オメガモンでアタック。」

紗夜「フラッシュはないわ。」

蓮華「フラッシュタイミング、オメガモンの効果でコスト9の煌臨元のスピリットを破棄し、相手のライフを2個トラッシュに送る。」

紗夜：ライフ4↓2

紗夜「ライフで受ける。」

蓮華「ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：オメガモン（疲労中）〈6〉、エイプウィップ〈1〉

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ〈ソウルコア〉

バーストなし

紗夜「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1でコスト2でアルテミスの大樹神殿をレベル2で配置。さらに、
フル軽減、コスト1でリーディング・オリックスをレベル3で召喚。アルテミスのコア

チャージ發揮。アタックステップ、リーディング・オリックスでアタック。」

蓮華「フラシユはないよ。」

紗夜「フラシユタイミング、ソウルコアをコストに神聖機獣ライトニング・ケリユネイアーに煌臨。アルテミスのコアチャージ發揮。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ5↓4

紗夜「ターンエンド。」

紗夜

ライフ：2 手札：3

フィールド

スピリット：神聖機獣ライトニング・ケリユネイアー（疲労中）〈3〉

ネクサス：創界神アルテミス〈2〉、アルテミスの大樹神殿〈1〉

リザーブ：〈0〉

コアトラシユ〈ソウルコア、3〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。そのまま、アタックステップ。オメガモンでアタック。アタック時効果、オメガモンのBP以下、21000以下のスピリット、アルティメットを破壊する。ライトニング・ケリユネイアーを破壊。」

紗夜「くう、フラッシュはないわ…。」

蓮華「フラッシュユタイミング、オメガモンの煌臨元のコスト9のスピリットを破棄して相手のライフ2個をトラッシュに。」

紗夜「負けたわ…。」

紗夜：ライフ：2↓0

蓮華：WIN 紗夜：LOSE

第3ターニ目 王の創界神（キングスグランウォーカー） とは

蓮華の脳筋デツキに負けた紗夜。だが、満足そうに微笑んだ。そして、申し訳なさそうに謝罪する。

紗夜「ごめんなさい。貴方が手加減しているつとか言ってしまったて…。」

蓮華「いいよ。そんな気にしないから。」

蓮華は紗夜の謝罪に関してはまだあまり気にせず微笑みながら言う。

あこ「ねえねえ！他にどんなデツキ使うの？」

蓮華「他か…星竜、殻人、古竜、死竜、滅竜…数えると色々あるな。」

リサ「それだけバトスピが好きなんだね。」

蓮華「まあな。それにやる理由はそれだけじゃないんだ。」

リサ「それだけじゃないってどうゆうこと？」

蓮華「このバトスピに王と呼ばれる創界神のカードがあるんだ。」

友希那「王ですって?。」

同然 Roselia メンバーは疑問に思うだろう。

蓮華「王の創界神（キングスグランウォーカー）は一般の人では知られていないんだ。公式ですら知られない謎のカード。全部で6枚の創界神が存在するんだ。赤はイザナギオオカミ、青はノア、緑はユグドラシル、白はアイアンロッド、紫はヴリトラ、黄色はイシユタルって言う創界神があるんだ。」

燐子「まさに…神のカードですね…。」

蓮華「言い方を変えたらそうなるね。」

紗夜「でも、公式や一般の人が知らないのに貴方はどうやって…。」

蓮華「家に書物があったんだよ…おそらく祖父が残したものだけど…。」

友希那「貴方、家族はどうしてるの?。」

蓮華「母さんと父さんは海外で仕事していて妹はバトスピ修行で北海道にいるんだよ。」

R o s e l i aメンパーは思った。修行でほ北海道つてと

蓮華「だから、今家は1人なんだ。」

リサ「意外と寂しい思いしてるのね。」

蓮華「まあね。でも、王の創界神のことがあるから下手に気が抜けない。」

紗夜「王の創界神はもとはどこに？」

蓮華「元々は日本に1枚、残りの5枚は海外にあったんだ。でも、いつの間にかそのカードは誰かによって行方をくらましているって言われているし。世界中探したけど全然見当たらなかった。」

友希那「ちよつと待って！世界中つて…。」

蓮華「全国大会を終えた、1か月ぐらいかな。一度、バトスピから手を引いて、王の創界神を探したんだ。」

燐子「その結果が…。」

蓮華「ああ。見つからなかった。」

友希那「それだけ何者かが手を出しているってことかしら…。」

蓮華「そうだな…。」

リサ「ねえ！その創界神を探しを手伝うっていうのは…ダメかな？」

蓮華「危険性を伴うかもしれないんだよ。あの創界神を使われたらダメージが実体化される。浄化もされていない王の創界神は危険だ。」

友希那「それでも手伝うわ。」

蓮華は他のメンバーを見た。どうやら、他のメンバーも手伝う気らしい。

蓮華「はあ…。分かったよ、ただし無茶しないことだ。」

友希那「わかったわ。」

あこ「それじゃあさ、あこ達の連絡先をしえところよ。」

蓮華「え…」

その時、蓮華は動揺した。何故かという蓮華は母親と妹以外、女子の連絡先を教えたこともないのだ。当然Roseliaメンバーはその動揺を見逃さなかった。

リサ「どうしたのw」

蓮華「だ、大丈夫だ。連絡先を交換しよう。／／／」

蓮華はRoseliaメンバーと連絡先を交換した。蓮華は少し顔を赤くしていた

が…

蓮華「俺、そろそろ別の仕事しねえといけないから行くわ。」

友希那「ええ。対戦ありがとう。」

友希那は席を立ち蓮華にお礼を言う。同様に紗夜も席を立ちお礼を言う。蓮華は軽く返事をしてその場を去っていく。

第4ターン目 ある日の日常

Roseliaの友希那と紗夜とのバトル、そして、Roseliaメンバーとの会話と連絡先の交換した六道蓮華。バイトを終え、家に着いて中に入っていると疲れてリビンのソファアーのもたれ掛かって蓮華は「はあ…。」って言うのでした。

蓮華「疲れた…。」

蓮華は机にあったテレビのリモコンを取り、テレビをつけるそこにはアイドルがバトスピしている光景だった。

蓮華「アイドルもバトスピすんのな…：…なんか、腹減ったな…：カップ麺でも食べるか…：。」

蓮華はソファアーから立ち台所でカップラーメンを取り出しポットで湯を注ぎ3分待つ。

蓮華「そろそろ味変えようかな…醤油から味噌に…いや塩でもいいな…あ、3分だ、食べよう。」

蓮華はカップラーメンのふたをとり食べるが、焦って食べたせいか蓮華は「熱っ…」と言いながら食べていた。

夕食を終え携帯端末を見るとリサから連絡が入っていた。内容は息抜きのお出かけだそうだ。

蓮華「息抜きか…誘いに乗るか…。」

蓮華は誘いに乗ることにしてリサに返事をする。即座に返事かえって来たので集合場所は商店町のベーカリー前だそうだ。

蓮華「あそこってパン屋ったよな。」

そう思いつつ蓮華は風呂に入り風呂から上がってからはグッズをいじって、寝るので

あつた。

翌日：蓮華は服を着替え、しかも上下黒である……どこのキリトだよ……。着替え終えた蓮華は部屋を出て、リビングに入り、台所へ行くとすかさずカツプラーメンの味噌味を取り出して湯を注ぎ3分待ち、食べるのであつた。食べ終えてちやつちやと片付けて集合場所に行くため家を出るのであつた。

商店町 ベーカリー前

蓮華「あ、いた。」

友希那「来たようね。」

リサ「ごめんね、昨日急に誘つて。」

蓮華「いいよ。折角の誘いだから。」

友希那「それじゃ、行きましようか。」

蓮華「どこへ？」

リサ「ショッピングモールの中に来たカードショップよ。」

そうゆうことで3人はショッピングモールのカードショップに移動する。

シヨツピングモール内 カードシヨツプ

リサ「うあー…人がいっぱいね。」

友希那「仕方ないじゃない、休日だし。」

蓮華「これからどうするの？」

リサ「私や友希那のデッキを強化したいだけどう強化したほうがいいかアドバイスしてほしくてね。」

蓮華「なるほど、分かった。それならさそつく入って強化にしようか。」

リサ・友希那「ええ。」

カードシヨツプに入り、席に着く。

蓮華「リサはデッキってなんのテーマで組んでるの？」

リサ「私？私は…デジモンの殻人、樹魔よ。」

蓮華「コラボのカードか…なら純粹緑じゃないほうがいいね。もしくは断罪の滅龍ジャツジメント・ドラゴニスを入れるとかね…」

リサ「なるほど赤のカードか…。」

蓮華「友希那はデツキの回転率を上げようか。」

友希那「ええ、そうね。」

蓮華はリサと友希那にアドバイスを言い、2人について、ストレージを漁ってみたりシヨウケースにあるカード見て、アドバイスするなどしてた。

それから昼になって、昼食をとり、またカードシヨップに立ち寄りデツキの調整に入る。そうすると蓮華は「わりい、買いたいカードあるからちよつと買ってくる。」つと言つて席を外した。

女子2人になつたつて数分、女子2人に男が2人近づいてきた。

男1「ねえねえ、俺たちと遊ばない？」

リサ「ごめんね。もう間に合ってるから。」

男2「いいじゃんかよ、俺たちと遊ぼうぜ。」

そうやり取りしていると、蓮華が帰ってきた。

リサは「おーい、蓮華！」つていうと男たちは蓮華のほうを見る。

男1 「なんだあのガキ。ひよれえーな。」

男2 「弱そうだな。」

友希那 「貴方たち…！」

友希那が止めようとするので蓮華が「まあまあ、落ち着けよ。」言う。

蓮華 「アンタら、これで語るタイプ？」

というと、バトスピのデッキを取り出す。

男1 「へえ、気が合うな。俺たちもそれで語るタイプだぜ。」

男2 「どうする、やるか。」

蓮華は友希那達に近づいて蓮華は「いいよ。」という。

蓮華 「俺が勝ったら彼女たちから手を引いてもらおうか。」

男1 「いいだろう、俺たちが勝ったら彼女たちを渡してもらおうか。」

蓮華 「いいよ、ついでにデツキも渡してもいいよ。どっちかが勝ったらね。」

友希那 「れ、蓮華！」

男2 「いいぜ、勝ったらデツキが手に入るなんていいね。」

男1 「俺からやるぜ！」

蓮華 「いいぜ、やろうか！」

リサ 「蓮華！」

蓮華 「リサ、俺はこれから脳筋したいんだ。だから、止めるんじやねえーぞ…。」

蓮華の言葉にリサは止める要素がなくなった。なんせ蓮華は悪い顔していたのだから。

蓮華と男1は席につきそれぞれ、デツキをシャツフルしリザーブ、ライフと準備をす

男1・蓮華 「ゲートオープン解放！」

脳筋解説

今回また出た脳筋デッキをつかうのですが軽く解説しましょう。

初手の手札に赤の探索者エドウィックがあるのと召喚時でデッキから3枚オープンし煌臨を持つカードをすべて回収できる。または、マントラドロローやストロングドロローで煌臨、もしくはは聖皇ジークフリーデン、エイプウィップ、天蠍機動スカルビウムを回収する。もしくはは初手の手札にスカルビウムやジークフリーデンがあつた場合、バーストをセットする。

スカルビウムをセットしてる場合、アタック後のバーストで相手の創界神のコアを取り除ける。ジークフリーデンの場合、ゴッドシーカーやドロローするマジックで手札が増えた瞬間にバーストが発動。バースト効果で召喚して召喚時で古竜または武装を持つスピリットを回収する。ここで煌龍皇シン・ジークフリードや天星12宮炎星竜サジタリウス・ドラゴンを回収していると強い。

最終的にオメガモンや創龍神グラン・シークフリード、海賊龍皇ジークフリード・アビスに乗って、ワンパンを狙う。

乗り方としては：

その1：スカルビウム↓サジタリウス↓シン・ジークフリード↓シン・ジークフリード↓グラン・ジークフリードかジークフリード・アビス

その2ジークフリーデン↓シン・ジークフリード↓シン・ジークフリード↓グラン・

ジークフリードかオメガモン

という感じになる。

問題としては水銀海に浮かぶ工場島やダークタワー、異合に弱い。

デツキの回転が相手が早かったり、問題のネクサスを張られるとこのデツキは確実に死をむかえます。

おや、終わったみたいだ。

男2 「つ、強すぎる。」

蓮華 「たかが、脳筋だよ。」

男1 「くそっ！俺たちの負けだ。手は引く。」

男たちはデツキとコアを片付けてその場を去った。

友希那 「さすがにやりすぎなのでは…。」

蓮華 「いいんだよ。これぐらいやんねえーと。」

そして、夕方の帰り道：

リサ「ありがとうね、今日は楽しかったわ。」

友希那「そうね、とても有意義なだったわ。」

蓮華「別に俺は大した事してないよ。」

リサ「私たちこつちだから。」

蓮華「ああ、今日はお疲れ。」

友希那「ええ、お疲れ様。」

こうして3人は家に帰っていくのだった。

ちなみに蓮華が買ったカードは超神星龍ジークヴルム・ノヴァ「REVIVAL」だった……。

第5ターン目 再会と出会い

息抜きのお出かけから翌日…

いつものように学校に行く。そうすると…

？「なんだよ、疲れた顔しやがって。」

喋りかけてきたのは、蓮華の親友、杉田兼続だった。

蓮華「なんだ、兼続か。」

兼続「なんだとはなんだとは！お前のことだから幼馴染に話してないだろう。王の創界神のことやお前が帰ってきたことも。」

蓮華「ああ、あのツンデレにね…。」

兼続「あのな…アイツ、お前のこと知って一度はショック受けたんだぞ。」

蓮華「…まあ、何も言わずに行っただからな。」

兼続「とにかく、会って話そうや。」

蓮華「会えたらな。」

こうして、2人は学校に着き、いつものようにたわむれながら学校での日常が過ぎていくのだった。そして、放課後…蓮華と兼統はカードショップCIRCLEに向かうのだっだ。

兼統「そうやあさー、完成したか屋竜デッキ？」

蓮華「いや、リバイバルのノヴァか足りない。昨日1枚買ったけど在庫のが1しかなかったから買えなかった。」

兼統「あれは未だに高いからな。」

蓮華「あれだけで、7000は持ってかれる。」

兼統「うあー高い高い。」

そんなたわいない話をしているとカードショップCIRCLEに着いた。

蓮華「さて、ノヴァの在庫あるかな〜と。」

兼統「たぶんないと思うぞ。」

そう言って中に入ると見たこともある黒髪に赤のメツシユのある女子とその他のメンバーがいた。

兼続「スゲー運命力…。」

蓮華はその場を去るかのように奥のバトルスペースに行こうとすると…

？「ちよつと待つてよ、蓮華。」

つと引き留められる。

蓮華「なんだよ、ツンデレの蘭。」

蘭「誰がツンデレだよ！」

蓮華「そうゆうところだよ…。」

？「ねえねえ、この人蘭の知り合いなの？」

蘭「知り合いも何もコイツとは幼馴染だから。」

メンバーは「え!!」つと驚く。

兼統「そりや、驚くわな。普段は他の連中とバトスピばかりしてたしな。」

蘭「それと、どうして急にバトスピから手を引いた…あれだけ強かったお前が…なんで急に!」

蓮華「…王の創界神。」

蘭「え…?」

蓮華「王の創界神を探しているんだ。」

蘭「そんなの知らないよ…そんなカードあるなんて…。」

?「あこから聞いたことがあるな公式や一般ですら知らない相当危険なカードだと。」

蓮華「アンタ、あこから聞いたのか…。」

?「あこは私の妹でな。私の名前は宇田川巴（うだがわともえ）だ。」

蓮華「六道蓮華だ、蓮華でいいぞ。」

巴「そうか、なら私も巴でいいぞ。」

蓮華は巴のほうをむいて「よろしく。」と言う。

？「王の創界神ってそんなに危険なの？」

蓮華「ああ。使われたらダメージが実体化するからな。」

？「えー！なんでそんなカードを…。」

蓮華「おいこの桃色頭もう泣きそうになってるぞ…。」

蘭「ひまり、今そのカードはないから大丈夫だつて。」

蓮華「やれやれ、それと蘭と巴以外の名前知らないから教えてくれないかな。」

？「あ、ごめんね。私、羽沢（はぎわ）つぐみ、よろしくね。」

？「私は、上原（うえはら）ひまりです、よろしくね。」

？「あたしは青葉（あおば）モカだよ、よろしく。」

蓮華「ああ、よろしくな。でもってそこにいるのは俺の親友の…。」

兼続「杉田兼続だ、よろしくな。」

蘭「それより、蓮華。戦ってもらうよ。」

蓮華「いいよ、蹴散らしてやる。」

兼続「おいおい、女相手に蹴散らすって…。」

蓮華は兼続のほうを向いて「関係ない。」とバツサリ言う。

蓮華と蘭はバトルスペースに行き席に着く。ライフとりザーブを用意して、お互いのデッキをシャッフルすし所定の位置に置き、カードを4枚引く。

巴「これは見ものだな。」

モカ「どつちが勝つかなく。」

蘭「準備はいい？」

蓮華「ああ。」

蓮華・蘭「ゲートオープン解放！」

第6ターン目 あの日の約束、星竜対古竜

蓮華と蘭とのバトルが始まった。蘭にとってある約束のためにバトルする。

蘭「スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神ブラフマーを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：ブラフマーの創造神殿、円斬龍マ・グラム―人態―、水龍王リヴァイア

蘭「対象は2枚。創界神ブラフマーに2個チャージ、ターンエンド。」

蘭

ライフ：5 手札：4

フィールド

ネクサス：創界神ブラフマーへ2

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラツシユ：〈2〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。ブレイドラXをレベル1で召喚。さらに、軽減1でコスト1で創界神アポローンを配置。配置時効果、3枚オープン。」

弾
オープンされたカード：ホワイトホール・ドラゴン、太陽神星龍アポロヴルム、馬神

蓮華「対象は2枚。創界神アポローンに2個チャージ。そして軽減2、コスト1でゴッドシーカー・アルファレジオンをレベル1で召喚、創界神アポローンにコアチャージ発揮。召喚効果、デッキから3枚オープン。その中から創界神アポローンと界渡、化神を持つ赤のスピリットを回収する。」

オープンされたカード：太陽龍ジーク・アポロドラゴンX、ホワイトホール・ドラゴ

ン、滅神星龍ダークヴルム・ノヴァ

蓮華 「対象はジーク・アポロドラゴンX、残りはデッキ下へ。ターンエンド。

蓮華

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：ブレイドラXへ1▽、ゴッドシーカー・アルファレジオンへソウルコア、
1▽

ネクサス：創界神アポロンへ2▽

リザーブへ0▽

コアトラッシュへ2▽

バーストなし

蘭 「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1でコスト2でゴッドシーカー・祈祷竜アビナヤをレベル1で召
喚。創界神ブラフマーのコアチャージ発揮。召喚時効果、デッキから3枚オープン、そ

の中からブラフマー含む創界神カードと天渡、化神、神話を持つ赤のカードを手札に加える。」

オープンされたカード：大神剣アラマンディー、創造龍ジェネレータードラゴン、創造の

創界神ブラフマー

蘭「対象はアラマンディーと創造の創界神ブラフマーを手札に、残りはデッキ下に。そして軽減1、コスト1で手札に加えた創造の創界神ブラフマーを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：煌龍皇シン・ジークフリード、ブラフマーの創造神殿、焰竜
魔皇マ・グー

蘭「対象は2枚。創造の創界神ブラフマーに2個チャージしてターンエンド。」

蘭

ライフ：5 手札：5

スピリット：ゴッドシーカー・祈祷竜アビナヤへ1

ネクサス：創界神ブラフマーへ3、創造の創界神ブラフマーへ2

リザーブ：へ0

コアトラッシュ：へソウルコア、3

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト1でもう1枚の創界神アポローンを配置してターンエン
ド。」

蓮華

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：ブレイドラXへ1、ゴッドシーカー・アルファレジオンへソウルコア、

1

ネクサス：創界神アポローンへ2、創界神アポローンへ0

リザーブ〈2〉

コアトラッシュ〈1〉

バーストなし

蘭 「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減3、コスト3で創造龍ジェネレータードラゴンをレベル1で召喚。
創界神ブラフマーと創造の創界神ブラフマーのコアチャージ發揮してターンエンド。」

蘭

ライフ：5 手札：5

スピリット：ゴッドシーカー・祈祷竜アビナヤ〈1〉、創造龍ジェネレータードラゴン
〈ソウルコア、1〉

ネクサス：創界神ブラフマー〈3〉、創造の創界神ブラフマー〈2〉

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈3〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減2、コスト2で太陽龍ジーク・アポロドラゴンXをレベル1で召喚。
創界神アポロン2体のコアチャージ發揮してターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：ブレイドラXへ1、ゴッドシーカー・アルファレジオンへソウルコア、
1、太陽龍ジーク・アポロドラゴンへ2

ネクサス：創界神アポロンへ2、創界神アポロンへ1

リザーブへ0

コアトラッシュへ2

バーストなし

巴「出方を伺っているな…。」

モカ「出方次第で変わるからね。」

蘭「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ

インステップ。軽減2、コスト2で大神剣アラマンディーを創界神ブラフマーにダイレクトブレイヴ。アタックステップ開始時に2コスト払って創界神ブラフマーを転神（グランフォーゼ）させる。アタックステップ、アラマンディーをブレイヴした創界神ブラフマーでアタック。アラマンディーの効果でブレイドラXを破壊しデッキから1枚ドロウ。

蓮華 「フラツシユはない。」

蘭 「こちらもない。」

蓮華 「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ5↓3

蘭 「ジエネレータードラゴンでアタック。アタック時効果でBP10000以下のスピリットを破壊し自分の手札から1コストで神話ブレイヴをジエネレータードラゴンにブレイヴする。ゴッドシーカー・アルファレジオンを破壊し1コストで神話宝剣グラン・デーヴァをジエネレータードラゴンにブレイヴ。」

蓮華 「フラツシユはない。」

蘭 「こちらもない。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ3↓1

蘭「ターンエンド。」

蘭

ライフ：5 手札：5

スピリット：ゴッドシーカー・祈禱竜アピナヤへ1、創造龍ジエネレータードラゴン
(グラン・デーヴァブレイヴ中、疲労中)へソウルコア、1

ネクサス：創界神ブラフマー(アラマンディーブレイヴ中、疲労中)へ2、創造の創
界神ブラフマーへ3

リザーブ：へ0

コアトラッシュ：へ3

バーストなし

兼続「(アイツ、どうしたんだ…?)」

蓮華「強くなったな、蘭。」

蘭「え？」

蓮華「覚えているか…あの日の約束。」

蘭「うん…、覚えてるよ。必ずデッキを組み上げて強くなって蓮華に挑むって。」

蓮華「そうだ。だから、俺も全力をもってお前を倒す。」

蘭「っ！」

蓮華の目つきが変わり少し鋭くなった。

モカ「雰囲気が変わったよ。」

ひまり「なんか怖いよ。」

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。雷皇龍ジーク・ヴルムをレベル3で召喚。創界神アポロン2体のコア
チャージ發揮。」

ひまり「え？ジーク・ヴルムってフル軽減してもコスト3で召喚するスピリットです
よ。」

つぐみ「違うよ、ジーク・ヴルムのコストは自分のライフと同じになるからコスト1
だけどフル軽減満たしているからコストを支払わずに召喚できるんだよ。」

蓮華「さらにジーク・アポロドラゴンXをレベル3にアップさせ。アタックステップ、
ジーク・ヴルムでアタック。アタック時効果、ジーク・ヴルムの煌激突發揮。相手のス

ピリット、アルティメットは可能な限りブロックしなければならない。」

蘭「っ！アビナヤでブロック。」

蓮華「ブロックしたことにより、俺の手札にある煌臨を持つカードをソウルコアを使わずにジーク・ヴルムに煌臨する。」

巴「まさか…。」

つぐみ「つてことは…。」

蓮華「超神星龍ジークヴルム・ノヴァに煌臨。創界神アポロン2体のコアチャージ発揮。そして煌臨時効果でコアトラッシュのコアすべてをこのスピリットに乗せるが対象のコアなし。そして、カード名にヴルムを含むスピリットに降臨したことによりライフを5まで回復する。」

モカ「え〜！」

兼続「やりやがったな。」

蘭「(ブリザードウォールがあるけどコアが足りない…)フラッシュはない。」

蓮華「こちらもない。」

蘭「ライフで受ける。」

蘭：ライフ5↓3

蓮華「ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：2

フィールド

スピリット：太陽龍ジーク・アポロドラゴン〈6〉、超神星龍ジークヴルム・ノヴァ（疲労中）〈ソウルコア、5〉

ネクサス：創界神アポローン〈4〉、創界神アポローン〈2〉

リザーブ〈0〉

コアトラッシュ〈2〉

バーストなし

蘭「何とかしないと…。」スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。ジェネレータードラゴンのレベルを3にアップさせて。アタックステップ開始時、2コスト払って創界神ブラフマーの転神。アタックステップ、アラマンディーをブレイヴした創界神ブラフマーでアタック。」

蓮華 「フラッシュユタイミング。マジック、白晶防壁。ノヴァからソウルコアと3コア
払ってジェネレータードラゴンを手札に戻して、ソウルコアをコストに使用したことに
よりkのターンはライフを1しかへらせない。」

蘭 「グラン・デーヴァごと手札に戻す。フラッシュはない。」
蓮華 「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ5↓4

蘭 「ターンエンド。」

蘭

ライフ：5 手札：8

フィールド

ネクサス：創界神ブラフマー（アラマンディーブレイヴ中、疲労中）〈0〉、創造の創
界神ブラフマー〈3〉

リザーブ：〈ソウルコア、9〉

コアトラッシュ：〈3〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減3、コスト1で滅神星龍ダークヴルム・ノヴァをレベル2で召喚。創界神アポロン2体のコアチャージ発揮。」

つぐみ「まただ、コスト7のダークヴルム・ノヴァをあんな低コストで……」

兼続「ダークヴルム・ノヴァはフィールドにブレイヴがあるとコスト4になるんだ。」

ひまり「あんな切り札級のカードか!?!」

蓮華「ジーク・アポロドラゴンXのレベルを2にダウンさせ、ソウルコアをコアトラッシュに置きジーク・アポロドラゴンXに煌臨、太陽神龍アポロヴルム。創界神アポロン2体のコアチャージ発揮。そして、ジークヴルム・ノヴァをレベル3にアップ。アタックステップ、ジークヴルム・ノヴァでアタック。アタック時効果でゲーム中に1回お互いの手札、手元のカードをすべて破棄する。」

蘭「(ブリザードウォールが……)……フラッシュシユはない。」

蓮華「こちらもない。」

蘭「ライフで受ける。」

蘭：ライフ：3↓1

蓮華「ダークヴルム・ノヴァでアタック。」

蘭「フラッシュはない」

蓮華「こちらもない。」

蘭「…ライフで受ける。」

蘭：ライフ1↓0

蓮華：WIN 蘭：LOSE

第7ターン目 光導12宮を使わない理由

幼馴染対決をした蓮華、勝利を収めるが蘭にとつても約束を果たされたが疑問に思っていることがあった。光導12宮を使わなかったからだ。

蓮華 「なんとか勝てた…。」

兼続 「おいおい、よくノヴァ引いたよな。あれ、1枚しか入ってなかっただろう?」

蓮華 「運良く引けたしね。」

蓮華と兼続が話していると蘭が疑問に思うことを蓮華に聞く。

蘭 「どうして、光導を使わなかった?」

蓮華 「なに?」

蘭 「どうして光導を使わなかった!」

巴 「蘭、落ち着いけて。」

つぐみ 「そうだよ、蘭ちゃん。」

どうも落ち着かない蘭。そんな蓮華は蘭に理由を話す。

蓮華「光導を使わなかったのは下手すると勝負にならなかったからだ。」

蘭「え？」

蓮華「光導を使えば確実に蘭のデッキを滅多打ちにする可能性があったからだ。そんなこととしてまで約束を果たそうなんてしたくなかったんだ。」

蘭にとってはそんなのどうでもいいと思っていた。だが、蓮華にとってそうもいかなかった。

兼続「蓮華にとっては大事なバトルだったんだ。だから許してやってくれ。」

蘭「べ、別にいいけど…。」

巴・蓮華「ツンデレ乙。」

蘭「蓮華、お前は！って巴まで！」

モカ「それだけ仲いいんだね…。」

巴「意外と気が合いそうだな、蓮華。」

蓮華「ああ、俺もそう思う。」

ひまり「(なんか巴と蓮華が蘭をいじり始めている…)」

蘭「大体あたしはツンデレじゃない!」

蓮華「そういうこと言ってるやつが確実なツンデレなんだよ。」

蘭「なんだと…!」

蓮華「それと光導を使わない理由はもう1つある。」

モカ「もう1つ?」

当然のごとくAfterglowメンバーは疑問に思う。親友の兼続はどうやら理由を知っているらしい。

蓮華「王の創界神に対抗できるのは光導12宮ぐらいだと思っている。他のやつでも対抗できるだろうけど12宮みたいに強力なカードばかりじゃないからな。」

蘭「だから、使わなかったのか…。」

蓮華「悪い…でも王の創界神は未だに発見されていないだ。だから…。」

蘭「王の創界神にはかかわるなだろ…そんなこと言うな!」

蘭は席を立って言う。

蘭「王の創界神は危険かも知れないけどそんなこと勝手に決めるな。あたしらも一緒に探す！」

蓮華「お、おい！」

つぐみ「私も賛成かな。」

巴「アタシもな。」

モカ「モカちゃんも賛成〜。」

ひまり「わ、私も。」

蓮華「お前らまで…。」

動揺する蓮華、助け舟をだすも兼続もお手上げ状態である。

兼続「あきらめろ、蓮華。」

完全にあきらめられなくなった、蓮華でもある。

蓮華 「これじゃあ、Roseliaメンバーと同じだぜ。」

蘭 「なんか言った？」

蓮華 「いや、何も…。」

兼続 「そう言えば蓮華、お前ノヴァを探しに来たんだろ？」

蓮華 「あ、忘れていた。」

巴 「ちなみにシヨウケースにはノヴァはなかったぞ。」

蓮華 「やつぱりな…。」

肩をがっくしおとす蓮華である。

蓮華 「しようがねえ。煌臨編第4章でも買おうか…箱で…。」

兼続 「欲しいカードでもあるのか？つとつかないだろ…。」

蓮華 「いいんだよ、箱は4ぐらい買えば出るでしょ…ノヴァ…。」

蘭 「どんだけノヴァ欲しいんだよ…。」

この後蓮華は煌臨編第4章の箱を4箱買いました。

結果としてはジークフリーデンやラグナ・ロックといいカードを当てるか最後の最後

でノヴァを引き当てました…

第8ターン目 アイドルと王の創界神のと遭遇

蘭との再会やAfterglowのメンバーと出会って楽しい感じに過ぎず、六道蓮華。

問題は最近女子しか連絡先を交換していないことだ。蓮華にとっては辛い感じなのだが他の男子からすれば羨ましい感じでもあるのだ。

そんな土曜、家でいつものように黒の私服に着替え、朝からカップラーメンを食べているのだ。ちなみに味はとんこつである。

蓮華「朝のラーメンうめえな。そうだ、今日全知全能（ジ・アブソリュート）買いに行かねえとな。」

そう考えているとテレビにいま人気のアイドルや女優がバトスピのCMをしていた。

蓮華「今映ったやつらって確か兼続が言っていた、Pastel Palettes だったよな…。まあいいや。さて、箱買いに行こうかな。」

そうやってテレビを消し、食べ終えたカップラーメンを片付けていつものバックを持ち、靴を履いて家を出るのであった。

それから数時間、蓮華は買い物を終えて家に帰る最中であつた。

? 「あの、すみません。」

蓮華 「うん?」

蓮華は急に呼止められ疑問に思う。

? 「六道蓮華君でいいかな、私はこうゆうものです。」

蓮華は名刺を受け取る。

蓮華 「Pastel Palettesのプロデューサー、五木護堂(いつきごどう)……
…ってPastel Palettes?!」

五木「はい、私はPastel Palettesのプロデューサーです。」
蓮華「そんな貴方がなんで：俺なんかに：。」

五木「実は貴方をスカウトしたいんですよ、バトスピのコーチに。」

蓮華「え？」

蓮華はまさかのスカウトに驚きながら断ろうかと思つた矢先だつた。

五木「王の創界神についても情報をすこしでも提供できますよ。」

蓮華「なんだと!!」

当然驚いた。王の創界神は公式や一般では知られていないカードだつた。なのにどうしてつと。

五木「ついてきてください、社長に会えばわかります。」

そう言つて荷物を持ち直して、プロデューサーについていく。

芸能事務所

五木「ここですよ。」

蓮華は見渡すと大きな感じがありませんに大手といえるだろうと思った。

プロデューサーの五木についていき事務所の中に入り、社長室前まで行く。

そこから五木は「社長、連れてきました。」と言ひ社長室に入る、蓮華も同様に入っていく。

? 「来てくれたか、蓮華君。」

蓮華「え?」

蓮華は再び驚く、なんせその社長が蓮華を知っているからだ。

? 「すまない、私は社長の鎌田茂（かまたしげる）だ。」

蓮華「貴方が、王に創界神の情報を…。」

鎌田「そうだ、確かに情報を知っている。大した情報ではないが…。なんせ、君にの

祖父とは知り合いでもあるんだ。」

蓮華「なんだって！」

鎌田「君の祖父は最高のバトラーだった。そんな彼が…亡くなられたと聞いたときは…辛かったよ。」

蓮華「そうでしたか…。それより…。」

鎌田「王の創界神だったね。」

鎌田は机の引き出しから一枚のカードを取り出した。

蓮華はそのカードを見て驚く。

蓮華「赤の王、イザナミオオカミ！」

鎌田「そうだ、君にこのカードを渡そうと思ってるね。」

鎌田は蓮華に王の創界神イザナギオオカミを渡す。

その時、黒く染まっていた王の創界神は再び輝きを取り戻す。

蓮華「輝きが…。」

鎌田「やはりか：蓮華君、君をPastel Palettesのコーチとしてスカウトしたい。もちろん報酬も出す。君がバイトしているのも知っているが無理はさせない。それと、他の王の創界神の情報に分かり次第伝えることも可能だ。」

蓮華「：いいぜ。その申し出受けよう。」

鎌田「ありがとう。では、これを。」

蓮華は鎌田から許可証をもらう。

鎌田「これさえあれば、この芸能事務所の出入りが可能だ、もちろん私も面会できる。」

蓮華は許可証をしまい、蓮華は「ありがとうございます。」つとと言う。

鎌田「さて、五木。」

五木「はい。」

五木は蓮華をつれて社長室を出て、レッスン室に向かう。

五木の案内で入るとそこには5人の女子がバトスピのデッキをいじっていた。

五木「丸山さん達、ちよつといいかな？」

そういうと、彼女は気づき、五木に近づく。

五木「紹介するよ、左から、丸山彩（まるやまあや）、氷川日菜（ひかわひな）、若宮（わかみや）イブ、白鷺千聖（しらさぎちさと）、そして大和麻弥（やまとまや）だ。」

そう紹介すると彼女たちは「よろしくお願いします。」と挨拶する。

蓮華「六道蓮華だ、蓮華でいいからな。それと、氷川つて…」

日菜「え、お姉ちゃんのこと知ってるの？」

蓮華「知ってるも何も知り会ってバトルもしたしな。」

日菜「へえ、そうなんだ！」

蓮華は思った、紗夜と違い性格と雰囲気は真逆だと思った。

五木「私はこれから別の仕事しに行くから蓮華君、あとは頼めるかな？」

蓮華「え、あ、はい。」

そういつて、五木はレッスン室から出ていく。

蓮華「さて、どうしようか、バトルするか…。」

彩「え、いいですか！」

蓮華「ああ、デツキも持ってきてるしな。さあ、誰からやる、誰でもいいぞ」

イブ「ハイイ、私からやりマス！」

麻弥「これは見ものつすね。」

千聖「ええ。コーチの強さ、見れるのだからね。」

蓮華は荷物とバックを置き、デツキ取り出し、所定のテーブルに着く。お互いはリザーブとライフを準備し、デツキをシャッフルし指定の場所に置き、手札を準備する。

蓮華「準備はいいな。」

イブ 「ハイ！」

蓮華・イブ 「ゲートオープン解放！」

第9ターン目 対決!武竜対殻人

赤の王イザナミオオカミと遭遇とともにアイドルチームPastel Paletteのバトスピコーチをやることになった、六道蓮華。バトルをすることになり若宮イブと勝負することになった。

イブ「いつきますヨ〜。」

蓮華「こい!」

イブ「スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。ドラマル2体をレベル1で召喚。さらに、軽減1、コスト1で烈火幸村を配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：麗武将ヒョウジンドラゴン、龍魂乱舞、ジンライドラゴン

イブ「対象は2枚、コアを2個チャージ。ターン終了です。」

イブ

ライフ：5 手札：2

フィールド

スピリット：ドラマルx2（各1個ずつ）

ネクサス：烈火幸村（2）

リザーブ：（ソウルコア）

コアトラッシュ：（1）

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。2コストで創界神アレスを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：ゴッドシーカー天騎士オールリイチ、天騎士ナミテントウ、殻神騎士ナイト・オブ・クラデイウス

蓮華：対象は3枚、コアを3個チャージ。さらに軽減1、コスト2でダークマツハジXをレベル1で召喚。創界神アレスのコアチャージ発揮。ダークマツハジXの召喚時効果でボイドからコア1個をリザーブ、スピリット、緑の創界神にチャージする。対

象はリザーブ。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：ダークマツハジリーXへソウルコア

ネクサス：創界神アレスへ4

リザーブ：へ1

コアトラツシユ：へ4

バーストなし

イブ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュユスステップ、メ
インステップ。軽減2、コスト2でマジック、龍魂乱舞。デッキから5枚オープン。そ
の中から系統武竜を持つスピリットを手札に加えます。」

オープンされたカード：武龍魔神、劍豪龍サムライ・ドラゴン・天、戦国龍皇バーニ
ング・ソウルドラゴン、麗武将ヒョウジンドラゴン、炎龍刀オニマル

イブ「対象カードはサムライ・ドラゴン・天。残りはデッキ下へ。ターン終了デス。」

イブ

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：ドラマルx2（各1個ずつ）

ネクサス：烈火幸村（2）

リザーブ：（ソウルコア）

コアトラッシュ：（2）

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト2でタークマツハジーXをレベル1で召喚。創界神アレ
スのコアチャージ発揮。召喚時効果で、ボイドからコア1個をリザーブ、スピリット、緑
の創界神にチャージ。対象はリザーブ。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：ダークマツハジーX x 2 へソウルコア、1

ネクサス：創界神アレス へ5

リザーブ：へ4

コアトラツシュ：へ2

バーストなし

イブ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。ドラマルの効果でサムライ・ドラゴンかソウルドラゴンを含むカードを
召喚するとき赤シンボルを追加シマス。軽減4、コスト3で戦国龍ソウルドラゴンをレ
ベル1で召喚。烈火幸村のコアチャージ発揮。ターン終了デス。」

イブ

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：ドラマル x 2 へ各1個ずつ、戦国龍ソウルドラゴン へソウルコア

ネクサス：烈火幸村〈3〉

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈3〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュユステップ、メインステップ。軽減2でゴーディ・ダーインを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：白晶防壁、蟻炎の騎師団長インビクタ、ダークマツハジーX

蓮華「対象は2枚、コアを2個チャージ。そして、軽減4、コスト4で殻神騎士ナイト・オブ・ク？ラディウスをレベル1で召喚。創界神アレスとゴーディのコアチャージ発揮。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：2

フィールド

スピリット：ダークマツハジーX2へソウルコア、1へ、殻神騎士ナイト・オブ・ク
?ラディウスへ2へ

ネクサス：創界神アレスへ6へ、ゴーディ・ダーインへ3へ

リザーブ：へ0へ

コアトラッシュ：へ4へ

バーストなし

麻弥「お互いキースピリットを召喚してきたつすね。」

千聖「ええ、でもここからよ。」

イブ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。ソウルドラゴンをレベル3にアップ。アタックステップ、ソウルドラゴ
ンでアタック。アタック時効果、ソウルコアをトラッシュに送り連刃発揮。」

蓮華「フラッシュはない。ダークマツハジーX2体でブロック。」

イブ「ソウルドラゴンのレベル3の効果で連刃でBP破壊したスピリットの1体につ
き、相手のライフを1個リザーブに送りマス。」

蓮華：ライフ5↓3

イブ「ターン終了デス。」

イブ

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：ドラマルx2（各1個ずつ）、戦国龍ソウルドラゴン（4）

ネクサス：烈火幸村（3）

リザーブ：（0）

コアトラッシュ：（ソウルコア）

バーストなし

蓮華「流石にやるな、でも負けないぞ。スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減2、コスト7で終焉の騎神ラグナ・ロツクをレベル2で召喚。」

彩「え…？」

日菜「これって…。」

千聖「蓮華君の勝ちね、これは…。」

蓮華「創界神アレスとゴードイのコアチャージ発揮。そして、召喚時効果でボイドからラグナ・ロックに6個チャージ。アタックステップ、アレスの効果でシンボル2つ以下のスピリット2体で同時攻撃、相手はどちらかをブロックでき、他の1体はブロックできない。ナイト・オブ・ク? ラディウスの解放効果、相手のスピリット、アルティメットを2体を重疲労。対象はドラマル2体。」

イブ「エー!!」

蓮華は大人げないと思いつつプレイを続ける。

蓮華「その後、緑の創界神から2個をナイト・オブ・ク? ラディウスに置く。対象はアレス。2コア置いたことにより、この効果で重疲労したスピリット、アルティメット1体につき、相手のライフをリザーブに送る。」

イブ：ライフ：5↓3

蓮華「さらに、ラグナ・ロックのレベル3効果でターンに1回、ラグナ・ロックは回

復する。」

イブ 「こ、これって…。」

蓮華 「すまん、ワンシヨットキルだわ。」

イブ 「フラツシユはないです…。」

蓮華 「こちらもないよ…。」

イブ 「ライフで受けマス…。」

イブ : ライフ 3 ↓ 0

蓮華 : WIN イブ : LOSE

第10ターン目 こんな日も悪くない

まさかのワンショットキルで勝負が決まり、大人げない感じになった。
蓮華も申し訳なさそうにしている。

蓮華「すまない。まさかここまで上手く回るとは思わなくて…。」

イブ「しょうがないですよ。私もここまでとは思いませんでした。」

千聖「ここまで強いとわね…。」

麻弥「自分は戦ってみたいです！」

蓮華「いいぜ、バトルしようか。」

彩「ところで、蓮華さんが持っていた袋の中身って何ですか？」

蓮華「え、ああ。あれは、超煌煌臨編第3章の全知全能の箱だよ。」

日菜「結構買ってるね。開けないの？」

蓮華「開封したいけど、流石にここで開封するとゴミと整理が大変になるぞ。」

彩「あ、そうか。」

蓮華「なら、こうはどうだ。俺を踏まえたPastelPalettesの連中とバ

トルして勝率の高いやつに1箱、その次が9パック、その次が6、その次が3で最下位で得点のアレックスのカードかな。どうだ？」

蓮華の提案にPastel Palettesメンバーは賛成した。

蓮華「じゃあさつそく、やろう。組み合わせは決めてある。彩対千聖、イブ対麻弥、俺対日菜でやるぞ。さつそく、彩と千聖はバトルの準備をしてくれ。」

彩・千聖「はい！」

ということでは彩対千聖のバトルが始まる。彩はサクヤモンデツキ、千聖は天霊アルティメットだった。バトルの結果、千聖の星天使女神イシスターをフィニッシュで千聖の勝ち。

次の試合、イブ対麻弥でイブは武竜、麻弥は武装アルティメット。バトルの結果、聖刻神機ジェフティク||トトのレベル4、5の効果を利用し連続攻撃で麻弥の勝ち。

次の試合、蓮華対日菜、蓮華は地竜海首、日菜は機人。バトルの結果、蓮華は断罪ノ滅刃ジャッジメント・ドラゴン・ソードを轟海霸神ヤマタノハイドラノカミにブレイヴ

しシンボル3で勝負を決め蓮華の勝利。

新しく組み合わせをし直し、次のバトルを、彩対イブ、千聖対蓮華、麻弥対日菜もになり、彩対イブはイブのバーニング・ソウルドラゴンの真・連刃でフィニッシュ。結果、イブの勝ち。

次の試合、千聖対蓮華は千聖の猛攻があつたが断罪の滅龍ジャッジメント・ドラゴニスで追加ターンを得て勝ちをもぎ取る。

次の試合、麻弥対日菜は稀におこす麻弥が手札事故をおこし、鋼鉄騎神アテナイアで勝負を決めた。結果、日菜の勝利。

組み合わせとしてはバトルしをくりかえして、順位の結果は1位は千聖、2位は麻弥、3位は日菜、4位はイブ、5位を彩となった。

結果道理の景品を渡し、悔しいと思つたりアドバイスをしたりなどしてPalettesは仲良くしているのだ。

蓮華「さて、そろそろいい時間だ。解散して、今日のバトルを参考にしてデツキを強化するように。」

蓮華の言葉にPalettesメンバーは「はい！」と元気よく言う。

蓮華にとつてはとても楽しい一日になったのだ。

ちなみに、千聖が1箱開封した結果。創界神へフアイストス、妖戎帝エンオウ、三龍宝剣エンシエントキヤリバー、光龍騎神サジツト・アポロドラゴンXで記念カードはまさかの闇輝石六将砂海賊神フアラオムだった。

千聖以外のメンバーは「（これは勝ちのでは…。）」と思っただらしい。

第11ターン目 破天荒な女子とその仲間

Pastel Palettesの1日が終わり、その翌日の学校では…

蓮華「…。」

蓮華は1枚のカードと睨めっこしていた。そのカードはリバイバル前のジークヴルム・ノヴァだった。

兼続「何やってんだよ。」

蓮華「なんだ、兼続か…。」

蓮華は兼続のほうを向いて言う。

兼続「なんだよ…。それより何してんだ。リバイバル前のジークヴルム・ノヴァなんか見てよ。」

蓮華 「いや、これでデッキを作ろうかと思つてさ。」

兼続 「おいしい、今更転召はねえだろ。」

蓮華 「ネタとしては最高だろ。ジークヴルム・ノヴァを召喚して転召！つて面白くないか？」

兼続 「まあそうだけだよ。」

蓮華 「つというわけで、試作の星竜デッキ作るから放課後手伝え。」

兼続 「しようがねえなあ…。」

そう言つて放課後…：カードショップCIRCLEに移動し、さつそく試作を作る。

蓮華 「んく。創界神を何枚いれよう…。」

兼続 「6でいいじゃないか？アポロンと馬神弾で。」

蓮華 「そうだな、6でやろう。ジークヴルムは…リバイバルでいいよな…。」

兼続 「そうだな。とりあえず形にしようや。」

蓮華 「そうだな。」

そんなことで、試作の星竜デッキを作っていく蓮華と兼続。

そんな中、その様子を見ている金髪の女子が見ていることを知らずに…。

時間を見ると18時を回っていたので解散し、家で続きを作る蓮華。そんな次の日の放課後。蓮華はバイトのため、カードショップCIRCLEに行く。バイトの服に着替え、働いていると、まりなに呼止められる。内容は「蓮華君とバトルしたい子がいるから、ちよつと行つてきて。」のこと。蓮華は返事をし、バトルスペースに行く。そうすると、金髪の女子を中心に5人の女子が待っていた。

？「貴方が六道蓮華ね！」

蓮華「え、あ、ああ。」

？「貴方とバトルしたいわ、やりましようバトルスピー！」

蓮華「唐突だな。いいぜ、ええつと…。」

？「ごめんね、私は弦巻こころ。よろしくね。」

蓮華「あ、ああ。(なんつう破天荒な…)。」

こころ「他のメンバーを紹介するわ、左から北沢(きたざわ)はぐみ、瀬田薫(せたかおる)、松原花音(まつばらかのん)でそして、ミシエルよ！」

蓮華「?!」

蓮華は思った。4人は分かる、だけどまさかの熊？の着ぐるみがいることに驚いていた。

蓮華「そ、そうか。」

花音「あの…大丈夫ですか？」

蓮華「平気だよ…。」

ミシエル「本当に？」

蓮華「うん、もう慣れた。」

はぐみ「それ、慣れたっていうかな…。」

蓮華「知るか。それより、バトスピだろ。やろうぜ。」

薫「ほう、バトスピというとなんか生き生きしてるな、プリンス。」

蓮華「そうか？ってというかプリンスはやめろ。」

薫「いいではないか。」

蓮華「(この)の女子、カッコいい系だな…待てよ…」なあ、薫。」

薫「なんだい？」

蓮華「お前、演劇部だろ。しかも、男子がやるような王子様役とかやるんじゃないか

？」

薫「ほう、よくわかったね。どうしてわかったんだい？」

蓮華「勘だよ。カッコいい系でその振る舞いだからね。」

花音「す、凄い。それだけでわかるなんて。」

こころ「成程、これはバトルし甲斐があるわ！」

蓮華「じゃあ、やろうか。俺も試したいデツキがあるんだ。」

はぐみ「へー気になる！」

ミシエル「このバトルどっちが勝つかな？」

花音「どうだろう。こころちゃんも強いから蓮華君がどのくらい強いんだろ？」

蓮華とこころは席に着き、デツキを出し、リザーブ、ライフを用意して、デツキをシャツフルし指定の位置に置き手札を用意する。

こころ「準備はいいわね！」

蓮華「ああ、いつでも！」

こころ・蓮華「ゲートオープン解放！」

第12ターン目 転召せよ！星竜対死竜

突然ながら勝負を申し込まれた、六道蓮華。試作のデッキで戦うが果たして…。

「こころ「私からいくわ、スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。2コストで破壊の創界神シヴァを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：シヴァの破壊神殿、破壊魔龍ムカリング、破壊龍槍トリシューラ

「こころ「対象カードは2枚、コアを2個シャージ。ターンエンド。」

「こころ

ライフ：5 手札：3

フィールド

ネクサス：破壊の創界神シヴァ〈2〉

リザーブへソウルコア、1〈

コアトラッシュ：〈2〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト3でゴッドシーカー・アルファレジオンをレベル1で召喚。召喚時効果、デッキから3枚オープン。その中から創界神アポローン1枚と系統界渡、化神を持つスピリットを手札に加える。」

オープンされたカード：創界神アポローン、太陽龍ジーク・アポロドラゴンX、太陽神星龍アポロヴルム

蓮華「対象カードは創界神アポローンジーク・アポロドラゴンX、残りはデッキ下へ。軽減1、コスト1で創界神アポローンを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：滅神星龍ダークヴルム・ノヴァ、創界神アポローン、ゴッド

シーカー・アルファレジオン

蓮華 「対象カードは2枚、コアを2個チャージ。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：5

フィールド

スピリット：ゴッドシーカーアルファレジオン〈1〉

ネクサス：創界神アポロン〈2〉

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈ソウルコア、3〉

バーストなし

こころ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減1、3コストでシヴァの破壊神殿を配置。そして軽減2、1コストでゴッドシーカー舞踊龍ナタラージャをレベル1で召喚。破壊の創界神シヴァのコアチャージ発揮。召喚時効果、3枚オープンしてその中から創界神シヴァと系統天渡、

化神、神話を持つ紫のカードを手札に加える。」

オープンされたカード：ムリダングムドラゴン、ゴッドシーカー舞踊龍ナタラージャ、イシユバラシユート

こころ「対象はムリダングムドラゴン、残りはデッキ下に。ターンエンド。」

こころ

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：ゴッドシーカー舞踊龍ナタラージャ〈ソウルコア〉

ネクサス：破壊の創界神シヴァ〈3〉、シヴァの破壊神殿〈0〉

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ〈4〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ

インステップ。バーストセット、軽減2、コスト1でホワイトホール・ドラゴンをレベル1で召喚。創界神アポロンのコアチャージ発揮。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：ゴッドシーカーアルファレジオン〈1〉、ホワイトホール・ドラゴン〈1〉

ネクサス：創界神アポロン〈3〉

リザーブ：〈ソウルコア、2〉

コアトラッシュ：〈1〉

バーストあり

こころ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ時、シヴァの破壊神殿の効果で手札のカードを裏向きで手元に置くことでドロー枚数+1、ドローステップを踏まえ、2枚ドロー！リフレッシュステップ、メインステップ。軽減3、2コストでムリダンガムドラゴンをレベル2で召喚。破壊の創界神シヴァのコアチャージ発揮。召喚時効果、デッキから2枚を裏向きに手元に置き、手元のカード2枚のにつき、相手のス

ピリット、アルティメット1体のコアをリザーブに送る。対象はアルファレジオンを対象にする。」

蓮華「げ！」

こころ「アタックステップ、ムリダンガムドラゴンでアタック。アタック時効果、手札の2枚を裏向きで置いてデッキから3枚ドロ！そして、ムリダンガムドラゴンはコスト6になる。」

蓮華「フラッシュはない。」

こころ「こちらもないわ。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：5↓4

蓮華「ライフ減少時バースト発動、絶甲氷盾。バースト効果でボイドからコアをライフに。コスト4でフラッシュ効果を使いこのバトル終了時、アタックステップを終了させる。」

蓮華：ライフ4↓5

「こころ「やるわね、ターンエンド。」

こころ

ライフ：5 手札：4 裏手元：5

フィールド

スピリット：ゴッドシーカー舞踊龍ナタラージャへソウルコアへ、ムリダングムドラゴン（疲労中）へ2

ネクサス：破壊の創界神シヴァへ4へ、シヴァの破壊神殿へ0

リザーブ：へ0

コアトラツシユへ3

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシユステップ、メインステップ。軽減2、コスト3で雷皇龍ジークヴルムをレベル2で召喚。創界神アポローンのコアチャージ発揮。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：ホワイトホール・ドラゴン〈1〉、雷皇龍ジークヴルム〈3〉

ネクサス：創界神アポローン〈4〉

リザーブ：〈ソウルコア〉

コアトラッシュ：〈3〉

バーストなし

こころ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップステップ時、シヴァの破壊神殿の効果で手札のカードを1枚を裏向きで手元に置き、ドローステップ1枚数＋1！ドローステップを踏まえ、2枚ドローステップ。リフレッシュステップ、メインステップ。リザーブのコアをムリダングムドラゴンに乗せて、アタックステップ。ムリダングムドラゴンでアタック、アタック時効果で手札2枚を裏向きで手元に置き、3枚ドローステップ。そしてコストが6になる。」

蓮華「フラッシュはない。」

こころ「フラッシュタイミング、ムリダングムドラゴンにシヴァのコア1個をスピ

リットに置き神煌臨、破壊神龍ヴァルドラム！破壊の創界神シヴァのコアチャージ発揮。」

蓮華「やべえ！」

「こころ」煌臨時効果でこのスピリット以外のスピリット、アルティメット、ネクサスを破壊する！」

蓮華「フラッシュはない。」

「こころ」「こちらもないわ。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ5↓3

「こころ」「ターンエンド。」

「こころ

ライフ：5 手札：5

裏手元：8

フィールド

スピリット：破壊神龍ヴァルドラム（疲労中）〈6〉

ネクサス：破壊の創界神シヴァ〈4〉

リザーブ：〈ソウルコア〉

コアトラツシユ：〈0〉

バーストなし

はぐみ「こころんのキースピリット召喚したね!」

薫「ああ、プリンスも状況が厳しいな。」

ミシエル「…。」

花音「どうしたのミシエル?」

ミシエル「うんうん、なんでもない!」

ミシエル…ミシエルの中の人は気づいている。蓮華が何かを狙っていることを…。

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシユステップ、メ
インステップ。ブレイドXをレベル1で召喚。軽減2、コスト1で雷皇龍ジークヴル
ムをレベル3で召喚。創界神アポロンのコアチャージ発揮。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：3 手札：4

フィールド

スピリット：ブレイドラXへ1、雷皇龍ジークヴルムへ4

ネクサス：創界神アポローンへ5

リザーブへソウルコア、4

コアトラツシユへ1

バーストなし

こころ「何をねらってるのかしら……）スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ、メインステップ。ヴァルドラムからコアを2個をリザーブに送り、軽減1、3コストで神話宝剣グランデーヴァを破壊の創界神シヴァにダイレクタブレイヴ。破壊の創界神シヴァのコアチャージ発揮。アタックステップ、ヴァルドラムでアタック。」

蓮華「フラツシユはない。」

こころ「ヴァルドラムのレベル3の効果、裏の手元のカードを4枚を除外することで相手のライフを1個をトラシユに送る。」

蓮華：ライフ3↓2

蓮華「フラッシュユタイミング、マジック白晶防壁。ソウルコアを踏まえたコスト4を払い、ヴァルドラムを手札に戻す。ソウルコアをコストを支払って使ったときこのターンライフは1しか減らない。」

「こころ「むうしようがないわ、ターンエンド。」

こころ

ライフ：5 手札7 裏手元：4

フィールド

ネクサス：破壊の創界神シヴァへ5（神話宝剣グラン・デーヴァをブレイヴ中）

リザーブ：へソウルコア、4

コアトラッシュ：へ3

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ

インステップ。ジークヴルムをレベル1にダウンさせ、軽減3、コスト3で超神星龍
ジークヴルム・ノヴァをレベル2で召喚。」

「こころ「え?」

花音「あのジークヴルム・ノヴァって…。」

薫「リバイバル前のカード。」

はぐみ「この世代に难道?」

蓮華「コスト6以上のスピリットのコアをボイドに送り転召!創界神アポロンのコ
アチャージ発揮。そして、ジークヴルム・ノヴァの召喚時効果、ジークヴルムを含むス
ピリットで転召した時、ライフを5までボイドからコアを置く。」

「こころ「!」

薫「やるね。」

花音「この場面で転召…」

ミシエル「(やつぱり…)」

蓮華「そして、軽減4、コスト2で太陽龍ジーク・アポドラゴンXをレベル2で召
喚。創界神アポロンのコアチャージ発揮。さらに軽減4、コスト1で輝きの聖剣シャ
イニングソードを召喚。不足コストはブレイドラXから、そして、そのままシャイニン
グソードをジークヴルム・ノヴァにブレイヴ。アタックステップ、シャイニングソード

をブレイヴしたジークヴルム・ノヴァでアタック。ブレイヴアタック時、相手はライフ1個をリザーブに置かなければマジック、アクセルを使用できない。」

「こころ「フラッシュはないわ。」

蓮華「こちらもない。」

「こころ「ライフで受ける。」

「こころ：ライフ5↓3

蓮華「続けてジーク・アポロドラゴンXでアタック。レベル2アタック時効果、BP9000以下のスピリット、アルティメット1体を破壊するが対象が不在。さらに自分のフィールドに赤の創界神があるとき相手のライフをリザーブに送る。」

「こころ：ライフ2↓1

「こころ「見事だわ!フラッシュはないわ!」

蓮華「え?!(何故シヴァのグ神域を使わない…?)「こちらもない。」

「こころ「ライフで受ける。」

こころ：ライフ↓0

蓮華：WIN

こころ：LOSE

第13ターン目 気になることが…

こころとの勝負に勝った蓮華。しかし、破壊の創界神シヴァの神域を使えば、もう1ターン耐えと思っていたが、神域を使わずんにライフで受けたことに疑問を思った。

蓮華「こころ、何故シヴァの神域を使わなかった？あれを使えばジーク・アポロドラゴンXの攻撃は止めれたはずだが…」

こころ「確かにそうだね。でもね、楽しかったからいいの！」

蓮華「ああ、そうゆうことね…」

蓮華はこころの破天荒さにもう慣れつつあった。

薫「いや、いい勝負だったよ。」

はぐみ「でも、この世代に転召なんて凄いな。」

花音「そうだね。転召かなんて初めて見た。」

蓮華「てことは、煌臨編あたりから始めたことになるがな。」

薫「私たちはそれぐらいに始めたからな。」

蓮華「(そうなるよ、RoseliaやAfterglow、PastelPalettesの連中もそれぐらいか…でも、蘭は確か俺と同じぐらいに始めたから12神皇になるな。) そうなのかな…。」

ミシエル「ねえねえ、蓮華はどうして転召を今更になって使ったの？」

蓮華「ん、ああ、転召を入れた理由か？ あれ、ネタなんだわ。」

はぐみ「ネタ？」

蓮華「ああ。この星竜デッキ、ネタなんだよ。普通なら煌臨のジークヴルム・ノヴァを入れるだろ。でも、面白さを考えて、転召にしたんだ。」

薫「成程、確かにいいな。」

花音「そこまで考えるなんて凄いよ、よほどバトスピが好きなんだね。」

蓮華「ああ。好きだぜ。兄妹そろってバトスピしてるからな。」

こころ「へえ。兄妹ね。」

蓮華「ああ。妹がいるんだ。名前は香蓮(かれん)、今はバトスピの修行のため日本全国を回ってる最中だよ。」

花音「日本全国?! 凄い…。」

蓮華「まあ、アイツも俺と似たように色んなデッキを使うからな。」

薫「ちなみにプリンスは中心は何色なんだい？」

蓮華「もとは赤だよ。妹は緑なんだよ。よく争ったな。」

ミシエル「争った？」

蓮華「ああ。だって、破壊を中心の赤に、数押し of 緑だぜ。もう、戦争レベルだぜ。」

蓮華は笑って言うのであった。

「こころ」「そろそろ、いい時間ね解散しましょうか。」

「こころが席を立ちそう言う」と薫やはぐみ、こころは帰る準備をして、帰っていく。だが、花音とミシエルが残っていた。

蓮華「ん、お前らは帰らないのか？」

花音「うん、帰るよ。でもね、蓮華はミシエルのこと気になってるよね。」

蓮華「！、察しいいな。そうだよ、さつきから気になって。」

花音「そうよね。とりあえず、ミシエルは1度、着替えてきて。」

ミシエル「うん。」

そういつ地てミシエルはどこかに行く。蓮華は？を浮かべるが。数分後、黒帽子をかぶった、女子が来た。

蓮華「君がミシエルの中の人？」

ミシエル？「そう、あたしの名前は、奥沢美咲（おくさわみさき）。よろしく。」

蓮華「よろしく。でも驚いた、ミシエルの中の人が俺たちぐらい女子なんて。」

花音「普通はそうだね。」

蓮華「ところで、ミシエルの正体って、こころ以外は知らないのか？」

花音「ハロハピのメンバーだと私以外は知らないかもしれないね。」

蓮華は驚いた。まさかのハロー、ハッピーワールドのメンバーで花音以外は正体を知られていないなんてと。

蓮華「つまり、美咲は5人目でミシエルは6人目のメンバーってことだよな。」

美咲「そうだね。どうしてこうなったんだろうか…。」

蓮華「謎だらけだよな。」

花音「そうだね。あ、そろそろ帰らないと。」

美咲「そうだね。帰ろうか。」

蓮華「送ろうか？流石に遅くなっただし。」

美咲「でも、バイト中でしょ？」

蓮華「問題ない。まりなさんに説明すれば、大丈夫だから。」

花音「じゃあ、いいかな送ってもらって。」

蓮華「ああ、説明してくるよ。」

蓮華は席を立ち、デツキとコアを片付けてまりなに説明しに行ってくる。そうするとまりなは「そのまま、バイトを切り上げて帰っていいよ。」のことだ。蓮華は「わかりました。お疲れ様です。」と言って着替えに行き、荷物をまとめて、花音と美咲と合流する。2人を家に送る際、蓮華は美咲と花音から連絡先を交換することになり、交換するのであった。

第14ターン目 Pastel Palettesとの1日

ハロー、ハッピーワールドと楽しい1日が終わった次の日。蓮華は芸能事務所に来ていた。来た内容はPastel Palettesのバトスピコーチをすることである。

そんな蓮華は今、大和麻弥とバトルしてる最中であつた。

蓮華「軽減3、コスト5でジークヴルム・ノヴァをレベル2で召喚。」

麻弥「え、まさかのリバイバル前っすか。」

蓮華「コスト6以上のスピリットのコアをボイドに送る。対象はジークヴルム。転召！創界神アポロンのコアチャージ発揮。そして、召喚時でジークヴルムを含むスピリットで転召した時、ボイドからコアをライフが5になるように置く。」

麻弥「ここでライフを回復しますか…。」

蓮華「さらにシャイニングソードをジーク・アポドラゴンXからジークヴルム・ノヴァにブレイヴ。アタックステップ、ジークヴルム・ノヴァでアタック。アタック時、激

突で相手は可能な限りブロックしなければならぬ。」

麻弥「うーん、キャバルリーでブロック。」

蓮華「キャバルリーのBPは8000、ジークヴルム・ノヴァのBPは10000だから破壊。さらに創界神アポロンの神域の効果で星竜を持つスピリットが相手のスピリット、アルティメットを破壊した時、相手のライフを1個リザーブに送る。」

麻弥「負けつつす。」

蓮華「よし、何とか勝てた。」

千聖「でも凄いわね。未だに転召なんて。」

蓮華「ネタにしては最高のデッキになったな、これ。」

彩「でも、どうして転召のジークヴルム・ノヴァなの？」

蓮華「ジークヴルム・ノヴァは高いカードだしね。そうそう手が出ないカードだ。それに在庫が少ないしね。」

イブ「だから、転召なんですネ。」

蓮華「ああ。でもちゃんとした星竜デッキは煌臨だけ。」

麻弥「つてことは星竜デッキは2つ目になるんっすね。」

蓮華「ああ。でも、組む時は結構大変だったよ。」

千聖「転召なんてまず、めったに使わないしね。」

蓮華「アハハ、そうだね。」

日菜「ところで、蓮華君は普段何してるの？」

蓮華「え、そうだな…。」

蓮華は考えてみた。普段自分が何をしているのかを。出てくるのは…

蓮華「うーん、カードショップ行つてカード買つたり、デッキをいじることが多いかな。」

日菜「え、じゃあ普段は1人なの？」

蓮華「別に普段から1人じゃないよ。杉田兼続つていう友人とバトスピしたりはするよ。」

日菜「へー。」

麻弥「友人さんは強いんっすか？」

蓮華「それなりにね。」

千聖「ねえ、今度の休日の時にみんなでカードショップにいきましょ。」

蓮華「え、俺は構わないが。他のみんなは…。」

日菜「賛成！」

イブ「私も賛成です。」

麻弥「自分もつす。」

彩「私も。」

千聖「つとということで全員賛成よ。」

蓮華「やれやれだぜ…。」

とこそこのスタンド使用のようにあきれるように言うのであった。

蓮華「分かったよ、今度の休日な。」

Pastel Palettesのメンバーにそう言うと千聖以外のメンバーが「やったー」つと喜んでいたのであった。

第15ターン目 うん、知ってたよ

いつものように朝からカップラーメンを食べ、そして学校に行く蓮華。
兼続と合流し、学校でたわいのない時間を過ごす。そんな放課後。

兼続「そうだ蓮華。ワリイけど用事あるから、先帰るわ。」

蓮華「ああ、分かった。」

そういつて兼続は帰っていく。蓮華はそれを見送りした後、バイト先に行く。
いつものバイトしていると、「こんにちわー!」と元気な声が聞こえた。
蓮華が対応すると、そこには女子5人かいた。

? 「すみません。バトルスペースを借りに来ました。」

蓮華「ああ、空いてるから案内するな。」

そう言つて蓮華は案内していく。

蓮華 「ここだよ。」

? 「ありがとう。」

蓮華 「いや、仕事だから。」

蓮華は案内を終えたのでその場を去ろうと瞬間、「ちよつとまって！」と呼び止められる。

蓮華 「どうした？」

? 「私、戸山香澄（とやまかすみ）、貴方は？」

蓮華 「六道蓮華。」

香澄 「よろしくね。」

? 「香澄、いきなりすぎるだろ。」

香澄 「えーいいじゃん。折角なんだし。」

? 「まあまあ。私は、花園（あなぞの）たえ、よろしくね。」

? 「牛込（うしごめ）りみです、よろしくね。」

? 「山吹沙綾（やまぶきさあや）よ、よろしくね。」

？「お前からまで……！」

香澄「せっかくくだから、有咲も自己紹介しようよ。」

有咲「……市ヶ谷有咲（いちがやありさ）だ。よろしくな……／＼／＼」

有咲は照れ臭そうに自己紹介した。

たえ「あれ、有咲照れてる？」

有咲「照れてねえーし！」

蓮華「まあまあ、そう怒るなよ。」

有咲「お前は随分と楽しそうに言うな！」

りみ「でも、蓮華君はここでバイトしてるの？」

蓮華「ああ、そうなんだ。」

香澄「じゃあ、バトスピもやってるんだよね！」

蓮華「ああ、当然だ。どうだ、バトルしてもいいぞ？」

香澄「ホントに！やろうよ！」

沙綾「あはは、凄いがつくね。」

有咲「おいおい、いいのかよ。」

蓮華「ああ、バトルは基本的に買うようしてるからな。」

たえ「ねえ、蓮華は光導使ってるんでしょ。」

蓮華「え、あ、ああ。そうだけど。よくわかったな。」

たえ「うん、千聖先輩か聞いたことがあって…。」

蓮華「(アイツ喋ったのか…)」

蓮華はPastel Palettesに光導を使っていることを喋っていた。だが、蓮華はまさかここでそんなことを喋っているとは思っていなかったのだ。

たえ「だから、光導を使って戦ってほしいの。」

蓮華は考えた。だが、蓮華は「分かった。」と行って光導デッキを取り出す。

蓮華「香澄、俺は光導デッキを使う。覚悟はいいいな?」

香澄「バトルするからには全開で行きますよ!」

りみ「香澄ちゃん、燃えてるね。」

沙綾「それだけ、やる気あるってことよ。」

香澄と蓮華は席に着く。香澄もデツキを取り出し、蓮華と香澄はコアをライフ、リザーブを準備する。そして、デツキをシャツフルし指定の位置に置き、手札を準備する。

蓮華「行くぞ、香澄！」

香澄「うん！」

香澄・蓮華「ゲートオープン解放！」

第16ターン目 再起動の光導対大抜刀

蓮華が光導を使うことになり、香澄も喜んでバトルをする。

蓮華「いくぜ。スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト3で天星12宮光星姫ヴァージニアをレベル1で召喚。召喚時効果、デッキから3枚オープン、その中の創界神ダンとヴァージニア以外の系統光導を持つスピリットを手札に加える。」

オープンされたカード：天星12宮雷星獣ドラグ・タウラス、創界神ダン、クローズ
ドジエミニ

蓮華「対象は創界神ダン、ドラグ・タウラスを手札に加え、残りをデッキの下に。パーストセットしてターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：天星12宮光星姫ヴァージニアへソウルコア

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈3〉

バーストあり

香澄「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト1でリユーマン・ルクスをレベル1で召喚。」

蓮華「リユーマン?! また珍しいのが出たな。」

香澄「バーストをセットしてターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：天星12宮光星姫ヴァージニアへソウルコア

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈3〉

バーストあり

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。創界神ダンを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：天星12宮樹星セフィロ・シープ、天星12宮光星姫ヴァー
ジニア、天星12宮氷星獣レオザード

蓮華「対象は3枚、コアを3個チャージ。そして創界神ダンの効果で神託でトラッシュ
に置かれた系統光導を持つカードをすべて手札に。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：7

フィールド

スピリット：天星12宮光星姫ヴァージニアへソウルコア〈

ネクスス：創界神ダン〈3〉

リザーブ：〈2〉

コアトラツシユ：〈2〉

バーストあり

香澄「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト2で小火竜ヒノコをレベル1で召喚。召喚時効果、デッ
キから4枚オープン、その中からアルティメットカードを手札に加える。」

オープンされたカード：金星神剣ヴィーナスサーベル、木星神剣ジュピターセイバー、
究極輝神アルティメットオーバーレイ、リユーマン・スカイソード

香澄「対象はアルティメットオーバーレイ、残りをデッキ下に。」

蓮華「まさかのアルティメットオーバーレイかよ…。」

香澄「ターンエンド。」

香澄

ライフ：5

手札：4

フィールド

スピリット：リユーマン・ルクスへ1、小火竜ヒノコへ1

リザーブ：へソウルコア、1

コアトラツシユ：へ2

バーストあり

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシユステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト1で天星12宮樹星獣セフィロ・シープをレベル1で召
喚。創界神ダンのコアチャージ発揮。召喚時効果、ボイドから1個をセフィロ・シープ
にさらに系統光導を持つスピリットにコアを1個を置く。さらに、軽減2、コスト2で
天星12宮氷星獣レオザードをレベル2で召喚。創界神ダンのコアチャージ発揮。ア
タックステップ、レオザードでアタック。アタック時効果、星読。」

りみ「星読？」

たえ「天星12宮が持っている能力だよ。」

蓮華「そうだ。効果でデッキからカードを1枚オープンしそれが系統光導を持つカー
ドなら手札に加え、ターンに1回レオザードは回復する。」

オープンされたカード：超神光龍サジットヴルム・ノヴァ

蓮華「光導のため手札に加え、レオザードは回復。」

香澄「フラッシュはないよ。」

蓮華「こちらもない。」

香澄「ライフで受ける。」

香澄：ライフ5↓4

蓮華「ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：8

フィールド

スピリット：天星12宮光星姫ヴァージニアへソウルコア、1、天星12宮樹星獣セ
 ファイロ・シープへ2、天星12宮氷星獣レオザードへ2

ネクサス：創界神ダンへ5

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ〈3〉

バーストあり

香澄「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減2、コスト3でムゲンドラゴン・ノヴァをレベル2で召喚。アタッ
クステップ、ムゲンドラゴン・ノヴァでアタック。」

蓮華「アタック後バースト発動、天蠍機動スコルビウムを召喚。不足コアはヴァージ
ニア、セフィロ・シープ、レオザードから1個ずつスコルビウムへ。そして、創界神ダ
ンにチャージ発揮。その後、フラッシュなし。そのままライフで受ける。」

蓮華：ライフ5↓4

香澄「ターンエンド。」

香澄

ライフ：5

手札：4

フィールド

スピリット：リユーマン・ルクスへ1、小火竜ヒノコへ1、ムゲンドラゴン・ノヴァへ2

リザーブ：へソウルコア、1

コアトラッシュ：へ2

バーストあり

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減4、コスト4で獅機龍神ストライクヴルム・レオXをレベル1で召喚。創界神ダンのコアチャージ発揮。アタックステップ、ストライクヴルム・レオXでアタック。」

香澄「フラッシュはないよ。」

蓮華「フラッシュタイムリング、ストライクヴルム・レオXの星解放、自分のリザーブまたは6色の創界神からコア2個をストライクヴルム・レオXに乗せることで回復する。創界神ダンからコア2個をストライクヴルム・レオXに乗せて回復。」

香澄「ライフで受ける。」

香澄：ライフ4↓3

香澄 「ライフ減少時バースト発動、選ばれし探索者アレックス。バースト効果でコアを1個リザーブに置き、アタックが終了した時、アタックステップを終了させる。」

蓮華 「このタイミングでアレックスか……。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：4 手札：8

フィールド

スピリット：天星12宮光星姫ヴァージニア〈ソウルコア〉、天星12宮樹星獣セフィロ・シープ〈1〉、天星12宮氷星獣レオザード〈1〉、天蠍機動スコルビウム〈3〉、獅機龍神ストライクヴルム・レオX〈3〉

ネクサス：創界神ダン〈5〉

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ〈3〉

バーストあり

香澄「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュユステップ、メインステップ。ムゲンドラゴン・ノヴァのスピリットソウル ∞ とルクスとヒノコのスピリットソウル発揮、軽減6、コスト3で究極輝神アルティメット・オーバーレイをレベル3で召喚。」

蓮華「出たな。」

沙綾「とうとう出たね。」

有咲「ここからどう出るかだな。」

香澄「アルティメット・オーバーレイの効果、大抜刀。水星神剣マーキュリーブレイド、月光神剣ウイングオブルナを召喚。ウイングオブルナとマーキュリーブレイドをアルティメット・オーバーレイにブレイヴ。アタックステップ。アルティメット・オーバーレイでアタック。ブレイヴされているウイングオブルナの効果でレオザードを手札に戻す。U（アルティメット）トリガーロックオン！」

オーブンされたカード：金牛龍神ドラゴニック・タウラス コスト7

香澄「ヒット！効果でブレイヴされている数、2体のスピリットを破壊。対象はスコルビウムとセフィロ・シープ。」

蓮華「フラッシュユタイミング、ヴァージニアのソウルコアをトラッシュに送り、ストライクヴルム・レオXに超神光龍サジットヴルム・ノヴァに煌臨。創界神ダンのコアチャージ發揮。煌臨時効果で、BP20000以下のスピリット、アルティメットを1体破壊する。対象はムゲンドラゴン・ノヴァ。」

香澄「でも、アルティメット・オーバーレイはBP30000のトリプルシンボル。止められる?」

蓮華「そんなの止めるきねえーよ。止めるのはその他だ。フラッシュユタイミング、軽減1、コスト4でスコープオンパイル。効果でコスト合計8になるように好きだけ破壊できるが創界神ダンがある場合、コスト合計が13になる。よって、ルクス、ヒノコ、アレックスを破壊。その後、その攻撃はライフで受ける。」

蓮華：ライフ4↓1

香澄「ターンエンド。」

香澄

ライフ：3 手札：2

フィールド

アルティメット：アルティメット・オーバーレイ（月光神剣ウイングオブルナ、水屋神剣マーキュリーブレイドをブレイヴ中）（疲労中）

リザーブ：〈5〉

コアトラツシュ〈3〉

バーストなし

たえ「惜しい。」

りみ「あと少しなのに。」

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ、メ
インステップ。サジツトヴルム・ノヴァをレベル3にアップさせ、軽減2、コスト2で
銀河聖剣グランシャリオを召喚し、サジツトヴルム・ノヴァにブレイブ。さらに軽減3、
コスト3で巨蟹武神キャンサードXをレベル2で召喚。創界神ダンのコアチャージ発
揮。さらに軽減1でコスト2で天星1・2宮樹星獣セフィロ・シーブをレベル1で召喚。
創界神ダンのコアチャージ発揮。召喚時効果、セフィロ・シーブにコア1個とキャン
サードXにコアをチャージ。アタックステップ、グランシャリオをブレイヴしたサジツ

トヴルム・ノヴァでアタック。アタック時効果、解放。解放効果で創界神のコア3つをサジットヴルム・ノヴァに置くことで系統光導を持つスピリットの数、相手のライフをボイドに置く。最大3個だ。」

香澄「あ、負けた。」

有咲「やっぱりか…。」

沙綾「香澄らしいね…。」

蓮華「創界神ダンのコアをサジットヴルム・ノヴァに乗せ、系統光導の数は3、よつてライフのコア3個ボイドに送る。」

香澄：ライフ3↓0

蓮華：WIN 香澄：LOSE

第17ターン目 防御マジックを入れような

蓮華は何とか勝ち、ギリギリの勝負をしたが蓮華は香澄のデッキに疑問を持った。

蓮華「何とか、勝てたよ。」

香澄「あー負けちゃった。」

りみ「でもとてもいい勝負だったよ。」

たえ「そうそう。」

香澄「そうだね。楽しかった！」

蓮華「ところで、香澄。」

香澄「何？」

蓮華「防御マジックは入ってるか？」

香澄「え？」

有咲「おい、まさか。」

沙綾「入ってないの？」

香澄「うん。入れてないよ。」

蓮華「だからか、防ぐとすればバーストのアレックス以外ないか……」とりあえず、デツキを見せてみて。」

香澄「え？いいよ。」

香澄のデツキを見直すため一度デツキを広げる。

蓮華「うーん。マジックがドロー系しかないね。」

たえ「ネクサスも赤龍の剣刃探知機しかないしね。」

蓮華「ブレイヴはいいとして、防衛マジック入れような。」

たえ「でも、入れるとしたら白晶防壁ぐらいじゃない？」

蓮華「相手のシンボルが2つ以上ある場合を考えてマグネティックフレイムを入れようか、ついでに創界神の一番星のレイを入れようか。デツキの中にアルティメット・ジークヴルム・ノヴァ入ってるし。」

りみ「確かにそのほうがいいね。」

有咲「でもさ、一点突破なら防衛いらなくねえーか？」

蓮華「考えてみる、今の環境で一点突破するなら確かに要らないけど、アルティメットはスピリットソウルがないと動けない場合もある。白アルティメットや黄色アル

ティメット、緑アルティメットじゃないしな。」

沙綾「確かに赤のアルティメットの場合数並べていくのにも大変だしね。」

蓮華「多少でも防御入れとけば、時間が稼げてオーバレイまでつなげることができ
る。」

香澄「成程、じゃあ防御マジック入れてみます。」

たえ「それにしても光導の動き結構凄いな。」

蓮華「そうか、6色使うの結構頭使うぜ。」

たえ「ねえ、今度私と勝負しよう。」

蓮華「いいけど、デツキ変えるからな。」

たえ「うん。いいよ。」

りみ「あの、蓮華君。」

蓮華「ん、何？」

りみ「楽族って使ってる？」

蓮華「ああ、あるよ。使ってほしい？」

りみ「うん。お願いしていい？」

蓮華「分かった。ということで次は楽族な。」

たえ「いいよ。負けないから。」

蓮華「いいぜ。香澄交代だ。」

蓮華の言葉に香澄は席を立ちたえと交代する。

香澄「次はおたえと蓮華君とのバトルか。」

沙綾「私としては地竜のデッキが見たかったな…。」

有咲「そういやあ、沙綾は地竜だったな。」

りみ「楽族の動き勉強させてもらいます。」

蓮華「そんな、いい動きしないから。」

蓮華とたえはデッキを取り出し、デッキをシャッフルし指定の位置に置く、コアをリザーブ、ライフを準備しデッキからカードを引き手札を準備する。

たえ「準備はいい？」

蓮華「いつでもいいよ。」

蓮華・たえ「ゲートオープン解放！」

第18ターン目 兔対妖精

蓮華は香澄に勝つがたえがバトルしたいといいバトルすることになったがりが楽族を使ってほしいといったので蓮華は楽族を使いたえとバトルする。

蓮華「行くぞ、スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神アフロディーテを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：創界神アフロディーテ、神華聖霊アプロ・ウラニア、グローバーフィールド

蓮華「対象は2枚、コアを2個チャージ。軽減1、コスト2でマジック、ネリネフィールドを発動。発動時、アフロディーテのコアチャージ発揮。ネリネフィールドの効果、デッキから3枚オープン、その中に華を持つマジックを好きだけフィールドに置く。」

オープンされたカード：神華龍皇ジークフリード・アプロダイティ、アイリスフィー

ルド、クローバーフィールド

蓮華「対象は2枚、そのカードをフィールドに置く。残りはデッキの上に。発動したネリネフィールドはフィールドに置く。バーストセットして、ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：2

フィールド

置かれているマジック：アイリスフィールド、クローバーフィールド、ネリネフィールド
ルド

ネクサス：創界神アフロディーテ〈3〉

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈ソウルコア、3〉

バーストあり

たえ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。チキンナイトを2体をレベル1で召喚。ターンエンド。」

たえ

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：チキンナイトx2（1個ずつ）

リザーブ：（ソウルコア、2）

コアトラッシュ：（0）

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減1、コスト2でマジック、ガーデニアフィールドを発動。デッキから1枚ドロウ。そして、ガーデニアフィールドをフィールドに。マジックを使ったことにより創界神アフロディーテのコアチャージ発揮。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：3

フィールド

置かれているマジック：アイリスフィールド、クローバーフィールド、ネリネフィールド、ガーデニアフィールド

ネクサス：創界神アフロディーテ〈4〉

リザーブ：〈ソウルコア、4〉

コアトラッシュ：〈0〉

バーストあり

たえ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。ネザドアをレベル1で召喚。ターンエンド。

たえ

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：チキンナイト×2 〈1個ずつ〉、ネザドア〈1〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ〈1〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減2、コスト1でゴッドシーカー神華の妖精プリムラをレベル1で召
喚。」

香澄「え、軽減2って軽減1しか取れくない？」

りみ「ガーデニアフィールドがフィールドに置かれていたらフィールドに置かれてい
る華マジックはスピリットを召喚する際、黄色シンボルを持つんだよ。」

香澄「ええ!!」

蓮華「創界神アフロディーテのコアチャージ發揮。召喚時効果、デツキから3枚オー
ブン。その中からカード名に創界神アフロディーテ1枚と系統天渡、化神、神話を黄の
カード手札に加える。」

オーブンされたカード：神華聖霊アプロ・ウラニア、ゴッドジーカー神華の妖精プ
リムラ、舞華ドロ

たえ「フラッシュはないよ。」

蓮華「こちらもない。」

たえ「ライフで受ける。」

たえ：ライフ5↓3

蓮華「続けてプリムラでアタック。」

たえ「フラッシュユタイミング、神速封印。卯の十二神皇ミストラル・ビット。軽減1、コスト4でレベル2で召喚。」

蓮華「やべえやっちゃった…。」

たえ「その後、ソウルコアを封印。ミストラル・ビットをレベル1に下げてソウルコアをライフに。その後フラッシュなし。」

たえ：ライフ3↓4（ソウルコア封印中）

蓮華「こちらもなし。」

たえ「ライフで受ける。」

たえ：ライフ4↓3（ソウルコア封印中）

蓮華「ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：3

フィールド

置かれているマジック：アイリスフィールド（疲労中）、クローバーフィールド、ネリ
 ネフィールド、ガーデニアフィールド

スピリット：ゴッドシーカー神華の妖精プリムラへ1（疲労中）、神華聖霊アプロウ
 ラニアへソウルコア、3

ネクサス：創界神アプロディーテへ4

リザーブへ0

コアトラツシュへ3

バーストあり

たえ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
 インステップ。軽減2、コスト3で兎魔神を召喚。ミストラル・ピットをレベル3に

アップさせ、ミストラル・ビットに兎魔人の右をブレイヴ。アタックステップ、兎魔神を右をブレイヴしたミストラル・ビットでアタック。アタック時効果で疲労状態のスピリットを1体手札に戻す、対象はプリムラ。その後、ライフを1個をリザーブに置き、ボイドからコア1個を系統神皇、十冠を持つ自分のスピリットすべてに置く。」

蓮華：ライフ5↓4

蓮華「フラッシュはない。」

たえ「こつちもないよ。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ4↓2

たえ「ターンエンド。」

たえ

ライフ：4（ソウルコア封印中）

手札：2

フィールド

スピリット：ネザドアへ1、卯の十二神皇ミストラル・ビットへ5（兎魔神の右ブレイヴ中）疲労中）

リザーブ：へ0）

コアトラッシュ：へ3）

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減2、コスト3で黄魔神を召喚。召喚時効果でネザドアを指定しこのターンの間、指定されたスピリットはアタック、ブロックができない。さらに軽減5、コスト3で神華霊姫ダリア・ムーンワルツをレベル2で召喚し黄魔神をブレイブ。」

たえ「これじゃあ、マジック使ってもたいきれないわね。」

蓮華「アタックステップ。黄魔神をブレイヴしたダリアでアタック。レベル2の効果でブロックされない。」

たえ「さすがにマジックを使っても無効かされちゃうから無理ね。フラッシュはないわ。」

蓮華「こちらもない。」

たえ「ライフで受ける。」

たえ：ライフ4↓0

蓮華：WIN

たえ：LOSE

第19ターン目 反省点とこれから

たえとの勝負に勝った、六道蓮華。これから反省点をまとめることになる。

たえ「ああ、負けちゃった。」

蓮華「か、勝った。」

りみ「凄い、おたえちゃんに勝っちゃった。」

蓮華「マジで辛い。爪鳥相手にするの面倒だわ。」

有咲「どんだけ面倒くさがってんだよ…。」

蓮華「全国大会でも苦しめられたからな。」

香澄「え、全国大会、出たことあるの？」

蓮華「あ？ああ、あるぞ。」

沙綾「だから、強いんだね。」

蓮華「大体は経験を積んで戦うのが多いしな。強くなる前なんてボロボロだぞ。大会なんて予選落ちだし、シヨップ大会なんて全敗だぜ。」

りみ「そうなんだ。」

たえ「結構経験を積んでるだね。」

蓮華「ああ、それとたえ。創界神入れたほうがいいかもな。」

たえ「やっぱりそうだよね。」

蓮華「なしでもいいけど爪鳥なら入れたほうが動きやすい。ヨクかホルスあたりがいいかもな。」

たえ「そうだね、ホルスあたりをいれようかな。」

蓮華「そうしな。それとりみ。どうだ、楽族の動くは勉強になったか？」

りみ「うん！勉強になったよ！」

蓮華「楽族で楽族のフィニッシャーになるにはダリアかアプロだからな。そこに黄魔神をブレイヴすると大体4点か3点は要求出来るから。」

沙綾「ワンシヨットに近いことが出来るんだ。」

蓮華「大体黄魔神や赤魔神とかはブレイヴしてアタックすると大体ワンシヨットになるから。」

沙綾「やっぱりそうだよね。」

蓮華「さて俺も色々見えてきたしデッキの調整しないとな。」

たえ「そんなに調整しないとダメなの？」

蓮華「ああ、全国行くなら中途半端は許されないしな。」

香澄 「それなら合宿としないの？」

蓮華 「あ…。」

蓮華は今更思い出したように声が出た。

蓮華 「その手があった。忘れてた、毎年恒例の行事なのにな。」

たえ 「毎年恒例？」

蓮華 「ああ。全国目指す時に友人と共にどつかの旅館に泊まりながらデッキに調整してバトルしての繰り返しかな、いわゆる1日バトスピ漬けかな。」

香澄 「そんなことしてたんだ。」

蓮華 「何ならお前らもどうだ？」

香澄 「え、いいの！」

蓮華 「ああ。どうせ他の連中も誘う予定だしな。」

沙綾 「他って？」

蓮華 「Roseliaやハロハピとかな。」

たえ 「つてことはパスパレも来るんだね。」

蓮華 「ああ、みんながどんなデッキで戦うか楽しみだろ。」

香澄「そうだね。」

蓮華「その前にクリアしなきゃいけないことがあるけどな。」

有咲「クリアすること？」

蓮華「学生なら誰もが通る、テストだよ。」

蓮華がテストといった瞬間、香澄は顔を真っ青にして「あああああああ！」つと言った。

「どうやら、忘れていたそうだな。」

蓮華「合宿はテスト明けの夏休みにやるから夏休みの宿題持って来いよ。」

蓮華はデッキとコアを片付けてその場を去る。

ただ、香澄はどうしようどうしようとう焦っているがホピパのメンバーが何とかその場を収めたのであった。

第20ターン目 合宿のスタート前

蓮華は昼休みに兼続に合宿のことを話した。

兼続「なに？他のメンバーも参加だと。」

蓮華「ああ。宿泊先とバスの提供ができたよ、まさかのな。」

兼続「なんつうーことだよ。ちなみに宿泊先はどうやってだ？」

蓮華「鶴巻ころつて知ってるか？」

兼続「鶴巻っていうと相当聞き覚えあるな。やけに金持ちの家だったな。」

蓮華「あるきつかけで連絡先を知って連絡したら参加したいらしくてな宿泊先と宿泊先に行くときのバスを提供するとか言いやがってな。この前、打ち合わせしてきた。」

兼続「マジかよ。」

蓮華「とりあえず、テストなんだけど赤点とんなよ。」

兼続「そんなへましんねーよ。」

昼休み終了の鐘がなり、午後の授業を受けての放課後。蓮華と兼続は授業の復習をす

るため図書館に行く。中に入るとホピバ、Roselia、アフグロ、パスパレ、ハロハピのメンバーが勢ぞろいしていた。どうやら、彼女たちもテストに向けて勉強してるらしい。蓮華は彼女たちに話しかけるとメンバーが気づき挨拶する。兼続は初めて会う連中ばかりなので自己紹介をする。

蓮華と兼続も勉強するため席に着き、勉強する。蓮華の場合は勉強するより教えることが多かった、特に香澄、彩、ひまりには。

18時を回るころにメンバーとともに帰り、明日に向けるのだった。

土日が過ぎ月曜日、これから5日間のテストが始まる。

1日目、1限目現代国語では、蓮華は余裕で解いていく。兼続は…普通に解いていた。

2限目、古典では蓮華はこれも余裕で解いていた。兼続は普通であった。

その日は2限で終わった。

2日目の1限目、数学では蓮華は普通に解いていた。兼続は途中までは普通に解いていたが頭を抱えながら解いていた。

2限目、化学では蓮華は余裕で解いている。兼続は頭を抱えながらも解いていた。

3限目、生物では蓮華は途中で頭を抱えかけたがうまく解いていく。兼続は普通に解いていく。

この日は3限で終わった。

3日目の1限目地学では蓮華は余裕で解いていく。兼続は頭を抱えて解いていた。

2限目、地理では蓮華は余裕である。兼続は必死に解いていた。

3限目、日本史では蓮華は余裕で解いて、兼続も余裕である。

この日は3限で終わった。

4日目の1限目では、世界史では蓮華は普通に解いている。兼続は余裕である。

2限目、現代社会では、お互い余裕である。

この日は2限で終わった。

5日目、最終日1限目は英語では蓮華は余裕で解いているが兼続はパンク寸前だが何とか解いた。

2限目、保険体育ではお互い余裕であった。

この日は2限で終わった。

5日間のテストが終わわり蓮華は余裕でいるが兼続は燃え尽きていた。

放課後、蓮華と兼続はコンビニによってアイスクャンデーを買いテストの疲れを取りながらお互いは家に帰るのであった。

テストから2週間後、テストが帰ってきてきて蓮華と兼続は合計点数は平均以上であった。

それから数週間後、終業式になり蓮華と兼続は普通にしていたが兼続は途中で寝てい

た。

式を終え夏休みの宿題が配られて終わった瞬間、蓮華と兼続はすぐさま学校を後にする。

夏休み始まって2日後、いよいよ合宿である。

集合場所は駅前で集合になっていた。蓮華と兼続は駅前に向かうとすでにメンバーがそろっていた。

香澄 「あ、蓮華君、兼続君、おはよう！」

蓮華 「ああ、おはよう。」

兼続 「どうやら、みんなテストを乗り越えたようだな。」

香澄 「うええーそれ言わないで。」

兼続 「こう見るとギリギリなんだな。」

蓮華 「そうだな。」

兼続 「そういえば、宿泊先ってどうなってるんだ？」

たえ 「ここが秘密にしている感じなんだよね。」

蓮華 「これだと着くまでお楽しみって感じだな。」

そう言っていると蓮華の携帯から連絡が来る。携帯の画面を見ると表示されていた名前は鎌田茂と表示されていた。蓮華はすぐさま携帯に出る。

蓮華「もしもし。」

鎌田『やあ、蓮華君。すまないね。』

蓮華「なんですか？」

鎌田『王の創界神について情報だけどね。』

蓮華「ちよつと待ってくれ。」

蓮華はメンバーに「少しは離れるな。」と言いその場を離れた。

蓮華「どうぞ。」

鎌田『ああ。現在、詳しい場所は分かっているが白の王が北海道にあると聞いた。』

蓮華「白の王が？」

鎌田『うむ、私も何とか調べたが北海道のどこかは分からなかった。』

蓮華「そうか、だがいい情報をもたらった。北海道にいるならなら回収出来る。」

鎌田「でも、気づけたまえ。もしかすると誰かが王の創界神を使っている可能性もあ

るからな。』

蓮華「ああ、その可能性も持っておくよ。」

鎌田『うむ。では、気よつけてな。』

そういうと鎌田電話を切る。蓮華は電話が切れたことを確認してメンバーのもとに戻る。

そうするともうバスが来ていた。

兼続「遅いぞ。」

蓮華「ワリイ、遅くなった。」

こころ「蓮華も来たしさっそく行くわよ！」

蓮華「ちなみに場所は何処だ？」

こころ「北海道よ！」

蓮華「え…。」

まさかのことに王の創界神のいるという北海道が行先であった。

蘭「どうした？」

蓮華「あ、ああ。なんでもない。」

この時、蓮華は「どうしよう…。」と思った。現在北海道は妹の香蓮の修行のためとどまっている県であり王の創界神がいる場所であった。最悪香蓮に会うのはいいだが王の創界神に今遭遇するのは避けたい感じであった。果たして蓮華はこの合宿で王の創界神と遭遇してしまうのか…

第21ターン目 合宿 スタートの時

行先が北海道と聞いた蓮華。あまりにもピンポイントだったので驚いていると蘭に「どうした？」っと聞かれるが蓮華は「何でもない…。」と言うのであった。

バスが来たことによりメンバーは荷物を載せた後、バスに乗っていく。当然蓮華は兼続の隣である。

バスに乗り込みが全員終わったことを確認した後、黒服のが3人態勢で運転している。

出発してからみんなは楽しみのように会話している中、蓮華と兼続はこんな会話をしていた。

兼続 「これだけ人がいると賑やかだな。」

蓮華 「ああ、誘ってよかったぜ。」

兼続 「その前の合宿は2人だったもんな。」

蓮華 「言うな。結構寂しいぞ。」

兼続 「そうだな。そうだ、お前に渡すものがあるんだ。」

兼続はポケットからカードを取り出す。そのカードが創界神クリシユナと創界神ヴィシユヌのカードだった。

蓮華「？クリシユナとヴィシユヌじゃねーか。」

兼続「お前不足してると思ってた。俺使わねーからお前にやるよ。まあなんていうか足りるかどうかわかんねーが宿代だ。」

蓮華「十分だよ、ありがとう。」

蓮華は兼続からカードを受け取る。カードはデツキケースにしまった。

兼続「おい、そのデツキ光導か？」

蓮華「ああ、いつでも勝負挑まれても大丈夫なようにね。」

兼続「まず挑まれないだろ。」

蓮華「そうだな。」

そう会話して10時間が経つと目的地が見えてくる。もうすっかり夕方である。

着いたことでバスから降りるとまさに別荘だと思った。

蓮華「流石、鶴巻家だな。」

兼続「いや、凄すぎだろ。」

美咲「あまり驚いてもしょうがないよ。」

蓮華「だな。さて、みんな聞いてくれ。」

蓮華の掛け声にみんなは反応する。

蓮華「これから部屋割りの紙を渡す。目を通しておいてくれ。」

蓮華はそれぞれみんなに部屋割りの紙を渡していく。

香澄「あ、部屋割りチームで別れてる。」

友希那「ホントね。」

蓮華「理由はある。チームで固めてアドバイスしたりお互いでデッキ構築考えたりするのをやるんだ。チーム戦で1番必要なことだ。」

蘭「なるほど。」

「こころ「おもしろそう！」

蓮華「てなわけですれぞれ荷物を持つて部屋にレツゴーな。」

蓮華の言葉に「はい！」と言つた後、それぞれ荷物を持つて部屋に行く。

蓮華はみんなが行つたのを確認した後、携帯を取り出し電話をかかける。相手は妹の香蓮である。

蓮華「もしもし。」

香蓮『あ、お兄ちゃん。どうしたの？』

蓮華「ん、ああ。なんとなくでかけた。」

香蓮『え!!』

蓮華「冗談だよ。」

香蓮『もう、お兄ちゃんたら。でえ、なんかあつたの？』

蓮華「修行のほうはどうなつてるかになつてな。」

香蓮『え、ああ。修行はバツチリだよ。なんと北海道のシヨップ大会全勝だよ!』

蓮華「やっぱりか。流石は我が妹。」

香蓮『えへへへ。』

蓮華「あ、それと俺今北海道にいるから。」

香蓮『え、本当!』

蓮華「ああ。もしかしたら会えるかもな。」

香蓮『でえ、場所は?!』

蓮華「教えるかバーカ。」

そういうと蓮華は電話を切る。蓮華は荷物を持って自分の部屋に向かうのであった。
一方、香蓮は…

香蓮「…。」

電話が切れたこと分かった香蓮。携帯をしまうと…

香蓮「お兄ちゃんのパカー!」

そう叫ぶのであった。

第22ターニ目 合宿その1

宿泊先に着いたことはいいが着いたのが夕方なので次の日から合宿がスタートすることになった。

そんな朝、蓮華はデツキを組んでいた。蓮華はデツキを組み終わりデツキをしまい部屋を出てリビングルームに行くところには千聖がいた。

蓮華「なんだ、早起きだな千聖。」

千聖「ええ、蓮華こそ。」

蓮華「でえどうしたんだ、なんかあつたのか？」

千聖は考えた。どうやら昨日のことが気になるらしく。それに気づいた蓮華は「昨日のどこが気になった？」と聞くと千聖は驚いてた。

千聖「どうして、考えてることが分かるの？」

蓮華「なんていうかそう思ったから。」

千聖「カマかけたわけね…。そうね、じゃあ、昨日ここに着いたときみんながいなくなつたあと誰と電話していたの？」

蓮華「妹の香蓮だよ。」

千聖「妹？蓮華には妹がいるの？」

蓮華「ああ、バトスピバカの妹だけだな。」

千聖「そう…妹…。」

蓮華「千聖にも妹がいるのか？」

千聖「ええ、千歳（ちとせ）って名前の妹がね。」

蓮華「そうか。千聖は妹のこと好きか？」

千聖「どうしてそんなこと聞くの？」

蓮華「なんとなくかな。」

千聖「そう…。好きよ妹のことは。千歳はどうか知らないけど。」

蓮華「そうか、ならよかった。」

千聖「何がよかったのよ…。」

蓮華「いや、これで嫌いなんて言ったらマジでどうしようかと思つてな。」

千聖「何よそれ。じゃあ蓮華は好きなの妹のこと？」

蓮華「え、好きだよ。俺としては普通でもアイツは異常に俺に執着するほど好きらし

いかな。」

千聖「それブラコンじゃないの…。」

蓮華「まあな、でも…。」

千聖「でも？」

蓮華「俺としては今のみんなも好きだぜ。」

蓮華は笑顔でそんなことを言うと千聖は顔を真っ赤にした。

千聖「い、いきなり何言ってるのよ！」

蓮華「え？」

蓮華はまるで自覚がなかった。千聖は顔を真っ赤にして「もう、いいわ！」つと行ってその場を去った。蓮華は全くわかってなかった。

そんな朝をだつた。みんなも起床して賑やかに朝食をとつた後、それぞれ広いリビングルームでデッキをいじったり、バトルしりしていた。

蓮華はそれを見渡すように見ていた。

蓮華 「みんな楽しそうだな。」

美咲 「どうしたのそんな寂しそうに見てるけど？」

蓮華 「うん？ そう見えた？」

花音 「そう見えましたよ。」

蓮華 「アハハ、そうか。」

美咲 「ところで杉田さんはどうしたの？」

蓮華 「え、ああ。アイツなら今友希那とバトルしてるよ。」

そういうと美咲と花音は兼続のバトルしている方を見る。

兼続 「フラッシュタイミング、ソウル神速！ 烈風忍者キリカゲをレベル3で召喚！」
友希那 「まさかのソウル神速なんて…。」

見てる限り兼続は楽しそうにやっているが友希那は苦戦していた。

美咲 「今更ソウル神速って…。」

花音 「なかなか見えないね…。」

蓮華 「アイツ忍風デツキだけど相当強いから。」

そう言っていると、千聖が来て「花音、バトルしない？」と誘われたので花音は千聖と共にテーブルについてバトルする。美咲は付き添いで花音についていった。

再び蓮華は1人になると別荘に外に出る。

蓮華 「守るためなら手段なんて選ぶな。」か…」

蓮華は口癖のように言った。「守るためなら手段なんて選ぶな。」この言葉は父からの受け売りだった。その言葉を胸に蓮華は街中に行くことを覚悟し行く。

その出ていく瞬間を見ていたたえ、蘭、麻弥はそれを追いかけるように蓮華をこっそり追跡する。

ちなみに蓮華は追跡されているのを知っているのであった…。

第23ターン目 合宿その2 白の王遭遇

鎌田の情報をもとに蓮華は北海道の街中歩きながら白の王を探していた。だが、そう簡単に見つかるはずがない。

あとをつけるように来た、たえ、蘭、麻弥は蓮華の様子を後ろから見ていた。

たえ「いったい何を探しているんだろう？」

麻弥「人ではなさそうですね。」

蘭「(もしかしたら王の創界神かもしれない)」

麻弥「美竹さんどうしたんっすか？」

蘭「なんでも。それより追うよ、早くしないと見失う。」

そう言つて蘭、たえ、麻弥は蓮華を再び追う。

だが、蓮華はいきなり足を止める。いきなり足を止めたことで3人は急いで隠れようとしたがもう遅かった。

蓮華「隠れなくてもいいぞ、蘭、たえ、麻弥。」

観念したのか3人は隠れようとした行動をやめ、蓮華に近づく。

蘭「どこから気づいてた？」

蓮華「うーん、別荘を出たあたりかな。」

麻弥「ほぼ最初からじゃないっすか！」

たえ「蓮華って昔から異質なの？」

蓮華「いや、そこまでは…いや、そうかも…。」

蘭「でえ、いったい何探してるの？」

蓮華「いきなりだな…別に空気吸うため街に來ただけかな…。」

蘭「嘘、本当は王の創界神を探しに來たんでしょ。」

蓮華「相変わらず鋭いな。ああ、そうだ。」

たえ「王の創界神？」

麻弥「なんなんっすか？」

蓮華「話した方がいいな…。とりあえず喫茶店に行こうか。そこで話そう。」

そうやって蓮華を踏まえた4人は喫茶店に移動して。テーブル席に着き飲み物を注文してた。数分後、注文した飲み物が来たので蓮華は王の創界神のことを話した。

蓮華「王の創界神は公式や一般の連中では知られていない謎のカードなんだ。」

たえ「そんなカードがあつたんだ…。」

麻弥「でも、蓮華さんはどうやってそのことを？」

蓮華「祖父の書物を読んでね。」

蘭「でも、北海道の街にある情報は別だよな。」

蓮華「まあな。麻弥、芸能事務所の上長は知ってるよな？」

麻弥「はい、鎌田社長ですよな。」

蓮華「ああ。鎌田さんは俺の祖父の友人なんだ。」

3人は驚いた。まさか芸能事務所の上長が蓮華の祖父と繋がりにあることに。

蓮華「鎌田さんの情報によると北海道の街中に王の創界神、白の王アイアンロードがここにあるというか所持してるやつがいるだな。」

麻弥「つまり、それを探し出すってことですね。」

蓮華「ああ。てなわけだ、お前らは……」

蓮華が帰れと言おうとしたら蘭は「そうはいかない。」と言う。

蘭「一人でやろうとするな。あたしたちも手伝う。」

蓮華「……」

たえ「蓮華、お願い手伝わして！」

麻弥「そうっすよ！」

蓮華はやれやれと言わんばかりに「分かったよ……。」と言う。

蓮華「ただし、バトルは俺がやる。命がけだしな。」

蘭「あまり同意したくないけど分かった。」

蓮華たちは飲み物を飲み干して席を立ち会計をすませます。ちなみに会計は蓮華がしました。

蓮華たちは街をくまなく探すがなかなか見つからない。昼食休憩をとった後、白の王

を探すのを再開する。

そんな中変な情報が入ってきた。急にバトルを申し込まれて、バトルするもアタックや効果でライフのコアをリザーブやボイドに持っていくとまるで受けたただダメージが現実になり耐えられずすぐ終わってしまうという情報を得た。

蓮華たちはその情報をもとにその場所に向かう。

その場所は…ゲームセンターであつた。

ゲームセンター

蓮華「ここだな。」

たえ「へえ。凄いバトスピのバトルテーブルがある。」

麻弥「ホントっすね。」

蓮華「…(本当にここににいるのか?)」

そう考えていると蓮華に男が近づいてきた。

男「なあアタ、バトラーか？」

蓮華「ああ、そうだけど。」

男「なら、賭けバトルしないか？」

蓮華「賭けバトルだと…。」

男「そう、お前が勝つたら…こいつをやろう。」

男はデッキケースから一枚のカードを取り出した。そのカードは王の創界神、白の王アイアンロットだった。

蓮華「！」

蘭「王の創界神！」

たえ「あれが…。」

麻弥「王の創界神…。なんか禍々しいっすね。」

蓮華「もし俺が負けたら…。」

男「そうだな…そここの3人の内の1人とお前の王の創界神を貰おうか。」

蘭「おい！それ条件が…！」

蓮華「蘭！」

蘭「！」

蓮華「条件はどうあれ白の王が手に入りならいいぜ！」

たえ「蓮華！」

男「なら、決まりだな。デツキはあるよな。」

蓮華「ああ、もちろん。」

蓮華と男はバトルテーブルに着くデツキを取り出ししての位置に置くと自動的にデツキをシャツフルトリザーブのコア、ライフが用意された。

男「始めるぞ！」

蓮華「ああ！」

蓮華・男「ゲートオープン解放！」

第24ターン目 合宿その3 ギリギリのバトル

賭け勝負することになった蓮華。これから命賭けにの勝負になる。

男「先に先行どうぞ。」

蓮華「じゃあ、遠慮なくいくぞ。スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神ダンを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：天星12宮氷星獣レオザード、魔羯邪神シユタイン・ボルグX、天星12宮聖星使ジエミニツク

蓮華「対象カードは3枚、コアを3個チャージ。さらに、創界神ダンの効果で神託時トラシユに系統光導を持つカードをすべて手札に加える。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5

手札：6

フィールド

ネクサス：創界神ダン〈3〉

リザーブ〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ〈2〉

バーストなし

男「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト4で王の創界神アイアンロッドを配置。」

蓮華「いきなり王の創界神か…。」

男「配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：ゴッドシーカー聖刻騎兵スポッター・ジエネウト、電人トレインx2

男「対象カードは3枚、コアを3個チャージ。」

蓮華「アルティメットも対象とってんのか…。」

男「ターンエンド。」

男

ライフ：5 手札：5

フィールド

ネクサス：王の創界神アイアンロードへ3

リザーブ：へソウルコア

コアトラツシユへ4

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
 インステップ。軽減1、コスト2で天星12宮魔星人シユタイン・ゴイルをレベル1で
 召喚。召喚時効果、星読。デッキから1枚オープンしてそのカードが系統光導を持つ
 カードなら手札に加える。それ以外ならデッキ下に。」

オープンされたカード：巨蟹武神キャンサードX

蓮華「系統が光導なため、手札に加える。シユタイン・ゴイルの星読の効果で手札に

加えたとき、相手のスピリット、アルティメットのコアを1個をリザーブに送るが対象不在。さらに創界神ダンのコアチャージ発揮。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：7

フィールド

スピリット：天星12宮魔星人シユタイン・ゴイルへ1

ネクサス：創界神ダンへ4

リザーブ：へソウルコア、1

コアトラツシユへ2

バーストなし

男「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ、メ
インステツプ。軽減1、コスト2でネクサス凍える火山をレベル1で配置。王の創界神
アイアンロッドのコアチャージ発揮。バーストセットしてターンエンド。」

男

ライフ：5 手札：4

フィールド

ネクサス：王の創界神アイアンロードへ4、凍える火山へ0

リザーブ：へソウルコア、3

コアトラッシュへ2

バーストあり

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト2で天星12宮樹星獣セフィロ・シープをレベル1で召
喚。創界神ダンのコアチャージ発揮。召喚時効果、ボイドからコア1個をセフィロ・
シープに置く。さらにセフィロ・シープ以外の系統光導を持つスピリットにコア1個置
く。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：天星12宮魔星人シユタイン・ゴイルへ2、天星12宮樹星獣セフィロ・

シープ〈2〉

ネクサス：創界神ダン〈5〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラツシユ〈2〉

バーストなし

男「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ、メインステップ。軽減2、コスト3で聖刻兵エアマン・シエイアスをレベル2で召喚。王の創界神アイアンロットのコアチャージ発揮。アタックステップ、エアマン・ジエイアスでアタック。アタック時効果、ターンに1回、回復する。」

蓮華「フラツシユはない。」

男「こちらもない。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ5↓4

ライフで受けた瞬間蓮華は体に痛みを感じた。

蓮華「(これが王の創界神のダメージ実体化か…。これは早めにつけないときついぞ。)」

男「ターンエンド。」

男

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：聖刻兵エアマン・ジエイアス〈2〉

ネクサス：王の創界神アイアンロッド〈5〉、凍える火山〈0〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ〈3〉

バーストあり

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。コスト4で王の創界神イザナミオオカミを配置。」

男「なに？」

たえ「蓮華も。」

麻弥「王の創界神っす。」

蓮華「配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：天星12宮炎星竜サジタリウス・ドラゴン、超神光龍サジツトヴルム・ノヴァ、金牛龍神ドラゴニック・タウラスX

蓮華「対象カードは3枚、コアを3個シャージ。軽減2、コスト2で天星12宮雷星獣ドラグ・タウラスをレベル1で召喚。不足コアはシユタイン・ゴイルからドラグ・タウラスへ。創界神ダンと王の創界神イザナミオオカミのコアチャージ発揮。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：4 手札：6

フィールド

スピリット：天星12宮魔星人シユタイン・ゴイルへ1、天星12宮樹星獣セフィロ・シープへ2、天星12宮雷星獣ドラグ・タウラスへ1

ネクサス：創界神ダン〈6〉、王の創界神イザナミオオカミ〈4〉

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ〈ソウルコア、5〉

バーストなし

男「スタートステップ、コアステップ時、エアマン・ジェイアスの効果で系統武装を持つスピリット、アルティメットにボイドからコア2個を置く。コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減3、コスト2 聖刻騎兵キャバल्लीー・アーネジネエウをレベル4で召喚。王の創界神アイアンロッドのコアチャージ発揮。アタックステップ、キャバルリー・アーネジネエウでアタック。さらに王の創界神アイアンロッドアイアンロッドの神域発揮。アイアンロッドにコアが6個以上乗っているときスピリット、アルティメットすべてにシンボルを1つ追加する。」

蓮華「(ダブルシンボル：)フラッシュユタイミング。軽減1、コスト3でクローズドジェミニ。ふただちにバトルを終了させる。さらに、自分のカード名に創界神ダンがあるときこのターンの間、ライフは1しか減らない。不足コストはシュタイン・ゴイルとセフィロ・シーブから。」

男「チイ、仕留め損ねたか。フラッシュユはない。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ4↓3

蓮華「うつ…チイ。」

男「ターンエンド。エンド時キャバルリー・アーネジネエウの効果で武装を持つアル
ティメットは回復する。」

男

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：聖刻兵エアマン・ジエイアス〈4〉

アルティメット：聖刻騎兵キャバルリー・アーネジネエウ〈2〉

ネクサス：王の創界神アイアンロード〈6〉、凍える火山〈0〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラツシュ：〈2〉

バーストあり

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減3、コスト3で巨蟹武神キャンサードXをレベル2で召喚。創界神ダンのコアチャージ発揮。さらに軽減4、コスト4で光龍騎神サジツト・アポドラゴンXをレベル1で召喚。創界神ダンと王の創界神イザナミオオカミのコアチャージ発揮。アタックステップ、巨蟹武神キャンサードXでアタック。キャンサードXの効果で光導、化神がアタックした時、相手はスピリット2体でないとブロックできない。」

男「フラッシュはない。」

蓮華「こちらもない。」

男「ライフで受ける。」

男：ライフ5↓4

男「う…」

蓮華「キャンサードXの星界放。アタックによってライフを減らしたことにより相手のライフを1個をトラッシュに送る。」

男：ライフ4↓3

男「ぐ…」

蓮華「さらに、自分の6色の創界神のコアを2個をキャンサードXに置くことで回復する。創界神は創界神ダンからコアを2個をキャンサードXに置き、回復。再びアタック。」

男「チイ、王の創界神アイアンロッドの神技発動、アイアンロッドのコアを3個をポイドに送ることでこのターンの間、アタック、効果ではライフが減らない。」

蓮華「ターンエンド。」

蓮華

ライフ：3 手札：4

フィールド

スピリット：巨蟹武神キャンサードX〈5〉（疲労中）、光龍騎神サジツト・アポロドラゴンX〈1〉、天星12宮雷星獣ドラグ・タウラス〈1〉

ネクサス：創界神ダン〈6〉、王の創界神イザナミオオカミ〈5〉

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ〈7〉

バーストなし

男「スタートステップ、コアステップ時、自分のスピリット、アルティメットが系統武装を持つ時、ボイドから2個をエアマン・ジェイアスに置く。コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減4、コスト2で聖刻神機ジェフティックⅡトトをレベル4で召喚。さらに解放、白の創界神からコアを2個をジェフティックⅡトトに置くことで次の相手のコアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップに自分も同じステップを行う。」

麻弥「自分も使っているカードですがヤバイっすね。」

蘭「蓮華…。」

男「アタックステップ、キャバルリー・アーネジネエウでアタック。」

蓮華「フラッシュはない。」

男「こちらもない。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ3↓2

蓮華「チィ…。」

男「続けてエアマン・ジェイアスでアタック。ターンに1回、回復する。」

蓮華「フラッシュタイミング、マジック、クロースドジェミニ。バトルをただちに終了させる。自分のカード名に創界神ダンがあるとときライフは1しか減らない。」

男「ターンエンド。エンド時、キャバルリー・アーネジネエウの効果で武装を持つアルティメットはすべて回復する。」

男

ライフ：3 手札：4

フィールド

スピリット：聖刻兵エアマン・ジェイアス〈6〉

アルティメット：聖刻騎兵キャバルリー・アーネジネエウ〈2〉、聖刻神機ジェフティック〈5〉

ネクサス：王の創界神アイアンロード〈1〉、凍える火山〈0〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ：〈2〉

バーストあり

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ。」
男「ジェフティック||トトの界放効果で同じようにコアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップを行う。」

蓮華「メインステップ。軽減3、コスト3で魔羯邪神シユタイン・ボルグXをレベル1で召喚。創界神ダンのコアチャージ発揮。召喚時効果でトラシユから光導のカードを手札に加える。対象は天星12宮炎星竜サジタリウス・ドラゴン。」

男「手札が増えたことにより凍える火山の効果で増えた分捨ててもらおう。」

蓮華「レオザードを捨てる。サジツト・アポロドラゴンXとドラグ・タウラスのレベルを2にアップ。アタックステップ、サジツト・アポロドラゴンXでアタック。」

男「フラッシュユタイミング、軽減3、コスト1でマジック、アルティミックシールド。このバトルが終了した時、アタックステップを終了させる。」

蓮華「関係ない、ここで終わらせる！キャンサードXに乗っているソウルコアをトラシユに送り煌臨、超神光龍サジツトヴルム・ノヴァ！」

男「な、なに！」

蓮華「煌臨したことにより、創界神ダン、王の創界神イザナミオオカミのコアチャージ発揮。」

男「これ以上のフラツシユはない。」

蓮華「王の創界神イザナミオオカミの神技発揮。イザナミオオカミからコア6個ボイドに送り赤のスピリットにシンボル2つ追加させ、アタックステップを終了できない。」

たえ「つてことは…。」

蘭「蓮華の勝ちだな。」

麻弥「やったつす！」

男「ライフで受ける。」

男：ライフ3↓0

男「うああああ…。」

蓮華：WIN

男：LOSE

第25ターン目 合宿その4 その後と妹

ギリギリ勝負に勝った蓮華。男は痛みに耐えられずその場で倒れる。

蓮華はバトルテーブルに置かれている白の王、王の創界神アイアンロッドを手にすると禍々しい光が輝きを取り戻す。その後、蘭に頼み、救急車で男は運ぶよう手配する。運ばれていった男を見送った蓮華たち。

王の創界神アイアンロッドをデッキケースにしまった後、蓮華は何もなかったようにその場を去る。蘭、たえ、麻弥もそれに続いて蓮華についていく。

そんな帰り道…。

蓮華「…。」

蘭「大丈夫なのか？」

蓮華「ああ、平気だ。」

たえ「あまり、大丈夫には見えないよ。」

蓮華「そうか？まあ、あんなギリギリのバトルしてるしな。」

蘭「あたしからすれば、今の蓮華は身体の限界だと思う。」

蓮華「まあ、確かにな。限界ちゃあ…限界だが…変に気が抜けなくてな。」

麻弥「どうして、蓮華さんは限界にもかかわらず気が抜けないっすか？」

蓮華「さあな、昔からなんだよな。」

たえ「なんか、心配だね。」

蓮華「はあ…少し寄り道するか。」

そういうと蓮華は寄り道をするのであった。たえ、蘭、麻弥もついていく。

広い広場のような場所に着くと蓮華はたえ、蘭、麻弥に自販機で飲み物を買って渡す。

蓮華も飲み物を買った後、軽く飲み物を飲んで一服する。

蓮華「残りは緑、黄、紫、青か…。」

たえ「意外と残ってるね…。」

蘭「先が思いやられるな…。」

麻弥「でも、無事白の王を回収できたんでいいじゃなっすか。」

蓮華「確かにな。」

そう言っていると、「ああああ！お兄ちゃん！」つと聞こえた。聞き覚えのある蓮華はぞ

の場を逃げようとするのと妹である香蓮に回り込まれる。

蓮華「なんだ、香蓮か…。」

香蓮「なんか、冷たくない!!」

蓮華「知らんな。」

たえ「えーつと、誰かなその子…?」

蓮華「ああ、こいつは妹だ…俺の。」

蘭「久しぶりに見たけどあんまり変わらないな。」

香蓮「あ、蘭ちゃん久しぶり!」

麻弥「元気な子なんっすね」

蓮華「ただのブラコンでバトスピバカだよ。」

香蓮「最高の褒め言葉だよそれ!」

蓮華「ああ、そうだったな。」

香蓮「えへへへ。」

蓮華「それより香蓮。お前、ここら辺のショップ大会とかを全勝してきたとか言ってきたけどデッキは何使った?」

香蓮「詩姫のC o Z 1 2と爪鳥アルティメットだよ。」

たえ「え、全勝!!」

香蓮「うん、修行のためもん。」

麻弥「ここまで、強いとは…。」

蓮華「なるほどな。じゃあ、修行の成果を見ないと。少し本気を出さないとな…。」

香蓮「お兄ちゃん、もしかして星竜使うの?」

蓮華「当たり前だろ。さあ、別荘に帰って次の日の昼過ぎにやろうか。」

蓮華の言葉に香蓮は首を縦に振るしかなかった。この光景見ていた蘭、たえ、麻弥は「ああ、これは凄い試合になりそうだ…」と思った。

第26ターン目 合宿その5

一服を終えた蓮華たち。別荘に帰ることになるが香蓮もついてくることになりみんなに紹介する。

みんなは歓迎してくれて香蓮も喜んでいた。そして、夕食を終えて今回の外に出た理由と王の創界神のことを話す。説明を終えて寝る時間となる。

みんなは寝ている、静かな時間だ。ただ、蓮華は寝なずにいた。

その理由は王の創界神だった。リビングのテーブルに王の創界神イザナミオオカミ、アイアンロッドを並べて考えていた。

蓮華「…もし俺が王の創界神をすべて揃えたらどうなるんだろうか…。」

そう考えていると後ろから誰かが来た。

？「まだ、起きていたのね。」

蓮華「アンタも起きていたのな友希那。」

月の光に照らされて蓮華の後ろに立っていたのは友希那だった。

友希那「何を考えていたの？」

蓮華「ああ、ちよつとな。」

友希那はリビングテーブルに近づくとそこには王の創界神が並べてあるのが分かった。

友希那「王の創界神のことで悩んでいたの？」

蓮華「まあな。もし王の創界神をすべて揃えたら俺はどうなるんだろうってな。」

友希那「そのことを悩んでいたの？」

蓮華「ああ、今まで普通の学生とバトルスピをするただのバトルだった。なのに王の創界神つという存在に出会った。そこから王の創界神を集めるのがスタートした。俺からすれば運命だったのかな…。」

友希那「運命…か…。確かにそうかもしれないかもね。でも、貴方はどうしたいの？」
蓮華「すべての創界神を集めたら封印するさ。でも、それがどんな影響があるのか分

かんねーしな。」

友希那「確かにそうね。」

蓮華「もし、俺が王の創界神を集め終え封印して…俺が…い。」

蓮華が言い切ろうとした時、友希那は急に後ろから抱きしめた。

友希那「それ以上言わないで…。」

蓮華「友希那…。」

友希那「貴方がいなくなればリサや紗夜…いえ、みんなが悲しむわ。もう貴方は私たちにとって大切な存在なのよ…。」

蓮華「…。」

友希那「だから、いなくなるとか言わないで…。」

蓮華「ああ…ごめん。」

友希那「だから、約束して…みんなの前からいなくならないって…。」

蓮華「善処するよ。今の俺は約束できるかわかんないんだ。」

友希那「そう…でも、充分だわ。」

蓮華「そっか。」

蓮華がそういうと友希那は蓮華から離れる。

友希那「私は寝るわ。」

蓮華「ああ、おやすみ。」

友希那「ええ、おやすみ。」

友希那は自分の部屋に戻って行った。蓮華はリビングテーブルに並べてある王の創界神を、デツキケースにしまう。

蓮華「…いあなくなるとか言わないで…か…そんなこと言われても今の俺には何となくわかる…王の創界神が自分たち思ってるほど危険な存在だって…はあ…部屋に戻ってデツキを組みなおすか。」

蓮華は自分の部屋に戻ってデツキを組みなすのであった。
妹とのバトルに向けて。

第27ターン目 合宿その6

友希那との会話をした蓮華。友希那も蓮華が弱音を様なことを履いたのも驚くこともあったが大胆な行動もした。そんな夜中であつた。

そして、朝になりみんなが起きる時間だつた。みんなはリビングに集まって朝食をとっているが蓮華だけいなかった。

蘭「あれ、蓮華がいないな。」

彩「あ、ホントだ。」

香蓮「きつと部屋でデッキをいじつてたかもね、徹夜で。」

日菜「いつもなの？」

香蓮「なんかしらとあるとあると徹夜でデッキ構築する癖あるから。」

沙綾「なんか、凄い癖だね。」

有咲「誰かみにいかなくていいのか？」

有咲の言葉により、事態は急変した。

香澄「しようがないな、私が見に行くよ。」

友希那「戸山さん、私が見に行くからいいですよ。」

蘭「いや、幼馴染のあたしが見に行くからいいよ。」

みんなが言い合う中、たった1人は冷静に判断してその場を去っていく。

その名をミシエルの中身の奥沢美咲だった。

美咲は蓮華がいる部屋に向かって行き部屋の前に着いてノックをするが…反応がなかった。疑問に思った美咲は入ると真剣な表情でデッキ構築をしていた。

美咲「なんか完全に自分の世界に入り込んでるし。」

蓮華「青のカードを入れるとバランスが悪くなるしな…でも、ウルトラマンオーブ
タークノワールブラックシュバルツ入れればコア除去しながらメインステップを終了
させることができるしな…。」

美咲「デッキ構築しながら物騒なこと言ってるしな。」

美咲がそういうと蓮華が美咲がいるの気づく。

蓮華「ん、美咲か。どうした？」

美咲「みんな朝食をとってるのに1人いなかったから呼びに来た。」

蓮華「お、わりいな。」

そうやってカードをしまつて美咲と一緒に部屋を出る。

リビングに来ると美咲以外のメンバーが何かしらと言いつつ合っていた。兼続はそんな中普通にコーヒーを飲みながら朝食をとっていた。

美咲が戻ってくるころを見たはぐみが問い詰めると他のメンバーからも問い詰められる羽目になったが蓮華が止めに入ることと止むのであった。

朝食を終え、蓮華が少し買い物行きたいと言いつつ出たのでチーム代表でジャンケンすることになった。結果は：

蓮華「すまん。付き合えわせて。」

香澄「いいんだよ。蓮華君といると楽しんだもん。」

結果としてホピパのメンバーが蓮華についていくことになった。

たえ「でも、どこ行くの？」

蓮華「カードショップだよ。」

そう言つてカードショップに行く。蓮華とホピパのメンバーがカードショップに着くとさつそく中に入る。

蓮華は入つて早々、アイカツデッキとダブルノヴァを3つずつとアイカツ&詩姫のブースターを5ボックス買うのであつた。

有咲「来て早々買い物物の桁が違うだろ！」

りみ「確かにね……。」

蓮華「え、これが普通だけど。」

会計を終えた蓮華はそう言うのであつた。

蓮華「さて、ブースターを開けるぞ。狙いはリヴィー・ラ・フォーレムだ。後、手伝つて。」

沙綾「言うと思ったよ。」
有咲「しようがねーな。」

ボックスを開けて開封していく。狙いのカードが出たがシークレットが普通だった。

蓮華「普通だな。」

香澄「創界神もアルテミスが3でヘラが2つてきれいにばらけたね。」

蓮華「あとはダブルノヴァのデツキから俺の星竜のデツキを改造するだけだな。」

たえ「私たちが分けて片付けている間、改造したら？」

蓮華「そうするか。」

蓮華はダブルノヴァを開けて改造し始める。香澄達は開けたデイベースターレアリテイを分けてながら片付けている。

数分して、蓮華の改造と香澄達の片付けが終了する。

蓮華たちはカードショップを出て、別荘に帰って行くのであった。

別荘について中に入ると香蓮が迎えに来てくれた。どうやらバトルする気満々だった。リビングに行くついでにコアの準備がされていた。

蓮華と香蓮はテーブルに着く。お互いはデッキを交換してシャッフルして返して指定の位置に置く。手札の準備する。

蓮華「久しぶりだな、香蓮とやるの。」

香蓮「うん、全力で行くよ！」

蓮華「ああ、全力で来い！」

蓮華・香蓮「ゲートオープン解放！」

第28ターン目 合宿その7 兄弟対決

ホピパのメンバーと買い物を終えた蓮華。帰ってきた早々、妹香蓮と勝負することに。

蓮華「先行はお前からだ、香蓮。」

香蓮「じゃあ、お言葉に甘えて先行いきまーす。」

第1ターン、香蓮は百瀬華実を配置した。配置時効果により3枚オープンされ、対象カードは2枚により2コアチャージされ、ターンエンド。

第2ターン、蓮華はヴィオレ魔の一族 *side* を配置する。配置時効果により3枚オープンされ、対象カードは2枚により2コアチャージされる。そして、軽減をとり、創界神アポロンを配置する。配置時により3枚オープンされ、対象カードは2枚により2コアチャージされ、ターンエンド。

第3ターン、香蓮はコンパス・ミンゴをレベル1で召喚する。召喚時により、ボイドから1個をリザーブにコアチャージする。華実のコアチャージ発揮させてターンエン

ド。

第4ターン、蓮華は、マジック、ノヴァドロを使用する。デッキから2枚ドロし、ヴィオレ魔ゐー魔族 *side* からコアを1個をボイドに送り、さらに1枚ドロする。フル軽減をとり、コッドシーカー超星使徒ベルデイータをレベル1で召喚する。召喚時効果で3枚オープンし、その中の系統超星を手札に加える。加えたカードは超神星龍ジークヴルム・ノヴァXを手札に加えた。

そして迎えた第5ターン。

香蓮「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。フル軽減で2コスト、12体目のコンパス・ミンゴをレベル1で召喚。百瀬華実のコアチャージ発揮。召喚時効果でボイドから1個、コアをリザーブに。さらにフル軽減、2コストでネクサス、賢者の樹の実をレベル1で配置。ターンエンド。」

香蓮

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：コンパス・ミンゴx2（へ）

ネクサス：百瀬華実〈4〉、賢者の樹の実〈0〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ：〈4〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。フル軽減で馬神弾を配置。配置時効果、3枚オープン。」

ス
オープンされたカード：ノヴァドロ、太陽神星龍アポロヴルム、雷轟龍ヴァリヴァー

蓮華「対象カードは2枚、コアを2個チャージする。さらにフル軽減、コスト1で2
枚目のヴィオレ魔ゐ―悪族side―を配置。」

彩「凄い、創界神が4枚並んだ！」

美咲「これで軽減が大きくなったね。」

蓮華「さらにフル軽減、コスト1でゴッドシーカー超星使徒タルボスをレベル1で召
喚。ヴィオレ魔ゐ―悪族side―2体、創界神アポロン、馬神弾のコアチャージ発

揮。召喚時効果、3枚オープンしその中のヴィオレ魔ゐ―悪魔side―と系統超星を持つコスト4以上のカードを手札に加える。」

ドボウ
オープンされたカード：雷皇龍ジークヴルム、超星使徒コーデリア、騎龍魔弓サジツ

蓮華 「対象はコーデリア、手札に加え残りは破棄する。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：ゴッドシーカー超星使徒ベルディータへ1、ゴッドシーカー超星使徒タルボスへ1

ネクサス：ヴィオレ魔ゐ―悪魔side―へ2、ヴィオレ魔ゐ―悪魔side―へ1、

創界神アポロンへ3、馬神弾へ3

リザーブ：へソウルコア、2

コアトラッシュへ2

バーストなし

香蓮「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。バーストをセットして、フル軽減でヨク・アルバトロサを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：ウツボクイナ、天空神皇バツジー・ペセド、風魔頭首シノビ
オウ

香蓮「対象は3枚、コアを3個チャージ。さらに、軽減4、3コストで天空神皇ゲイル・フェニックス・ホルスをレベル2で召喚。百瀬華実、ヨク・アルバトロサのコアチャージ發揮。召喚時でゲイル・フェニックス・ホルスに乗っているソウルコアをライフに封印。そして、封印時、バースト……」

蓮華「この瞬間、コスト1を払うことで手札から超星使徒スピツアードラゴンをレベル1で召喚。召喚したことにより、相手のバーストを破棄。」

香蓮「え!!」

あこ「あんなカードあるの!!」

燐子「最近出たカードですね…。」

千聖「でも、これでむやみにバーストがセットできないわね、星竜に対して。」

蓮華「バーストを破棄したことにより、ボイドからスピッツアードラゴンか創界神にコアを2個置く。対象はスピッツアードラゴン。」

香蓮「なら、アタックステップ、ゲイル・フェニックス・ホルスでアタック。アタック時、封印中のレベル2の効果で旋風2、スピッツアードラゴンとベルディータを重疲労。」

蓮華「悪いな、タルボスの効果で系統超星を持つコスト3以下のスピリットはアタックできない代わりに相手の効果を受けないぜ。」

香蓮「じゃあ、スピッツアードラゴンを重疲労。さらに、バトル終了時、1コスト払うか緑の創界神からゲイル・フェニックス・ホルスに1コア乗せることで回復する。ヨクからコクア1つをゲイル・フェニックス・ホルスに乗せて回復する。」

蓮華「フラッシュはない。」

香蓮「こちらもないよ。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ5↓4

香蓮「続けてゲイル・フェニックス・ホルスでアタック。ヨクから1コア乗せて回復。」

蓮華「フラッシュはない。」

香蓮「こちらも。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ4↓3

香澄「蓮華君、何狙ってるんだろ？」

有咲「どうせ、防御マジックのコア稼ぎだろ。」

巴「それだけなら、もう発動条件は達しているだろ。」

たえ「何かありそうだね。」

香蓮「再びゲイル・フェニックス・ホルスでアタック。ヨクのコアを1個乗せて回復。」

蓮華「フラッシュはない。」

香蓮「こちらもない。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ3↓2

ひまり「ギリギリだね。」

日菜「本当に何狙ってるんだろう？」

薫「うーん、ノヴァを狙ってるんじゃないか？」

こころ「そうだね、準備を整っているもん。」

香蓮「再びゲイル・フェニックス・ホルスでアタック。ヨクのコアを1個を乗せて回復。」

蓮華「フラッシュユタイミング、ソウルコアを踏まえたコスト4マジック、白晶防壁を使用。ゲイル・フェニックス・ホルスを手札に戻す。そしてソウルコアを使用したことによりライフは1しか減らない。」

香蓮「うーん、ターンエンド。」

香蓮

ライフ：6（ソウルコア封印中） 手札：3

フィールド

スピリット：コンパス・ミンゴx2（へ1）

ネクサス：百瀬華実〈5〉、賢者の樹の実〈0〉、ヨク・アルバトロサ〈0〉
 リザーブ：〈7〉

コアトラツシユ：〈3〉
 バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシユステップ、メ
 インステップ。スピッツアードラゴンのレベルをダウン。フル軽減、コスト2でめて龍
 星皇メテオヴルムXをレベル1で召喚。各創界神にコアチャージ発揮。さらにフル軽
 減、コスト3で超星使徒コーディネリアをレベル2で召喚。各創界神のコアチャージ発揮そ
 して、フル軽減、コスト1で輝きの聖剣シャイニング・ソードを召喚。馬神弾のコア
 チャージ発揮。そして、シャイニング・ソードをコーディネリアにブレイヴ。」

香蓮「ついに来るね。」

蓮華「アタックスステップ開始時、コーディネリアの効果でソウルコア以外のコアすべてを
 コーデリアに乗せる、この効果で4個以上置いた時、手札にある系統超星を持つスピ
 リットカード1枚をソウルコアをトラツシユに置いたものとしてこのスピリットに煌
 臨できる。」

香蓮「え、その手札…まさか…。」

蓮華「わりの、1点突破だわ。コーディネアに超神星龍ジークヴルム・ノヴァXに煌臨。煌臨したことにより、各創界神のコアチャージ發揮。アタックステップ、ジークヴルム・ノヴァXでアタック。アタック時、超界放で効果BP15000まで相手スピリットを破壊。対象はコンパス・ミンゴ2体。創界神アポロンの神域發揮、系統星竜を持つスピリットが、相手のスピリット、アルティメットを破壊した時、相手のライフを1個リザーブに送る。」

香蓮：ライフ6↓5

香蓮「ライフが減ったことにより華実の効果でボイドから1個リザーブかこの創界神に置く。対象は百瀬華実に置く。」

蓮華「さらに、ジークヴルム・ノヴァXの超界放のさらなる効果で赤、紫の創界神から4個をジークヴルム・ノヴァXに置くことで相手のライフを2個ボイドに送る。」

花音「ボイド……！」

紗夜「相手にコアを与えない効果ですわね。」

蓮華「対象創界神はヴィオレ魔術—悪族side—。4個をジークヴルム・ノヴァXに乗せて、会相手のライフを2個ボイドに送る。」

香蓮：ライフ5↓3

香蓮「ライフが減ったことにより華実の効果でボイドから1個リザーブかこの創界神に置く。対象は百瀬華実に置く。さらに賢者の樹の実の効果で相手のスピリットによつてライフが減ったことによりコア1個をリザーブに置く。」

蓮華「ブレイヴしているシャイニング・ソードの効果でマジック、アクセルを使用する際はライフ1個を要求だぜ。」

香蓮「華実の効果で重疲労させてもいいけど攻撃が止まらないしね。フラッシュはな
いよ。」

蓮華「こちらもない。」

香蓮「ライフで受ける。」

香蓮：ライフ3↓0

蓮華：WIN

香蓮：LOSE

第29ターン目 合宿その8

妹とのバトルを終え、勝った蓮華。軽く一息入れる。

香蓮「うぁーん、負けたくー！」

蓮華「まだまだ修行が足りないな。」

美咲「意外と厳しいだね。」

蓮華「まあな。」

モカ「星竜のデツキつてあそこまで強くなつたんだね。」

蓮華「ダブルノヴァのせいで結構強くなつたしな。」

紗夜「これでは無暗にバーストは伏せれませぬね。」

兼統「だらうな。星竜デツキに対しては、バーストは禁物だな。」

蓮華「そこまで警戒されるとちよつとな。」

友希那「でも、本当のことですよ。」

蓮華「そうだね。」

兼統「そういえば蓮華。お前、詩姫組んだか？」

蓮華「まだ。今日組もうかと思うけど。」

兼続「そういうと思ったよ。」

イブ「詩姫って強いんだスカ？」

蓮華「うーん、ものによるが今回のは強いかな。」

蘭「いつ組むの？」

蓮華「昼食終わり次第かな。」

そう言っていると、丁度昼食の時間になり、みんなは昼食をとることになる。

昼食を終えて、蓮華はリビングで座りながらデツキを調節していた、他のメンバーはバトスピをやるなり夏休みの宿題をやっているのだ。特に香澄、ひまり、彩は心配なので香蓮を監督のもとに宿題を見てもらっているのだ。

香蓮は頭がよく普通に高校3年の勉強ができるほどなのだ。そのため、監督にはもってこいなのだ。

蓮華と兼続は合宿スタート時の夜に徹夜で宿題を終わらせたので自由にバトスピができるのだ。

蓮華「うーん。」

兼続「キャンデイ・サードは3積みだな。」

蓮華「だよな。じゃあ、アシユタリアも3積みだな。」

そうデツキを組んでいると携帯が鳴った。その携帯の画面に名前が表示されている。その表示されている名前が阿良々木暦だった。

蓮華「…。」

兼続「出てやれよ。」

兼続の言葉で蓮華は携帯をとり、電話に出る。

蓮華「もしもし。用がなければ切るぞ。」

暦『出て早々それはないだろ!!』

蓮華「じゃあなんだ、彼女との自慢話か？」

暦『お前意外と俺に対して酷くないか!!』

蓮華「知るかよ。」

阿良々木暦には彼女がいる、名前は戦場ヶ原ひたぎだ。珍しい名前をしてるため蓮華は言いづらそうにしていた。特に初見であつたときはそうだった。

蓮華「でえ、なんで電話かけてきた？」

暦『ああ、今夏休みだろ。家来るのになつてな。』

蓮華「ああ、それか。今俺、北海道にいるからな…。」

暦『北海道?! なんているんだよ?!』

蓮華「合宿だよ。」

暦『合宿で北海道つてなかなかないぞ。』

蓮華「知るかよ、俺の友人がそういつたんだぞ。」

暦『それなら、お土産頼むわ。』

蓮華「ああ、分かった。それとお前んちは行くよ。どうせ、妹に急かされたんだろう。」

暦『よくお分かりで。』

蓮華「分かった。合宿終わり次第連絡するからな。」

暦『ああ、あと、千石が会いたがつてたぞ。』

蓮華「そうか、撫子がね。機会があれば会つてやんねーとな。」

暦『まあ、火憐ちゃんと月火ちゃんが呼ぶと思うしな。』

蓮華 「妹をちゃんと呼ぶとかないぞ…」

暦 『しようがないだろ!!』

蓮華 「やれやれ、そっち行ったらバトスピだからな。」

暦 『ああ、楽しみにしてるよ。』

蓮華は通話を切って携帯を机に置く。

兼続 「誰なんだ？」

蓮華 「んああ、ちよつと変わったリア充な友人。」

兼続 「そ、そうか…。」

蓮華はデツキを再びいじり始める。蓮華がデツキをいじってるのと他のメンバーが宿題をやり終えるのは夕食の時間までかかったのだ。

第30ターン目 合宿その9 終幕

合宿も終わりに近づいてきた。あたしたちはみんなで行動しながら家族や友人にお土産を買って行く。あたしも一応家族に買っていかうかと思う。そんなあたしたちはお土産シヨップでもものを選んでる最中。

蘭「なにしような…。」

蓮華「なんだ、決め手なかったのか？」

蘭「うん。蓮華は決めたの？」

蓮華「ある程度はな。そういえば家族には買っていくのか？」

蘭「一応ね。」

蓮華「親父さん喜ぶと思うぜ。」

あたしは小さいころお父さんとは仲が悪かった。でも、自分と同じくらいのはずの蓮華がいつもかばってくれたりしてくれた。蓮華は小さいのにも関わらず大人であるあたしのお父さんに説教していた。

最初のころはお父さんも反発していたけど、次第に蓮華の言葉が心に刺さったのか聞くようになった。それからあたしとお父さんの仲は次第に良くなった。

蓮華のおかげでみんなとバトスピを続けられるし家族と楽しい生活が送れると思っ
た。

蘭「これにしようかな？」

あたしは手に取ってみてこれにしようかと思った。蓮華は「いいと思うぞ。」って言うてくれた。

あたしは手に取ったものを持って会計をしに行く。終わった後、あたしは蓮華と合流すると蓮華には大量の荷物を持っていた。

蘭「何その量の荷物…。」

蓮華「うん？ああ、これか。友人たちにね。」

蘭「友人？そんなにいるの？」

蓮華「家族がらみのところもあるしな。」

:

蓮華の友人つて意外と気になるな。そういうえば、モカやつぐたちはどうしてるんだろ
あたしは、つぐたちのほうを見るとモカが凄いほど買ってるのが分かった。

蓮華「みんなでこうゆうのも悪くないだろ。」

蘭「うん…。」

蓮華「なんだよ、元気ねーな。まあ、いいけどな。」

蓮華はそういつて笑って言うてくれた。蓮華はいつもあたしを気にかけてくれた。
幼馴染だからだと思っうけど同時に仲間思いなんだろうなっと思う。

そんな蓮華を見ると…いや、昔から蓮華のことは好きなんだけどなかなか蓮華は気
づいてくれないのが難点。つぐやひまりがあれだけアピールしてるのが分かるのに。

まあ、見てて面白いけどね。

香蓮「蘭ちゃん楽しそうだね。」

蘭「まあね。」

香蓮「お兄ちゃんはおあやつてみんなと関わっているんだよ。王の創界神を探す旅に

出ているんな人と出会ってるから友人が多いかもね。」

蘭「意外。」

香蓮「うん、お兄ちゃんって凄いかもね。」

蘭「そうかも。」

蓮華「おーい、そろそろ戻るぞ。」

蓮華の言葉にあたしと香蓮は気づきその声のもとに行く。

バスに乗り込んで自分たちの街、東京都新宿に帰る。

香蓮は途中下車する。次は青森に用があるとか言って行ってしまった。

蓮華もそれを見送って「今度は俺に1勝できるぐらいに強くなれよ。」とか言ってるけ

どね。

そんな兄妹のやり取りをみて微笑ましく感じた。

第31ターン目 友人の家に行こう。

合宿を終えて俺は暦に連絡を入れてた次の日、駅前で合流することになった。手には北海道で買ってきたお土産を持っている。数分後、暦が来た。

蓮華「遅かったな。」

暦「悪い、遅くなった。」

蓮華「じゃ、行こうか。」

暦「おう。」

そういうと俺と暦は歩き出す。目的地は阿良々木家で暦の家だ。数分と歩きながら暦と話す。こう思うと先輩後輩はもうないな。

蓮華「そういうえば、戦場ヶ原とはどうなんだよ。」

暦「どうとは？」

蓮華「うーん、なんていうかな。大人の階段上ったとか。」

暦「そんなことないからな!!」

蓮華「なんだよ、彼女なんだからそれぐらいあってもいいだけだな。」

俺からすればからかうために言っただけだしな。暦の反応見る限りヘタレ感相変わらずか。

暦「いったい何を期待してたんだよ。」

蓮華「いや、別に。」

期待?するわけないだろ。したところでろくでもねーしな。

暦「それにしても、北海道どうだったんだ?」

蓮華「ん、ああ。楽しかったぞ。」

暦「だろうな。」

暦はう羨ましいいく俺に言う。でも、最初はもつと別の場所だったんだけどね。

蓮華「そういえばアラカレと月火は家にいるのか？」

暦「ああ。ついでに千石も来る予定だ。」

蓮華「そうか。」

阿良々木暦（あららぎこよみ）には妹がいる。阿良々木火憐（あららぎかれん）、阿良々木月火（あららぎつきひ）という妹がいる。ただ、月火ならまだしも火憐という名前はうちの妹香蓮と被るのだ。漢字でなくひらがなで名前書くとだ。そのため、俺は阿良々木火憐の名前を訳してアラカレと呼んでいるのだ。

蓮華「勉強のほうはどうなんだ、受験生。」

暦「ああ。羽川が急ピッチで宿題を見てくれたよ。スパルタだったな…。」

羽川翼（はねかわつばさ）、直江津高校の委員長をやっている優等生だ。暦とは同じクラスらしい。最初は三つ編みので眼鏡をつけていたらしいが髪を切って眼鏡もコンタクトに変えたとか。俺も翼に会ったのは2回ぐらいだしな。どう変わったのかは暦の送ってくれた写真でしか見てないしな。

蓮華「いいじゃないか。それだけ早く宿題を終わらせれば楽できるしな。」

暦「まあ、そうだけどな。」

暦自身そのスパルタには大きく大変だったんだらうな。

蓮華「じゃあ、デツキはちゃんといじってるんだらうな。」

暦「勿論だ。火憐ちちゃんと月火ちゃんとバトルしながら調整してるしな。」

蓮華「ならもんだいないな。」

阿良々木兄妹はバトスピ兄妹なのだ。日々バトルすることが多い。ただ、妹2人は中学生だけどな。

蓮華「そういえば、変態の後輩とはどうなんだよ。」

暦「え、神原か？そうだな、昨日家に行って部屋を掃除したくらいだな。」

蓮華「うん？掃除？」

暦「ああ、神原の奴、よく部屋が汚くってさ。」

蓮華「そ、そうか。」

神原駿河（かんばるするが）、稀に出てくる変態の後輩だ。昔は陸上やつてたりバスケットもやっていたとか。今は部活をやめているらしい。

蓮華「暦に掃除させる後輩って凄いな。」

そう言っていると阿良々木家に着いた。俺と暦は家に入るといつもの靴が並んでいるのともう2人の靴が並んでいた…。2人？

蓮華「暦、撫子以外に呼んだか？」

暦「い、いや。」

俺と暦は靴を急いで脱いでリビングに行く。そこには阿良々木火憐、月火、千石撫子、羽川翼がいた。…翼？

蓮華「…つ、翼…。」

翼「あ、蓮華君久しぶりだね。」

撫子「蓮お兄ちゃんお久しぶりです。」

蓮お兄ちゃんと言っているのは千石撫子（せんごくなでこ）。中学生でアラカレと月火の同じ中学校らしい。

火憐「お、蓮兄久しぶりー。」

月火「久しぶりー。」

蓮華「あ、ああ。久しぶり。」

戸惑いながらも俺は挨拶する。しかし、なんで翼が：

翼「火憐ちゃんが今日蓮華君が来るって言うからお邪魔しました。」

暦「そうだったのか…。」

暦も予想外のことに反応しているのかわかっていなかった。

そんな中俺は、手に持っていたお土産を机に置いてそれぞれに渡していく。

渡し終えて、今は撫子と暦がバトルしている。アラカレと月火は撫子の方からバトルの様子を見ている。

俺と翼は少し離れたところで座ってバトルを見守っていた。

蓮華「これ出会うのは3回目か…。」

翼「そうだね。」

そんな彼女は俺の方を見て言う。直接見ていると恥ずかしいな。

翼「ねえ、蓮華君。」

蓮華「なんだ？」

翼「明日、デートしよか。」

翼はにつこりしながら俺に言う。デートか…ん、デート？

この瞬間俺だけじゃない。バトルしていた暦と撫子の手が止まったのだ。これからどうなるやら…

第32ターン目 え、これでいいのか…?

俺今、駅前にいる。何故かって？翼とのデートをすることになったからだ。

事の始まりは前日に遡る。暦の家にお泊りで行くことになった俺は暦の案内で家に行く。着いたときリビングではすでに翼、撫子、アラカレと月火がいたのだ。

撫子は月火に呼ばれて来たらしいが翼を呼んだのはアラカレらしい。久しぶりに会ったのでぎこちない挨拶した後の数分後だった。暦と撫子がバトルしている最中であるが翼が急なことに俺をデートに誘ったのだ。

暦にはいろいろ言われたが、アラカレと月火の説得？により収まるが撫子はなんていうか羨ましいそうに見ていたような気がした。

ホント、なんで俺はこんなことになるんだ…。いや、そういえばこんなことは確か別の場所であつたような…

翼「お待たせ〜。」

そう考えると翼が来たのだ。

蓮華「おう、待ってたぜ。といってもそんな待ってないけどな。」

翼「なんか、蓮華君って様になってるね。」

蓮華「そうか？普通だと思っぞ。」

翼「うんうん、なかなかないよそんなこと。」

蓮華「そうか…まあいいや。行くか。」

翼「そうだね、行こうか。」

そうやって俺たちは街中を歩き始める。ショッピングモールで服を見たり映画を堪能するなど、俺たちは何気ないデートを楽しんでいた。

その後、俺たちはどこか見覚えがある喫茶店に行く。

蓮華「あれ？」

翼「どうしたの？」

俺が足を止めると翼も足を止める。

蓮華 「い、いや〜なんて言うか…ここやめねーか？」

翼 「え、せつかくだし入ろうよ。」

蓮華 「え、いやえつと…。」

言葉を考えていると翼は喫茶店の扉を開ける。俺は「あ！」と言ってしまった。出迎えてくれたのはまさかのつぐみだった。

蓮華 「…。」

つぐみ 「…い、いらっしやいませ…。」

蓮華 「あ、ああ。」

ぎこちねーよ、俺もつぐみも。それを見ていた翼はまるで楽しそうに見ていた。

なんで、楽しそうに見てんですか翼さんよ…。

つぐみにより席を案内されて俺と翼は席に座る。その後は飲み物を注文する。俺はアイスのミルクティーを翼はアイスコーヒーを頼んだ。数分後、注文した飲み物が来た。なんだが…なんだろうこの空気…。

蓮華「翼…。」

翼「うん、どうしたの？」

蓮華「いや、なんていうかその…どうして誘ったんだデートにさ…。」

翼「単純に蓮華君と出掛けたかったからかな…。」

蓮華「それだけ？」

翼「それだけじゃないけどね。」

蓮華「え？」

俺は疑問に思った。単純な理由かと思えば他の理由もあるのか？

翼「蓮華君を見てたら疲れてる顔してるしね。」

蓮華「え？そりゃあ、連中と合宿したり…。」

翼「蓮華君は無理をしている。」

蓮華「！」

翼はまるで俺の疲れている理由を知ってるように言う。そりゃあ、王の創界神のこともあるから、気が抜けないっていうのがあるからな。きつとそれが理由だろうな。

蓮華「翼は凄いな。なんでも分かるのな。」

翼「なんでもは分からないよ。分かることだけだよ。」

蓮華「…。」

翼「蓮華君はみんなのことを思ってる。私だけじゃない自分と出会った人のことも思ってる、とても優しい人だから。」

蓮華「そうかな。俺は少なくとも優しくはないぞそこまで。」

そう言つて俺は飲み物を一口飲む。

翼「阿良々木君も君のことが心配してるんだから、あまり相棒を心配させないことだよ。」

蓮華「いや、アイツは相棒じゃないから…。」

突然ぶつこんで来るよな翼はよ…。普通に飲み物飲んで一息入れてるしな。

でも、翼の言う通りかもしれないな。心配か…。

蓮華「意外だぜ。」

翼「何が？」

蓮華「いや、何でもないよ。」

俺たちは飲み物を飲み干して。喫茶店を出る。ちなみにお代は俺が払いました。

まあ、当然だよな。

外に出るともう夕方だった。

翼「もうこんな時間か…。」

蓮華「ああ、早いもんだな。」

楽しい時間はすぐに時間が経つ。そう思うとバトスピもそうだよな。

翼「帰ろつか？」

蓮華「ああ、そうだな。」

俺たちは街中を歩きながら帰る。俺は翼を家まで送ってその後、俺は暦の家に行くの

であった。家に着いて入ると出迎えたのは暦だった。デートの内容を聞こうとはしなかったが、ただ一言「お疲れ。」って言ったのだ。俺は「ああ。」って言った。

それから暦の部屋でバトスピしたり話しながらグッズをいじっていたのだった。

第33ターン目 これも、人助けだ。

俺は暦の家に泊まった次の日だった。普通に俺は街中を歩いてた。理由は王の創界神を探すためである。まあぶつちやけ今としては情報がないからぶらついでる感じだな。

蓮華「やれやれ、見つからないな。王の創界神は…。」

俺の予想は緑の王ユグドラシルだと思ってる。だから、早き回収していかなきゃいけないと思ってる。

そんな中俺は普通にカードショップに足を運ぶ。

その中を見当たすと、女の子が男に勝負を申し込まれそうになっていた。まるで、無理やりのように見える。

男A「俺と賭けバトルしないか。」

？「お断りします。」

男A 「まあまあそういわずに。」

俺はその会話に介入する。

蓮華 「あまり、無理やりは嫌われるぜ。」

男A 「ああ？ならお前がバトルするのか？」

蓮華 「いいぜ。その代わり負けたらこいつをどうにでもしていいよ。」

俺は女の人をかけ対象にする。彼女は「ちよ、ちよつと!!」つと言っているが俺はそれは無視する。

男A 「なら、やろうか。」

俺と男Aはテーブルについてデッキ、コアを準備する。デッキをシャッフルしてデッキ置き場に置く。ライフ、リザーブを準備する。

蓮華 「準備いいな。」

男A 「ああ。」

蓮華・男A 「ゲートオープン解放。」

俺と男Aはバトルする

男A 「俺から先行だ。スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。2コス
トで創界神イシスを配置する。」

よりによってイシスカよ…

男A 「配置時により3枚オープンする。」

オープンされたカード：天霊王杖ウアス・セプター、エジツトの天使ネチエリエル、エ
ジツトの天使シヤマエル

男A 「対象カードは2枚、コアを2個チャージ。ターンエンド。」

男A

ライフ：5 手札：4

フィールド

ネクサス：創界神イシス〈2〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ：〈2〉

バーストなし

マジで面倒だな…まあ、デツキ的に勝てそうだな。

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト3でゴッドシーカー超星使徒ベルディータをレベル1で召喚。召喚時効果、デツキから3枚オープンしてヴィオレ魔みを含むカードと系統超星を持つコスト4以上のカードを加える。」

オープンされたカード：ヴィオレ魔み―魔族 side、超神星龍ジークヴルム・ノヴァX、超星使徒スピツァードラゴン

蓮華「対象はヴィオレ魔み―魔族 side、スピツァードラゴンで手札に加える。」

そして、フル軽減でコスト1でヴィオレ魔ゐ―悪族 s i d e―を配置する。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：龍星皇メテオヴルムX、太陽龍ジーク・アポドラゴンX、ノヴァアドロー

蓮華 「対象は2枚、コアを2個チャージ。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：5

フィールド

スピリット：ゴッドシーカー超星使徒ベルディータへ1

ネクサス：ヴィオレ魔ゐ―悪族 s i d e―へ2

リザーブ：へ0

コアトラッシュ：へソウルコア、3

バーストなし

男A「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1、2コストでエジットの天使ナティエルをレベル1で召喚。召喚
時効果でボイドから1個を自分の黄の創界神に置く。創界神イシスにコアを1個置
く。」

メンドクセーな。ライフ回復しやねーか。

男A「ターンエンド。」

男A

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：エジットの天使ナティエル〈1〉

ネクサス：創界神イシス〈3〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ〈2〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。フル軽減、コスト1で魔界竜鬼ダークヴルムをレベル1で召喚。召喚時効果でライフのコアを1個トラッシュに送ってデッキから2枚ドロースる。」

蓮華：ライフ5↓4

蓮華「ヴィオレ魔みー悪族sideーのコアチャージ発揮。フル軽減、コスト2でマジック、ノヴァドローを使用。デッキから2枚ドロースる。その後、ヴィオレ魔みー悪族sideーのコアを1個ボイドに送ることで、デッキから1枚ドロースる。ターンエンド。」

蓮華

ライフ4 手札：7

フィールド

スピリット：ゴッドシーカー超星使徒ベルディータへ1、魔界竜鬼ダークヴルムへ1
 ネクサス：ヴィオレ魔みー悪族sideーへ2

リザーブへソウルコア

コアトラツシユへ4

バーストなし

男A「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシユステップ、メ
インステップ。ターンエンド。」

え？な、なんだと…。

男A

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：エジツトの天使ナティエルへ1

ネクサス：創界神イシスへ3

リザーブ：へソウルコア、3

コアトラツシユへ0

バーストなし

これつてまさか：殴ったら勝てるんじゃない？

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュユステップ、メインステップ。フル軽減、コスト1で2体目の魔界竜鬼ダークヴルムをレベル1で召喚。召喚時効果でライフのコアを1個トラッシュに送ってデッキから2枚ドロースる。」

蓮華：ライフ4↓3

蓮華「ヴェオレ魔ゐー悪族sideーのコアチャージ發揮。フル軽減で雷皇龍ジークヴルムをレベル1で召喚。ヴェオレ魔ゐー悪族sideーのコアチャージ發揮。アタックステップ、ジークヴルムでアタック。」

男A「フラッシュはない。」

蓮華「俺もない。」

男A「ライフで受ける。」

男A：ライフ5↓4

蓮華 「1体目のダークヴルムでアタック。」

男A 「フラッシュはない。」

蓮華 「俺もない。」

男A 「ライフで受ける。」

男A：ライフ4↓3

蓮華 「2体目のダークヴルムでアタック。」

男A 「フラッシュはない。」

蓮華 「俺もない。」

男A 「ライフで受ける。」

男A：ライフ3↓2

蓮華 「ターンエンド。」

蓮華

ライフ4 手札：7

フィールド

スピリット：ゴッドシーカー超星使徒ベルディータへ1、魔界竜鬼ダークヴルムx2
 へ1（疲労中）、雷皇龍ジークヴルムへ1（疲労中）

ネクスス：ヴィオレ魔術師悪族sideへ4

リザーブへソウルコア、2

コアトラツシュへ1

バーストなし

男A「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
 インステップ。軽減2、2コストで「学園の熾天使」ラムディエルをレベル2で召喚。召
 喚時効果でデッキから1枚ドロ。さらに軽減1、1コストで2枚目の創界神イシスを
 配置してターンエンド。」

男A

ライフ：2 手札：6

フィールド

スピリット：エジットの天使ナティエルへ1、「学園の熾天使」ラムディエルへ2

ネクサス：創界神イシスへ3、創界神イシスへ0

リザーブ：へソウルコア、2

コアトラッシュへ3

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減3、コスト4で龍星皇メテオヴルムXをレベル1で召喚。ヴィオレ
魔ゐ―悪族side―のコアチャージ発揮。アタックステップ、メテオヴルムXでア
タック。アタック時効果、激突X発揮。自分のすべてに激突を与える。可能ならプロッ
クしてもらおう。」

男A「フラッシュはない。」

蓮華「フラッシュタイミング、ヴィオレ魔ゐ―悪族side―の神技を発揮。コスト

2払って、ラムディエルのコア1個をトラッシュに送る。」

男A「だが、ラムディエルでブロック。」

蓮華 「ラムディエルのBPは4000でメテオヴルムXは6000だ、よって破壊。そして、ブロックしたスピリット、アルティメットが消滅または破壊されたとき、相手のライフを1個をトラッシュに送る。」

男A : ライフ2 ↓ 1

蓮華 「ジークヴルムでアタック。激突発揮。」

男A 「フラッシュはない。」

蓮華 「俺もない。」

男A 「ナティエルでブロック。」

蓮華 「ナティエルのBPは3000でジークヴルムは5000だ、よって破壊。メテオヴルムXの効果でライフ1個をトラッシュに。」

男A : ライフ1 ↓ 0

蓮華 : WIN

男A : LOSE

第34ターン目 再会したのは…まさかの許嫁

蓮華は嫌がっていた女子を助けるため男Aと勝負し、勝利した。

勝利の代償として、王の創界神のことを聞いたが、全く情報がなかった。そのため、蓮華はすぐに男Aを解放する。

蓮華「もう大丈夫だ……ぞ……ぞ……」

蓮華が振り向いてそういうとそこには…許嫁の人がいた。

？「久しぶりね蓮華君。」

そこには栗色で特殊に結ばれた髪をして、蓮華より年上に見える女性、結城明日奈がいた。

蓮華「よ、よう、明日奈。久しぶりだな。そ、それじゃあな！」

蓮華が逃げるようにどこか行こうとすると明日奈によって腕をつかまれてしまい逃げなくなる。

明日奈「逃げようなんてそうはいかないわ。」

蓮華「離せ！マジで勘弁してくれ！」

明日奈「離したら逃げるでじよ。」

蓮華「逃げない逃げない！マジ逃げないから離してくれ。」

そう言うのと明日奈は解放してくれた。蓮華はお互い落ち着いて話せるように隅っこの席に明日奈と向かい合わせにすわる。

蓮華「んで、なんで明日奈がいるんだよ？」

明日奈「蓮華君が勝手にどっか行くから。」

蓮華「勝手に…俺は子供か！」

明日奈「私からすれば蓮華君は変なところが子供だと思うよ。」

蓮華「変なところって…。」

明日奈「ところで蓮華君は予選はどうするの？」

蓮華「予選はもちろんソロで出るぜ。その方が楽だし。」

明日奈「え、今回からルールが改訂されたよ。」

蓮華「え？」

明日奈「お母さんから聞いたけど、ルールはチーム戦で最低3人で最高が9人になってるよ。」

蓮華は考えた。これまで予選と決勝大会はソロでも出られるようなルールになっているのを今更チーム戦にするととはと。

明日奈「なんでも、全国の大会がソロが多すぎるからチームにしてやる方がいいって運営をしているお母さんが言ってる。」

蓮華「野郎め！チーム戦とかマジで面倒なこととしてくれたぜ。」

明日奈「それで蓮華君は決まったの？」

蓮華「チームは決まってるがメンバーは1人だけしか決まってない…。」

明日奈「え、そうなの？」

蓮華「ああ。だから結構マズイ感じ。」

明日奈「それなら私がチーム入りしようか？」

蓮華「いいよ、そこまでしなくても。」

明日奈「でも、蓮華君はメンバーに困ってるでしょ？」

蓮華「そりやあまあ。でも、俺は…。」

明日奈「つべこべ言わないの。蓮華君は全国優勝を狙ってるんでしょ。」

蓮華「当たり前だろ、じゃなきやここまでバトスピには燃えないよ。」

明日奈「なら、決まりね。私が入ればメンバーは最低の3人になるしこれで予選大会に出れるよ。」

蓮華「明日奈。デツキを出せ。」

明日奈「え？」

蓮華「いいから出せ。デツキを見てやる。」

明日奈「うん。」

明日奈はデツキをカバンから取り出して蓮華に見てもらった。

蓮華「明日奈。マジでこれで予選で出ようとか思ったのか？」

明日奈「まあそうね。調整して少しづついじるつもりだけど。」

蓮華「だからと言ってなんで剣聖姫ツルなんだよ！」

明日奈「いいでしょ！それぐらい！」

蓮華「アホか、こんなんで全国行くまでに見抜かれてメタられるわ。最悪シャイニング・ドラゴン・オーバーレイがいるから何とかなってるからフィニッシュには問題ないが創界神がたんねーし。」

明日奈「それは…そうだけど。」

蓮華「せめて創界神ケイを入れとけ。あのカードならばバーストコントロールによく入るカードだ。ツルにも入る。」

明日奈「そうだね、分かったわ。入れてみる。」

蓮華「チーム戦になった以上、デッキの組み換えはいくらでも一緒にしてやる。全国はどころか予選で必ず強敵どもには当たるしな。それに…王の創界神も必ずかかわってくるはずだ。」

明日奈「王の創界神？」

蓮華「それについてはまた教えるから今はパスな。今はお前のデッキを組み換えるぞ。」

明日奈「そうだね。それじゃあ、あそこに行きましょう！」

蓮華「え？どこ？」

明日奈「決まってるでしょ、カードショップCIRCLEに！」
蓮華「え!! わ、分かった。」

明日奈は席を立ちデッキをカバンにしまつて外にカードショップを出る。蓮華も席を立ち明日奈を追いかける形でカードショップを出た。

果たして、カードショップCIRCLEに行ったときどうなることやら……。

第35ターン目 これはいったいどうすれば…

蓮華は明日奈を追いかけるようについていった。目的地はカードショップC i R C L E。目的地に着く前に蓮華は手短かに王の創界神のことを説明する。

そして目的地に着く。

明日奈「へえーここがカードショップC i R C L Eか。」

蓮華「まあ、俺ここでバイトしてるからな。」

明日奈「え、そうなの？」

蓮華「元々王の創界神の情報を探るためにバイトを始めたんだけどね。まあ、なかなか情報は転がってこないんだよな。俺が持つてる情報は何者かが王の創界神を持ち出して悪さしようとしてる感じだな。」

明日奈「うーん私もお母さんから変わった情報は聞いてないしね。」

蓮華「だろ。運営者だろうとなかなか知られないしな。」

明日奈「そうね。」

蓮華「はあ、入るなら入るぞ。」

蓮華は明日奈を連れてカードショップCIRCLEに入る。中に入るとそこPa
stel Palettesがいたのだ。

彩「あ、蓮華君。」

そう言つて彩は蓮華に近づく。

蓮華「おう、彩か。お前ら予選に向けてデッキ調整か。」

千聖「ええ。」

麻弥「ところで後ろにいる人は…。」

蓮華「ん?…。」

蓮華はどう説明しようかと迷っていると明日奈が名乗るのであった。

明日奈「私は結城明日奈、蓮華君の許嫁よ。」

蓮華「…。」

彩「……。」

イブ「……。」

千聖「……。」

日菜「……。」

麻弥「……。」

Pastel Palettes「ええええええええええええええええええ!!」

Pastel Palettesメンバーは驚くのであつた。まあ当然だろうな。

そんなこともあり軽い自己紹介を終えたて…

日菜「蓮華君に許嫁。」

イブ「凄いでス。」

蓮華「そんな凄くねーよ。」

そう話していると千聖が明日奈に近づいく、何やら言いたげなことがある感じだ。

千聖「貴女が蓮華君のね…。」

明日奈「ええそうよ。何ならチームも組んでるわよ。」

千聖「！。そう…。」

明日奈「何、何か言いたそうね。」

千聖「ええ、蓮華君は私たちのコーチでもあるの。だから、チームとしては私たちのメンバーでもあるわ。」

明日奈は蓮華を見る。蓮華はコーチは間違つてはないがチームなんてチームのことは初めて知った感じだった。

明日奈「でも、蓮華君はチームのことは知らなかったわよ。」

千聖「ちい。」

蓮華「今舌打ちしたよな千聖の奴。」

麻弥「したつすね。」

彩「うん、したね。」

日菜「でも、これってまさかの。」

イブ「修羅場ってやつデスネ。」

蓮華「え？」

蓮華は分かってなかったのだ。明日奈と千聖が蓮華を取り合ってるのを…。

明日奈「なら、こう決めましょ。千聖ちゃんと私が勝負して決めましょ。」

千聖「そうね。勝った者が蓮華君を自由にできるね。」

千聖・明日奈以外「うん？」

日菜「なんか途中から話が変わってるね。」

蓮華「ああ。そして日菜、楽しそうに言うな。」

蓮華は日菜を見てそう言う。どうも、るんっ♪つときたらしい。

そうなられても困ると蓮華は思った。

話がついた千聖と明日奈はテーブルに着きデツキを取り出してコアを準備する。デツキをシャッフルとライフとりザーブの準備ができたようだ。

千聖「いきますよ！

明日奈「いつでもいいよ！」

千聖・明日奈「ゲートオープン解放！」

第36ターン目 天霊対剣聖

まさかのバトルが始まった。

蓮華は明日奈の近くでバトルを見ている。Pastel Palettesの他のメンバーは千聖の近くでバトルを見ているのだった。

千聖「先行は私から行くわ。スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神イシスを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：星天使女神イシスター、ゴッドシーカーエジットの天使メヘトエル、エジットの天使シヤマエル

千聖「対象のカードは2枚、コアを2個チャージ。さらに軽減1、コストでもう1枚の創界神イシスを配置。ターンエンド。」

千聖

ライフ：5 手札：3

フィールド

ネクサス：創界神イシス〈2〉、創界神イシス〈0〉

リザーブ〈ソウルコア〉

コアトラッシュ〈3〉

バーストなし

明日奈「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。2コストで陽昇ハジメを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：姫鶴一文字、魂武者リユウガ、華王千伽耶

明日奈「対象は3枚、コアを3個チャージ。ターンエンド。」

明日奈

ライフ：5 手札：4

フィールド

ネクサス：陽昇ハジメ〈3〉

リザーブへソウルコア、2〈

コアトラッシュ〈2〉

バーストなし

千聖「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト1でエジットの天使リナエルをレベル3で召喚。創界神
イシス2体のコアチャージ発揮。さらに軽減1、コスト2でエジットの天使ティティエ
ルをレベル3で召喚。創界神イシス2体のコアチャージ発揮。召喚時効果でデツキの
下から1枚ドロ。ターンエンド。」

千聖

ライフ：5 手札：3

フィールド

アルティメット：エジットの天使リナエル〈1〉、エジットの天使ティティエルへソウ
ルコア〈

ネクサス：創界神イシス〈4〉、創界神イシス〈2〉

リザーブ〈0〉

コアトラッシュ〈3〉

バーストなし

明日奈「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。5コストで剣聖姫ツルをレベル1で召喚。召喚時効果、デッキから5枚までオープンできる。その中にバースト効果を持つカードを手札に加える。オープンする枚数は5枚。」

オープンされたカード：申殻伯メタリフェル×2、砲天使カノン、風翼刀ドウジキリ、戦国姫久遠

明日奈「対象は5枚。よって5枚手札に加える。バーストセットしてターンエンド。」

明日奈

ライフ：5 手札：8

フィールド

スピリット：劍聖姫ツルへソウルコアへ

ネクサス：陽昇ハジメへ3へ

リザーブへ0へ

コアトラツシユへ5へ

バーストあり

蓮華「出だしが良過ぎるな明日奈。」

麻弥「謎の5枚ドロローですね今の。」

日菜「初めてみた。」

千聖「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。……。ターンエンド。」

イブ「エ？」

彩「千聖ちゃんが何もせずにターンを終えた。」

千聖

ライフ：5

手札：4

フィールド

アルティメット：エジツトの天使リナエルへ1、エジツトの天使ティティエルへソウルコア

ネクサス：創界神イシスへ4、創界神イシスへ2

リザーブへ4

コアトラツシユへ0

バーストなし

明日奈「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ、メインステップ。剣聖姫ツルをレベル3にアップ。アタックステップ、剣聖姫ツルでアタック。アタック時、ソウルコアをトラツシユに送りソウルバースト、姫鶴一文字。バースト効果でトラツシユにある黄のカードを手札に加える。対象は姫鶴一文字。そして、バーストで出てきた姫鶴一文字を剣聖姫ツルにブレイヴ。バーストを発動したことから、陽昇ハジメにコアチャージ発揮。」

千聖「フラツシユはないわ。」

明日奈「こちらもなし。」

千聖「ライフで受ける。」

千聖：ライフ5↓3

明日奈「ターンエンド。」

明日奈

ライフ：5 手札：10

フィールド

スピリット：劍聖姫ツルへ3（姫鶴一文字ブレイヴ中（疲労中）

ネクサス：陽昇ハジメへ3

リザーブへ3

コアトラツシユへソウルコア

バーストなし

千聖「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシユステップ、メ
インステップ。軽減4、コスト4で星天使女神イシスターをレベル3で召喚。創界神イ
シス2体のコアチャージ発揮。アタックステップ、イシスターでアタック。アタック
時、解放。ライフ1個か黄の創界神から2個を置くことで相手スピリットを2体手札に

戻すことができる。ライフから1個をイシスターに置いて、剣聖姫ツルを手札に戻して相手のライフを1個トラッシュに送る。」

明日奈：ライフ5↓4

千聖「さらにレベル4のになったことにより、レベル4の効果自分のライフが減ったことによりイシスターには回復する。」

明日奈「フラッシュユはないわ。」

千聖「フラッシュユタイミング、創界神イシスの神技発揮。2体目のイシスからコアを3個ボイドに送り、ボイドから1個を自分のライフに置く。」

明日奈「フラッシュユタイミング。」

蓮華「(このタイミングでか!!)」

明日奈「陽昇ハジメの神技発揮。3個ボイドに送り、手札のバーストカードをセットしてデッキから1枚ドロウする。」

千聖「!フラッシュユはないわ。」

明日奈「こちらもなし。ライフで受ける。」

明日奈：ライフ4↓3

千聖「イシスターで再びアタック。界放効果でイシスのコア2個をイシスターに置いて姫鶴一文字を手札に戻してライフ1個をトラッシュに置く。」

明日奈：ライフ3↓2

明日奈「アタック後バースト、地神刀オオデンタを召喚。バーストを持つカードが召喚されたことによりとバースト発動後で陽昇ハジメのコアを2個チャージ。」

千聖「このタイミングでオオデンタ?! フラッシュはないわ。」

明日奈「再びフラッシュタイミング、3コストでアプソリュートゼロを使用。イシスターのシンボルを0にする。」

千聖「う。これは辛いわ。」

明日奈「さらにフラッシュタイミング。」

千聖「まだあるの!?!」

明日奈「陽昇ハジメの神技発揮。3個ボイドに送り、手札のバーストカードをセットしてデッキから1枚ドロ。」

千聖「イシスターは攻撃は通らない。なら、ティティエルでアタック。」
 明日奈「フラッシュはないわ。」

千聖「こちらもない。」

明日奈「ライフで受ける。」

明日奈：ライフ2↓1

明日奈「ライフ減少後バースト発動、姫鶴一文字。バースト効果で黄のカードを手札に。アブソリュートゼロを手札に。」

千聖「ターンエンド。」

千聖

ライフ：3 手札：4

フィールド

アルティメット：エジツトの天使リナエルへ1、エジツトの天使ティティエルへソウルコア（疲労中）、星天使女神イシスターへ6（疲労中）

ネクサス：創界神イシスへ4、創界神イシスへ2

リザーブへ0〈

コアトラッシュへ4〈

バーストなし

蓮華「(こりやあ、千聖の負けかな…)」

明日奈「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。3コストで光の導き手ラピスをレベル1で召喚。召喚時効果、自分のライフが3以下の時、系統劍使を持つスピリットをコストを支払わずに召喚する。劍聖姫ツルをレベル2で召喚。召喚時効果は使わないわ。オオデンタと劍聖姫ツルを劍聖姫ツルにブレイヴ。軽減3、1コストで劍聖姫ツルを召喚してそのままブレイヴ。バースト持つカードを召喚したことにより陽昇ハジメのコアチャージ発揮。さらに軽減3、1コストでもう1枚の劍聖姫ツルを召喚してそのままブレイヴ。陽昇ハジメのコアチャージ発揮。」

イブ「4枚もブレイヴしてマス。」

蓮華「劍聖姫ツルにブレイヴする時、ブレイヴ枚数には数えないんだ。」
 彩「じゃあ、シャイニング・ドラゴン・オーバーレイがいたら。」

蓮華「ああ、5枚ブレイヴできる。」

明日奈「アタックステップ、4枚ブレイヴしているツルでアタック。ソウルコアをト
ラッシュに送り、ソウルバースト、風翼刀ドウジキリ。バースト効果でコスト合計が1
2までスピリット、アルティメットを疲労させる。リナエルを疲労。そして召喚。不足
コアはツルから1個ドウジキリに置く。」

千聖「(マジックがない…イシスのコアを使ってライフを回復しても足りない…)フ
ラッシュはないわ。」

明日奈「こちらもなし。」

千聖「ライフで受ける。」

千聖：ライフ3↓0

明日奈：WIN

千聖：LOSE

第37ターン目 え、聞いてないぞ

千聖対明日奈は明日奈が制したのだった。

明日奈「私の勝ちね。というわけで蓮華君を自由にできるのは私ね。」

千聖「く！」

どうも千聖は悔しそうだった。

近くで見えていた彩達は「あんな千聖さん（ちゃん）」「チサトさん」見たこともない。」状態だった。

蓮華「容赦ねえのな。」

明日奈「まあね。これぐらいやらないと全国にはいけませんから。」

蓮華「なんか嬉しそうにいうよな…。」

千聖「次は負けないわ。今回は認めるけど…。」

蓮華「なんでそんなに俺にこだわる？」

蓮華の質問に千聖は顔を赤らめて言う。

千聖「貴方には私たちのチームとして出てほしくて…それに…私が…／／／」
途中から千聖はぼそぼそとしか言えてなかった。

蓮華「？」

明日奈「ああ…なるほど…なんとなくわかったわ。」

蓮華「何が分かったんだよ？」

明日奈「それは蓮華君が自分で気づきなさい。」

蓮華「え!!」

そんな蓮華は全く気付かなかった。こんなに恋する乙女な千聖に。現役女優な彼女がこんな風になることぐらい気づかない蓮華は全く持つて鈍感である。

麻弥「でも、凄いつすね。剣聖姫ツルでここまで戦えるなんて。」

蓮華「普通はアルティメットには弱いけどそれを思わせない戦いぶりだからな。」
イブ「それだけブシドーなんデスね。」

蓮華「それは分かんがまあ、武竜特有のこともあるからイブも学ぶといいよ。」
イブ「ハイ！」

明日奈「へえ〜蓮華君意外にこの子達に優しいんだね。」

蓮華「うん、そうか？誰にでも優しくしてるつもりだけど…。」

日菜「蓮華君は私たちのバトスピコーチしてるんだよ！」

彩「日菜ちゃん、それ言ったら蓮華君が…。」

明日奈「成程ね…バトスピコーチね…。」

明日奈の声が少しトーンが低くなった。どうも気に入らないらしく。

蓮華「ま、待ってって！これには事情があるんだ。」

明日奈「どんな事情なの？」

蓮華「正直話したら許してくれるか？」

明日奈「…分かったわ。許してあげる。」

蓮華「じゃあ、話すぞ。俺がパスパレのコーチを引き受けるのか…。」

蓮華は正直話した。Pastel Palettesが所属している芸能事務所の社長が自分の亡き祖父の知り合いであり王の創界神情報を得るためコーチを引き受けたと…。

蓮華「ざっとこんなもんだ。」

彩「社長と知り合いなんだね。」

蓮華「俺も知らなかったんだよ、祖父と知り合いだったなんて。」

千聖「王の創界神の情報はどうなの？」

蓮華「一応得てはいる。だが、緑の王、青の王、紫の王、黄の王の情報は未だにだ。唯一分かっているのはもしかすると予選大会で王の創界神を使うやつがいるかもしれない奴がいるって感じかな。」

麻弥「それは怖いっすね。」

蓮華「どう考えても止めないとな。」

イブ「じゃあ、予選ハ…。」

蓮華「奴らは必ず俺を狙ってくる。俺が今、王の創界神を2枚持っている以上な。」

明日奈「そうなると蓮華君は…。」

蓮華「危険を伴うがやるしかない。王の創界神をどうにかできるのは俺だけだ。」
明日奈「…。」

明日奈も黙るしかなかった。王の創界神のことを聞かされた時、自分にも何かできないかと考えたが何も浮かばなかったのだ。

蓮華「とりあえず、今は情報待ちだがなんとでもなるだろう。」

蓮華の言葉にみんなは心配するが今は落ち着いていくしかなかった。

そうシリアスな話をしていたが…明日奈が急に話の話題を変えた。

明日奈「ところで蓮華君。食生活はどうなってるの？」

蓮華「え…。」

蓮華は急に食生活について振り返ってみると自分が最近カップ麺しか食べてないのが分かった。まともな食事をしたのは合宿の時だけだ。

蓮華「か、カップ麺…。」

Pastel*Palettes「…え!!」

明日奈「やつぱり…。」

Pastel*Palettesのメンバーは驚いているが明日奈はどうやらなんとなくで気づいていたようだ。

麻弥「3食カップ麺なんつすか？」

蓮華「ああ。」

彩「3食って凄い…。」

イブ「普通は出来ませんカラ…。」

蓮華「ハマっててな。」

千聖「栄養が固まるわよ。」

蓮華「なんともなるだろ。」

明日奈「なんともならないわよ！」

蓮華「?!」

明日奈「と・に・か・く、食生活はしばらく私が管理するわ。」

蓮華「ま、まさか…」

明日奈「ええ、蓮華君の家にしばらくお泊りね。」

P a s t e l P a l e t t e s「ええええええ!!」

まさかの言葉にP a s t e l P a l e t t e sのメンバーは驚く。

蓮華「だが、親には許可とつたのかよ?」

明日奈「心配いらないわ。親には真正面から話して許可貰うから。」

蓮華「…。」

蓮華は何も言えなくなってしまう。勝負に負けた千聖さえも何も言えなくなってしまう。他のメンバーも反論しようとするが千聖がこんな状態では何も言えなかった。

明日奈「つてなわけで、私はこれから親に許可貰うべく一度家に戻るわ。」

そうやって明日奈はデツキとコアをしまつて、店の外に出ていく。

黙って見届ける蓮華とP a s t e l P a l e t t e sメンバー。

沈黙の状態を払ってくれたのは日菜だった…

日菜「大丈夫なの？」

蓮華「なんとでもなるさ…。」

寂しそうに言う蓮華であった。

時間を見るといい時間なのでPastelPalettesメンバーは解散する。途中まで道が一緒である千聖は蓮華と一緒に帰るのであった。

帰ってる最中、メールが届いたので内容を確認すると明日奈からであり、どうやら許可がもらえたらしく、準備したら家に行くというメールだった。

蓮華は携帯をしまつて千聖と違う話題を話しながら帰るのであった。

第38ターン目 緑の王 ユグドラシル

蓮華は家に帰りとりあえずリビングでくつろいでいた。

蓮華「なんでこんなことに…。」

そう言っているとインターホンが鳴る。

蓮華「…出ようか…。」

蓮華は玄関に向かい、扉を開ける。そこには大荷物を持った明日奈だった。

蓮華「案外早かったな。」

明日奈「ええ。これも蓮華君のためだからね。」

蓮華「だろうな。とりあえず、荷物は空き部屋においてこようか。」

蓮華は明日奈の荷物を半分持つ、明日奈ももう半分の荷物を持って空き部屋に荷物を運ぶ。

運び終えて蓮華と明日奈はリビングに移動する。

明日奈「さて、夕食にしましょうか。」

蓮華「冷蔵庫の中身ほとんど飲み物だぞ。」

明日奈「だと思ったから、買っておいたわ。」

蓮華「準備がよろしいことで。」

明日奈「そういうわけで蓮華君は待っててね。」

明日奈はビニール袋を持って台所に向かい料理するのであった。蓮華はテレビをつける。特に大したニュースもなくいつも道理だった。

数分後料理ができたので蓮華は台所近くのテーブルについて明日奈と夕食を取る。夕食を終えてお風呂は蓮華が待つ間に準備をしていたので先に明日奈に入らせる。その後、蓮華が入りお風呂タイム終了である。

その後、2人は自分たちの部屋で過ごし就寝を迎えるのであった。

そんな次の日、朝起きの明日奈は学校の制服に着替えていて朝食の準備をしていた。

蓮華は少し遅く起き、制服に着替えて1階のリビングに行くそうするとすでに朝食ができていた。

蓮華「おはよう、明日奈。」

明日奈「おはよう、蓮華君。」

そう挨拶するのであった。挨拶を終えたので蓮華たちは朝食を取る。

朝食を終えて、蓮華と明日奈はそれぞれの学校に行く。その際に蓮華は明日奈から弁当を渡されるのであった。

そんな学校の昼休み。

兼続「蓮華、昼にしようぜ。」

蓮華「ああ。」

そう言つて蓮華はカバンから弁当を取り出す。

兼続「なんだ、弁当か。」

蓮華「ああ、許嫁に色々とな。」

兼続「お前、許嫁なんていたなんてな。」

蓮華「まあな。」

蓮華は弁当を食べながらそう言う。兼続は意外そうに見ていたのだった。

放課後、兼続はバイトがあるらしく蓮華とは別行動をとることになり、蓮華は適当に買い物でもしようかと思つたとき携帯が鳴つた。

蓮華「誰だ？」

携帯をポケットから取り出して画面を見る。どうやら美咲からのメールだった。

蓮華「美咲からだ。なんだろう…。」

蓮華はメール内容を確認する。内容は…。

蓮華「急にバトルを申し込まれた。今戸山さんがバトルしてるけど何やら見たことないカードを使ってるらしい。…見たことのないカード…まさか…。」

蓮華は美咲に場所を教えてもらおうべくメールの返事を返す。

すぐに返事が返ってきたので蓮華は走ってその場所に向かう。場所は…花咲川女子学園だった。

そんな、花咲川女子学園では…

？「さあ、次はだれだ？」

花咲川では体育館にバトルテーブルがあり、そこでバトスピができるのだ。

そこでバトルしていた謎の男と香澄どうやら香澄はバトルに負けてしまい身体を痛めていた。

りみ「わ、私がやります。」

たえ「りみ！」

りみ「…。」

りみは強がりながらもバトルをしようとすると…。

蓮華「待ちやがれー！」

蓮華が走って花咲川の体育館に来た。

？「ほう、来たか六道蓮華。」

蓮華「やつぱりな。王の創界神か…いや、緑の王だな。」

？「いかにも。まさかすぐに関ずくとは。異様だね。」

蓮華「昔からな。バトルは俺がする。」

りみ「蓮華君！」

蓮華「…大丈夫だ。」

たえや美咲達は黙って見守っていた。蓮華はデッキを取り出し、デッキ置き場に置く。コアはテーブルによって勝手に準備される。

？「いつでもいいな。」

蓮華「ああ…。」

蓮華「？」「ゲートオープン解放！」

第39ターン目 前に進むために

蓮華は花咲川女子学園の体育館でバトルすることになり、謎の男と勝負する。

蓮華「はじめようか。」

？「先行は譲ってやる。」

第1ターン蓮華は創界神ダンを配置し、対象カードは3枚によりコアを3個シャージ後、創界神ダンの効果でコアチャージで送られるカードを手札に加える。

第2ターン、謎の男はブラックマツハジークをレベル1で召喚する。召喚時によりコアを1個ブーストをする。

第3ターン蓮華はセフィロ・シープをレベル1で召喚する。召喚時でコアを1個ブーストするし創界神のコアチャージが発揮する。

第4ターン、謎の男はもう1体のブラックマツハジークをレベル1で召喚。召喚時でコアブーストする。

第5ターン、蓮華は2体目のセフィロ・シープをレベル1で召喚する。召喚時でコア

をブーストし、創界神のコアチャージ発揮する。

そんな、第6ターン、謎の男は動き出す。

？「メインステップ。軽減2、コスト2で王の創界神ユグドラシルを配置。配置時効、3枚オーブン。」

オーブンされたカード：終焉の騎神ラグナ・ロック、「五穀豊穡」コガネヒメ、斬騎士ラグマンティス

？「対象カードは3枚、コアを3個チャージする。アタックステップ、ブラックマツハジーンXでアタック。」

蓮華「フラッシュはない。」

？「こちらもだ。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ5↓4

? 「ターンエンド。」

?

ライフ5 手札：4

フィールド

ブラックマツハジーXへソウルコア、1◇（疲労中）、ブラックマツハジーXへ2◇

ネクサス：王の創界神ユグドラシルへ3◇

リザーブ：へ2◇

コアトラッシュへ2◇

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュユステップ、メインステップ。軽減1、コスト6で龍星皇メテオヴルムXをレベル2で召喚。不足コアはセフィロ・シープから取り除く。創界神ダンのコアシャージ発揮。アタックステップ、メテオヴルムXでアタック。アタック時効果、激突X発揮。」

? 「フラッシュはない。」

蓮華「こちらもない。」

? 「ブラックマツハジーXでブロック。」

蓮華「メテオヴルムXの効果で激突Xで消滅、破壊された時、相手のライフを1個をトラツシユに送る。」

? : ライフ5↓4

? 「ちい！」

蓮華「ターンエンド。」

蓮華

ライフ : 4 手札 : 6

フィールド

スピリット : 天星1 2 宮樹星獣セフィロ・シープ x 2 へ1、龍星皇メテオヴルムX へソ
ウルコア、2 (疲労中)

ネクサス : 創界神ダン へ6

リザーブ : へ0

コアトラッシュ〈6〉
バーストなし

？「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減2、コスト6で殻神騎士ナイト・オブ・グラディウスをレベル1で
召喚。王の創界神ユグドラシルのコアチャージ発揮。アタックステップ、ナイト・オブ・
グラディウスでアタック。アタック時、界放発揮。相手のスピリット、アルティメット
を重疲労させる。メテオヴルムXと1体目のセフィロ・シープを重疲労させる。」

蓮華「…。」

？「さらに緑の創界神からコアを2つをナイト・オブ・グラディウスに置いて重疲労
したスピリット、アルティメット1体につき、相手のライフをリザーブに置く。」

蓮華：ライフ4↓2

蓮華「フラッシュはない。」

？「こちらもない。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ2↓1

？

ライフ：4 手札：3

フィールド

スピリット：ブラックマツハジーXへソウルコア、1へ、殻神騎士ナイト・オブ・グラ
 デイウスへ4へ（疲労中）

ネクサス：王の創界神ユグドラシルへ2へ

リザーブ：へ0へ

コアトラツシユへ6へ

バーストなし

蓮華「…お前の名前が分かった。」

？「ほう、言ってみろ。」

蓮華「アンタの名前は内海総一郎だな。全国大会20位の…。」

総一郎「よくわかったな。」

沙綾「え、全国20位!？」

たえ「だから、あれだけ強いんだ。」

蓮華「どうして、王の創界神を手にしてるんだ。」

総一郎「そんなこと教えるわけないでしょう。」

蓮華「だろうな。」

有咲「なんか蓮華の奴怖くないか？」

美咲「普段見ない蓮華さんだね。何かあるんじゃない?」

蓮華「お前の目的は俺なんだろ。」

総一郎「そうだ!お前の光導に復讐するんだ!」

蓮華「…。」

りみ「たったそれだけのために…。」

有咲「おかしいだろ!」

総一郎「ふん、お前らには知らなくていいことだ。」

蓮華「…くだらないな。」

蓮華はいつもより声にトーンが低かった。

総一郎「なんだと？」

蓮華「くだらないって言ったんだよ。お前のその復讐にはな。たかが光導に残酷に負けたからって復讐とかただの面倒なバカじやねーか。」

総一郎「貴様！」

蓮華「悪いけど俺も負けられないんだ。俺はある奴に勝つまで負けられないんだ。てめへの復讐なんかにつきやっつけられるか。」

総一郎「だが、私のライフは4、ユグドラシルの神技が使えば現状を耐えきれる。」

蓮華「そうやって慢心してるからお前は負けるんだよ。」

総一郎「なんだと？」

蓮華「バトスピは最後までやんねーと分かんねーぞ。そのライフすべて削ってやる！」

蓮華の闘志が全開する。

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。コスト7で魔導双神ジエミナイズをレベル2で召喚。創界神ダンのコアチャージ発揮。」

たえ「あのジェミナイズって…。」

りみ「り、リバイバル前の…。」

蓮華「アタックステップ、ジェミナイズでアタック。」

総一郎「フラッシュはない。」

蓮華「フラッシュタイミング、軽減2、コスト2でマジック、アドベンドスターを使用。」

総一郎「！」

蓮華「不足コストはセフィロ・シープ2体から使用。コスト7以下の神星、光導を持つスピリットをコストを支払わずに召喚する。巨蟹武神キャンサードXをレベル2で召喚。不足コアはメテオヴルムXから。さらにジェミナイズの効果で手札から光導が召喚されたことにより、デッキから1枚をオープンしてそれがスピリットだった場合、コストを支払わずに召喚する。」

オープンされたカード：魔羯邪神シユタイン・ボルグX

蓮華「オープンされたカードがスピリットのため召喚。シユタイン・ボルグXをレベ

ル2で召喚。不足コアはキャンサードXから。シユタイン・ボルグXの召喚時によりト
ラツシユからメテオヴルムXを手札に加える。そして俺はジエミナイズのレベル2の
効果、マジックを使用した時その効果をコストを支払わずにもう1度使用する。」

沙綾「え、そんな効果してるの?!」

蓮華「金牛龍神ドラゴニック・タウラスXをレベル1で召喚。不足コアはシユタイン・
ボルグXから。」

総一郎「ジエミナイズの攻撃はブラックマツハジーXでブロックする。」

蓮華「キャンサードXでアタック。」

総一郎「フラツシユはない。」

蓮華「フラツシユタイミング、ソウルコアをトラツシユに送り煌臨。超神光龍サジツ
トヴルム・ノヴァ。煌臨時効果でBP2000以下のスピリット、アルティメットを
破壊する。ナイト・オブ・グラディウスを破壊する。」

総一郎「ライフで受ける。」

総一郎：ライフ4↓2

総一郎「くう！」

蓮華「どうやらユグドラシルの神技は使えないようだな。」

総一郎「それをわかってて…」

蓮華「ああ。お前がナイト・オブ・グラディウスの界放使ってくれたおかげで勝機が見えたんでな。」

総一郎「不覚だ。」

蓮華「俺の予想では防御マジックもないだろ。今の動きからすれば分かりやすい。」

総一郎「う。」

有咲「蓮華の奴、なんて異常な解説だよ。」

蓮華「俺は前に進む。アイツも前に進んでいる。だから俺は止まれないんだ。止まるわけにはいかないんだ!!」

総一郎「!？」

蓮華「ドラゴニック・タウラスX、シユタイン・ボルグXでアタック!!」

総一郎「うああああああ!!」

総一郎：ライフ2↓0

蓮華：
W
I
N

総一郎：
L
O
S
E

第40ターン目 日常の中で：

内海総一郎に勝った俺はバトルテーブルに置かれているユグドラシルを回収する。ユグドラシルは禍々しいかったものがなくなり本来の輝きを取り戻す。

蓮華「香澄は平気か？」

たえ「うん、気絶してるだけ。」

蓮華「ならいい。」

香澄が無事ならよかった。でも、なんでこんなことに。

美咲「で、どうするのこの人？」

美咲が示したこの人とは倒れている内海総一郎だった。まあ、とりあえず病院に送るだろ。香澄は明日1日休んでもらうしかないな。

蓮華「美咲、救急車呼んでおいてくれ。たえ、香澄を頼む。明日1日休ませる。」
りみ「私が親と妹にお話しておきます。」

蓮華「頼む。」

その後、美咲が救急車を呼んでくれたので事情を説明する。

何とか納得してくれたのでそのまま俺と美咲は救急車を見送る。ホピバのメンバーは先に帰ってもらった。香澄を休ませる必要があるしな。

見送った後、美咲は用事があるから帰るらしい。なんでも、花音を拾いに行くらしい。俺はまっすぐ家に帰る。家に帰ると心配そうに明日奈が出迎えてくれた。俺は今回の件は話した。夕食と風呂を済ませて就寝したのだった。たぶん疲れたんだろうな。

次の日の放課後、俺はある病院に行く。その場所は西木野総合病院だ。大した用事ではないが何か情報を得れるかもしれないと立ち寄ったのだ。

英二「そうか、そんなことがあったか。」

蓮華「ああ。とりあえずなんか情報があれば……。」

俺と話しているのは西木野英二。西木野真姫の父親でこの病院の院長でもある。し

かも話している場所は院長室だ。

英二「情報か：強いて言うなら、王の創界神のダメージ実体化なんだがバトルの終わった後に負けた人間に大きな負担を与える状態になっている。」

蓮華「やっぱりか。」

英二「その様子だと予想はしていたんだね。」

蓮華「まあな。」

そうシリアスに話していると西木野先生が急に話題を変える。

英二「それはそうと、いつでもいいから真姫に会ってくれないか？」

蓮華「それはいいが。なんで俺なんだ？」

英二「その方が真姫も喜ぶしな。」

蓮華「高校生だぞ。まずなかなかねーだろ、あのツンデレはよ。喜ぶ奴としたら鳥とオレンジバカしかいないだろ。」

英二「意外に辛いんだね。」

蓮華「そうかな…。」

そう話が弾むのであった。しばらくして俺は話を切り上げ院長室を出て病院から立ち去る。

今のところ紫の王、黄の王、青の王の情報はなし。鎌田さんからも連絡はなしつて感じだな。そう適当に歩いているといつの間にか俺はショッピングモールに来ていた。

俺も花音のこと言えたきりじゃねーな。そんなこと思っているといつものようにカードシヨップによる。適当にシヨウケースをのぞこうと考えていたらシヨウケースの前で話してる女子が2人がいた。どうも学校からそのまま来た感じだ。しかも見たことあるぞ。

たえ「あ、蓮華だ。」

沙綾「ホントだ。蓮華〜。」

どうやらたえと沙綾だった。どうしたんだらうか？

俺はたえと沙綾に呼ばれたので近づく。

蓮華「なんだ、学校帰りに寄ったのか。」

たえ 「ちよつとデツキの調整をね。」

沙綾 「私もそんな感じ。」

蓮華 「そうか。つてもそんなにそんなにしないじることないだろ。」

たえ 「そうなんだよね。」

蓮華 「デツキに個性が欲しいって感じか？」

沙綾 「そうだね。」

蓮華 「なら、コストの高いやつがいたらジャツジメント・ドラゴン・ソード

かな。もしくは幻魔神もいいかもな。」

たえ 「うーん、ジャツジメント・ドラゴン・ソードは無理だけど幻魔神か…。」

蓮華 「まあ、今じゃ一枚しか入れられないカードだしな。」

沙綾 「でも、いいと思うよそれ。」

蓮華 「何なら余ってる幻魔神やろうか？」

たえ 「いいの？」

蓮華 「ああ。家に大量に余ってるしな。」

たえ 「じゃあ、お願いしようかな。」

蓮華 「分かった。今度会ったときに渡すな。」

沙綾 「さて、お目当てのものも手に入れたし、そろそろ帰ろうか。」

たえ「そうだね。」

蓮華「なら、俺も帰るか。」

たえ「途中まで一緒に帰ろつか。」

蓮華「ああ。」

俺たちはショッピングモールのカードショップを立ち去る。ショッピングモールを出て帰り道にを歩く。

蓮華「そういえば、香澄はどうなんだ？」

たえ「大丈夫みたい。りみから連絡来て様子見る限り元気になったって。」

俺はその言葉を聞いてほっとした。大切な奴には元気でいて欲しいからな。

沙綾「でも、王の創界神はまだ3枚あるんですよ。」

蓮華「ああ。」

たえ「結構怖いね。予選大会で当たりたくないもん。」

蓮華「そりゃな。でも、俺からすれば好都合だ。」

沙綾 「王の創界神が手に入るから？」

蓮華 「それもある。でも、それだけじゃない。」

たえ 「それだけじゃないって？」

蓮華 「勘かな…なんかそんな感じがする。」

沙綾 「勘か…なんか蓮華の勘は当たりそう。」

蓮華 「まあ、なんかあつたら助けるさ。なんていうか…失いたくないって言うか…／

／
／

俺は照れ臭そうに言う。そんな2人は俺を見て笑う。

こんな日常が続けばいいのと思う俺は間違ってるのだろうか…そんなわけない。

だから、終わらせなければならぬんだ、すべてを…。

話が弾んでる中、ちようどいいところで沙綾の家に着く。俺とたえは沙綾に別れる。

その後俺は、たえを家まで送って自宅に帰るのであつた。

第41ターン目 赤のお嬢様とホワイトな鳥

蓮華は現在外を散歩していた。明日奈は朝からバイトのため現在には家にはいない。

蓮華「はあ、家でデッキを組んでいいけどたまにはこんなのも悪くないしな。」

そんな感じで散歩していると赤のような髪した女子がいた。

蓮華は足を止めてしまった。

蓮華「？」

？「？」

蓮華「…。」

？「何よ…。」

蓮華「…なんでここにいるんだ、真姫。」

真姫「そんなのことに聞きなさいよ。」

蓮華「はあ？」

蓮華はただ疑問に思った。ただことりと聞いた時、蓮華はあの鳥か…と思った。

蓮華「まあいいや。ことりを待つてるんだろ。とりあえず待つぞ。」

真姫「いいの？」

蓮華「俺は一応、散歩してただけだしな。」

真姫「そう…。」

それから待つて数分。ようやくことりが来たのだ。

ことり「ごめんね、遅くなっちゃって。」

真姫「別に、蓮華がいたから全然平気よ。」

ことり「え、蓮華君！」

蓮華「よう、ことり。」

ことり「久しぶりだね。」

蓮華「ああ。それより珍しい組み合わせだな。」

真姫「そうかしら？」

ことり「いつもじゃないけどたまに真姫ちゃんとカードショップに行くよ。」

蓮華「そうなんだ。」

ことり「そろそろ行こう。」

真姫「そうね。ショッピングモールのカードショップでいいわよね。」

蓮華「いいじゃないか？」

ことり「いいね、行こっか。」

そう言つて蓮華達は移動を始める。ショッピングモールのカードショップに行くことになった。

目的地に着いたの中には入って席に着く。

蓮華「さて、どうするんだ？」

ことり「うーん、デツキの調整かな。」

真姫「そうね、とりあえず一度別れてまたここに集合でいいじゃないかしら。」

蓮華「そうだな、それでいこう。」

蓮華達は目的の品を手に入れるため一度別れた。真姫は必要と思われているパーツを買っていく。ことりはこれでいいかな？って感じだが自分に合った感じのパーツ勝っていく。蓮華はというと…店にあった夏限定のバトスピ袋を買っていくしかも2

袋。

それぞれの買い物を済ませたので集合してそれぞれデッキをいじっていく。

蓮華は買った袋を開封していた。

蓮華「うーん、当たりかな。」

真姫「何がよ？」

蓮華「うん？ああ、夏限定のバトスピ袋が売ってたからどんなものが入ってるか確かめたけどリベリオン3枚セットとかアラマンディー3枚セットとかあるからかなりアドなものだぜ。」

ことり「ねえ、アラマンディーって爪鳥にいるかな？」

蓮華「構築によるがうちの妹は入れたデッキを作ったらしいけどなんて言うか微妙だって言ってたぞ。」

ことり「うーん、イネブ・ヴァルチャーを入れるとしても…。」

蓮華「アルティメットの軸ならファラニクスとか入れたらどうだ？召喚時でコアブーストとライフ4以下で相手の手札を1枚破棄だしな。」

真姫「案外いやな構築ね。」

蓮華「全国行ってるやつは当然のように出してくるしな。」

真姫「ねえ、蓮華。私とバトルして。」

蓮華「え、いいけど。今日持ってきてるの断罪星竜のデッキだぞ。」

真姫「いいの。とりあえず準備して。」

蓮華「分かった。」

蓮華は真姫に言われた通り、コアとデッキを準備する。デッキをシャッフルしデッキ置き場に置く。リザーブとライフも準備して終えたのでデッキからカードを引き手札を準備する。

蓮華「準備いいな。」

真姫「ええ。」

蓮華・真姫「ゲートオープン解放！」

第4 2 ターン目 皇獣対星竜

真姫にバトルを申し込まれた蓮華はその勝負を受けることになった。

蓮華「先行は真姫からでいいぞ。」

真姫「遠慮なくいくわ。スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。2 コストで創界神ゼウスを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：サンダー・Z・コレオン、紅き雷神皇リボル・ティーガ・Z、甲寅獣リボル・コレオン

真姫「対象のカードは3枚、3個コアをチャージ。ターンエンド。」

真姫

ライフ：5

手札：4

フィールド

ネクサス：創界神ゼウス〈3〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ〈2〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト3でヴィオレ魔術―悪魔side―を配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：マグネティックフレイム、滅神星龍ダークヴルム・ノヴァX、ゴッドシーカー超星使徒タルボス

蓮華「対象カードは2枚、コアを2個シャージ。さらにマグネティックフレイムの効果、赤の効果でオープンされた時、トラッシュからこのカードを加える。この効果でトラッシュから手札に加えた時、ボイドから1個を赤の創界神にネクサスに置くが対象不在なためコアが置けない。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：5

フィールド

ネクサス：ヴィオレ魔_ろ—魔族side—^へ2^へリザーブ^へソウルコア、1^へコアトラッシュ^へ2^へ

バーストなし

真姫「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
 インステップ。軽減1、3コストでサンダー・Z・ヒポグリフをレベル1で召喚。創界
 ゼウスのコアチャージ発揮。ターンエンド。」

真姫

ライフ：5 手札：4

フィールド

スピリット：サンダー・Z・ヒポグリフ^へ1^へネクサス：創界神ゼウス^へ4^へ

リザーブへソウルコア

コアトラッシュへ〈3〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト1で創界神アポロンを配置。配置時効果、3枚オープ
ン。」

オープンされたカード：雷皇龍ジークヴルム、超神星龍ジークヴルム・ノヴァX、馬
神弾

蓮華「対象カードは2枚、コアを2個チャージ。さらに俺は軽減2、コスト2でマジツ
ク、ノヴァドローを使用。デッキから2枚ドロー。その後、ヴィオレ魔ゐ―魔族side
e―の1個ボイドに送ることさらに1枚ドロー。そして、軽減2、コスト1でゴッド
シーカー超星使徒ベルディータをレベル1で召喚。ヴィオレ魔ゐ―魔族side―、創
界神アポロンのコアチャージ発揮。召喚時効果、デッキから3枚オープンして、その
中のヴィオレ魔ゐを含む創界神のカードと系統超星を持つコスト4以上のカードを手

札に加える。」

ボウ
オープンされたカード：超星使徒コーデリア、創界神アポローン、騎龍魔弓サジツト

蓮華 「対象は超星使徒コーデリア、残りは破棄。軽減2、コスト1でゴッドシーカー超星使徒タルボスをレベル1で召喚。ヴィオレ魔の一族side、創界神アポローンのコアチャージ発揮。召喚時効果はベルディータと同じデッキから3枚オープン。」

ニング・ソード
オープンされたカード：ノヴァアドロー、太陽神星龍アポロヴルム、輝きの聖剣シヤイ

蓮華 「対象はノヴァアドロー、残りは破棄。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：7

フィールド

スピリット・ゴッドシーカー超星使徒ベルディータへ1、ゴッドシーカー超星使徒タルボスへ1

ネクサス：ヴィオレ魔る―魔族sideへ3、創界神アポロンへ4

リザーブへ0

コアトラッシュへソウルコア、3

バーストなし

真姫「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減2、3コストで蒼き雷神皇ブリッツ・ティーガ・Zをレベル1で召喚。創界神ゼウスのコアチャージ發揮。召喚時効果でBP8000以下のスピリットを1体破壊する。」

蓮華「タルボスの効果で系統超星を持つコスト3以下のスピリットすべてはアタックできない代わりに相手の効果を受けない。」

真姫「面倒な効果ね。アタックステップ、ブリッツ・ティーガ・Zでアタック。アタック時効果、このスピリットのソウルコアをライフに送る、封印。」

蓮華「フラッシュはない。」

真姫「こちらもないわ。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ5↓4

真姫「ターンエンド。」

真姫

ライフ：6（ソウルコア封印中）

手札：4

フィールド

スピリット：サンダー・Z・ヒポグリフ（1）、蒼き雷神皇ブリッツ・ティーガ・Z（1）
（疲労中）

ネクサス：創界神ゼウス（5）

リザーブ（0）

コアトラッシュ（3）

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ

インスタテップ。ゴッドシーカー超星使徒ベルデイータをレベル1で召喚。ヴィオレ魔
 ゐー魔族 *side*、創界神アポロンのコアチャージ発揮。軽減2、コスト2でノ
 ヴァドローを使用。デッキから2枚ドロウする。さらにヴィオレ魔わー魔族 *side*
 ーのコア1個をボイドに送ってさらに1枚ドロウ。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：4 手札：9

フィールド

スピリット：ゴッドシーカー超星使徒ベルデイータx2へ1、ゴッドシーカー超星使
 徒タルボスへ1

ネクサス：ヴィオレ魔わー魔族 *side*へ4、創界神アポロンへ5

リザーブへソウルコア、1

コアトラッシュへ3

バーストなし

真姫「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
 インステップ。軽減3、3コストで皇獣王Zをレベル1で召喚。創界神ゼウスのコア

チャージ発揮。アタックステップ開始時、皇獣王Zの効果でフラッシュのソウルコア以外のコアをすべてこのスピリット置く。その後、手札の系統皇獣を持つスピリット、ブレイヴカードを1枚を召喚することができる。けど、召喚はしないわ。アタックステップ、皇獣王Zでアタック。アタック時効果でこのスピリットのBP以下の相手のスピリット、アルティメットを3体破壊するけどタルボスの効果で効かないため対象不在。さらに次の相手のエンドステップまで、相手は5、7、9のスピリットカードを召喚できない。」

蓮華「げえ、召喚ロツクか。フラッシュはなし。」

真姫「こちらもないわ。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ4↓3

真姫「ターンエンド。」

真姫

ライフ：6（ソウルコア封印中）

手札：4

フィールド

スピリット：サンダー・Z・ヒポグリフ〈1〉、蒼き雷神皇ブリッツ・テীগ・Z〈1〉、
皇獣王Z〈4〉（疲労中）

ネクサス：創界神ゼウス〈5〉

リザーブ〈0〉

コアトラッシュ〈0〉

バーストなし

蓮華「フフフ。」

蓮華は少し笑った。

真姫「何が可笑しいの。」

蓮華「勝利の可能性が出てきたんでな。」

真姫「まさか、ここからライフ6を砕く気？」

蓮華「1ターンじゃ無理だが…2ターンあれば充分。」

真姫「2ターン？」

ことり「真姫ちゃん！」

真姫「まさか！」

蓮華「そのまさかだ。スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。フル軽減、コスト4で断罪の滅龍ジャッジメント・ドラゴニスをレベル3で召喚。不足コアはタルボスから。アタックステップ、ジャッジメント・ドラゴニスでアタック。レベル3のアタック時効果ゲーム中に1回しか使えない効果だ。このターン終了後、自分のターンをもう1度行う。」

真姫「ノヴァアドローで引いていたとは……。フラッシュタイミング、ゼウスの神技発揮。コアを3個ボイドに送り、シンボル1つのスピリット、アルティメットを破壊する。対象はベルディータを破壊。」

蓮華「さらに激突だ！」

真姫「ヒポグリフでブロック。」

蓮華「フラッシュタイミング、ヴィオレ魔る―魔族side―の神技発揮。コアを2個ボイドに送り、相手のスピリット、アルティメットのコアを1個をトラッシュにする。」

真姫「く！ライフで受ける。」

真姫：ライフ6↓5（ソウルコア封印中）

蓮華「ターンエンド、エクストラターン。スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。フル軽減、コスト3で超星使徒コリアをレベル1で召喚。ヴィオレ魔ゐ―魔族side―、創界神アポロンのコアチャージ発揮。軽減5、コスト3で滅神星龍ダークヴルム・ノヴァXをレベル2で召喚。召喚コストはジャツジメント・ドラゴニスから使用。ヴィオレ魔ゐ―魔族side―、創界神アポロンのコアチャージ発揮。ダークヴルム・ノヴァXのフラッシュ効果を使用、滅界放。」

真姫「え、このタイミングでもつかえるの？」

蓮華「ああ。疲労状態のスピリット1体を破壊する。皇獣王乙を破壊。さらに赤、紫創界神からコアを2個このスピリットに置くことで創界神のブレイヴ、スピリットのブレイヴを破壊する。だが、対象不在のためコアを置くだけと無色の扱いになるだけだ。アポロンのコアを2個をダークヴルム・ノヴァXに置く。」

蓮華「ダークヴルム・ノヴァXのコア1個をコーデリアに置くことでレベル2にアツ

プ。アタックスステップ開始時、コーディネリアの効果でトラッシュのソウルコア以外のコアを置く。この効果で4個以上置いたとき、自分の手札にある系統超星を持つスピリットカードを1枚、ソウルコアをトラッシュに置いたものとして、このスピリットに煌臨する。今、可能性の翼が満ちた。超星星籠ジークヴルム・ノヴァX！超星使徒コーディネリアに煌臨。ヴィオレ魔る―魔族side、創界神アポロンのコアチャージ発揮。」

真姫「何そのセリフ…。」

蓮華「え、召喚時のセリフだよ。」

真姫「それって全国でやったの？」

蓮華「一応やったよ。全国の連中はよく言ってるしな。」

真姫「…。」

ことり「真姫ちゃん…。」

蓮華「煌臨時効果で系統超星を持つスピリットに煌臨したことによりライフを5まで回復する。」

蓮華：ライフ3↓5

蓮華「アタックスステップ、ジークヴルム・ノヴァXでアタック。アタック時効果でB

P合計15000まで相手のスピリットを破壊できるが対象は不在。さらに、自分の赤、紫の創界神のコアを4個をこのスピリットに置くことで相手のライフを2個ボイドに送る。」

真姫：5↓3（ソウルコア封印中）

真姫「フラッシュはないわ。ライフで受ける。」

真姫：ライフ3↓1

蓮華「ダークヴルム・ノヴァXでアタック。」

真姫「マグネティックフレイルムを使用しても…。」

蓮華「ああ。ダークヴルム・ノヴァXの効果でノヴァXと含む自分のスピリットは相手の効果を受けない。」

真姫「負けたわ…ライフで受けわ。」

真姫：ライフ1↓0（ソウルコア封印解除）

蓮華：
W
I
N

真姫：
L
O
S
E

第43ターン目 予選に向けて

蓮華は真姫との戦いに勝利する。

真姫「はあ、負けたわ。」

蓮華「悪いな、簡単には負ける気はねーんだ。」

ことり「でも、凄いね。ノヴァドロでジャツジメント・ドラゴニスを引き込んだね。」

蓮華「まあな。まだ1枚しか入れてないから引けるか心配だったしな。」

真姫「でもなんでジャツジメント・ドラゴニスなの？」

蓮華「ジークヴルム・ノヴァXってコスト8だからさ、ジャツジメント・ドラゴン・ソードはブレイヴできないんだ。あれはコスト9以上からじゃないとブレイヴできないんだ。」

真姫「だから、ジャツジメント・ドラゴニスなのね。」

蓮華「ああ。まだ試していないけど、リバイバルノヴァを使った断罪星竜デッキはまだ調整中だしな。ましてや転召ノヴァのデッキもそうだけ……。」

ことり「え、転召ってあの転召？」

蓮華 「ああ。転召はそれしかないだろ。」

真姫 「転召ってまだ使ってたの？」

蓮華 「ああ。楽しいぞ、転召。」

蓮華は漫勉な笑顔で言う。

真姫 「楽しいって…。」

蓮華 「悪いけど転召で武装と死竜に勝ってるからね。」

ことり 「え、武装と死竜に勝ったの？」

蓮華 「ああ。超星交じりだけどね。」

真姫 「でも、よく勝ってたわね。結構苦戦するレベルなのに。」

蓮華 「そんなのプレイングでカバーするさ。」

真姫 「なんかムカつくわね。」

蓮華 「まあ、そうムカつくなよ。予選に行けばわかるさ。」

真姫 「私ももう少し調整しないとね。」

ことり 「私も何とか調整しないと…。」

蓮華 「ことりの場合はそこまでいじる必要がないんだよな。」

ことり「そうなの？」

蓮華「現状ことりはアルティメットの軸だから下手に構うと動きが遅くなる可能性があるから構うとすると最低限のほうがいい。」

真姫「まあ、そうね。うちのチームで機動力あるのことでしょ。」

蓮華「なんだよ、真姫のチームはそんなに機動力ないの？」

真姫「ないわけじゃないけど、ただ、火力だけが…。」

蓮華「なんだそのチーム。」

ことり「使ってるデツキが悪いだけで穂乃果ちゃん達が悪いわけじゃないよ。」

蓮華「まあ、そうだな。」

ことり「蓮華君は予選どうするのデツキ？」

蓮華「うーん、光導と星竜…あとどうしような…。」

真姫「待って、デツキって1つしか使えないでしょ。」

蓮華「最高でデツキ3つ使えるんだ。別に1つでもいいけど…。」

真姫「まあ、私は皇獣で充分だしね。」

ことり「私も爪鳥で充分かな。」

蓮華「いいと思うよ。」

そう言っているとことりが急に言い出す。

ことり「ねえ、蓮華君。」

蓮華「何？」

ことり「蓮華君の家行っていい？」

蓮華「え、いいけど…家に許嫁がいるかもしれないぞ。」

ことり「それでもいいよ。」

ことりは笑顔でそう言う。蓮華は断ろうにも断れなかった。

蓮華は真姫にも聞いたが「せっかくだから私も行くわ。」と言ったので蓮華は観念した。

次の目的地が蓮華の家になったが果たしてどうなるやら…

第44ターン目　なんだ…これ…

カードショップから出て昼食を終えたので目的地の蓮華の家に行くことになった。

ことりと真姫を連れて家に入るとリビングの方には声がする。だが、1人は分かるが…なぜかもう1人の声が聞こえた。リビングに入ると…

麻弥「あ、蓮華さん。お邪魔してます。」

何故か麻弥がいた。

蓮華「何故にいる？」

そしたら台所から明日奈が飲み物を持ってきていた。

理由を聞いたところ、バイト帰りに麻弥と遭遇してせっかくだから家にながらせるのであった。

蓮華「なら連絡すればいいのに。」

明日奈「蓮華君のことだからあんまり電話でないでしょ。」

蓮華「出るわ！」

そう言いあつてるところとことりと真姫が立ったままポカーンとしていたので蓮華の紹介でとりあえず自己紹介を終えるのであつた。

蓮華は台所から追加の飲み物を持ってきてことりと真姫に渡して座らせた。

蓮華「しかし麻弥よ、仕事帰りだったのか？」

麻弥「そうなんつすよ。そしたら明日奈さんに会つて…。」

蓮華「成程な、理解したわ。」

ことり「でもびっくりだね。」

蓮華「ああ？」

ことり「こんなに綺麗な人が許嫁なんて。」

真姫「そうね。」

明日奈「そ、そんなことないよ／＼／」

どうやら明日奈は褒められて照れてるらしい。

明日奈「そ、それよりも蓮華君。」

蓮華「ああ？」

明日奈「よく思ってたけど女の子の知り合い多くない？」

蓮華「……え？」

蓮華はあまり意識していなかった。

ことり「そうなの？」

蓮華「え？えーつとそこに関しては全く……。」

真姫「たらしね。」

蓮華「待てや、お前俺が女たらしだと思ってるのかよ。」

蓮華以外「うん。」

その場にいる明日奈、麻弥、ことり、真姫が頷くのであった。

蓮華 「イミワカラナイ。」

真姫 「それ私のマネでしょ！」

蓮華 「知るか！」

完全に蓮華をいじる会であった。

蓮華 「それより麻弥。お前、デッキの調整はいいの？」

麻弥 「一応調整はしたつすよ。千聖さんとかと戦って調整してますから。」

蓮華 「ならいいが。とりあえず万が一には備えとけよ。武装なんて簡単に抜かれんと思いが意外と全国予選は抜いてくるしな。」

麻弥 「そうなんつすよね…。」

真姫 「そんなに凄いわけ？」

蓮華 「ああ。全国予選は確実に甲竜や皇獣とかが出てくる。俺が知ってる限り面倒な連中ばかりだ。」

ことり 「そうなんだ。」

蓮華 「だから相性の問題になってくる。下手な構築してバトルしても一方的になるだけだ。」

明日奈「でも、蓮華君も人のこと言えないわね。」

蓮華「：そうだな。つといても転召なんて予選では使わないよ。」

明日奈「当たり前でしょ。2連覇がかかっているんだから。」

ことり「そっか、蓮華君は1度全国制覇してるんだね。」

蓮華「だから、どんな動きするか大体わかるんだ。でもよ、今の環境とはあんまり戦いたくないしな。」

真姫「なんでよ？」

蓮華「当たり前だろ。今の環境は妖怪や甲竜とかだぞ。簡単に打点を増やされて殴ってくるんだぞ。」

真姫「まあ、そうね。確かに戦いたくないわね。」

そう話しているともう夕方になっていた。真姫とことり、麻弥に「夕飯食って行けよ。」と蓮華は言う。

3人は了承をしたのだが：

蓮華は立ち上がり：「さて、飯でも作るか：。」と言うと。

4人から「え？」と言われる。

蓮華「なんだよ？」

明日奈「蓮華君って料理できるだね。」

蓮華「できるけど…なんだ？」

ことり「なんていうか…。」

真姫「意外っていうか…。」

麻弥「あまりにも珍しいって感じっすね。」

蓮華「ぜってえバカにしてるだろ！」

納得のいかない蓮華であった。

第45ターン目 新弾環境

納得のいかない中、夕食を作って連中に食べてもらった結果、好評であった。

その後は、麻弥の家が近いというので走って帰っていった。真姫、ことりは真姫のお迎えによって帰ることになった。

そして、翌日。

蓮華は注文していた超煌臨編第4章神攻勢力（エマージング・デーサイド）届いたので明日奈と開封することになった：が、どうやって知ったのか：たえと千聖が来ていた。蓮華は珍しい組み合わせだと思った。

そんなわけで4人でボックスを開けることになった。ボックスの個数は9である。

蓮華「さて、ボックスを開けるか。」

明日奈「そうだね。今回は遊精と武竜と機巧とかが強化されたんだよね。」

蓮華「ああ。さらに言うなら今回の遊精はかなり強い。」

たえ「どこが強いのか？」

蓮華「転神ビートしやすいのとガーヤトリ・フォックスが強い。」

千聖「私も情報調べたけど相当いかれたカードよね。」

蓮華「まあな。さて開封してから考えようか。」

そんなことで蓮華踏まえる4人でボックスを開けることになった。
その結果…。

蓮華「…。」

明日奈「…。」

たえ「…。」

千聖「…。」

蓮華「出が良過ぎる。」

明日奈「そうなの？」

蓮華「ああ。セフィロ・アリエスXは買取が上がってるしな。それに創世の槍&創世の盾は強いカードだしな。」

たえ「じゃあ、整理しようか。」

蓮華「そうだな。」

蓮華達はカードの整理し蓮華はそこからデッキを組んでみた。

蓮華「形として組めたのはサラスヴァテイとアマテラス。ディオニユソスはまだ組めそうにないな。」

明日奈「見事に凄い偏りだもんね。」

蓮華「いい偏りなんだけど。」

千聖「でえ、どうする？」

蓮華「型としては組んだもんで実戦はしたいな。どんな動きするかあるしな。」

たえ「たしかに新環境になった以上、予選でいるかもしれないしね。」

千聖「じゃあ、どうする？」

蓮華「実戦してみてもそこからデッキをいじってみる感じだな。」

明日奈「うーんそうだね。じゃあ、やりましょうか。」

蓮華「待った。ただやんのはつまらないしな。」

たえ「じゃあ、タッグマッチでやるの？」

蓮華「ああ。コアとライフは共有なしだけだな。」

千聖「でも、今回はタッグなしにしない？」

蓮華「やっぱ、そうだよな。分かった。コア取ってくる。」

蓮華はリビングを出て自分の部屋からコアを取りに行った。

数分後、蓮華は戻ってきたのでそれぞれデッキの準備をする。

蓮華「さて、誰からやる？」

千聖「蓮華と私でやりましょう。」

たえ「いいと思うよ。」

蓮華「じゃあやるか。」

蓮華と千聖はデッキをシャッフルしてデッキ置き場にライフとりザーブの準備する。

蓮華「いつでももいいぞ。」

千聖「始めるわよ。」

蓮華・千聖「ゲートオープン解放。」

第46ターン目 転神ビートは伊達じゃない

蓮華は今回新環境のカードを使ってみることにした。

千聖はその対戦相手となり、たとえ明日奈は対戦を見ることになる。

蓮華「先行は千聖からでいいぞ。」

千聖「遠慮なくいくわ。スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神イシスを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：エジツトの天使アセティエル、エジツトの天使ネチエリエル、
「学園の熾天使」ラムディエル

千聖「対象のカードは2枚、コアを2個チャージし、さらに軽減1、コスト1で明の明星のエリスを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：明の明星のエリス、エジツトの天使シャマエルx2

千聖 「対象のカードは2枚、コアを2個チャージしてターンエンド。

千聖

ライフ：5 手札：3

フィールド

ネクサス：創界神イシスへ2、明の明星のエリスへ2

リザーブへソウルコア

コアトラツシユへ4

バーストなし

蓮華 「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神サラスヴァティを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：八分音獣ノーツエレファント、斬騎士ラグマンティス、ト音獣ラングルクレフ

蓮華「対象のカードは3枚、コアを3個チャージ、さらに軽減1、コスト1で創界神ブラフマーを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：休音獣ピックレスト、創界神サラスヴァティ、神聖天獣ガーヤトリ・フォックス

蓮華「対象のカードは2枚、コアを2個チャージ。そして、軽減2、コスト2で大神剣アラマンディーをサラスヴァティにダイレクトブレイヴ。創界神サラスヴァティ、ブラフマーのコアチャージ発揮。アタックステップ開始時、コスト2払ってサラスヴァティを転神(グランフォーゼ)。アタックステップ、サラスヴァティでアタック。アラマンディーのアタック時効果でBP1000以下のスピリット、アルティメットを破壊するが対象不在、1枚デッキからドロー。」

千聖「フラッシュはない、ライフで受ける。」

千聖：ライフ5↓3

蓮華「ターンエンド。」

蓮華

ライフ5 手札：3

フィールド

ネクサス：創界神サラスヴァティ（大神剣アラマンディーブレイヴ中）〈2〉、創界神

ブラフマー〈3〉

リザーブ〈0〉

コアトラツシユ〈ソウルコア、4〉

バーストなし

千聖「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシユステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト1でエジツトの天使リナエルをレベル3で召喚。イシス
とエリスのコアチャージ発揮。ターンエンド。」

千聖

ライフ：3 手札：3

フィールド

アルティメット：エジツトの天使リナエル

ネクサス：創界神イシスへ3、明の明星のエリスへ3

リザーブへソウルコア、3

コアトラツシュへ1

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシユステップ、メ
インステップ。軽減3、コスト2でト音獣ジークレフキヤットをレベル1で召喚。サラ
スヴァティ、ブラフマーのコアチャージ発揮。ジークレフキヤットの効果、このスピ
リットを疲労させ、このスピリットにボイドから2個コアを置き、自分のデッキから8
枚オープンする。その中の緑の創界神すべてと、カード名：神聖天獣ガーヤトリー・
フォックス1枚を手札に加える。残ったカードは除外する。しかも、この効果はゲーム
中1回しか使えない。」

オープンされたカード：創界神ブラフマー、大神剣アラマンディー、ゴツドシーカー
休音獣チンチラストx2、神楽器サヴィトリ・ヴィーナ、ト音獣ラングールクレフ、サ
ラスヴァティの音楽神殿、斬騎士ラグマンティス

蓮華「対象は創界神ブラフマー、手札に加える。残りは除外。軽減1、コスト1で2枚目の創界神ブラフマーを配置。さらに軽減3、コスト3で神聖天獣ガーヤトリリー・フォックスをレベル1で召喚。不足コストはジークレフキャットから確保。サラスヴァティとブラフマーのコアチャージ発揮。召喚時効果、ボイドから2個ずつ系統インディータを持つ創界神ネクサス3つに置く。そして、界放。1枚目のブラフマーからコア1個を置き相手はこのターンの間、相手は、バースト効果を發揮できない。」

千聖「バーストないから関係ないけどね。」

蓮華「まあな。さらにアラマンディーをガーヤトリリー・フォックスにブレイヴ。アタックステップ開始時サラスヴァティと2体のブラフマーの転神。アタックステップ、ガーヤトリリー・フォックスでアタック。アタック時アラマンディーの効果でBP1000以下のスピリット、アルティメットを破壊。リナエルを破壊しデッキから1枚ドロ。」

千聖「リナエルの効果で相手の効果で破壊されたので手札に戻るわ。さらに、この効果でアルティメットが手札に戻ったらボイドから1個ライフを回復するわ。」

千聖：ライフ3↓4

蓮華「さらに、ガーヤトリー・フォックスのレベル2、3効果でボイドから1個ずつを系統遊精を持つスピリット1体と系統インディータを持つ自分の創界神ネクサス1つに置く。ガーヤトリー・フォックスと2体目のブラフマーにコアを置く。」

千聖「フラッシュタイミング、創界神イシスのコアを3個ボイドに送り、ライフを1回復する。」

千聖：ライフ4↓5

蓮華「こっちはフラッシュユはない。」

千聖「こちらもないわ。ライフで受ける。」

千聖：ライフ5↓3

蓮華「さらにサラスヴァティの神域発揮。バトル終了時、コアを3個ボイドに置くことで、このネクサスカ系統遊精を持つスピリットを回復させる。ガーヤトリー・フォックスを回復させる。」

千聖「嘘……！」

蓮華 「再びガーヤトリー・フォックスでアタック。アラマンディーの効果で破壊対象がないためデッキから1枚デッキからドロ。さらにガーヤトリー・フォックスのレベル2、3の効果でガーヤトリー・フォックスと2体目のブラフマーにコアを1個ずつ置く。」

千聖 「フラッシュしないわ、ライフで受ける。」

千聖：ライフ3↓1

蓮華 「サラスヴァテイでアタック。」

千聖 「フラッシュしないわよ…ライフで受ける。」

千聖：ライフ1↓0

蓮華：WIN 千聖：LOSE

第47ターン目　だからやめられない

勝負に勝った蓮華。まさかの後攻2ターンキルであった。

蓮華「強いなサラスヴァティは…。」

千聖「強すぎるわよ!」

明日奈「見てて思うけどブラフマー回収とサラスヴァティさえ回収できるカードって完全に甲竜みたいだね。」

たえ「動きとしては甲竜を超えた感じなのかな?」

蓮華「分からない。もしかすると超えられるかもしれないね。」

千聖「そういえば今回の12宮はそろったんだよね?」

蓮華「ああ。」

たえ「だとしたら蓮華はもう作ったの新しい光導デツキ?」

蓮華「今日開けたばかりだから組み換えはまだだな。」

明日奈「じゃあ組み換えたら?」

蓮華「うん…いや…なんていうか…。」

蓮華は少し考えていた確かに12宮がそろった。だが、それをどう駆使して戦うか迷っている。

明日奈「なんか、難しい感じ？」

蓮華「うん。難しいというかどうかどう組み換えるか考えるとちよつと時間がかかるな。」

千聖「今の時間じゃ足りない感じかな？」

蓮華「ああ、どれも強いからな。普通なら使うカードを絞るけど今回は欲張ろうかと思う。」

たえ「もしかして12宮全部入れたデッキにするの？」

蓮華「いやそれだけじゃない。やるからにはもつとだ。超星も多少入れようかと思う。」

明日奈「それって結構重いと思うよ。」

蓮華「確かにな。でも、光導がメインだから超星はほんのわずか入れる感じ。」

千聖「それなら動きとしてはいけるわね。」

たえ「じゃあ、型としては決まったんだね。」

蓮華「デッキ事故は起きないようにしないと…。(ボソ)」

明日奈、たえ、千聖「え？」

蓮華「何でもない。」

そんなことから時間が過ぎていった。

千聖とたえは帰って夕飯と風呂を済ませ現在はデッキの再調整をしていた蓮華。

明日奈は先に部屋で就寝している。

机には12宮Xレアを並べてどんな風に組むか考えていた。

蓮華「このXシリーズのカードを見ているとやっぱり何かが違うな。昔の光導だったらもつと大変だったのに……。」

そう言つて蓮華は超神光龍サジツトヴルム・ノヴァをデッキから取り出して12宮を丸く並べて丸の真ん中にサジツトヴルム・ノヴァを置く。

蓮華「サジツトヴルム・ノヴァ……お前とはバトスピ始める前からの付き合いだったな。」

蓮華はバトスピを始めるきっかけとなったカードサジツトヴルム・ノヴァ。

このカードが蓮華のすべてを映して見えた。

蓮華「これからもよろしくな。」

蓮華はそういつて12宮とサジツトヴルム・ノヴァをしまつて部屋に戻つて就寝するのであつた。

そして、次の日。いつものように学校に行き学校終了後、バイトでCIRCLEで仕事している。そうしていると学校帰りか美咲が1人でやつてきた。

蓮華「珍しいな。」

美咲「そうでもないよ。」

蓮華「ところでどうしたんだ？」

美咲「…あたしとバトルしてください。」

蓮華「理由は…いや聞くまでもないか…分かつた。」

蓮華と美咲はデッキを取り出しバトルテーブルに着きデッキをシャッフルしライフ、

リザーブのコアを準備する。手札まで準備できたのでいつでもバトルできる状態になった。

美咲 「本気でバトルしてもらおうよ。」

蓮華 「ああ、いいぜ。」

蓮華・美咲 「ゲートオープン解放！」

第48ターン目 弱者の恐怖と強者の恐怖

蓮華は美咲に勝負を申し込まれたことによりバトルすることになった。

蓮華「先行は俺から行くよ。スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神ダンを対置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：魔導双神ジエミナイズX、天星12宮炎星竜サジタリウス・ドラゴン、天星12宮光星姫ヴァージニア

蓮華「対象のカードは3枚、コアを3個チャージ。さらに創界神ダンの効果でコアチャージでトラシユに送られた系統光導を手札に加える。そして、軽減1、コスト1で光導創神アポロンを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：天星12宮氷星獣レオザード、天星12宮樹星獣セフィロ・シープ、光星神ゾディアック・レムリア

蓮華 「対象のカードは3枚、コアを3個チャージ。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：6

フィールド

ネクサス：創界神ダン〈3〉、光導創神アポローン〈3〉

リザーブ〈ソウルコア〉

コアトラッシュ〈3〉

バーストなし

美咲 「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2でペンタン大好きラクエルをレベル1で召喚。」

蓮華 「ペンタン!?!」

美咲 「召喚時効果、手札にあるペンタンを含むコスト4以下のスピリット、ブレイヴカードを1枚を、コストを支払わずに召喚できる。あたしは手札からペンタン魔神を召喚。ターンエンド。」

美咲

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：ペンタン大好きラクエルへ1

ブレイヴ：ペンタン魔神へ0

リザーブへソウルコア、1

コアトラッシュへ2

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
 インステップ。軽減1、コスト2で天星12宮光星姫ヴァージニアをレベル1で召喚。
 創界神ダン、光導創神アポロンのコアチャージ発揮。召喚時効果、デッキから3枚
 オープンできる。その中の創界神ダンとヴァージニア以外の系統光導カードを手札に
 加える。残りのカードはデッキ上か下に戻す。3枚オープン。」

オープンされたカード：クロースドジェミニ、天星12宮氷星獣レオザード、天星1
 2宮樹星獣セフィロ・シープ

蓮華「対象はクローズドジェミニ。残りはデッキ下に送る。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：7

フィールド

スピリット：天星12宮光星姫ヴァージニアへ1

ネクサス：創界神ダンへ4、光導創神アポローンへ4

リザーブへソウルコア、1

コアトラッシュへ2

バーストなし

美咲「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。バーストをセット。軽減2、コスト3で女帝ペンプレスレベル2で召喚。そして、ペンタン魔神をペンプレスに右ブレイヴ。」

蓮華「(面倒になった。ペンプレスがレベル2、3になったら、効果でペンタン含むカードがすべてコスト3になる。)」

美咲「アタックステップ前の効果でペンプレスの効果でペンタン含むスピリットの

数、BP—1000。数は自分踏まえて1ためBP—1000する。アタックステツプ、ペンプレスでアタック。アタック時効果でヴァージニアのBPを—5000して0になったら破壊。さらにペントンを含むカードとブレイヴしているとレベル2、3からブロックされない。」

蓮華「フラッシュはない、ライフで受ける。」

蓮華：5↓3

美咲「ターンエンド。」

美咲

ライフ：5 手札：2

フィールド

スピリット：ペントン大好きラクエルへ1、女帝ペンプレスへソウルコア、1（ペントン魔神右ブレイヴ中（疲労中））

リザーブへソウルコア、1

コアトラッシュへ2

バーストあり

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。コスト5でマジック、ゾディアックコンダクターを使用。デッキから4枚オープンその中の系統光導持つスピリットカードを、コストを支払わずに召喚できる。残ったカードは破棄する。」

オープンされたカード：戦神乙女ヴェルジュX、スコープオンパイル、天星12宮
魔星人シユタイン・ゴイル、天蠍機動スコルビウム

蓮華「召喚するのはヴェルジュX、レベル2で召喚。残ったカードは破棄。創界神
ダン、光導創神アポロンのコアチャージ発揮。」

美咲「アタックステップ前の効果でペンプレスの効果でペンタン含むスピリットの
数、BP11000。数は自分踏まえて1ためBP11000する。」

蓮華「アタックステップ、ヴェルジュXでアタック。」

美咲「フラッシュはない。」

蓮華「フラッシュタイミング、光導創神アポロンの神技発揮。コアを3個をボイド

に送りBP8000以下のスピリット、アルティメットを破壊する。ペンプレスを破壊してデッキから1枚ドロー。」

美咲「ライフで受ける。」

美咲：ライフ5↓4

美咲「ライフ減少後バースト発動。」

蓮華「発動前にコスト1払って超星使徒スピッツアードラゴンをレベル1で召喚。コストはヴィエルジュXから使用。スピッツアードラゴンを召喚したことによりバーストを破棄する。その後、ボイドからこのスピリットか自分の創界神に置く。俺はスピッツアードラゴンに置く。」

美咲「光導と超星のハイブリッド…!」

蓮華「ターンエンド。」

蓮華

ライフ：3 手札：8

フィールド

スピリット：戦神乙女ヴェイエルジュX（疲労中）へ1、超星使徒スピッツアードラゴンへソウルコア、2

リザーブへソウルコア

コアトラッシュへ5

バーストなし

美咲「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減2、コスト3で女帝ペンプレスをレベル1で召喚。さらにペンタン魔神を右ブレイヴ。アタックステップ前の効果でペンプレスの効果でペンタン含むスピリットの数、BP1000。数は自分踏まえて1ためBP1000する。アタックステップ、ペンプレスでアタック」

蓮華「フラッシュはない、ライフで受ける。」

蓮華：ライフ3→1

美咲「ターンエンド。」

美咲

ライフ：5 手札：2

フィールド

スピリット：ペンタン大好きラクエルへ1、女帝ペンプレスへソウルコア、1（ペンタン魔神右ブレイヴ中（疲労中））

リザーブへソウルコア、2

コアトラッシュへ3

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減1、コスト6で超星使徒コーデリアをレベル2で召喚。召喚時は使わない。」

美咲「あー：トラッシュに超星がないんだね。」

蓮華「まあな。アタックスステップ開始時、トラッシュのソウルコア以外のコアをコーデリアに好きなだけ置く。この効果で4個以上置いたとき、自分の手札にある系統超星を持つスピリットカードをソウルコアをトラッシュに置いたものとして煌臨できる。超星使徒コーデリアを超星星龍ジークヴルム・ノヴァXに煌臨。光導創神アポロンの

コアチャージ發揮。降臨時効果で系統超星に煌臨したことによりライフを5まで回復する。」

美咲「アタックスステップ前の効果でペンプレスの効果でペンタン含むスピリットの数、BP—1000。数は自分踏まえて1ためBP—1000する。」

蓮華「超神星龍ジークヴルム・ノヴァXでアタック。超界放、BP合計が15000まで破壊する。ペンプレスとラクエルを破壊。そして、赤、紫の創界神のコアを4個をジークヴルム・ノヴァXに置くことで相手のライフを2個ボイドに送る。創界神ダンからコアを4個をジークヴルム・ノヴァXに置く。」

美咲：ライフ4↓2

美咲「……フラッシュないわ、ライフで受ける。」

美咲：ライフ2↓0

蓮華：WIN

美咲：LOSE

第49ターン目 異界の創界神

美咲とのバトルに勝った蓮華。だが、なんかしらとあつけなかつた感があつたようであつた蓮華は少し疑問に思つていた。

蓮華「どうしたんだ美咲？」

美咲「……。」

蓮華「気になることかあつたのか？」

美咲「蓮華はもし王の創界神をすべて集め終わつたらどうするの……？」

美咲は俯きながら言う。

蓮華「そうだな。わかんないな……もしかすると封印する必要があるしな。アのカードは今のバトスピの世界にあつてはならないカード。その代償がどんなものか知らないしな。」

美咲「それが命賭けでも？」

蓮華「ああ。命賭けでもやんねーと世の中危ないしな。」

美咲「それが異界の創界神だとしてもやるの!？」

蓮華「!？」

唐突の大声にびつくりするが蓮華は驚いているのは大声ではなく異界の創界神という言葉だった。

蓮華「異界の創界神？」

美咲「王の創界神は元は異界のものでこの世には存在しなかった創界神。しかしその他にも王の創界神以外にも異界の創界神が存在してる。セラフの創界神…。」

蓮華「セラフ? セラフって神のともに在る4大天使のことか?」

蓮華の言葉に美咲は頷く。

蓮華「でも、そんなことどうやって知ったんだ?」

美咲「ここから知ったんだ。」

蓮華「なら納得するな。鶴巻家って相当凄いからな。」

美咲「あたしや他のメンバーが知ったとき驚いたんだ。」

蓮華「王の他にセラフか……。つまり、異界の創界神同士の戦争ってことになるな。」

美咲「他にも存在するけど今確認取れているのが王とセラフだけ。」

蓮華「問題がまた増えたな。こうなると予選大会が大変なことになるな。」

美咲「それでも蓮華は止めるの戦争を？」

蓮華「止めるさ。止めないといけないんだ。異界の創界神、もうただことじゃないんだ。」

美咲「……。」

蓮華「美咲……。」

美咲「蓮華は分かかってない……。」

蓮華「え。」

美咲「あたしやみんなは蓮華のことが好きだから蓮華は危険に合わせたくないって言うてるの!!」

蓮華はこの瞬間、頭が真っ白になった。

美咲はコアとデッキをしまつてそのまま店を出ていった。たった一枚のカードを残して。

蓮華「……。あれ？」

蓮華はバトルテーブルの上に一枚のカードが置いてあるのが分かった。おそらく美咲のだろう。

蓮華「超皇帝ジークペンタン・ノヴァ。美咲のカードだ。」

蓮華はデッキとコアをしまい。時間までバイトをするのであった。

残された超皇帝ジークペンタン・ノヴァのカードは蓮華が美咲に届けるべくここに連絡をして家の場所を教えてもらい次の日そこへ向かった。

美咲の家と思われる一軒家に着いたので蓮華はインターホンを鳴らすと玄関から人が出てきた。

？「はい。え、蓮華？」

蓮華「美咲……」

まさかのタイミングであった。

第50ターン目 戦う理由

そんなことから美咲の家に上がりリビングで座って話すことになった蓮華。

美咲「それで何の用なの？」

蓮華「これ置いてつたろ。」

蓮華はデツキケースから超皇帝ジークペンタン・ノヴァを取り出して美咲に渡す。

美咲「あ、これ…ありがとう…。」

蓮華「どういたしまして。」

美咲「よく家の場所分かったね。」

蓮華「大したことじゃない。花音が教えてくれた。」

美咲「そうなんだ。」

蓮華「そう言えば、親御さんはいないんだね。」

美咲「今、出かけてるんだ。」

蓮華「そうなんだ。今じゃ子供のバトスピするのも当たり前なぐらいだしな。」

美咲「それは蓮華のせいだと思う。」

蓮華「そうかな。」

美咲「2年前ぐらいに全国優勝して凄いと思う。」

蓮華「そんなことない。俺にはライバルがいるんだ。」

美咲「杉田さんじゃなくて？」

蓮華「ああ、小湊權斗（こみなと かいと）って言うんだ。2年前は出場しなかったけ

ど今回は出場するらしくてな。」

美咲「そうなんだね。」

そう話していると「ただいまー！」っと元気な声が聞こえた。

美咲「お母さんと妹が帰ってきたんだ。」

そして、荷物を持ってリビングにやってきたには美咲の母だったと美咲の妹であった。

蓮華「えっと、お邪魔してます。」

？「ええ、大丈夫よ。私は美咲の母の奥沢美幸（おくざわみゆき）よ。そして、隣にいるのが美咲の妹の皐月（さつき）よ。」

皐月「よろしくお願いいたします。お兄ちゃん。」

蓮華「六道蓮華です。その座ったままですいません。」

美幸「いいのよ。私はキッチンに荷物持っていくから美咲、皐月を頼むわね。」

美咲「分かった。」

そう言つて荷物を持って美幸はキッチンへ去つていた。

皐月「お兄ちゃんつてバトスピつてやれる人？」

蓮華「ああできるよ。」

蓮華はデツキを取り出して皐月に見せる。

皐月「わーお兄ちゃんやろうよ。」

美咲「皐月いきなりは…。」

蓮華「いいんだ、やろうか。」

皐月「わーい。」

皐月は蓮華とは向かい合わせに座って2人はコアの準備してデッキをシャッフルして手札の準備する。

蓮華「準備いいかな。」

皐月「うん！」

蓮華・皐月「ゲートオープン解放。」

そんなことからバトルする蓮華と皐月。

そんな風景を見ている美咲である。

向かえるはバトル第12ターン目で

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減3、コスト5で光龍騎神サジッド・アポロドラゴンXをレベル2で
召喚。」

臯月「うーん…。」

蓮華「光導創神アポロンのコアチャージ発揮。アタックステップ、サジッド・アポロドラゴンXでアタック。サジッド・アポロドラゴンXの効果でこのスピリットのBP以下の相手スピリット、アルティメットを破壊する。対象はジークヴルムを破壊。さらにこの効果で破壊したとき、自分の6色の創界神からコア2個をこのスピリットに置くことで、このスピリットのシンボル1つにつき、相手のライフのコアを1個を相手のリザーブに置く。光導創神アポロンから2個をサジッド・アポロドラゴンXに置き、臯月のライフを1個リザーブに送る。」

臯月「負けちゃった。」

蓮華「こつちも危なかったぞ。」

臯月「お兄ちゃん強いね。」

蓮華「そうでもないよ。」

美咲は臯月と蓮華の会話を聞いてると平和だなんて思ってしまった。

第51ターン目 御曹司現る

美咲の家にお邪魔して少しバトスピした後、美咲の母親の美幸に「夕飯はどう？」と言われたが蓮華は断って家に帰った。

そんな次の日、蓮華は芸能事務所でバイトをしていた。Pastel Paletteとのバトスピを楽しんでいた。

彩「うー……。」

蓮華「まあ妖怪回すのは頭使うからな。」

日菜「彩ちゃんの頭から煙が出てるよ…。」

イブ「妖怪ってそんなに頭使うんデスか？」

蓮華「俺は回したことないけど知ってるやつから聞いたことがあるからな。相当頭を使うぞ。ライフの管理はもちろんなこと何処からアタックするかとかね。」

麻弥「彩さんには辛そうですね。」

蓮華「だろうな。」

そう話しているとレッスン室にプロデューサーの五木が入って来た。

五木「蓮華君ちよつといいかな？」

蓮華「なんですか？」

五木「蓮華君にお客さんだよ。通して大丈夫かな？」

蓮華「構わない。おそらくバトスピプレイヤーだしな。」

五木「分かりました。では、レッスン室に通しますね。」

そう言つて五木は去っていく。しばらくすると一人の少女が入って来た。

？「失礼します。」

蓮華「君が俺に用かい？」

？「はい、私は桐生桜（きりゆうさくら）と申します。」

蓮華「桐生桜：確かバトスピ全国大会、バトスピチャンピオンシップのベスト5の子か。」

千聖「ベスト5!？」

麻弥「それ凄くないですか!？」

桜「そんなに凄くないですよ。私はまだ、蓮華さんに1度も勝っていませんから。」
日菜「え、そうなの？」

桜「はい、蓮華さんは大会では無敗を制しています。」

蓮華「そんなことはない。無敗だなんて……」

彩「それって蓮華君はどこかで負けてるってことだよね。」

日菜「あ、彩ちゃん復活してる。」

蓮華「ああ、負けてるよ。俺と同等の強さを持った奴と五分五分の勝負してるしな。

勝つたり負けたりしてるよ。」

桜「その者の名前を聞いていいですか？」

蓮華「小湊權斗。」

桜「小湊權斗……どこかで聞いたような……」

イブ「ライバルなんデスか？」

蓮華「ああ、アイツは今、アメリカでバトスピ修行してるライバルだ。」

イブ「凄いデス！」

蓮華「そうだ。桜、俺とバトスピしないか？」

桜「蓮華さんとバトスピですか？」

蓮華「ああ、ここまで来たということは俺とバトルする気はあったんだろ？ だったら

やんねーとな。」

麻弥「蓮華さんつてたまに思うんですけどバトル狂なんっすね。」

桜「…やりましょう。貴方には勝ちたいんです。」

蓮華「いいだろ。簡単には譲る気はないよ。」

蓮華と桜はバトルテーブルに移動しお互いデッキを出して、お互いのデッキをカット
&シャッフル。ライフ、リザーブ、手札の準備を済ます。

蓮華「準備はいいな？」

桜「はい。」

蓮華・桜「ゲートオープン解放。」

第52ターン目 甲竜&遊精対地竜

蓮華は桜とバトルすることになった。ベスト1対ベスト5、トップ対決が今始まる。

桜「先行は私が行きます。スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神アヌビスを配置。」

蓮華「地竜か。」

桜「配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：骸竜ゾン・サウル、マグネティックフレイム、ウォーグレイモン

桜「対象のカードは2枚。コアを2個チャージ。マグネティックフレイムの効果でオープンされたかトラッシュに置かれたとき手札に加えて、赤1色の創界神にコアを乗せます。ターンエンド。」

桜

ライフ：5

手札：5

フィールド

ネクサス：創界神アヌビスへ〈3〉

リザーブ：へソウルコア、1へ

コアトラッシュ：へ〈2〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神サラスヴァティを配置。配置時は使用しない。」

Pastel Palettesメンバー「え？」

蓮華「さらにコスト2で創界神クリシユナを配置。」

桜「！甲竜と遊精のハイブリットですか。」

蓮華「配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：クリシユナーガ・アルタリース、神撃甲龍ジャガンナート、神海海船カリユブデス号―女神具現―

蓮華 「対象カードは2枚、コアを2個チャージ。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5

手札：3

フィールド

ネクサス：創界神サラスヴァティ〈0〉、創界神クリシュナ〈2〉

リザーブ：〈ソウルコア〉

コアトラツシユ：〈4〉

バーストなし

桜 「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト2でアヌビスの冥界神殿をレベル1で配置。ターンエン
ド。」

桜

ライフ5

手札：5

フィールド

ネクサス：創界神アヌビス〈3〉、アヌビスの冥界神殿〈0〉

リザーブ：〈ソウルコア、3〉

コアトラッシュ：〈1〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト1で維持の創界神ヴィシユヌを配置。配置時効果、3枚
オープン。」

オープンされたカード：クリシユナーガ・アルティース、ゴッドシーカー休音獣チン
チラスト、大神剣アラマンディー

蓮華「対象のカードは2枚、コアを2個チャージ。さらに軽減2、コスト2で大神剣
アラマンディーを創界神サラスヴァティにダイレクトブレイヴ。創界神サラスヴァ
ティ、創界神クリシユナ、維持の創界神ヴィシユヌにコアチャージ発揮。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：2

フィールド

ネクサス：創界神サラスヴァティ（大神剣アラマンディーブレイヴ中）へ1、創界神クリシユナへ3、維持の創界神ヴィシユヌへ3

リザーブ：へソウルコア、4

コアトラッシュ：へ1

バーストなし

桜「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減2、コスト5で闇輝石六将冥恐斬神ダイノヴェンジをレベル1で召喚。創界神アヌビスのコアチャージ発揮。ターンエンド。」

桜

ライフ：5 手札：5

フィールド

スピリット：闇輝石六将冥恐斬神ダイノヴェンジへソウルコア

ネクサス：創界神アヌビス〈4〉、アヌビスの冥界神殿〈0〉

リザーブ〈0〉

コアトラッシュ：〈5〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
 インステップ。軽減3コスト3で神撃甲龍ジャガンナートをレベル2で召喚。創界神
 サラスヴァティ、創界神クリシュナ、維持の創界神ヴィシュヌにコアチャージ発揮。ア
 タックスステップ、ジャガンナートでアタック。ジャガンナートのアタック時効果、相手
 のスピリット、アルティメットを3体手札に戻す。デイノヴェンジを手札に。さらに界
 放、ヴィシユヌからコアをジャガンナートに置き、このバトルの間、手札、手元のカー
 ド合計3枚につき、このスピリットに白シンボル1つ追加する。そして、レベル2、レ
 ベル3効果でターンに1回ボイドからコア2個をこのスピリットか、系統インディーダ
 を持つ自分の創界神ネクサスに置く。そうしたとき、アタックしてるこのスピ
 リットはブロックされない。ボイドからコアをクリシュナに置き、ブロックされない。」
 桜「手札は6枚、シンボル3つ：フラッシュはないわ。ライフで受ける。」

桜：ライフ5↓2

蓮華「ターンエンド。」

桜「(クリシユナのコアを使わなかった…。マグネティックフレームを警戒してるんだ。)」

蓮華

ライフ：5 手札：2

フィールド

スピリット：神撃甲龍ジャガンナート(ソウルコア、5)

ネクサス：創界神サラスヴァティ(大神剣アラマンディーブレイブ中) (2)、創界神

クリシユナ(6)、維持の創界神ヴィシユヌ(1)

リザーブ：(1)

コアトラッシュ：(3)

バーストなし

桜「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ

インステップ。軽減1、コスト1で激突王ダンを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：ウオーグレイモン、ゴッドシーカー冥神官オヴィラ、冥界の恐竜人ヴェロキック

桜「対象のカードは3枚、コアを3個シャージする。そして、軽減3、コスト4で再びディノヴェンジをレベル2で召喚。創界神アヌビス、激突王ダンのコアチャージ発揮。アタックステップ、ディノヴェンジでアタック。アタック時効果でBP合計12000まで破壊できるけどジャガンナートはBP16000なため破壊できないため対象不在。さらにフィールド、トラッシュに赤のカードが7枚以上ある時、闇界放発揮！赤の創界神からコアを2個このスピリットに置くことで相手のライフをボイドに送る。アヌビスのコアをディノヴェンジに置きライフをボイドに。そして、激突王ダンの神域の効果で赤のスピリットにBP+5000し相手は可能な限りスピリット、アルティメットはブロックしなければならぬ。」

蓮華：ライフ5↓4

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ4↓3

桜「ターンエンド。」

桜

ライフ：2 手札：5

フィールド

スピリット：闇輝石六将冥恐斬神ディノヴェンジ〈3〉

ネクサス：創界神アヌビス〈3〉、アヌビスの冥界神殿〈0〉、激突王ダン〈4〉

リザーブ〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ：〈5〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュユスステップ、メ
インステップ。軽減4、コスト2で三龍宝剣アブソリュートキャリバーをジャガンナー

トにダイレクトブレイヴ。創界神クリシユナ、維持の創界神ヴィシユヌにコアチャージ
發揮。アタックステップ、ジャガンナートでアタック。アタック時、デイノヴェンジを
手札に戻す。さらにクリシユナからコアを3つジャガンナートに置き界放：シンボル
4だ…。」

桜「…ライフで受ける。」

桜：ライフ2↓0

蓮華：WIN

桜：LOSE

第53ターン目 創界神戦争の行方

桐生桜とのバトルで勝った蓮華。お互い良いバトルだと思っている。

蓮華「キツイ。」

桜「そんなにですか？」

蓮華「甲竜と遊精はあんまり合わないな。」

麻弥「合わないのによく構築を考えましたね。」

蓮華「だって、この構築考えたの夜中のテンションだもんなー。」

彩「夜中のテンション!？」

千聖「考えられないわね…。」

蓮華「しようがないだろ。あんまりやったことのない構築を考えようかと思つたらこんな構築だぞ。」

日菜「普通に甲竜してた方が強いよね？」

蓮華「うん…。」

蓮華はテンション低い返事をするのであった。

桜「でも、参考になりますね。甲竜と遊精…合わないけど、変わった構築だと思えますよ。」

イブ「そうデスヨ。」

蓮華「まあ、今回だけだな…あ、そうだ変な構築思いついたし。インディーダ化神構築してこようかな…。」

千聖「どんな構築よ…。」

桜「それより、蓮華さんこれを。」

桜は1枚のカードを蓮華に渡す。そのカードはまさかの黄の王、イシユタルだった。蓮華が受け取ったことによりイシユタルは本来の輝きを取り戻した。

蓮華「王の創界神じゃないか。どうしてお前が…。」

桜「勝負を申し込まれたのでその時に勝ったのでその時に…。」

麻弥「大丈夫だったんですか?」

桜「ええ。ですが、変な情報を得ました。」

蓮華「変な情報？」

桜「バトルしている時、相手が戦争がどうのこうのと…。」

蓮華「創界神戦争のことか？」

桜「はい。三大勢力がぶつかればバトスピの世界が壊せるとかなんとか…。」

彩「三大勢力って？」

蓮華「三大勢力って言うのは、1つ目が王、2つ目がセラフ、3つ目が…なんだろうな。それを踏まえて三大勢力だろうな。でも、あの三大勢力は異界の創界神なんだ。」

麻弥「そうなんつすよね。3つ目の勢力って何なんつすかね？」

桜「対戦相手が言ってたけど、天聖の創界神だと言っていました。」

蓮華「天聖？」

千聖「何よ天聖って？」

蓮華「天聖ってセラフに並ぶ天使だと思う。確か3体いた気がするが…」

桜「マルクト、ケセド、ティファレントだった気がする。」

日菜「そんなのがいるの？」

蓮華「ああ、創界神って神話物がかかわってるからな。ダンとかアレックスは違うと思うがインディーダやオリン、アマハラ、エジツトは確実にかかわってるもんだからな。それに加え三大勢力も神話にかかわったものだと思う。」

千聖「まるでクトウルフ神話ね。」

蓮華「そこまでいかねーだろ。」

イブ「でも、三大勢力がぶつかり合うとどうなるんデスカ？」

蓮華「わかんない。でも、俺たちの世界にも影響が出るかもしれないな。」

日菜「影響って？」

蓮華「たぶん、世界の崩壊とか…。」

彩「え!!」

蓮華「たぶんだよ。はつきりとしたものは分からない。でも、三大勢力が特にぶつかるのは大会もしれないな。」

桜「王の創界神は今どこまであります？」

蓮華「赤、白、緑、黄だな。」

桜「残りは青と紫ですね。情報は？」

蓮華「全くだ。情報待ちだが、なかなか流れてこない。」

桜「分かりました。こちらで分かれば情報を流します。」

蓮華「いいのか？」

桜「知ってしまった以上、情報を共有するのが当たり前ですよ。」

蓮華「ありがとう。」

麻弥「やったっすね

蓮華「ああ。」

蓮華は気になっていた。異界のものでありながらどうして戦争をしなければならぬのかと。

そんな別の世界では…。

？「どうしてこんなことに…。」

世界を見渡すように見ている人がいた。

？「どうなさるんですか？」

同じように隣で見ていた少女は青年に聞く。

？「俺は…会わなければならない…六道蓮華に…。」

？「やはりですね。」

? 「悪いな。」

? 「構いません。僕はあなたを六道蓮華のもとに送るよう準備します。」

? 「ああ…。」

少女は去っていた。

? 「…彼の世界を崩壊させるわけにはいかない。だから…俺は…。」

青年は覚悟を決めるかのように拳を作って殺風景な風景を見続けた。

第54ターン目 現れた青年と現状

蓮華とは別の世界では…

？「準備できました。」

少女はそう青年に言った。青年は「ああ…。」と言って神殿に入っていく。

？「すまないな。」

？「いいです。これから蓮華さんに会いに行くため別の世界に行くのですから。」

？「そうかありがとう、アレックス…。」

アレックス「いえ。」

アレックスは杖を持った手を高く上げ呪文を唱える。その瞬間、大きな空間が開いた。

アレックス「では、気よつけて。」
? 「ああ…。」

青年は空間に入っていて行った。そして、数分後、空間は閉じた。

アレックス「…頼みましたよ…。」

アレックスはそう祈るようにつぶやくのであった。

そして、蓮華のいる世界では…

蓮華はコラボブースターであるデジモンのカードを欲しい部分には買いに行き家に帰ってきたのだ。

明日奈は現在バイトでいないのであった。

蓮華「よし、こんなもんだろ。」

蓮華は新しくデッキを組み上げたのであった。そんなとき、蓮華の光導デッキの入っているデッキケースが光だした。

蓮華 「なんだ？」

蓮華は疑問に思った。その瞬間、その光が人の型を作り出した。

蓮華 「な、なんなんだ…？」

その光が収まり一人の青年が問いたです。

？ 「君が六道蓮華だね？」

蓮華 「ああ…。あんたは？」

？ 「俺の名前は…馬神弾だ…。」

蓮華 「馬神…弾だと…。」

弾 「君に会いに来たんだ。」

蓮華 「どうゆうことなんだ？」

弾 「話そう。今の現状を…。」

蓮華 「え？」

蓮華はあんまり事態を把握していなかった。だが、弾が説明すると言つて家のリビン
グで話すことになった。

蓮華「それで、現状つて？」

弾「現在、三大勢力であるセラフが王に宣戦布告し戦争を申し込んできた。」

蓮華「え…それつて。」

弾「そして、天聖と言われている創界神は中立を保っているが王に着くべくかセラフ
に着くべくかと判断している最中なんだ。」

蓮華「それつて、王とセラフが戦争することになり天聖は中間点に立っている感じな
のか。」

弾「ああ、そうなんだ。だから王の創界神を続けることができる蓮華がこの戦争を収
めることができる鍵なんだ。」

蓮華「俺が戦争を収める鍵…。」

弾「そうだ。こんなことを話すのは唐突過ぎてあまりいいことじゃないが…頼む…創
界神の世界を救ってくれ。」

蓮華「…分かった…。」

弾「え…。」

蓮華「あの自分の世界であるグラン・ロクを救った弾がそこまで言うんだ。俺でよければ力になるよ。」

弾「ありがとう。」

シリアスな話を終えたので蓮華が急に「弾ってこの世界のバトスピって分かる？」と聞くと弾は「いや、分からないな…カードあるなら見せてくれないか？」と言ってきたので蓮華は「じゃあ、俺の部屋で一緒にデツキ組もうよ。」と言って蓮華と弾は蓮華の部屋へ行くのであった。

蓮華は部屋の棚からバトスピのカードを取り出した。

蓮華「これがこの世界のバトスピのカードだ。」

弾は一枚一枚カードを見ていくと自分の書かれたカード目にする。

弾「凄いな、今ではこの世界ではこんなカードがあるなんて…こっちはクラッキーだ…魔もいる。創界神っているんな種類があるな。」

蓮華「そりやあ、グラン・ロロとは違うからね。」

そんな風に話していると玄関から音が聞こえた。どうやら明日奈がバイトからか言ってきたのだ。部屋から出て弾のことを紹介しようとしたが明日奈は弾のことが見えていないのだ。

蓮華と弾は疑問に思ったが蓮華はこう思った。どうやら、弾は俺しか見えていないのだと思ったのだ。

まるで弾がもう一人の自分で自分が相棒だと思ってしまうしかなかったた…

第55ターン目 弾、蓮華と行動する

蓮華の守護霊のように共に行動することになった馬神弾。そして、相棒として共に行動することになった蓮華。

そんな2人の1日が始まる。

学校が休みな日曜日、明日奈は朝からバイトで出かけている。最近忙しいらしい。朝食を食べ終えた蓮華は弾と共に家を出て街の商店街に行くのであった。

蓮華「さて、今日はどうしようかな？」

弾「せっかくだからバトスピがあるカードショップに行くのもいいじゃないか？」

蓮華「そうだな。それも有りだな。」

ちなみに日常のように話しているが弾の姿は蓮華しか見えていないのだ。人からすれば独り言を言っているようだ。

そんな風に会話していると、5人の固まった姿が見えた。

蓮華「あれは…。」

弾「知り合いか？」

蓮華「ああ。Roseliaってチームのバトラーチームだよ。」

弾「へー。みんな女の子の人ばかりだな。」

蓮華「ああ。それにしてもどうしたんだろうな。弾は俺の体の中にいてくれ。」

弾「分かった。」

そういうと弾は蓮華の体の中に入っていった。まるで、憑依するかのよう。そして、蓮華はRoseliaメンバーに声かけるのであった。

友希那「あら、蓮華。」

蓮華「よう。メンバー勢ぞろいで何やってんだ？」

友希那「実は弦巻さんの家に行くことになって。」

蓮華「こころの家に？」

リサ「なんでも、デツキ調整をすることになってね。もうすぐ大会でしょ。」

蓮華「確かにそうだな。」

紗夜「ですので、ハロハピメンバーと共にデツキ調整をして大会に向けようかと思っ

てるのよ。」

蓮華「へー。」

あこ「ねえ、蓮兄も一緒にこない？」

蓮華「いいのか？」

友希那「ええ。貴方が良ければ。」

燐子「蓮華さんがいてくれると色々と参考になるので…。」

蓮華「分かった。俺もいくよ。」

弾「(いいのか?)」

蓮華「(デツキも持ってきてきてあるし。何よりバトルしたいだろ弾?)」

弾「(バレたか…。)」

蓮華「(当たり前だろ。闘争心丸出しだぞ。)」

友希那「蓮華?」

蓮華「ああ、すまない。じゃあ、行こうか。」

蓮華とRoseliaメンバーは弦巻家へ移動することになった。

移動して20分。弦巻家に到着して黒服の人が案内してもらい、ハロハピメンバーがいる部屋に案内される。

到着して部屋に入るとハロハピメンバーが勢ぞろいしていた。

こころ「来たわね！」

友希那「ええ。蓮華と一緒に来たけどいいかしら。」

こころ「全然いいわよ！さて、始めましょうか。」

はぐみ「誰からやるの？」

紗夜「そうね…。」

こころ「蓮華と誰かでもいいじゃない？」

薫「確かのないね。プリンスと誰か。プリンスから何かしら学べるしね。」

蓮華「じゃあ、誰とやればいいんだ？」

燐子「わ、私がやります。」

蓮華「へー燐子か。いいぜ。」

弾「(デツキはどうするんだ?)」

蓮華「(そうだな。星竜でやる?)」

弾「(いいのか?)」

蓮華「(使いたいんだろ、ジークヴルム・ノヴァ。)」

弾「(……頼む。)」

蓮華「(OK)」

蓮華と燐子はデツキを取り出してテーブルに着く。ライフ、リザーブを準備してデツキをカット&シャツフルする。デツキ置き場に置き手札に準備する。

蓮華は精神を弾と入れ替わる変わる。

人からすれば精神が入れ替わっただけで姿は蓮華である。

弾「始めようか…。」

燐子「はい…。(なんか蓮華さんじゃない気がする…)」

弾・燐子「ゲートオープン解放。」

第56ターン目 星竜対ゲーマー

蓮華は弾と精神を入れ替わってバトルするが…そんなバトルする燐子はまるで蓮華ではないと感じていた。

弾「さあ、先行どうぞ。」

燐子「はい。スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で壇黎斗神を配置。」

弾「壇黎斗神？」

蓮華「(気よつける、あのデッキ結構厄介だぞ。チェンジって言うフラッシュ効果でスピリットを入れ替えてバトルするデッキだ。しかもあの黎斗神はコアが10貯まるとスピリットすべてに神シンボル追加がついている。)」

弾「(なるほどな。戦いがいのあるデッキだ。それに、この星竜デッキはお前と共に組んだんだ。簡単には負けない。)」

燐子「配置時効果、デッキから3枚オープン。」

オープンされたカード：仮面ライダーゲンムゴッドマキシマムゲーマーレベルビリオン、仮面ライダーエグゼイドハンターアクションゲーマーレベル5、仮面ライダーブレイブファンタジーゲーマーレベル50

燐子「対象カード3枚、コアを3個チャージ。ターンエンド。」

燐子

ライフ：5 手札：4枚

フィールド

ネクサス：壇黎斗神〈3〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ：〈2〉

バーストなし

弾「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト3、
ヴィオレ魔ゐー魔族side配置。」

燐子「星竜デッキ。」

友希那「これは燐子にはキツイわね。」

弾「配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：創界神アポローン、ゴッドシーカー超星使徒ベルデータ、超星使徒コーデリア

弾「対象のカード2枚、コアを2個チャージする。ターンエンド。」

弾（蓮華）

ライフ：5

手札：4

フィールド

ネクサス：ヴィオレ魔ゐー魔族sideーへ2

リザーブ：へソウルコア、1

コアトラッシュ：へ3

バーストなし

燐子「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ

インステップ。軽減1、コスト2で仮面ライダーエグゼイドダブルアクションゲーマーレベルXをレベル1で召喚。召喚時効果、デッキから3枚オープン、その中からカード名にゲーマーを含むスピリットカードを1枚手札に加える。」

オープンされたカード：仮面ライダーエグゼイドムテキゲーマー、仮面ライダーホッピーときめきクワイシスゲーマーレベルX、仮面ライダーエグゼイドハンターアクションゲーマーレベル5

燐子「対象はムテキゲーマー、残りは破棄。壇黎斗神にコアチャージ発揮。アタックステップ、ダブルアクションゲーマーレベルXでアタック。

弾「フラッシュなし。」

燐子「フラッシュタイミング、ダブルアクションゲーマーレベルXを手札に戻すことで手札、フラッシュからカード名に仮面ライダーエグゼイドダブルアクションゲーマーレベルXXR、Lを1枚ずつコストを支払わずに召喚する。手札より、ダブルアクションゲーマーレベルXXR、Lをレベル1で召喚します。壇黎斗神のコアチャージ発揮。」

燐子「ターンエンド。」

燐子

ライフ：5

手札：4

フィールド

スピリット：仮面ライダーエグゼイドダブルアクションゲームレベルXXRへ1、
仮面ライダーエグゼイドダブルアクションゲームレベルXXLへ1

ネクサス：壇黎斗神へ6

リザーブ：へソウルコア

コアトラツシュ：へ2

バーストなし

弾「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシュステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト3で魔界竜鬼ダークヴルムをレベル1で召喚。ヴィオレ
魔るー魔族sideーのコアチャージ発揮。召喚時効果、自分のライフのコア1個をト
ラツシュに置くことで、デッキから2枚ドロ。」

弾（蓮華）：ライフ5↓4

弾「さらに、軽減2、コスト2でマジック、ノヴァドロを使用。デツキから2枚ドロ、さらにヴィオレ魔みのコアを1個をボイドに送り、さらに1枚ドロ。ターンエンド。」

弾（蓮華）

ライフ：4

手札：8

フィールド

スピリット：魔界竜鬼ダークヴルムへソウルコアへ

ネクサス：ヴィオレ魔み―魔族sideへ2

リザーブ：へ0

コアトラッシュ：へ6

バーストなし

燐子「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。仮面ライダーゲンムアクションゲーマーレベル1をレベル2で召喚。壇黎斗神のコアチャージ発揮。さらにダブルアクションゲーマーレベルXXRとLを

レベル2にアップさせます。」

蓮華「(これでゲームマーを持つスピリットは超装甲紫、白、赤、緑を得た。)」

燐子「アタックステップ、ダブルアクションゲームマーレベルXXRでアタック。

弾「フラッシュなし、ライフで受ける。」

弾(蓮華)：ライフ4↓3

燐子「ダブルアクションゲームマーレベルXXLでアタック。」

弾「ライフで受ける。」

弾(蓮華)：ライフ3↓2

燐子「ゲムムアクションゲームマーレベルIでアタック。」

弾「フラッシュなし。ライフで受ける。」

弾(蓮華)：ライフ2↓1

燐子「ターンエンド。」

燐子

ライフ：5

手札：4

フィールド

スピリット：仮面ライダーエグゼイドダブルアクションゲーマーレベルXXR〈2〉
(疲労中)、仮面ライダーエグゼイドダブルアクションゲーマーレベルXXL〈ソウルコ
ア、1〉(疲労中)、仮面ライダーゲンムアクションゲーマーレベル1〈2〉(疲労中)

ネクサス：壇黎斗神〈7〉

リザーブ：〈0〉

コアトラツシユ：〈0〉

バーストなし

弾「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ、メ
インステップ。」

リサ「ここからどう挽回するんだらうね。」

花音「もしかするとノヴァが1点突破としそうだよね。」

ミシエル「もうそろつてるんじや…。」

弾「軽減1、コスト3でマジック、ビッグバンエナジーを使用。このターンの間、系統星竜を持つスピリットカードすべてのコストは自分のライフ同じになる。」

紗夜「ここでビッグバンエナジー…！」

こころ「いいタイミングね！」

弾「超星使徒コーデリアをレベル2で召喚。ヴィオレ魔ゐ―魔族sideにコアチャージ発揮。召喚時効果、超星を持つコスト6以下のカードをトラッシュから手札に加える。ノヴァドロを手札に。そして、滅神星龍ダークヴルム・ノヴァXをレベル2で召喚。ヴィオレ魔ゐ―魔族sideのコアチャージ発揮。フラッシュ効果の滅界放を使用。ヴィオレ魔ゐ―魔族sideのコアをダークヴルム・ノヴァXにコアに置く。相手のブレイヴを破壊するが対象不在。そして、雷皇龍ジークヴルムをレベル1で召喚。ヴィオレ魔ゐ―魔族sideのコアシャーージ発揮。」

はぐみ「やりたい放題…。」

薫「ビッグバンエナジーのせいで手札の星竜がグルグル回るからな。」

弾「滅神星竜ダークヴルム・ノヴァXのレベルを1にダウン。そして、ジークヴルムのレベルを2にアップ。さらにマジック、ノヴァドロを使用。デッキより2枚ドロウする。アタックステップ開始、コーデリアの効果でトラッシュのコア5個を置く。4個

以上置いたことによりソウルコアをトラッシュユに置かずに系統超星を持つスピリットカードをこのスピリットに煌臨できる。超星星龍ジークヴルム・ノヴァXに煌臨。ヴィオレ魔ゐ―魔族 s i d e―のコアチャージ発揮。煌臨時効果で系統超星で煌臨したことによりライフを5まで回復。アタックステップ、ジークヴルム・ノヴァXでアタック。アタック時効果相手のスピリットをBP合計15000まで破壊できるが超装甲の効果で破壊対象なし。さらに超界放を使用。ヴィオレ魔ゐ―魔族 s i d e―のコア4個をジークヴルム・ノヴァXに置くことで相手のライフ2個をボイドに送る。」

燐子：ライフ5↓3

弾「フラッシュは？」

燐子「フラッシュは 아닙니다。」

弾「フラッシュユタイミング、ダークヴルムに置いてあるソウルコアをトラッシュユに送りジークヴルムをジークヴルム・ノヴァに煌臨。コアがなくなったダークヴルムは消滅。さらに煌臨元のジークヴルムのレベル2、3の効果で煌臨で系統星竜を持つスピリットカードを重ねたとき、相手のライフのコア1個をリザーブに送る。」

燐子：ライフ3↓2

弾「ヴィオレ魔るー魔族sideーのコアチャージ発揮。ジークヴルム・ノヴァの煌臨時効果でライフ回復するがすでに5まで回復してるため回復なし、トラッシュのコアをすべてジークヴルム・ノヴァに置く。」

燐子「ライフで受けます。」

弾（蓮華）：WIN

燐子：LOSE

第57ターン目 やっぱりノヴァは強かった…

弾もとい蓮華は燐子に勝利する。だが、燐子はバトルしていた者がまるで蓮華じゃないと思っていた。

燐子「負けました…。」

リサ「まあ、蓮華の星竜は強いからね。」

弾「それでもないさ…。」

紗夜「…。」

友希那「紗夜？」

紗夜「少しいいかしら。」

弾「なんだ？」

紗夜「貴方、蓮華じゃないわね。」

蓮華「(やべえ、精神を入れ変わってないぞ、弾。)」

弾「(あ…。)」

紗夜「貴方は体は蓮華であるけど精神は違う者…バトルの雰囲気違ってたわ。」

蓮華「(弾、悪いがそのまま話してやってくれ。ただし、細かい内容は伏せておいてくれ。)」

弾「(分かった。)よく気づいたな…。」

紗夜「蓮華とはバトルしたことあったので…。」

燐子「やつぱりだったんですね…。」

あこ「え、りんりんも気づいていたの?」

燐子「なんとなくですけど。」

こころ「じゃあ、今の彼は何者なの?」

弾「俺の名前は…馬神弾。訳あって蓮華の体を借りて話している。普段は蓮華の精神の中で蓮華と会話する感じだな。」

R o s e l i a 「…。」

ハロハピ「…。」

R o s e l i a ・ハロハピ「ええええええええええええええええええ!!」

流石の名前に R o s e l i a、ハロハピメンバーは驚くのであった。

弾は細かい経由を話さず、大まかに話すのであった。

その後、蓮華と精神を入れ替わるのであった。

友希那「まさか、バトスピの神様を体に宿しているなんてね。」

蓮華「そんなもんじゃないよ。」

はぐみ「ねえねえ、蓮華君って昨日出会ったんだよね？」

蓮華「まあな。デツキを組んでる最中だけどね。」

薫「成程、流石はプリンスだ。」

蓮華「どこがだ！」

リサ「そうだ。ねえねえ、アタシとバトルしてよ。」

蓮華「え、いいけど。弾のほうがいいか？」

リサ「蓮華とバトルでいいよ。蓮華はデツキを調整したでしょ？」

蓮華「まあな。昨日コラボブースターのパーツ買って調節したしな。」

リサ「なら、せっかくだからバトルしないとね！」

こころ「じゃあ、次はリサと蓮華だね。」

花音「蓮華君は何使うの？」

蓮華「俺は赤紫デジモンデツキ使おうか。」

リサ「へーならちようどいいわ！進化したアタシのデツキで蓮華を負かせて見せるわ

！」

蓮華「(2、3ターンでパラディンモード来そうだな…。)」

弾「(デジモンって…なんなんだ。)」

蓮華「(デジモンは昔アニメでやってたやつでそれをバトスピのカードとコラボしたんだ。今回の映画に合わせて強化されてるんだ。)」

弾「(なるほどな。)」

蓮華「(機会があればアニメを見せてやるよ。)」

リサ「さあ、やりましょうか。)」

蓮華「ああ。)」

蓮華は使用していた星竜デッキをしまつて別のデッキである赤紫デジモンデッキを取り出しリサもデッキを取り出す。リサブ、ライフを準備してお互いのデッキをカット&シャツフルしデッキ置き場に置く。手札の用意して準備完了する。

あこ「リサ姉と蓮兄のバトルどんなバトルになるんだろね!」

友希那「きつとデジモンの進化合戦になりそうね。)」

リサ「始めましょ。)」

蓮華「ああ。)」

蓮華・リサ「ゲートオープン解放。」

第58ターン目 デジモン対決

続けてバトルすることになった蓮華。弾とは精神を交代せずバトルすることになる。

蓮華「先行はリサからだ。」

リサ「OK。スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。3コストで賢のワームモンをレベル1で召喚。」

蓮華「青緑デジモンデッキか…。」

リサ「召喚時効果、デッキから4枚オープンして、その中のカード名に一乗寺賢1枚と系統成熟期、完全体、究極体、パートナーを持つ緑、青のカードを1枚を手札に加える。」

オープンされたカード：一乗寺賢、ストロングドロロー、アルファモン、白晶防壁

リサ「対象は一乗寺賢とアルファモンを手札にくわえ加えて、残りをデッキ下に。そして、バーストセットして、ターンエンド。」

リサ

ライフ：5

手札：5

フィールド

スピリット：賢のワームモン（ソウルコア）

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈3〉

バーストあり

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト3でヤマトのガブモンをレベル2で召喚。召喚時効果、デッキから4枚オープン。その中の石田ヤマト1枚と、系統成熟期、完全体、究極体、パートナーの赤、紫のカードを手札に加える。」

オープンされたカード：グレイモン「3」、キメラモン、白晶防壁、ウオーグレイモン

蓮華「対象はウオーグレイモンを手札に加える、残りをデッキ下に。アタックステッ

ブ開始時、進化赤、紫発揮。ヤマトのガブモンを手札に戻し系統成熟期を手札からコストを支払わずに召喚する。グレイモン「3」を召喚。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5 手札：5

フィールド

スピリット：グレイモン「3」へソウルコア、1◇

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈3〉

バーストなし

リサ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減1、2コストで一乗寺賢を配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：大輔のブイモン、白晶防壁、リリモン

リサ「対象のカードは2枚、コアを2個シャージ。さらに軽減2、1コストで大輔の

ブイモンをレベル1で召喚。一乗寺賢のコアチャージ発揮。召喚時効果、デッキから4枚オープンして、その中のカード名に本宮大輔1枚と系統成熟期、完全体、究極体、パートナーを持つ緑、青のカードを1枚を手札に加える。」

オープンされたカード：オウゴンオニクワガー、オメガモンマーシフルモード、一乗寺賢、リリモン

リサ「対象のカードはリリモン、残りをデッキ下に。ターンエンド。」

リサ

ライフ：5

手札：5

フィールド

スピリット：賢のワームモン（ソウルコア）、大輔のブイモン（1）

ネクサス：一乗寺賢（3）

リザーブ：（0）

コアトラッシュ：（3）

バーストあり

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減1、コスト2で八神太一を配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：キメラモン、メタルグレイモン、白晶防壁

蓮華「対象は2枚、コアを2個チャージする。さらに軽減2、コスト1で石田ヤマトを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：メタルグレイモン「3」、アグモン―勇気の絆―、ブラックウオーグレイモン

蓮華「対象は3枚、コアを3個シャージ。アタックステップ、グレイモン「3」でアタック。」

リサ「アタック後バースト発動、インペリアルドラモンドラゴンモード「2」。インペリアルドラモンドラゴンモード「2」を召喚。不足コアは大輔のブイモンから。バースト効果でグレイモン「3」を重疲労。召喚されたので一乗寺賢のコアチャージ発揮。」

蓮華「だが、超進化赤、紫発揮。グレイモン「3」を手札に戻し、メタルグレイモン「3」を召喚。八神太一、石田ヤマトのコアチャージ発揮。手札に戻したグレイモン「3」のレベル2、3効果、超進化でメタルグレイモンを召喚したとき、トラッシュの系統成長期、究極体を持つ赤、紫カードを3枚まで手札に加える。アグモン―勇気の絆―とブラックウオーフレイモンを手札に。」

リサ「めんどくさいのが手札に加わったわね。」

蓮華「ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5

手札：6

フィールド

スピリット：メタルグレイモン「3」へソウルコア、2

ネクサス：八神太一〈3〉、石田ヤマト〈4〉

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈3〉

バーストなし

リサ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減2、1コストでストロングドローを使用。デッキから3枚ドローして、その後、手札を2枚破棄する。破棄するカードはパイルドラモンとトゲモン〔2〕。インペリアルドラモンドラゴンモード〔2〕と賢のワームモンをレベル2にアップ。アタックステップ開始時、賢のワームモンの進化緑、青発揮。賢のワームモンを手札戻しステイングモンを召喚。一乗寺賢のコアチャージ発揮。召喚時効果でボイドからコア1個をこのスピリットに置く。ステイングモンでアタック。アタック時でコア1個をこのスピリットに置く。」

蓮華「フラッシュなし。」

リサ「超進化緑、青発揮。ステイングモンを手札に戻してリリモンを召喚。一乗寺賢のコアチャージ発揮。」

蓮華「やべーぞ…。」

リサ「リリモンでアタック。アタック時効果でボイドからコアを2個をこのスピリットに置きターン1回復する。さらにレベル2、3の旋風の効果でメタルグレイモン〔3〕を重疲労。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ5↓4

リサ「再びリリモンでアタック。ボイドからコア2個をこのスピリットに置く。」

蓮華「(流石に使うか。)フラッシュタイミング、ブラックウオーグレイモンの効果を使用。BP8000以上の相手のスピリット、アルティメットがアタックしてきたときコスト1払って召喚。不足コアはメタルグレイモン「3」から。八神太一、石田ヤマトのコアチャージ発揮。ブラックウオーグレイモンの召喚時効果。BP12000以下の相手スピリット、アルティメットを破壊する。インペリアルドラモンドラゴンモード「2」を破壊する。」

リサ「やっぱりね。」

蓮華「狙っていたか。」

リサ「まあね。でも、フラッシュタイミング、インペリアルドラモンファイターモード「2」のチェンジを使用。チェンジの効果で相手のスピリット、アルティメットを疲労させる。ブラックウオーグレイモンを疲労。その後、疲労状態のスピリット、アルティメットをデッキ下にする。ブラックウオーグレイモンをデッキ下に。効果発動後系統完全体、究極体を持つ緑、青のスピリットと回復状態に入れ替える。リリモンを手札に加えて召喚。一乗寺賢のコアチャージ発揮。」

蓮華 「リリモンアタックはライフで受ける。」

蓮華：ライフ4↓3

リサ 「ターンエンド。」

リサ

ライフ：5 手札：6

フィールド

スピリット：インペリアルドラモンファイターモード [2]へソウルコア、7

ネクサス：一乗寺賢へ6

リザーブ：へ3

コアトラッシュ：へ1

バーストなし

友希那 「蓮華、ピンチね。」

こころ 「でも分からねわ。ここから蓮華の快進撃よ！」

蓮華 「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ

インスタテップ。メタルグレイモン「3」をレベル1に下げる。八神太一の神技発揮、コアを3個ボイドに送り、デツキから1枚ドロウさらに、このターン間、自分の「BP破壊効果の上限を+5000する。そして、軽減2、コスト2で太一のアグモンをレベル3で召喚。八神太一、石田ヤマトのコアチャージ発揮。召喚時効果、デツキから4枚オープン。その中の八神太一1枚と、系統成熟期、完全体、究極体、パートナーの赤、紫のカードを手札に加える。」

オープンされたカード：グレイモン「2」、メタルグレイモン、太一のアグモン、キメラモン

蓮華「対象のカードはメタルグレイモン、残りをデツキ下に。さらに、ヤマトのガブモンをレベル1で召喚。八神太一、石田ヤマトのコアチャージ発揮。召喚時は…使わない。」

リサ「え？」

紗夜「召喚時を使わないですって？」

はぐみ「こんなピンチな時に？」

花音「きつと何か策があるかもしれないよ。」

ミシエル「そうだよ！」

リサ「へー打開策がねー。一気に5点持っていくつもりね。」

蓮華「ああ。うまくいくか分からんがな。」

弾「(いけるのか?)」

蓮華「(正直難しい。だが、次のターンがないならやるしかない。)」

弾「(そうだな。)」

蓮華「アタックスステップ、ヤマトのガブモンでアタック。」

リサ「(進化してこない。)フラッシュはないよ。」

蓮華「フラッシュタイプミミング、手札にあるこのカードはライフが3以下のとき、条件を無視して、ソウルコアをトラッシュに置いたものとして、カード名にアグモンを含むスピリットに煌臨できる。太一のアグモンをアグモン―勇気の絆―に煌臨。」

リサ「そんな効果持ってたか…。」

蓮華「八神太一、石田ヤマトのコアチャージ発揮。煌臨時効果、BP15000以下のスピリット、アルティメットを破壊できる。自分のカード名に八神太一、この効果は重装甲、超装甲では防げない。そして、メインステップで使った八神太一の神技でBP破壊が+5000されているため、BP20000以下の相手のスピリット、アルティメットを破壊する。インペリアルドラモンファイターモード「2」を破壊。」

蓮華「アグモン―勇気の絆―でアタック。」

リサ「フラッシュなし。」

蓮華「フラッシュユタイミング、アグモン―勇気の絆―をオメガモンに煌臨。八神太一、石田ヤマトのコアチャージ発揮。破壊効果があるが対象不在、ターン1回復する。」

リサ「あ…これは防げないかも…。ライフで受ける。」

リサ：ライフ5↓3

蓮華「オメガモンでアタック。アタック時効果でこのスピリットの煌臨を持つコスト9の煌臨元1枚を破棄することで、相手のライフを2個トランプシュに送る。煌臨元のアグモン―勇気の絆―を破棄して相手のライフを2個トランプシュ。」

リサ：ライフ3↓1

リサ「流石ね。ライフで受ける。」

リサ：ライフ1↓0

蓮華：WIN

リサ：LOSE

第59ターン目 青く凜とした少女

蓮華はバトルに勝った。蓮華としては賭けの勝負に勝ってよかったと思っていた。

蓮華「あぶねーなこのバトル。」

リサ「私の負けね。はあ、パラディンモードさえ引ければ勝ちは見えていたのに。」

蓮華「怖いわ！あんなもん引かれたら確実に計画崩壊だわ！」

友希那「そうなの？」

蓮華「ああ。パラディンモードのチェンジ効果は最も高いコストのスピリットを破壊した後、相手のトラッシュのカードをすべて除外する効果持ってたよ。」

あこ「除外?!」

蓮華「しかも、アタック、ブロック時効果で、トラッシュのコアをこのスピリットに置ける。そうしたとき、相手のスピリットすべて疲労されるんだよ。まあ、ターン1だけ。」

花音「凄い効果ですね。」

蓮華「ああ。リサのデッキってあと少し改造すると2、3ターンでパラディンモード

が出てくる。」

薫「そんなコンボができるのかい？」

蓮華「可能だよ。パイルドラモンとリリモンがコアブするしな。チェンジのコアはふつうに稼げる。創界神が増えたことで面倒になってるしな。」

紗夜「今ではそれだけ脅威というわけですか。」

蓮華「まあな。さて、俺はいくか。」

燐子「え、蓮華さんどっか行くんですか？」

蓮華「ああ。ちよいと用を思い出した。」

「ころ「用？」

蓮華「ああ。大したことじゃないが王の創界神だよ。」

ミシエル「でもそれって情報待ちなんですよ？」

蓮華「ああ。でも悠長に待ってはられない。紫と青だしな。」

はぐみ「でも、情報の綱はあるの？」

蓮華「ああ。1か所だけ。」

リサ「どこなの？」

蓮華「346プロット知ってるか？」

あこ「え、765じゃなくて？」

蓮華「そっちは先輩のほうな。パスパレと同じでアイドルしながらバトスピする連中の集まりさ。結構メンバーがいてな。」

友希那「アイドルだから女かしら？」

蓮華「当たり前だろ。男でもいるだろうけどでも346は女だけだな。実は変わった知り合いがいるんだけど…。」

紗夜「変わったって？」

蓮華「2人ほどいるんだけど1人が…高校卒業して大学生のほずでもう1人が小学生だ。」

あこ「ええ!!そんな知り合いがいるの!!」

蓮華「ま、まあな。と言っても小学生の知り合いはなんていうか大人ぶってるっていうか扱いが難しくてさ。いつも悩まされてるよ。」

こころ「蓮華が悩むなんて相当ね。」

蓮華「あははは…。てなわけでこれから346プロのプロデューサーと話してくるさ。」

はぐみ「アイドルじゃなくて？」

蓮華「アイドルが情報知っていたらマズイだろ。王の創界神はあまり知られていないカードなんだぞ。一般人で知っているのはお前らの25人と一部の連中だけだ。」

薫「確かにプリンスは元から知ってるしね。」

蓮華「俺の場合は爺さんの書物からだしな。しやあ、行くわ。お前ら、大会までにい
いデツキ作りしとけよ。」

蓮華は部屋を出て、弦巻家を後にする。

その後、歩きながら346プロのプロデューサーと連絡するも情報がなかった。

そして現在、近くの公園のベンチで座って考えていた。

蓮華「情報なしか…辛いもんだ。」

そんな風になっていると…黒い制服を着た少女が近くやってきた。

？「何やってんの？」

蓮華「ああ？ああ、ちよつとな。…あんた見た感じ高校生だな。」

？「そうだよ。なに？ナンパ？」

蓮華「なわけねーだろ。なんで今更そんなことしなければならぬんだよ。そうゆう

お前こそ何してんだよ。」

? 「近くを通っただけだよ。」

蓮華 「なんだそれ。まあいいや。それで、アンタ名前は?」

? 「渋谷凛(しゅやりん)。」

蓮華 「渋谷凛? 渋谷凛だと?!」

凛 「知ってるの?」

蓮華 「ああ。プロデューサーと知り合いなんでね。」

凛 「へえー。そうなんだ。」

蓮華 「まあな。ちよつとしたきっかけで出会ってな。」

凛 「そうなんだ…貴方は?」

蓮華 「ん、ああ。六道蓮華だ。」

凛 「六道蓮華…そういうえば美波さんから聞いたことがあるような…。」

蓮華 「美波? それって新田美波のことか?」

凛 「そうだけど…。」

蓮華 「美波姉がね。まさか346にいるなんてな。」

凛 「知り合い?」

蓮華 「幼いころにね。だいぶ会ってないけどな。」

凛 「そうなんだ。」

蓮華「思ったんだけどさ、凜。近くを通ったって言ったろ。なんか隠してないか？」

凜「察しがいいね。ねえ、王の創界神って知ってる？」

蓮華「それぐらい……何？」

凜の言葉から王の創界神の言葉が出た。

果しえて次回どうなるやら…。

第60ターン目 青の王と憧れ抱くの少女

蓮華は渋谷凪からまさかの言葉、王の創界神と言った。蓮華は驚きを隠せないが冷静を保ち何とか話をする。

蓮華 「なんで王の創界神を？」

凪 「家の前に落ちてたんだ。」

蓮華 「え…。」

凪 「ねえ、このカードって凄いの？」

蓮華 「え…つと、人それぞれ？」

凪 「…ふーん。」

蓮華 「なんだよ？」

凪 「あげる。」

蓮華 「え？」

凪 「いらなの？」

蓮華 「いるけど…いいのか？」

凜「そんなに興味ないし。」

蓮華「そ、そうか。」

蓮華は凜から青の王、ノアを渡される。

蓮華は渡されたカードをケースにしまう。

蓮華「……。」

凜「じゃあ、私行くから。」

蓮華「ああ……。」

凜はそのまま去っていった。

蓮華は座っていたベンチから立ち、カードショップCIRCLEに向かう。

そんなことで蓮華はカードショップCIRCLEに着くと1人の少女が立っていた。

蓮華「？」

?「……。」

蓮華「なあ。」

少女は急に声をかけられたので驚いてしまった。

？「な、なんですか？」

蓮華「いや、なんか入口の前で立ってるからどうしたんだらうって思ってる……」

？「ご、ごめんなさい。私……」

蓮華「そんな謝らなくてもいいよ。俺は六道蓮華。」

？「わ、私、倉田ましろです。よろしくお願ひします。」

蓮華「おう、よろしくな。さて、店に入るか？」

ましろ「は、はい。」

蓮華とましろは店内に入る。ましろは店内を見渡す。

蓮華「ここに来るの初めてか？」

ましろ「そうですね。」

蓮華「なら、見たいカードとかあるか？」

ましろ「あ、赤のカードが見たいです。」

蓮華「赤のカード？分かった。」

蓮華はましろを連れて赤のカードのあるシヨウケースに向かった。たどり着くとましろは釘付けのように見ていた。」

蓮華「そう言えば、どんなデツキを組んでいるんだ？」

ましろ「え、えーつとアルティメット・バゼルです…。」

蓮華「珍しいな…ってことはバーストデツキか。」

ましろ「はい！」

蓮華「でも、どうして赤のデツキ…いや、バーストなら混合か…。」

ましろ「憧れなんです。」

蓮華「憧れ？」

ましろ「私、バトスピチャンピオンシップを見て、優勝した六道蓮華さんのデツキを見て…あ、あれ？」

蓮華「どうした？」

ましろ「六道蓮華さんですよね…。」

蓮華「ああ。」

ましろ「…。」

蓮華「…。」

ましろ「?!?!?」

蓮華「どうした?」

ましろ「え、え、ええつと。」

動揺するましろ。蓮華は落ち着かせようと声をかける。

蓮華「まあ、落ち着け。俺のデッキを見て混合デッキを組もうとしたんだろ? なら、いろんな組み方あるし教えてやろうか?」

ましろ「…お、お願いします!!」

蓮華「OK。なら、一度テーブルに行こう。デッキを見てやる。」

そう言って、蓮華とましろはテーブルに移動する。2人は椅子に座り、ましろはデッキを取り出してデッキを蓮華に見てもらおう。

蓮華は1枚1枚見ていく蓮華はこのカードがあった方がいいというカードを言っていく。ましろはそのカード名をメモしていく。

蓮華「そんな感じかな。」

ましろ「ありがとうございます！」

蓮華「気にするな。俺にはいろんな奴とバトスピしたいしな。いつか、ましろともバトルできたらな。」

ましろ「は、はい！近いうちにバトルできたらバトルしたいです。」

蓮華「楽しみにしてるよ。」

そう言うましろは笑顔で「はい！」と返事をする。まるで自信に満ちた顔だった。

ましろは立ち上がりデッキをしまつて店を出ていった。

蓮華はそのままバイトに入るのであった。

第61ターン目 Roseliaは蓮華ともつと親睦に なりたいたい上

月曜から金曜の学校やバイトなど終わらせての土曜。

明日奈は家からお呼び出しがあり一度自分の家に帰ることになった。それによつて蓮華の1人暮らしに戻るのであつた。

そんな蓮華は冷蔵庫を確認すると普通に材料もあつたので出かける必要もないかと考えていた。折角だし弾と一緒に新しいデッキでも作るかと考えていたら携帯が鳴るのであつた。

蓮華「誰だよ。こんな時に…。」

そう言いながら携帯を取つて電話に出る。

蓮華「もしもし…。」

友希那『蓮華ね。よかつた出てくれて。』

蓮華「友希那？」

友希那『ええ、そうよ。蓮華は今暇かしら？』

蓮華「暇だけどうした？」

友希那『リサが急に蓮華の家でお泊り会しないかかって言うのよ。』

蓮華「俺は構わないが普通提案者が電話するだろ…。」

友希那『ええ、私も思ったわでもリーダーである私も賛成した結果で電話しているわ。』

蓮華「賛成したんかい…。」

友希那『そうゆうわけで準備したら行くわ。』

蓮華「待った。お前から俺ん家知ってんの誰かいるの？」

友希那『それについては大丈夫よ。弦巻さんに教えてもらったから。』

蓮華「そうだと思つたよ…。」

そう言つて電話を切る。蓮華は家に布団つてあつたつけなと探つてみる。

一応をメンバーぐらいの布団があつたのでとりあえず空き部屋に用意するんの出会つた。

数分後、蓮華の家に Roseliaメンバーがやつてきた。荷物は布団の用意された

空き部屋に置き、リビングで雑談をすることになった。

リサ「この際聞きたかったんだけど…蓮華って負けたことあるの？」

友希那「私も気になってたわ。」

蓮華「負け？あるよ。それぐらい。」

あこ「えー蓮兄って意外と無敗のバトラーかと思ってたんだけど…」

蓮華「んなわけあるかよ。これでも結構連敗もしてるぜ？といつてもここに帰ってからは無敗だな。」

燐子「蓮華さんが負けた姿あまり浮かびませんね…。」

紗夜「私も白金さんと同意見ですね。」

蓮華「まあ、そうか。お前らはそうでも俺は常に考えてたよ。どこかで負けるってな。」

友希那「蓮華はデッキを組む時ってどうしてるの？」

蓮華「え？使いたいカードと決めてそこから考えてデッキ組むけど…。」

友希那「弦巻さんから聞いたけど転召も使ったと聞いてびっくりしたわ。」

紗夜「私もそうね。転召なんて今時使いませんしね。」

蓮華「まあ、完全なネタデッキだしね。超星交じりの転召ノヴァデッキって楽しい

ぞ。」

あこ「それは蓮兄だからできるのでは…。」

燐子「私もそう思います…。」

蓮華「え、そう?」

Roselia「うん「はい」

蓮華「イミワカンナイヨ。」

リサ「どうして片言なのよ。」

蓮華「まあいいけど。今なんてハイランダーデッキ考えてるし。」

友希那「ハイランダーってことはすべてのデッキのカードが1枚ずつしか入っていない

いデッキね。」

リサ「そんなんで勝てるの?」

蓮華「プレイングしただろ。」

紗夜「案外適当なんですね。」

蓮華「それしかねーもん。」

そんな風に話しているとすでに夕方になっていた。蓮華は夕食の準備をするべく台所に向かうのであった。

R
o
s
e
l
i
a
メ
ン
バ
ー
は
料
理
で
き
る
の
？
っ
て
感
じ
で
見
て
い
る
の
で
あ
っ
た
。

第62ターン目 Roseliaは蓮華ともつと親睦に なりたい中

夕食を終えた蓮華とRoselia。夕食を取っているときはあこ以外のメンバーが負けたって感じの状態になっていた。

あこは逆になんとも思っていないのだ。あこは「流石蓮兄だね！」って感じであった。それでいいのだろうか…。

片付けも終わったのでリビングで話そうかと思つたが蓮華の部屋で話そうといかんじになつた。

蓮華「部屋のにはちよつと汚いけどすまんな。」

Roseliaメンバーが部屋に入るとバススピだらけなのがすぐに分かつた。

机にはデッキを組んでいた形跡があり、棚にはバススピ関連の本やストレージのがたくさんあつた。

あこ「凄い蓮兄の部屋、バトスピだらけだ！」

紗夜「これは驚きね。」

蓮華「バトスピバカだしな。」

リサ「はつきり言うのね…。」

蓮華「まあ、いいだろ。適当に座ってくれ。」

そう言うとRose l i aメンバーは適当に座っていくのであった。

蓮華も座り雑談をする。

蓮華「それにしても、よくこんなこと考えたな。」

リサ「もう少し蓮華とは親睦になりたいな…って考えてさ。そしたら思いついてさ
〜。」

友希那「本当なら迷惑かもしれないけどごめんなさい。」

蓮華「気にすんなよ。知ってる連中だしな。」

燐子「優しいですね…。」

蓮華「そうか？まあ、俺が変わったやつだしな。」

紗夜「自分で言うんですか…。」

蓮華「まあな。」

友希那「そういえば、机にはバトスピのカードが散らばってるけど何をしていたの？」

蓮華「あー新しいデッキを組もうかと思ってるさ。」

燐子「新しいデッキですか？」

蓮華「ああ。化神デッキでも作ろうかと思ってるさ。最悪、さつき言ったハイランダーデッキでも作るつもりだったし。」

友希那「化神デッキとなると、ユナイト・ロロかしら？」

蓮華「その通り。創界神のアレックスを入れた化神デッキ。作るの大変だけど型としては面白いデッキだしな。」

リサ「思ったけど蓮華って面白いでデッキ組んでるよね。」

蓮華「ネタは面白くて楽しいぞ！」

笑顔でそう言う蓮華。

燐子「たまに蓮華さんが分からなくなります…。」

友希那「白金さんの言うとおりね…。」

リサ「まあまあ。蓮華はそのネタデッキで勝ってるし流石なところね。」

あこ「他には面白いデツキって作ったの？」

蓮華「えくつとサジツトアポロドラゴンを使ったブレイヴデツキかな。」

燐子「ブレイヴデツキってダークヴルム・ノヴァに弱くないですか？」

蓮華「まあね。そこはブレイングでカバーして破壊するんだ。と言つても難しいんだよな。」

紗夜「何故かしら？」

蓮華「ノヴァXになると処理するのが面倒なんだよ。滅界放でブレイヴが死ぬ。」

燐子「確かに滅界放でブレイヴが破壊されますね。」

蓮華「そこからなんだよな、打点を増やす方法がね…。だから没行になった」

友希那「没って…。」

蓮華「しょうがないだろ。煌臨で打点を増やす脳筋とは違うからね。」

紗夜「そういえばそのデツキって今どうしてるんですか？」

蓮華「あ？あああの降臨で打点を増やす脳筋デツキか。あれなら今ご丁寧にしまつてあるよ。」

紗夜「…。」

蓮華「なんだ？やりたいのか？」

紗夜「ええ。今度こそ勝ちたいので。」

蓮華 「いいだろ、返り討ちしてやるよ。」

その後、蓮華と紗夜がバトルするも蓮華の後攻3ターン目でグラン・ジークフリードを決めて大勝利する蓮華であった。

第63ターン目 Roseliaは蓮華ともっと親睦に なりたい下

バトルをして勝った蓮華。流石に煌臨での打点増やして勝つ戦法はまずなかなかやんなないと思うが…。

紗夜「やはり勝てませんでした…。」

蓮華「まあ、簡単に勝たせないさ。」

友希那「あんな、超重量級デツキ回せる人はそうそういないわ。」

蓮華「確かに。こんなデツキ回せる人なんて俺のライバルぐらいだろうな。」

紗夜「ライバルですか？」

蓮華「ああ。」

あこ「蓮兄のライバルって強いのか？」

蓮華「強いぞ。俺と同等ぐらいじゃないか？」

燐子「どうして疑問形なんですか？」

蓮華「まあ、勝ったり負けたりしてるせいで分かんねーんだよ。」

友希那「そこまで強いね。」

蓮華「俺を抜けばアイツがトップだしね。」

リサ「名前ってなんていうの？」

蓮華「小湊權斗だ。そういえばアイツ、今回の大会に出るって言うってたけど大丈夫なのか？」

そのころ…小湊權斗というと…

權斗「へっくしゅ！」

？「お兄ちゃん大丈夫なの？」

權斗「平気。どうせ蓮の野郎が噂してんだろ。」

？「蓮華さんがね…。」

日本に帰ってきていた小湊權斗。現在は実家でデッキをいじっていた。

權斗「それよりるう。お前は大会は出ないのか？」

るう子「え？え〜つと、わ、私はいいかなって…。」

權斗「えくいいじゃないか。出ようぜ大会。るうならすぐに馴染むって。るう子「もう！權お兄ちゃん！」

權斗「悪かったってそんな大声出すなよ。歩兄にはちよつとな…。」

そんなことで妹である小湊（こみなと）るう子と会話しながら苦勞する權斗でした。そして…視点は蓮華の家をへ。

蓮華「まあ、大丈夫か。」

友希那「軽いわね。」

蓮華「だって、気にしていたら負けな気がしてな。」

リサ「それは…違うような…。」

燐子「でも、蓮華さんって優しいですね。」

蓮華「アイツは蘭とは違う幼馴染だしな。」

あこ「え!! そうなの!!」

友希那「美竹さんとは違う幼馴染?」

蓮華「アイツはバトスピ幼馴染だ。子供のころからバトスピで争ってる感じで。蘭とは幼稚園の頃から何気に一緒でさ。」

紗夜「初めて聞きましたバトスピ幼馴染…。」

蓮華「この言葉は俺と權だけだしな。」

そんな風に話しているともう時間が夜11時を回っていた。

Roseliamenバーは布団の引かれてある部屋に行き就寝するのであった。

そして、次の日。午前8時。全員起きて朝食を取る。

そんな朝の会話である。

紗夜「蓮華さんは今日はどうするんですか？」

蓮華「え、ん？ どうしようかな。」

リサ「せっかくだしみんなでショップピングモールのカードショップ行ってデツキの調整しない？」

友希那「いいわね。そうしましょ。」

蓮華「それなら行くか。」

燐子「楽しみですね。」

あこ「うんうん！ みんなと行けるっていいね！」

そうやって蓮華達はショッピングモールのカードショップ行くべく。準備をして出かけるのであった。

それぞれ必要な買い物をし、夕方に蓮華の家に戻り、Roseliaメンバーはお泊り荷物を回収しそれぞれの家に帰るのであった。

第64ターン目 蓮華、花咲川に行く。

蓮華はいつものように学 校に行き教室に入ろうとすると…教師に呼止められて職員室に行く。そこで蓮華は担任から思わぬことを言われた。

担任「すまない、六道。今日からお前には花咲川女子学園に行ってもらおう。」

蓮華「……はい？」

唐突だった。蓮華はほとんど寝ぼけるように聞いていたが一気に目が覚める。

蓮華「待つてください。俺、男ですよ。なんで女子学園に行かなければならないんですか!？」

担任「落ち着け六道。俺も正直、おかしいと思ってる。」

蓮華「じゃあなんで？」

担任「おそらく校長が決めたんだろう。」

蓮華「校長が？」

担任「六道の学習能力、体力とかに期待しているのだろ。男子校だけではお前は世界が狭いとな。」

蓮華「だからと言って女子高なんですか？」

担任「お前は学生でありながら世界を渡った。それは今でも変わらないだろ。おそらく花咲川の校長が君を欲したんだろ。」

蓮華「……。」

担任「他にも羽丘、月ノ森も君を欲していたよ。」

蓮華「待つてください。月ノ森ってあのお嬢様学校ですよ。」

担任「ああ。なんでもあそこも何だろうと思っただらな。おそらく才能だろう。」

蓮華「才能？」

担任「六道、お前はバトスピの直感的な能力が今のお前を者がっている。それを香料が話した瞬間、月ノ森の校長が食い付いた。」

蓮華「……。」

担任「そんなわけで1か月ごとにローテーションのように動いてもらう。何、お前がこの学校を出て行ってもこの学園はお前の母校に変わらない。」

蓮華「それはそうですけど……。」

担任「ローテーションの順番は花咲川から羽丘、月ノ森の順に行き帰ってきてもら

う。」

蓮華「ちゃんと返してくれるんですね…。」

担任「当たり前だろ、お前はここの生徒だ。返してもらわないと困る。それに今回のローテーションはただの学校体験なもんだ。気軽に行け。」

蓮華「…はい…。」

そんなことで蓮華はとんぼ返りのごとく花咲川女子学園に行く。

制服は話終了後渡され着替えた。もちろん男子用の服です。

花咲川女子学園に到着すると校門前にいた教師に案内される。

花咲川教師「ごめんね、急な学校変更で。」

蓮華「いえ。」

花咲川教師「なに、緊張してる?」

蓮華「まあ…。」

花咲川教師「既に全校集会で君がこの学園に来ることを伝えたわ。クラスの場所は2年Eクラスよ。」

蓮華「はい…。」

蓮華はテンションが下がっているものの教師の案内で2年E組に着く。

教師にお礼を言い、蓮華は教室に入るも周りに女子は凄く見てくるのであった。

席に着くと1限目で自己紹介をし質問をされるもパツパツと答えていく。そして昼休み蓮華は適当に弁当を出して食べようとするも蓮華の席に来た女子、花園たえが来た。

たえ「蓮華、これから御昼？」

蓮華「ああ…。たえもか？」

たえ「うん。一緒に食べない？もちろん、ホピパのメンバーとだけ。」

蓮華「構わないけど。」

たえ「じゃあ、行こうか。」

蓮華はたえに連れていかれるようにについていった。クラスのみんなからは「花園さんって凄いな…。」って思われていた。

それはそうだろう。なんせ彼女はバトスピでつながっているのだから。

そして、中庭にて。

香澄「あ、蓮華君！」

沙綾「なんか違和感感じるね。」

有咲「そうだな。」

りみ「え〜つとご苦労様？」

蓮華「それぞれの反応ありがとう。」

そんな感じにみんな御昼を食べる。放課後になると蓮華は教室で適当にぼーっとしている。途端に教室の扉がひらく。

紗夜「やはりここにいましたか？」

蓮華「なんだ？俺を追い返すってか？紗夜先輩。」

紗夜「先輩はやめてください。追い返すだなんてそうは思わないわ。」

蓮華「じゃあ、なんだよ？」

紗夜「いえ、白金さんが蓮華さんがここにいるんじゃないかって言ってたんで…。」

蓮華「燐子が…。」

紗夜「気を遣ったんですよきつと。」

蓮華 「そうゆうアンタもだろ。」

紗夜 「そうですね。」

蓮華 「結局のところなんだよ？」

紗夜 「一緒に帰りませんか？校門で日菜が待ってますし。」

蓮華 「…ああ。帰るか…。」

そういつて蓮華は買える準備して日菜の待つは校門に紗夜と共に向かうと日菜からは驚かれるも蓮華がご丁寧に説明する。納得した日菜は「いいな。」って言うてるがまあ最初じゃなくてよかったと思ってる感じだった。

そんな風に会話するも途中まで紗夜と日菜と共に帰り道を歩くのであった。

第65ターン目 学校生活が辛いよ

花咲川女子学園に来て2日目。女子生徒からは色んな目で見られている。

正直蓮華には辛い状態である。4限目の修行を終えた蓮華は弁当を持って学校の屋上に行こうと教室を出ると、そこには千聖がいた。

蓮華 「なんですか？」

千聖 「蓮華君、丁度よかったわ。」

蓮華 「丁度？」

千聖 「ええ。それと普段通りでいいわよ。」

蓮華 「…で、なんだよ。」

千聖 「御昼でしょ。一緒にどうかしら、もちろん彩ちゃんも一緒よ。」

蓮華 「断つたら？」

千聖 「断る理由はあるのかしら？」

蓮華 「だよな。」

断る理由がない蓮華は千聖に連れられて学校の屋上に行く。

待つていた彩も蓮華を迎えるのであった。

そんなことで昼食を取る蓮華達、数分後昼食を取り終え残った時間は雑談をするのであった。

蓮華「あゝ。」

彩「どうしたの蓮華君？」

蓮華「いや、女子高に男子一人だろ。辛いよ。」

千聖「別に大丈夫でしょ。私や彩ちゃん、ホピパのメンバー等いるんだから。」

蓮華「それがおかしいんだよ。」

彩「何がおかしいの？」

蓮華「連中らはおかしな目で見ている。男子がいることで風紀が乱れるなどそこらが言いそうなやつがいる。考えてみればどうして教師陣それを賛成して俺を入れたのか……。」

千聖「変に細かいこと気にしすぎじゃない？」

蓮華「そうだろうか……。」

彩「そうだよ。現に生徒会長である燐子ちゃんがなんとも言わないから。」

蓮華 「ふーん……うん？」

千聖 「どうしたの？」

蓮華 「燐子……じゃないくて、燐子先輩が生徒会長なのかよ。」

彩 「え、気づかなかった？」

蓮華 「知らないよ。」

千聖 「ちなみに紗夜ちゃんが風紀委員長ね。」

蓮華 「めんどくせ！」

彩 「でも、昨日紗夜ちゃんと一緒に帰ったでしょ？大丈夫だよ。」

蓮華 「……まあ。」

千聖 「1か月の辛抱よ。頑張りなさい。」

蓮華 「……。」

蓮華のテンションが下がってる状態になる。

昼休みの終わりの予鈴がなり自分の教室に戻る。

放課後になり、荷物をまとめていると女子生徒が話しかけてきた。

女子生徒A 「ねえねえ六道君。」

蓮華 「ん？」

女子生徒A 「部活動ってどうするの？」

蓮華 「部活か…考えてなかった。」

女子生徒A 「どこか入ったら？」

蓮華 「でも、ここ女子の部活だろ。男の俺が入ったらダメなんじゃ…。」

女子生徒A 「細かいとはいいだよ。六道君ならテニス、弓道、剣道とか行けそうだけど…。」

蓮華 「聞いちゃいねーし…。まあ、基本的運動部はどこでも…。」

女子生徒A 「へー凄いね。私テニス部だけ一緒にどう？」

蓮華 「見学程度なら…。」

女子生徒A 「じゃあ行こうか！」

蓮華は連れられてテニス部のいるコートに来る。そこには練習中の美咲がいた。

蓮華 「アイツ、テニス部だったのか…。」

女子生徒A 「はいこれ。」

蓮華はテニスラケットを渡された。

蓮華「え？」

女子生徒A「一応やれるようにね。しやあ、私練習しに行くね。」

そう言つてさつて行く。

蓮華「…。」

そうだ待っている…。

美咲「あれ、蓮華さん。」

美咲に声をかけられた。

蓮華「ああ。美咲か。」

美咲「どうして、テニス部に？」

蓮華「連れてこられたんだよ。しかも、ラケットまで渡されたし。」

美咲「ふーん。蓮華さんってテニス初めて？」

蓮華「え、たぶん初めて。」

美咲「たぶんってことは昔やってた？」

蓮華「知らねーよ。まあ、やってみればいいでしょ。」

美咲「その格好でやるの？」

蓮華はまだ制服のままであつた。

蓮華「着替えてくる。」

蓮華は体操服に着替えてきて荷物もコートの際に置いておく。

蓮華と美咲はコートに入って構える。

美咲「（なんか様になつてる。）」

蓮華がサーブを打つ体制を取ってボールを上にあげてサーブを打つ。

その瞬間、ものすごい勢いでバウンドして美咲のいた真横を通り過ぎた。

美咲「…。」

蓮華「…。」

女子生徒達「…。」

顧問「…。」

蓮華「うん？」

蓮華は周りを見る。凄い目で見られていた。」

蓮華「なんかすごいことしたか？」

美咲「ねえ、本当に初めて？」

蓮華「え、うん。」

女子生徒達「どう考えても初めてに見えない…。」

その後、蓮華は美咲とラリーをする。部活終了後、蓮華は顧問に入部をして欲しいと誘われるも断った。

第66ターン目 ライバル遭遇

学校生活を振り返ると水曜日には昼にこころと美咲と昼食を取り放課後は弓道部を見学することになる。そこで紗夜と会い見学をするだけだと思いきや弓道を体験する羽目になった。

木曜、今度こそと一人で昼食を取ろうとした瞬間、香澄により阻止される。放課後は剣道部を見学することになる。見学に来るとまさかのイブと会う。そこで間髪なしに試合をすることになり防具と竹刀を借りてやることになった。試合の結果、蓮華が勝った。

部員からは尊敬の眼差しで見られる。

金曜、ようやく一人で昼食を取ることができた蓮華、疲れたと思いながら昼食を取る。放課後は珍しく早めにバイトがあつたので急ぎ足でバイト先に行く。

5日間の学校生活はあまりにも辛かった。こんな辛い学校生活を1か月やるとなると蓮華は先が思いやられる感じだった。

そして、土曜日。バイトもないので蓮華はC i R C L Eに行くことにした。

そうすると入り口前で見たことのある人物がいた。

蓮華「權？」

その人物は振り向く。

權斗「蓮、久しぶりだな。」

蓮華「權こそ。もしかして大会のエントリーなのか？」

權斗「いや、ここのカードショップを行って見たかったからさ。」

蓮華「なんだ、そうなのか。」

權斗「なんなら一緒にどうだ？」

蓮華「なら御供しよいか。」

權斗「しやあ、行こうぜ。」

蓮華と權斗はC i R C L Eに入り、一緒に買い物をする。

その後、蓮華と權斗はC i R C L Eを出てショップピングモールのカードショップのほうへ移動する。そこでも買い物をして、一旦、席に座って買ったカードの公開などをする。

蓮華「權、ずいぶん凄いの買うな。」

權斗「蓮華こそ。フアラオムなんて物騒なカード買いやがって。」

蓮華「いいだろ、別に。」

權斗「まあそうだな。そういえば蓮華、お前、神樹の切り株都市って何に使うんだ？」

蓮華「え、面白いデッキ思いついたから買ったんだよ。」

權斗「あまり使われないカードだしな。」

蓮華「權も使って面白いカオスを作ろうぜ！」

權斗「カオスか…いいなそれ！」

そんな風に話していると蘭たちAfterglowがいた。

蘭「あれ、蓮華。」

それに気づいた蘭。メンバーも気づいたので蓮華達によ寄ってきた。

蓮華「よお、アフグロもメンバー。」

權斗「なんだ、知り合いか？」

蓮華「1人幼馴染だよ。残りは違うけど。」

權斗「へーそうなんだ。」

權斗とアフグロメンバーはお互い自己紹介して雑談に入る。

蘭「成程、權斗は蓮華のライバルだったんだ。」

蓮華「まあな。」

巴「大会でも実績残してるんだな。」

權斗「蓮ほどじゃないさ。蓮のほうが実績高いしね。」

つぐみ「でも、蓮華さんってチャンピオンシップの後って一度バトスピから手を引いてますよね？」

蓮華「まあそうだな。」

ひまり「蓮華さん、王の創界神を探しに行ってたんだよね。」

蘭「ひまり、それは！」

權斗「王の創界神？なんだそれ？」

蓮華「まあ、そうだよな。簡単に説明するよ。」

蓮華は王の創界神を説明する。かくかくしかじか四角いムーブのように。

權斗「成程な。」

モカ「でも、權斗は王の創界神を行方は知らないんでしょ？」

權斗「そういえば、変な奴に勝負挑まれて勝った時に失敬しといたんだけど…。」

權斗はデッキケースから一枚のカードを取り出す。

そのカードは王の創界神、紫の王ヴリトラだった。

蓮華「お前そのカード!？」

權斗「こいつだろ。お前にやるよ。」

蓮華「いいのか？」

權斗「お前が探していたカードなんだし、いいよ。その代わりなんだが俺とバトルしてくれ。」

蓮華「いいぜ。さっきのカード使ったデッキ使ってやろうか？」

權斗「いいなそれ。見せてくれ。」

蘭「さっきのカードって？」

蓮華「神樹の切り株都市。」

巴「そんなカードどう使うんだよ？」

つぐみ「まあ、見ていれば分かるからいいじゃない？」

ひまり「そうだよ。」

巴「そうだな。」

蓮華と權斗はデッキを取り出しお互いのデッキをカット&シャッフルし、ライフ、リザーブを準備する。手札も準備が完了する。

蓮華「いつでもいいな。」

權斗「ああ、いつでも。」

蓮華・權斗「ゲートオープン解放。」

第67ターン目 ライバル対決 蓮華対權斗

蓮華と權斗、2人はライバルであり、親友だ。
そして現在、2人はバトルする。

權斗「先行は俺がもらう。スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神アヌビスを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：ゴッドシーカーパラサノカンナギ、ライデンハイドラ、轟海覇神ヤマタハイドラノカミ

權斗「対象は3枚、コアを3個シャージ。ターンエンド。」

權斗

ライフ：5 手札：4

フィールド

ネクサス：創界神アヌビス〈3〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ：〈2〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト3で大輔のブイモンをレベル2で召喚。召喚時効果、デッキから4枚オープンしその中の本宮大輔1枚と系統成熟期、完全体、究極体、アーマー体、パートナーを持つ青、緑のカードを手札に加える。」

オープンされたカード：スプラッシュユザッパー、白晶防壁、インペリアルドラモンファイターモード「2」、ストロングドロー

蓮華「対象はインペリアルドラモンファイターモード「2」。残りはデッキ下へ。アタックスステップ前、ブイモンのレベル2、3の進化青、緑発揮。大輔のブイモンを手札に戻しステイングモンを召喚。召喚時効果でボイドからコアを自身に乗せる。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5

手札：5

フィールド

スピリット：ステイングモン（ソウルコア、2）

リザーブ：（0）

コアトラッシュ：（3）

バーストなし

巴「蓮華と權斗、順調な立ち上がりだな。」

蘭「かもね。」

モカ「でも、創界神がない蓮華はちよつと危ういかも。」

權斗「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。コスト3でゴッドシーカーカミムスピハイドラをレベル1で召喚。召
喚時効果、デッキから3枚オープン、その中の創界神スサノオと系統天渡、化神を持つ
赤、青のカードを手札に加える。」

オープンされたカード：闇輝石六将冥恐斬神ディノヴェンジ、刃角竜ステイラクロウ
ド x 2

權斗「対象はディノヴェンジ。残りをデッキ下へ。ターンエンド。」

權斗

ライフ：5 手札：5

フィールド

スピリット：ゴッドシーカーカミムスビハイドラ〈1〉

ネクサス：創界神アヌビス〈3〉

リザーブ：〈ソウルコア〉

コアトラッシュ：〈3〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。大輔のブイモンをレベル1で召喚。召喚時デッキから4枚オープン。」

オープンされたカード：リリモン、パイルドラモン、アルファモン、インペリアルドラモンファイターモード「2」

蓮華「対象はパイルドラモン。残りはデッキ下へ。アタックステップ、ステップ間でアタック。アタック時効果でボイドからコアを自身に。さらに超進化緑、青発揮。スティングモンを手札に戻し、パイルドラモンを召喚。パイルドラモンの召喚時効果、コスト7以下の相手スピリットを破壊する。パイルドラモンでアタック。レベル2、3のアタック時効果、ボイドから2個を自分のスピリットに置き、ターンに1回このスピリットは回復する。パイルドラモンにコアを置いて回復。」

權斗「フラッシュはない、ライフで受ける。」

權斗：ライフ5↓4

蓮華「ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5

手札：6

フィールド

スピリット：パイルドラモンへソウルコア、5、大輔のブイモンへ1

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈2〉

バーストなし

權斗「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減1、コスト6で闇輝石六将冥恐斬神、ディノヴェンジをレベル1で召喚。創界神アヌビスのコアシャーシ發揮。アタックステップ、ディノヴェンジでアタック。アタック時の効果でBP合計12000まで破壊する。大輔のブイモンを破壊。」

蓮華「フラッシュはなし、ライフで受ける。」

蓮華：ライフ5↓4

權斗「ターンエンド。」

權斗

ライフ4 手札：5

フィールド

スピリット：闇輝石六将冥恐斬神デイクヴェンジ（ソウルコア）（疲労中）

ネクサス：創界神アヌビス（4）

リザーブ：（0）

コアトラッシュ：（6）

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト2で賢のワームモンをレベル2で召喚。召喚時効果、
デッキから4枚オープン。その中の系統成熟期、完全体、究極体、パートナーのを持つ
青、緑のカードを手札に加える。」

オープンされたカード：インペリアルドラモンパラディンモード、本宮大輔、リリモ
ン、一乗寺賢

蓮華「対象は一乗寺賢とパラディンモード。残りはデッキ下へ。さらに軽減1、コス

ト4で神樹の切り株都市を配置。不足コストはパイルドラモンのから使用。アタックステップ前、ワームモンのレベル2、3の進化青、緑発揮。賢のワームモンを手札に戻し、ステイングモンを召喚。召喚時効果でボイドからコアを自身に置く。アタックステップ、パイルドラモンでアタックアタック時、コアを2個パイルドラモンに置き、回復。」

權斗「フラッシュはなし、ライフで受ける。」

權斗：ライフ4↓3

蓮華「再びパイルドラモンでアタック。ボイドから2個をパイルドラモンに置く。」

權斗「その攻撃もライフで受ける。」

權斗：ライフ3↓2

蓮華「自分のエンドステップ、神樹の切り株都市の効果、デッキから1枚オープン。そのカードが緑のスピリットとき召喚できる。召喚しない、または、他のカードのときは

デッキの上に戻す。」

オーブンされたカード：リリモン

蓮華 「緑のスピリットのため、軽減3、コスト4でリリモンをレベル1で召喚。不足コストはパイルドラモン、ステイングモンからリリモンに置く。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：4 手札：6

フィールド

スピリット：パイルドラモン〈ソウルコア、2〉（疲労中）、ステイングモン〈2〉、リリモン〈1〉

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈10〉

バーストなし

ひまり 「凄い、いいタイミングでリリモンを召喚した。」

つぐみ「でも、デイノヴェンジがいるからリリモンかパイルドラモンは破壊される。」
モカ「破壊次第で蓮華の動きが厳しくなりそう。」

蘭「…。」

權斗「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト2で創界神スサノオを配置。配置時効果、3枚オープ
ン。」

オープンされたカード：コッドシーカーカミムスビハイドラ、三ツ首恐竜ロマレオノ
アラガミ、ライデンハイドラ

權斗「対象のカードは3枚、コアを3個シャージ。さらに軽減3、コスト3で恐龍武
神ムラグモレックスをレベル3で召喚。創界神スサノオ、創界神アヌビスのコアチャー
ジ発揮。アタックステップ、ムラグモレックスでアタック。アタック時効果、天界放
赤または青の創界神からコアをこのスピリットに置ける。そうしたとき、このスピリッ
ト以下のスピリット、アルティメット1体を破壊する。さらに青のシンボルがあるとき
相手の創界神のコアを2個ボイドに置き、ターンに1回、このスピリットは回復する。
アヌビスからコアをムラグモレックスに置き13000以下のを破壊する。破壊対象

は、パイルドラモン。青シンボルがあるので創界神の対象はなし、ムラグモレックスは回復。レベル2、3のアタック時効果でこのスピリットが相手のスピリット、アルティメットを破壊したとき、相手のライフのコアを1個リザーブに送る。」

蓮華：ライフ4↓3

蓮華「フラッシュはない、ライフで受ける。」

蓮華：3↓2

權斗「再びムラグモレックスでアタック。天界放でアヌビスのコアをムラグモレックスに置き、13000以下を破壊、リリモンを破壊する。そして、レベル2、3のアタック時でライフをリザーブに置く。」

蓮華「フラッシュはなし、ステイングモンでブロック。」

權斗「デイノヴェンジでアタック。」

蓮華「フラッシュタイミング、コスト4でマジック、白晶防壁を使用。デイノヴェンジを手札に。」

權斗「ターンエンドだ。」

權斗

ライフ：2

手札：5

フィールド

スピリット：ムラグモレックス〈8〉（疲労中）

ネクサス：創界神アヌビス〈1〉、創界神スサノオ〈4〉

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈5〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト2で一乗寺賢を配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：大輔のブイモン、パイルドラモン、インペリアルドラモンパ
ラ Dein モード

蓮華「対象のカードは3枚、コアを3個シャージ。軽減2、コスト1で本宮大輔を配

置、配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：大輔のブイモン、リリモン、トゲモン「3」

蓮華「対象のカードは3枚、コアを3個チャージ。フル軽減、コスト1で賢のワームモンをレベル1で召喚。本宮大輔、一乗寺賢にコアチャージ発揮。召喚時効果でデッキから4枚オープン。」

オープンされたカード：本宮大輔、インペリアルドラモンファイターモード「2」、アルファモン、パイルドラモン

蓮華「対象はパイルドラモン。残りをデッキ下へ。軽減3、コスト4でパイルドラモンをレベル3で召喚。本宮大輔、一乗寺賢にコアチャージ発揮。召喚時効果、コスト7以下を破壊。ムラグモレックスを破壊。アタックステップ、パイルドラモンでアタックレベル2、3アタック時でコアをパイルドラモンに置き回復。」

權斗「フラッシュはない。」

蓮華「フラッシュユタイミング、軽減4、コスト2でインペリアルドラモンファイター

モード「2」のチェンジを使用。相手のスピリット、アルティメットを疲労させその後、疲労状態のスピリット、アルティメットをデッキ下に送る。対象のスピリット、アルティメットはいないため疲労の対象はなし。この効果発揮後このカードを破棄するか、系統完全体、究極体を持つ緑、青のスピリットと回復状態に入れ替える。バトル中ならバトルを続ける。パイルドラモンと入れ替えてインペリアルドラモンファイターモード「2」を召喚。本宮大輔、一乗寺賢のコアチャージ発揮。」

權斗「ライフで受ける。」

權斗：ライフ2↓1

蓮華「インペリアルドラモンファイターモード「2」でアタック。レベル2、3のアタック時効果、カード名に本宮大輔と一乗寺賢があるとき緑と青シンボルを追加する。」

權斗「フラッシュユタイミング、手札のブラックウオーグレイモンの効果。BP8000以上のスピリット、アルティメットがアタックしてきたとき、コスト1払って、召喚。ブラックウオーグレイモンをレベル3で召喚。創界神スサノオ、創界神アヌビスのコアチャージ発揮。召喚時効果でBP12000以下の相手スピリット、アルティメットを破壊。賢のワームモンを破壊。」

蓮華「フラッシュユタイミング、本宮大輔の神技發揮。コア3個をボイドに送り、このバトルの間、系統完全体、究極体を持つ青のスピリットは効果の記述のある相手にスピリットからブロックされない。」

權斗「っ！負けたか…ライフで受けう。」

權斗：ライフ1↓0

蓮華：WIN

權斗：LOSE

第68ターン目 本命つとは…

權斗との勝負に勝った蓮華。ギリギリの戦いに少々疲れが出てきた。

蓮華「勝てた。」

權斗「くそ、負けた。」

巴「でも、熱いバトルだったぜ！」

つぐみ「そうだよ！」

蓮華「みんなそう思うならよかったよ。」

權斗「流石にパラディンモード握っていたからそっち使うかと思ったのにな。」

蓮華「残念だったな。」

蘭「でも、パラディンモードでもよかったんじゃないの？」

蓮華「まあね。でも、打点やるならインペリアルドラモンファイターモード〔2〕かなって。」

權斗「慢心はダメだったな。」

モカ「容赦なしだね。」

蓮華「そりやな。」

そう話していると見たことのあるメンバーが蓮華達に近づいてきた。

友希那「蓮華。」

蓮華「ん？」

蘭「湊さん。」

蓮華「なんだ、友希那達か。」

權斗「知り合いか？」

蓮華「ああ。紹介するよ。」

蓮華は權斗に Roseliaメンバーを紹介する。

權斗「よろしくな。」

友希那「ええ、よろしく。」

リサ「それで蓮華は何していたの？」

蓮華「權と勝負していたんだ。」

權斗「いい勝負だったんだけどな。」

あこ「蓮兄って何使ったの？」

蓮華「え、神樹の切り株都市入りの緑青デジモンデツキ。」

紗夜「珍しいものを使いますね。」

蓮華「結果的に要らないんだけどね。」

リサ「まあ、蓮華って面白いデツキなら何でも作りそうだし。」

蓮華「ハハハハハ。そうだな。」

權斗「他にもあんのか？」

蓮華「脳筋デツキと化神デツキ。」

ひまり「脳筋デツキ？」

權斗「懐かしいな、グラン・ジークだろ。」

蓮華「おう。楽しい楽しいあのデツキだよ。」

權斗「俺も作ったけどあれは楽しいな。」

蓮華「だろ！」

蓮華・權斗「ハハハハハ！」

燐子「蓮華さんと權斗さんって似てるかもしれないね。」

友希那「ええ…。」

リサ「まあまあ友希那。」

巴「蘭もシヨック受けんなって。」

蘭「受けてない！」

モカ「分かりやすーい。」

蘭「モカ！」

權斗「にしても女の知り合い多いよな。」

蓮華「そうか？」

權斗「なあ蓮華。本命っている？」

蓮華「本命？」

R o s e l l i a ・ ア フ グ ロ 「 ！ ！ 」

權斗「ゲロっちまえよ。」

蓮華「えー。ヤダ。」

權斗「なんだよ。面白そうなのにな？」

蓮華「面白そうで聞くな。」

友希那・蘭「蓮華！」

蓮華「なんだよ…2人して。」

友希那「気になる人っているの？」

蘭「聞きたいな…。」

蓮華「…言わなきやダメか？」

友希那「ダメよ。」

蘭「ダメ。」

巴「即答だな。」

リサ「まあいいじゃない。アタシも気になるし。」

蓮華「…あえて言うならたえ、有咲、千聖、麻弥、美咲だな。」

權斗「…。」

Rosealia「…。」

Afterglow「…。」

蓮華「なんだよ。」

權斗「5人いるのね…。」

蓮華「？」

蓮華はあまり理解していない感じであつた。

そして、名前を言われなかつたメンバーは案外ショックを受けたのであつた。

第69ターン目 王たちの願い

現在蓮華は家で王の創界神のカードを並べてみていた。

蓮華「…こう見てみるとなんか凄いな。」

そんな風に見ているとカードが光出す。

蓮華は驚き距離を取る。そうすると光が収まりその光の中から6人の姿が現れた。

蓮華「な、なんだ？」

？「すまぬ、我がが王よ。突然の訪問を許して欲しい。」

？「少し硬いのでありませんかイザナギ殿。」

イザナギオオカミ「そうであろうか。」

蓮華「…。」

？「あら、どうしたの我が王。」

？「驚いているのであろうよイシユタル。」

イシユタル「あら、そうなのヴリトラ。」

ヴリトラ「そうであろう。誠に申し訳ない。」

蓮華「い、いや、問題ないよ。」

？「あまり無理はなさらいでください。」

？「アイアンロッドよ、心配はいらんだろう。」

アイアンロッド「少しは心配するのが我が王のためですよノア。」

ノア「そうですか…。」

蓮華「ところで色々教えて欲しいことがあるんだけど…。」

イザナギオオカミ「そうですね。我々のことを自己紹介しましょう。我は赤の王、イ

ザナギオオカミ。」

ノア「青の王、ノアだ。」

ヴリトラ「紫の王、ヴリトラ。」

アイアンロッド「白の王、アイアンロッド。」

イシユタル「黄の王、イシユタルよ。」

？「…。」

蓮華「うん？イシユタルの後ろにいる小さいや子供のような子って…。」

イシユタル「ええ。ほら自己紹介しなさい。」

? 「み、緑の王、ユグドラシル。」

蓮華「…。」

イザナギオオカミ「驚いているのか？」

蓮華「まあ、普通にね。」

イザナギオオカミ「しかし、ようやく会えた。」

蓮華「…。」

イザナギオオカミ「説明しよう、今の現状を。」

蓮華は説明を受けた。

王の創界神とセラフの創界神の今の状況。

そして、中立の立場にいる天聖の創界神こと…。

蓮華「要約するとセラフの創界神は王の創界神に喧嘩を売って、それを買ったのが王の創界神。そして、中立いる天聖の創界神はどちらに着くか迷っているって感じか…。」

イザナギオオカミ「いかにも。」

ノア「我々はセラフのやり方についていけないのだ。」

蓮華「何故？」

アイアンロッド「我々に従えば道なき道を開けようぞ。この言い方はまさしく犠牲者を生むだけです。」

蓮華「命令に従っていれば平和が訪れるだろうね…。確かにこのやり方は…。」
イシユタル「このままいけば間違いない。我々は戦争になるでしょう。」

蓮華「…。」

ユグドラシルは蓮華に近づいて無言で抱きしめる。

蓮華「ユグドラシル!？」

ヴリトラ「気に入っているのだろう。」

蓮華「…。」

ユグドラシル「止めて。セラフを…。」

蓮華はユグドラシルを抱きしめ返す。

蓮華「止めるよ。絶対に。」

イザナギオオカミ「それでこそ我が王だ。」

蓮華「その代わり…。」

ノア「分かっている。力を貸して欲しいのだろう。」

蓮華「ああ。」

アイアンロッド「任せてください。」

イシユタル「私たちはそのためにいるのですから。」

蓮華「…ありがとうございます。」

こうして王と蓮華の初遭遇と願いを聞き入れた。

蓮華はバトスピチャンピオンシップの本戦が本当の戦争になると考えていた。

第70ターン目 バトスピチャンピオンシップ予選

王達の願いを聞き入れた次の日。ついに始まるバトスピチャンピオンシップ予選。蓮華と兼続、明日奈は会場に合流し兼続と明日奈は初対面なため自己紹介をする。自己紹介を終え、これから大会の受付するのである。

蓮華「すみません。」

受付嬢「はい、受付ですね。チーム名とメンバーの名前をお願いします。」

蓮華「え…。チーム名…。」

兼続「決めてなかったのか？」

蓮華「ああ、全く。」

明日奈「うーん、どうしようか。」

蓮華「めんどくさいし、烈火の翼でいい？」

兼続「なんだそのチーム名。」

蓮華「なんていうかデツキの内容のこと考えてな。」

兼続「成程な。」

明日奈「いいと思うよ。」

蓮華「なら決まり。チーム名は烈火の翼、メンバーは六道蓮華、結城明日奈、杉田兼続だ。」

受付嬢「かしこまりました。」

受付嬢は手早くパソコンを操作していく。

受付嬢「受付が終わりました。烈火の翼は予選ブロックを抜けて予選トーナメントから出場です。」

蓮華「え？」

兼続「予選トーナメントからだと…。」

明日奈「それってシード枠ってこと？」

受付嬢「そうですね。六道蓮華様は以前の大会で優勝してトップをキープしてるので今回はシード枠にされております。」

蓮華「成程な。ってことはしばらくは敵情視察ってことか…。」

兼続「そうだな。」

蓮華達は受付から離れてモニターのあるところに移動する。

蓮華「全部で8ブロック。しかも、いい風に別れてるな。」

明日奈「うん。パスパレメンバーや他のチームも綺麗に別れている。」

蓮華「これなら1日で何とかかなりそうだな。」

兼続「なんでだ？」

蓮華「簡単だよ。みんな相当強くなってるから可能性として相手を圧倒かな。」

明日奈「それはそれで凄いんじゃない？」

蓮華「特にRoseliaは圧倒的の強さを持つてんだろ。」

明日奈「ガールズチームの中でトップを走ってるもんね。」

蓮華「ああ。」

そんな風に話していると予選ブロックの対戦がスタートする。

蓮華の予想道理、Roseliaがブロック内トップを走っていた。

その他にも、Afterglowもブロック内トップを走っていた。

蓮華達はトーナメントの組み合わせが分かるまで近くのカフェで待っていた。

そして夕方、ついに、トーナメントの組み合わせが分かる時間になった。

会場に戻った蓮華達は組み合わせを見る。

第1回戦

AfterglowVSμs
ワールド
イエロースピリッツVSハロー、ハッピー

RoseliaVSPoppin', Party
esVS運命ノ翼
PastelPalett

烈火の翼：シード枠。

蓮華「早速潰しあいのある試合だな。」

兼続「俺たちは2回戦からか…。」

蓮華「運命ノ翼：權のいるチームだな。」

兼続「ライバルとの勝負が楽しみか？」

蓮華「当たり前だろ。アイツは必ず決勝に上がってくる。」

明日奈「私たちはAfterglowとμs、どっちかが勝てば私たちと当たる。」

蓮華「楽しみだぜ。」

この時の蓮華は笑っていた。

そして蓮華達は会場を去ってそれぞれの家に帰るのであった。

第71ターン目 圧倒的打点、モカの甲竜デッキ

予選ブロックを行ってから5日後、ついに始まる予選トーナメント。

第1試合はAfterglowVSμsとなっている。蓮華のチーム、烈火の翼は観客席で試合を見ることになった。ホピバ、パスパレ、ロゼリア、ハロハピメンバーも観客席で試合を見ることになっていた。

実況者「これより、AfterglowVSμsの試合の開始だ！」

会場は盛り上がる。

実況者「さて、ルールは簡単、チームから代表を出してもらい勝負する。負けたものは次の試合からは出られず、勝つたものはそのまま行くか交代することができる。先に2勝したほうが勝者となる簡単なシステムだ！。さて、Afterglowからはだれが出る？」

蘭「…。」

モカ「モカが行くよ。」

巴「いいのかよ？」

モカ「モカは強いですから。」

そう言つてモカはバトルフィールドに立つ。

実況者「Afterglowからは青葉モカ選手！対するは、sからは星空凛（ほしぞらりん）選手だ！」

モカ「よろしくおねしやーす。」

凛「よろしくにやん。」

実況者「さあ、互いのデッキをカット&シャッフル。」

実況者の言われた通りにカット&シャッフルする。ライフ、リザーブを準備してデッキをデッキ置き場置き、手札を用意する。

実況者「さあ、1試合！」

モカ・凜「ゲートオープン界放！」

実況者「先行はモカ選手だ！」

モカ「スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で維持の創界神ヴィシユヌを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：ゴッドシーカーヴァーマナ、三龍宝剣アブソリユートキャリバー、ゴッドシーカーコル・パープル

モカ「対象は3枚、コアを3個チャージ。さらに軽減1、コスト1で、創界神クリシユナを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：クリシユナーガ・アルターリース、神龍甲笛バガヴァットギーター、クリシユナーガ・アルティース

モカ「対象3枚、コアを3個チャージ。さらに軽減1、コスト1で維持の創界神ヴィシユヌをもう1枚配置。」

観客席で見ていた蓮華は完全に思考が停止しそうになっていた。

兼続「どうした蓮華？」

蓮華「やべーぞ。この勝負モカの勝ちだ。」

明日奈「え？」

モカ「ターンエンド〜。」

モカ

ライフ：5

手札：3

フィールド

ネクサス：維持の創界神ヴィシユヌへ3、維持の創界神ヴィシユヌへ0、創界神クリシユナへ3

リザーブ：へ0

コアトラツシユ：へ3、ソウルコア

バーストなし

凜「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト5でマジック、エクストラドロージャーを使用にや。デッキから2枚ドロージャーしてその後、デッキ上からカードを1枚オープンする。そのカードが赤の場合、手札に。そのほかの場合はデッキの上に戻すにや。」

オープンされたカード：輝竜シャイン・ブレイザー

凜「赤のカードなため手札に。ターンエンドにや。」

凜

ライフ：5 手札：6

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈4、ソウルコア〉

バーストなし

実況者「さて、お互い準備を整えつつあるぞ！」

モカ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ

インスタテップ。軽減3、コスト3で神撃甲龍ジャガンナートをレベル1で召喚。創界神たちのコアチャージ發揮。さらに軽減3、コスト1で神龍甲笛バカヴァット・ギーターをジャガンナートにダイレクトブレイヴ。創界神たちのコアチャージ發揮。アタックステップ、ジャガンナートでアタック。アタック時界放。相手のスピリット、アルティメットを3体手札に戻すけど対象なし。その後、白の創界神のコアをこのスピリットに置くことでこのバトルの間、相手の手札、手元のカード合計3枚につき白シンボルを追加する。最大2個だよ。」

凜「にや!？」

蘭「打点が!」

巴「嘘だろ…。」

ひまり「早すぎるよ…。」

つぐみ「やると思った…。」

モカ「クリシユナからコアを3個をジャガンナートに置いて、相手の手札の手札合計が6なのでシンボル2個追加。さらにヴィシユヌの神域の効果でこのネクサスと系統甲竜を持つ本来のコスト6以上の自分スピリットすべてに白シンボルを追加するよ。だからジャガンナートのシンボルは現在5点なり。」

この瞬間、星空凜の敗北が決した。

実況者「まさかの展開！モカ選手、ジャガンナートでまさかの5打点だー！」。
凜「…ライフで受けるにや…。」

凜：ライフ5↓0

実況者「まさかの先行2ターンキル。勝者青葉モカ選手！」

モカ「モカちゃんは強いなり〜。」

凜「…。」

凜はまさかの2ターンキルでショックを受けていた。

観客席で見えていたものは…

蓮華「えげつないな。」

明日奈「大会でやられると余計ショックだよね。」

他メンバー「うんうん…。」

モカのプレイングは意外に天才なのかもしれない…。

第72ターン目 凶器の赤、滅龍

モカの2ターンキルによって圧倒的な力を見せた。

負けた凜はバトルフィールドから離れてチームの元へ戻る、同様にモカもチームの元に戻る。

蘭「お疲れ。」

モカ「モカちゃん的にはもう少し粘って欲しかった。」

つぐみ「でも、しょうがないよ。相性の問題もあるし。」

実況者「さて、μ s後がないぞ！さて、次は2戦目になるぞ！」

巴「アタシが行く！」

蘭「巴…。」

巴「蘭、お前は蓮華とのバトルに備えるんだ。」

蘭「！」

ひまり「大丈夫なの？」

巴「ああ、任せておけ！」

巴はバトルフィールド元へ行く。

実況者「さて、次のバトルはAfterglowからは宇田川巴選手！対するμsからは園田海未（そのだうみ）選手！さてお互いのデッキをカット&シャッフルだ！」

言われた通りお互いのデッキをカット&シャッフルしライフ、リザーブを準備し、手札を用意する。

実況者「さあ、2戦目スタートだー！」

巴・海未「ゲートオープン解放！」

実況者「先行は海未選手！」

海未「スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。4コストで千間観音堂をレベル1で配置。」

巴「デッキ破棄か。」

海未「ターンエンドです。」

海未

ライフ：5

手札：4

フィールド

ネクサス：千間観音堂〈0〉

リザーブ：〈0〉

コアトラツシュ：〈0、ソウルコア〉

バーストなし

巴「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト3でギルモンをレベル2で召喚。召喚時効果でデッキから5枚オープンし、その中の松田啓人1枚と系統滅龍持つスピリット、グラニー1枚を手札に加える。残ったカードはデッキ下にする。」

オープンされたカード：グラニ、メガログラウモン、リミテッドバリア、グラウモン、松田啓人

巴「対象は松田啓人、グラニ、グラウモン。残りをデッキ下へ。アタックステップ開

始前にギルモンのレベル2、3の進化赤発揮。ギルモンを手札に戻し、グラウモンをノーコスト召喚してターンエンド。」

巴

ライフ：5 手札：7

フィールド

スピリット：グラウモンへソウルコア、1◇

リザーブ：〈0〉

コアトラッシュ：〈3〉

バーストなし

海未「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減1、1コストで創界神ポセイドンを配置。配置時効果で3枚オープン。」

オープンされたカード：マリンエンジェモン、アルティメットキャツスルゴレム、獣童パンサー

海未「対象は2枚、コアを2個チャージ。さらに、軽減2、2コストで神海賊皇子トリトーンをレベル2で召喚。創界神ポセイドンのコアチャージ發揮。召喚時効果で相手のデッキから2枚除外します。」

巴「まだいけるぞ…。」

海未「アタックステップ、トリトーンでアタック。アタックステップ効果で神海を含むスピリットがアタックしたことによりデッキから2枚除外。さらにバトルの間シンボル0になります。」

巴「アタックしても除外かよ！フラッシュはない、ライフで受ける。」

海未「ターンエンドです。」

海未

ライフ：5 手札：3

フィールド

スピリット：神海賊皇子トリトーンへソウルコア、1（疲労中）

ネクサス：千間観音堂（0）、創界神ポセイドン（3）

リザーブ：（0）

コアトラッシュ：〈3〉
バーストなし

巴「除外枚数はまだ4枚、このままで終わらねーよ。」スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減1、コスト1で松田啓人を配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：レオモン（テイマーズ）x2、ファイナル・エリシオン

巴「対象は2枚、コアを2個チャージ。さらにファイナル・エリシオンの効果で松田啓人の効果でトラッシュに置かれたとき、手札に加える。そうしたとき、ボイドから1個を自分の創界神に置く。そして、もう1枚松田啓人を配置する。グラウモンのレベルを3に上げて、アタックステップ。グラウモンでアタック。ぐらい門のアタック時効果で、BP7000以下のスピリット1体か、相手のネクサスを破壊する。千間観音堂を破壊。」

海未「つく！」

巴「さらにレベル2、3の効果、超進化赤発揮。グラウモンを手札に戻し、メガログ

ラウモンをノーコスト召喚。松田啓人の2体にコアチャージ発揮。メガログラウモンでアタック。アタック時効果で相手のブレイヴを破壊するけど対象はなしでさらにデツキから2枚ドロロー。」

海未「フラツシユはありません。ライフで受けます。」

海未：ライフ5↓4

巴「ターンエンドだ。」

巴

ライフ：5 手札：8

フィールド

スピリット：メガログラウモンへソウルコア、3（疲労中）

ネクサス：松田啓人へ4、松田啓人へ1

リザーブ：（0）

コアトラツシユ：（2）

バーストなし

海末「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減2、2コストでマジック、ストロングドローを使用します。デッキから3枚ドロージ、手札から2枚捨てます。：バーストをセット。軽減2、2コストで海帝国の秘宝をレベル1で配置。アタックステップ、トリートンでアタック。アタック時効果で、デッキから2枚除外し、シンボル0。」

巴「フラッシュシユはない、ライフで受ける。」

海末「ターンエンドです。」

海末

ライフ：4 手札：2

スピリット：神海賊皇子トリートンへソウルコア、1（疲労中）

ネクサス：創界神ポセイドン（3）、海帝国の秘宝（0）

リザーブ：（2）

コアトラッシュ：（3）

バーストあり

巴「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。メガログラウモンにリザーブを全て置き、ソウルコアをトラッシュに置き、デュークモンに煌臨。」

海未「来ましたね。」

巴「松田啓人の2体のコアチャージ発揮。アタックスステップ、デュークモンでアタック。アタック時効果でシンボル2以下の相手スピリット、アルティメットを破壊する。」

海未「トリトーンは相手の効果では破壊されません。」

巴「でも、このアタックはどうする?」

海未「フラッシュはありません。」

巴「フラッシュユタイミング、松田啓人の神域発揮。ターン1回、このネクサスのコア5個をデュークモン含むスピリットに置くことで、相手のライフを2個まで相手のリザーブに送る。」

海未：ライフ4↓2

海未「(まさか…すでにクリムゾンモードを持つてるのでは…)フラッシュはありませぬ。」

巴「フラッシュユタイミング、軽減2、コスト5でデュークモンクリムゾンモードのチェンジを使用。」

海未「やつぱり！」

実況者「なんとということだ！ここで滅龍の最大の切り札クリムゾンモードのチェンジが来たぞ！」

巴「チェンジの効果でシンボル合計3まで破壊できるが、トリートーンは破壊されない。けど、効果発揮後、コスト7以上の自分の赤1色のスピリットと回復状態に入れ替える。バトル中ならバトルを続ける。」

海未「(防ぐ方法がない…) ライフで受けます。」

海未：ライフ2→1

巴「クリムゾンモードでアタック。」

海未「フラッシュはありませぬ。ライフで受けましょ…。」

海未：ライフ1→0

実況者「決着！勝者は宇田川巴選手！よって、Afterglowは1回戦突破！」

巴「よし！」

海未はそのままチームメイトの元へ戻っていき報告しそのままチームメイトとその場を去っていった。

それを見ていた蓮華は仲間に「少し用ができた。」って言い観客席を去る。

μ, sは観客席に行くべく移動していると…

蓮華「よう！」

μ, s「蓮華！／蓮華君！」

穂乃果「蓮華君どうしているの？」

蓮華「まあ、ちよつとな。」

海未「様子を見に来たんですね。」

蓮華「ああ。海未、惜しかったな。」

海未「いえ、相手は滅龍でしたのでおそらくと思っていました。」

蓮華「バーストはヴィシユータンだった。」

海未「！」

絵里「よくわかったわね。」

蓮華「まあな。あそこで相手のターンを飛ばすならヴィシユータンかフアラオムだろうってな。」

希「流石わ、蓮華君やな。」

蓮華「そうでもねーよ。凜に関しては：何とも言えねーな。相手は甲竜だし、しかも手札が良過ぎた。」

花陽「何も言えないんだね…。」

蓮華「だって、運ゲーだもん。」

にこ・真姫「まさかの運ゲー発言！」

蓮華「まあ、お前らこれからの大会の観戦してくといいさ。必ずいい勉強になるぜ。」

そうやって蓮華はその場を去り、観客席に戻る。

次の試合であるハロー、ハッピーワールドとイエロースピリッツの試合はハローハッピー、ワールドの圧勝で終わった。

次は烈火の翼V S A f t e r g l o wの試合である…。

第73ターン目 同時アタックの脅威

1回戦の第1、2試合は終わり次は第3試合だった。

実況者「次は第3試合RoseliaVSPoppin, Partyだ！」

RoseliaとPoppin, Partyは会場の内のベンチに入場しており先に誰が出るかを相談していた。

相談の結果…

実況者「さあ！Roseliaからは氷川紗夜選手！Poppin, Partyからは市ヶ谷有咲選手だ！」

2人は真ん中のバトルフィールドに立つ。

紗夜「市ヶ谷さん、すみませんが負けるわけにはいきませんので…。」

有咲「すいません、私も負けられませんので…。」

実況者「さあ！お互いのデッキをカット&シャッフル！」

有咲と紗夜はお互いのデッキをカット&シャッフルしお互いのデッキ置き場に置く。
ライフ、リザーブを準備し手札の準備完了する。

実況者「さあ！第3試合の開始だ！」

有咲・紗夜「ゲートオープン解放！」

実況者「先行は有咲選手だ！」

有咲「スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神アレスを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：ゴッドシーカー天騎士オールリイチ、殻神騎士ナイト・オブ・グラディウス、跳騎士クルバツタ

有咲「対象のカードは3枚。コアを3個チャージ。バーストをセットしてターンエン

ド。」

有咲

ライフ：5

手札：3

フィールド

ネクサス：創界神アレス〈3〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ：〈2〉

バーストあり

紗夜「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト3でゴッドシーカー・ネガズボッグをレベル1で召喚。召喚時効果、デッキから5枚オープンしてその中の創界神アルテミス1枚と系統界渡、化神を持つ白のスピリットカードを手札に加える。」

オープンされたカード：アルテミスの大樹神殿、創界神アルテミス、天月神獣ファナテック・エルク、ネメアー・レオSVL00、メタルガルルモン

紗夜「対象は創界神アルテミスとメタルガルルモン。さらにアルテミスの大樹神殿の効果、自分の白の効果でデッキからオープンされたこのカードは手札に加える。残りのカードはデッキの下へ。ターンエンド。」

紗夜

ライフ：5 手札：7

フィールド

スピリット：ゴッドシーカー・ネガズボッグ〈1〉

リザーブ：〈ソウルコア〉

コアトラッシュ：〈3〉

バーストなし

有咲「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減1、コスト2で甲蛾忍ゲンマコガネをレベル1で召喚。召喚時効果、相手が手札を1枚破棄しなければ、ボイドからコアを2個をこのスピリットに置く。」

紗夜「(どれを捨てましょうか…手札を捨てなければコアブーストされてしまいますから…ここは…。) 手札1枚を捨てましょう。」

有咲「(ブレイヴのカードを捨てた…) ターンエンド。」

有咲

ライフ：5

手札：4

フィールド

スピリット：甲蛾忍ゲンマコガネ〈1〉

ネクサス：創界神アレス〈3〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ：〈2〉

バーストあり

紗夜「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト1で創界神アルテミスを配置。配置時効果、3枚オー
ン。」

オープンされたカード：ゴッドシーカー・ネガズボッグ x 2、黒皇機獣ダークネス・グリフォン X

紗夜「対象のカードは3枚、コアを3個チャージ。さらに軽減2、コスト1でアルテミスの大樹神殿をレベル2で配置。さらにバーストをセット。ターンエンド。」

紗夜

ライフ：5

手札：4

フィールド

スピリット：ゴッドシーカー・ネガズボッグ〈1〉

ネクサス：創界神アルテミス〈3〉、アルテミスの大樹神殿〈1〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ：〈2〉

バーストあり

有咲「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メ

インスタテップ。軽減2、コスト4で巨蟹武神キャンサードXをレベル1で召喚。創界神アレスのコアチャージ発揮。」

実況者「キター！キャンサードX！」

紗夜「やはり持っていましたか……！」

有咲「アタックステップ、アレスの神域の効果でシンボル2以下のスピリットは同時アタックができる。キャンサードXとゲンマコガネで同時アタック。さらにキャンサードXは化神、光導を持つスピリットがアタックするとき相手は2体でブロックしないとブロックできない。ブロックするとき、どれか1体とバトルする。」

紗夜「キャンサードXはをブロックするには2体必要……ネガズボックがブロックできないのはゲンマコガネだけ……2体ともライフで受けます。」

紗夜：ライフ5↓3

紗夜「ライフ減少時、バースト発動！紅炎の戦姫ブリュンヒルデ！ブレイヴしていない相手スピリット、アルティメットをすべてを手札に戻す。そして、レベル2で召喚します。創界神アルテミスのコアチャージ発揮。」

有咲「ターンエンド。」

有咲

ライフ：5 手札：6

フィールド

ネクサス：創界神アレス〈4〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラツシユ：〈4〉

バーストあり

紗夜「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ、メ
インステップ。軽減1、コスト1で創界神アルテミスを配置。さらに、アルテミスの大
樹神殿のレベル2の効果で系統機獣のスピリットを召喚するとき、このネクサスと自分
のカード名、創界神アルテミスすべてに白のシンボルを2つ追加する。フル軽減、コス
ト2で月天獣フアナテツク・エルクをレベル2で召喚。創界神アルテミス2体のコア
チャージ發揮。アタックステップ、ブリュンヒルデでアタック。アタック時、ブロック
時効果でターンに1回このスピリットは回復する。」

有咲「ライフで受ける。」

有咲：ライフ5↓4

有咲「…。」

紗夜「(バーストを発動しない？何かを狙っているのでしょうか…) ファナテック・エルクでアタック。」

有咲「ライフで受ける。」

有咲：ライフ4↓3

有咲「ライフ減少時、バースト発動！」

紗夜「(…こで!?)」

有咲「斬騎士ラグマンティス！相手のスピリット、アルティメットを2体を疲労させる。その後、疲労状態の相手のスピリット、アルティメットをデッキの下へ送る。これらの効果はフィールドに残る効果以外では防げない。ブリュンヒルデとネガズボックを疲労させ、ファナテック・エルクをデッキ下にする。そして、レベル1で召喚。創界

神アレスにコアチャージ発揮。」

紗夜「ここで止められましたか…ターンエンド。」

紗夜

ライフ：3

手札：3

フィールド

スピリット：ゴッドシーカー・ネガズボックへ1（疲労中）、紅炎の戦姫ブリュンヒルデへ3（疲労中）

ネクサス：創界神アルテミスへ5、創界神アルテミスへ1、アルテミスの大樹神殿へ1

リザーブ：へソウルコア、1

コアトラッシュ：へ2

バーストなし

有咲「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減2、コスト7で終焉の騎神ラグナ・ロックをレベル1で召喚。召喚時効果、ボイドから6個をこのスピリットに置く。創界神アレスのコアチャージ発揮。」

さらに、軽減4、コスト5で…。」

紗夜「ま、まさかもう1枚！」

有咲「終焉の騎神ラグナ・ロックをレベル1で召喚。不足召喚コスト等は1体目のラグナ・ロックから。召喚時効果でボイドからコアを6個このスピリットに置く。創界神アレスのコアチャージ発揮。」

実況者「有咲選手このターンで12コアブーストだ〜！」

有咲「2体目のラグナ・ロックから3個を1体目のラグナ・ロックに置いてレベルアップ。そして、バーストセット。」

紗夜「っ！」

有咲「アタックステップ。アレスの神域の効果で同時にアタックできる。ラグナ・ロック2体でアタック。2体のラグナ・ロックのアタック時、ブロック時効果でターン1回、回復する。」

紗夜「フラッシュタイミング、1体目の創界神アルテミスの神技でコアを3個をボイドに送り、このバトルの間、アタックではライフが減りません。」

有咲「それに対してのフラッシュはありません。」

紗夜「フラッシュタイミング、軽減3、コスト1でマジック、アルティミックシールドを使用。」

有咲「そのマジックに対して手札から歴戦騎士ドルク・エヴィデンスの効果を使用。」
実況者「ま、まさかのカウンター！」

有咲以外の Rose lia・ホピパメンバー「?!」

有咲「自分のアタックステップで相手が手札、手元のフラッシュ効果を使用了とき、その効果を発揮する前に、手札にあるこのカードをオープンし、自分のカード名に創界神アレス1つを疲労させるだけで、ただちにその効果を無効にする。そうしたとき、このカードをコストを支払わずに召喚する。創界神アレスのコアチャージ発揮。」

紗夜「で、ですが、ドルク・エヴィデンスはアルテミスの大樹神殿の効果でコストを支払わずに召喚したのでデッキの下へ送ってもらいます。」

有咲「ですが、アルティミックスールドは無効化され、アルテミスの神技はこのバトルの間だけ。2回目のラグナ・ロックの同時アタックは防げません。」

紗夜「くっ！」

有咲「再びラグナ・ロックで同時アタック。」

紗夜「フラッシュはありません。2体ともライフで受けましょう。」

紗夜：ライフ3↓0

実況者「勝者有咲選手！」

有咲「ふうー……。」

紗夜「負けました。」

観客席では：

蓮華「すまん、今戻った。」

兼続「おせーよ。どこ行ってた？」

蓮華「ん、μ sの連中らのところ行っただ後に道に迷った。」

兼続「会場広いからな……。」

蓮華「それで、どっちが勝った？」

明日奈「有咲ちゃんが勝ったよ。」

蓮華「ん、あの機獣に勝ったのか。どんなデツキだ？」

兼続「殺人デツキだ。しかも、1ターンで12個もコアブーストしやがった。」

蓮華「ラグナ・ロツクの強みだな。」

明日奈「手札にラグナ・ロツクを2枚持っているとおーなるんだね。」

蓮華「そりゃな。」

そんな会話をしていたのであった。

実は蓮華が遅れてきたのは別の理由があった…。

第75ターン目 蓮華と權斗

μ, sを励ましいいきその後兼続達の所に戻る最中、手洗いに行く蓮華。
そして、数分後…中央エリアにて…

蓮華「迷子になった…。」

蓮華は方向音痴ではないが考え事を深くしていたり、なんかしらとボーつとっていると方向を見失って戻れなくなっていた。

蓮華「花音の方向音痴が感染されたか？」

そんな風に考えていると…

權斗「あれ、蓮しゃん。何してんの？」

蓮華は声の方に振り向くとそこに小湊權斗がいた。

蓮華「それがさ…迷子になった。」

權斗「え？マジ？」

蓮華「マジだよ…。」

權斗「…あーなるほど…。」

蓮華「完全に飽きれてるだろう!？」

權斗「だって蓮がまさかさ。」

蓮華「しようがねーだろ。会場広いしさ。」

權斗「まあな。」

蓮華「なあ、權。」

權斗「なんだ？」

蓮華「デツキってどうしてる？」

權斗「デツキか…2つは決まってる。だが、後1つ決まってない。」

蓮華「俺もなんだわ…。」

權斗「ならさ、この場でデツキを作ろうぜ。」

蓮華「え？」

權斗「そして、決勝でそのデツキをお互い使って会場を盛り上げようぜ。」
蓮華「いいね。じゃあ、休憩室でデツキを作ろうか。」

そう言つて蓮華と權斗は休憩室に移動し向かい合つて座る。

蓮華「さて、どうゆう風になろうか。デツキ自体は色々持つてきてるけどあまりのカードがそんなに持つてきてないんだよな。」

權斗「確かに。デツキを合体させるのはありじゃないか？」

蓮華「あー確かに。それでいこうか。デツキテーマどうしようか…。」

權斗「光導にする？」

蓮華「それでもいいな。それか光導と何かとか。」

權斗「いいね。蓮華はどうする？」

蓮華「光導と超星…星竜にしようかな。」

權斗「成程な、じゃあ俺は光導、超星…武竜でやろうかな。」

蓮華「いいね。デツキの枚数は…どうする？」

權斗「60で行こうか。」

蓮華「70で行こう。その方が面白い。」

權斗「OK。」

そんなことで：蓮華と權斗は今回使わないデッキを解体と余りのカードでデッキを再構築し始めた。

蓮華「權、光導って紫光導？」

權斗「そうだな。蓮華は6色光導？」

蓮華「そうだね。そうなると良いぐわいになるね。」

權斗「だな。」

蓮華と權斗は手を動かしながら作業とカードテキストを確認している。
しかも会話しながら。

蓮華「お互い光導の使い手でもあるしな。」

權斗「そうだな。お前はサジットヴルム・ノヴァだろ。」

蓮華「そんなお前はサジタリウス・ノヴァだろ。」

權斗「まあね。付き合い長いカードだしな。」

蓮華 「…今思ったけど…超星使ったら泥仕合じゃね。」

權斗 「あ…。」

蓮華と權斗はそんなことを考えずにデッキを作っていた。

蓮華 「まあいいよね。泥仕合で…。」

權斗 「そうだな。その方が面白いしな。」

この会話を蓮華の心の中で聞いていた弾は…「確実に泥仕合になって耐久試合だな。」
と思った。

そして、お互い70枚のデッキが完成した。カードと完成したデッキをしまい、休憩室を出る。

蓮華は權斗に地図の場所を教えてもらい權斗と別れる。

その後、地図を確認した蓮華は観客席に移動してチームメイトと合流したのであった。

現在の人間関係

現在の好感度 バンドリキャラ

戸山香澄：蓮華とのバトルが楽しいと思っている。

六道蓮華：香澄とのバトルを楽しく思っている。逆にミラー戦したいぐらいに。

花園たえ：素直に好きと言えるぐらい蓮華のことを思っている。言葉では出してはいないが行動で示している。

六道蓮華：たえのプレイングに戦慄する。うまく手札を捌かないと勝てないと思っ
ている。

牛込りみ：蓮華のことを尊敬している。バトルを見ていると勉強になるぐらいに。

六道蓮華：勉強熱心な子だと思っている。

山吹沙織：蓮華のことを好きとはいえるが…自ら告白しようとするとなかなか言えな

い。弟や妹と蓮華が出ていた大会の中継と一緒に見ているときがある。

六道蓮華：普通に仲良しな友達だと思っている。

市ヶ谷有咲：蓮華のことを好きとは思ってても素直に言えない。そのため、たえや香澄、紗綾にいじられ対象になっている。

六道蓮華：どんなプレイングするか気になっている。いずれ戦いたい。

美竹蘭：自分の親を説得するほど凄い人間だと思っている。幼馴染なため蓮華のことを隣で見ていることが多かったため蓮華のことは好き。けど、素直になれない。

六道蓮華：幼馴染にして、楽しいバトルができる友達だと思っている。

青葉モカ：蓮華本人いても素直に好きと言える。そのため、蘭には羨ましいと思われる。

六道蓮華：バトルしてみたいと思っている。

上原ひまり：蓮華を好きとは言えるが本人のまえではどうしても言えない。何故なら自分が照れてしまいその場去ってしまうほど恥ずかしがっている。

六道蓮華：心配している。なぜならそんな頭で自分のデツキを回せるかと思つてゐる。そんなわけで教育させてあげたい。

羽沢つぐみ：蓮華を尊敬している。ただ、恋愛のほうに行くとうまく伝えれない。
六道蓮華：同級の妹のように見ている。

宇田川巴：蓮華に憧れている。いつか肩を並べたいと思つている。

六道蓮華：姉御肌な人だと思つてる。

丸山彩：好きとは言いたいが……蓮華本人のまえでは言えない。何故かという頭が真つ白になるから。

六道蓮華：デツキの回し方を教えてはいるが心配している。

氷川日菜：蓮華のことが大好きと言えるぐらい。よく蓮華に抱き着く。しかも、バトスピの講習中に。

六道蓮華：講習中に抱き着くのをやめて欲しいと思つている。何故なら恥ずかしいと思つてる。

若宮イブ：蓮華を師匠のように見ている。

六道蓮華：弟子のように見ている。

白鷺千聖：蓮華のことを大好きと言えるが：中々言えない。パスパレメンバーからも分かるぐらいに蓮華のことを思っている。ヤンデレではない。

六道蓮華：単純に凄い人だと思っっている、努力家とも思っっている。

大和麻弥：蓮華本人のまえでは好きとは言えないが心の中では好きと思っっている。いつかお近づきになりたいと思っっている。

六道蓮華：機械を弄る天才だと思っっている。

湊友希那：蓮華のことを好きだと思っっている。いつか、告白したいと思っっているが：ライバルが多すぎて困っっている。

六道蓮華：心の中で意識はしてしまう時がある。本人の顔には出ていないが：。

今井リサ：蓮華のことは好き。バトスピプレイヤーとしては尊敬している。食生活に

関してはお世話してあげたい。

六道蓮華：料理上手な人。友希那の親友と思っている。

氷川紗夜：蓮華のことは好きではあるが：素直に言えない。なので行動で示す。なのだが、リサにからかわれる。

六道蓮華：真面目な人であり負けず嫌いと思っている。

白金燐子：蓮華のことは好きであるが誰かがいるまえでは言えない。何故なら恥ずかしいのである。なので、自分にできることで蓮華を振り向かせたい。

六道蓮華：恥ずかしがり屋な子だと思っている。バトルを見ていた時は、デツキの内に戦慄する。

宇田川あこ：大好きなお兄ちゃんだと思ってる。

六道蓮華：普通に妹のように見ている。

弦巻こころ：蓮華のことは好き。いつか自分の力で蓮華を振り向かせたいと思ってる。

六道蓮華：ぶっとんだお嬢様と思っっている。

北沢はぐみ：蓮華のことをお兄ちゃんのように見ている。

六道蓮華：運動神経が抜群な子と見てる。

松原花音：蓮華のことは好きだけど…人にまえになると言えない。たとえば、人まえであつても言えるようになりたいと思っっている。

六道蓮華：方向音痴な子。ほっとけない子だと思っっている。

瀬田薫：蓮華のことは最高のプレイヤーだと思っっている。

六道蓮華：演技上手な人。同性からの人気者だと思っっている。

奥沢美咲：蓮華のことは好きとは言える。ただ、こころに振り回されてしまいうまく気持ち伝えることすらままならない。

六道蓮華：苦勞人だと思っっている。

倉田ましろ：蓮華に憧れている。というより、一目惚れなところもある。

六道蓮華：妹のような感じで見ている。

桐ヶ谷透子：ましろから話を聞いて1度会ってみたいと思っている。

六道蓮華：まだ知り会っていないため分からない。

広町七深：蓮華のことはテレビ中継で見たことがある。1度でもいいから会ってみたいと思っている。

六道蓮華：まだ知り会っていないため分からない。

二葉つくし：下の妹たちと蓮華のテレビ中継をよく見ている。1度でもいいから会ってみたい。

六道蓮華：まだ知り会っていないため分からない。

八潮瑠唯：幼き頃、蓮華とが会ったことがある。再び再会を求めている。

六道蓮華：幼き頃、会ったことがある。今どうしているかそれなりに気になっている。

レイア：蓮華の中継見て興味がわく。そのためバトスピを猛勉強した。

六道蓮華：知り会っていないため分からない。

ロック：蓮華のテレビ中継を見て、出身の岐阜を離れて住み込みでバイトしている。蓮華のファンでもある。

蓮華：知り会っていないため分からない。

マスキング：カードショップ Galaxy で1度会ったことがある。バトルして負けたためもう1度会ってバトルしたいと思っている。

六道蓮華：1度会ったことがある。バトルして勝ったことがあるためもう1度会った
ら

どんなふう成長したか気になっている。

パオレ：チームにスカウトされる前に蓮華のことはテレビで知る。チームにスカウトされてからは蓮華の現状を知りたい。

六道蓮華：知り会っていないため分からない。

チュチュ：1度会ったことがあり、バトルを申し込むも負ける。そのため、チームの

スカウトもしくははバトスピのコーチにスカウトを持ち込んだがあつさり断られる。再び会うときはもう一度スカウトの話を持っていこうかと思つている。

六道蓮華：一度会つたことがある。バトルを申し込まれたのでバトルして勝つ。チームのスカウトもしくははコーチのスカウトされるも「旅の途中だから。」と言つて断る。その後、どうしているかは気になっている。

戸山明日香：直接蓮華とは会つたことはないけどよく姉の香澄から話を聞くため気になつている。

六道蓮華：会つたことはないが、香澄から話をきいている。一度会つてみたいと思つている。

牛込ゆり：妹であるりみから話を聞いている。どんな人かと気になつている。

六道蓮華：会つたことがないがりみから話を聞いたことがある。どんな人だろうつと考へている。

月島まりな：蓮華よく見ている人。

六道蓮華：苦労かけている姉のような人。

現在の好感度 他作、オリキャラ、家族、その他。

結城明日奈：許嫁にされているがそうでなくても蓮華のことは一目惚れだった。普段のお世話をしたいほど蓮華のことは好きである。

六道蓮華：それなりに気を使っている。何故なら自分より年上なため。

高坂穂乃果：蓮華のことは好きである。だが、言えないでいる。

六道蓮華：アホな子だと思っている。

園田海未：蓮華を尊敬している側ら好きである。ただ、どうしても言えない。

六道蓮華：真面目な子だと思っている。

南ことり：ハッキリと蓮華を好きと言える。むしろ大好きである。

六道蓮華：いい意味で困った鳥だと思っている。

星空凛：蓮華とバトルしたい感がある。というか、どつか出かきたいと思っている。

六道蓮華：ラーメン大好きツ子だと思っている。

小泉花陽：蓮華に憧れているも尊敬している。

六道蓮華：白米大好きツ子だと思っている。

西木野真姫：蓮華のことは好きであるが素直になれない。ことりが羨ましいと思っている。
いる。

六道蓮華：ツンデレお嬢様だと思っている。

綾瀬絵里：蓮華のことは好きではあるが：割とどうしようか迷っている。

六道蓮華：ポンコツな姉。

東條希：蓮華のことは好きである。蓮華を甘えさせてあげたいと思っている。

六道蓮華：神様に愛されている幸運な人だと思っている。

矢澤にこ：蓮華は妹たちからは人気者であるが自分の中ではライバルのように見ているが側ら好きだと思っている。

六道蓮華：小っちゃい奴、そして扱いがめんどくさい人だと思っている。

高坂雪穂：蓮華は憧れている。バトスピの側ら料理の勉強中。

六道蓮華：穂乃果と違ってしつかり者だと思っている。

綾瀬亜里沙：蓮華を尊敬している。ついでに言えば、兄のように見ている。

六道蓮華：可愛らしい妹のように見ている。

杉田兼統：蓮華のことは親友だと思っている。

六道蓮華：クラスの同級生にして親友。

小湊櫛斗：蓮華とはライバルであり親友。そしてバカをやる仲間でもある。

六道蓮華：親友にしてライバル。そして、バカをやる仲間。

小湊るう子：もう一人のお兄ちゃんのようにであり、憧れの側ら好きである。そのせいで兄で櫛斗と歩からからかわれる。

六道蓮華：妹のように見ている。再び会おうかと思ってる。

夏本涼香（現在本作には出ていませんがいずれ出ます。）田舎で暮らしていたところ、旅人蓮華に出会う。その時の蓮華は空っぽな感情で全く顔に出さない状態だった。宿を探しているところを家に案内して宿泊させる。少しの期間だったが蓮華のことが好きになり、家を出ていった2か月後、蓮華を追って姉、咲と共に東京都・新宿区に引越す。

六道蓮華：運動神経抜群な女子。バスケットやサッカーが好きな女子と言った方がいいのでわ…。

夏本咲（現在本作には出ていませんがいずれ出ます。）田舎でお手伝いをしながら暮らしていたところ妹、涼香が蓮華を連れてくる。宿泊させて欲しいと言われたので客間に宿泊させた。あるきっかけで2人つきりになり、リビングでゆくりしていたところ自分立ち上がった瞬間、疲れのせいかバランスを崩してしまい、蓮華が支えようとするも蓮華を押し倒す感じになってしまった。数分間、見つめあいな感じになってしまったがすぐさま立ち上がり、台所に去っていく。短い期間だったが蓮華のことが好きになり、涼香と共に引越す。

六道蓮華：優しいお姉さんにしてお世話焼きな人。

六道香蓮：大好きなお兄ちゃん。

六道蓮華：ブラコン過ぎて困った妹。

阿良々木暦：蓮華は頼れる親友だと言いたいが…。

六道蓮華：リア充な親友。そして、ボケるとツツコミしてくる親友。

戦場ヶ原ひたぎ：暦から話は聞く。どんな人か会ってみたい。

六道蓮華：話には聞く暦の彼女。どんな人か気になる。

神原駿河：暦から話を聞く。会ってみたいと思っている。

六道蓮華：暦から話聞く。暦に掃除をさせると聞いて興味がある。

千石撫子：蓮華を大好きなお兄ちゃんのように見ている。

六道蓮華：妹？のようになっている。

羽川翼：蓮華のことは好きである。告白したいがその気持ちを今は抑えている。

六道蓮華：優等生な人。

阿良々木火燐：蓮華を師匠のように見ている。

六道蓮華：困ったちゃん。

阿良々木月火：バトスピ大好きなお兄ちゃん。

六道蓮華：変わった妹。

渋谷凜：会って話してみたい方がいいが意外にいい人だと思っている。

六道蓮華：クールな少女。

新田美波：幼き頃に会ったことがある。弟のように見ているが溺愛することも…再び会うことを祈っている。

六道蓮華：姉のような存在。そして、溺愛していることをできるだけやめて欲しい。何故なら恥ずかしい。

？：蓮華のことは好きだけどプレイヤーとしては尊敬している。

六道蓮華：大人ぶっているとところあるためどう接したらいいか困ってる。

桐生桜：蓮華に憧れている。1度でも勝ちたいとは思っている。
六道蓮華：努力家で勉強熱心。

馬神弾：蓮華とは大事な相棒。

六道蓮華：大事な相棒にして同じバトスピバカ。

第76ターン目 悪夢の紫、コア除去

ホピパ対Roselia。1回目の勝者は市ヶ谷有咲だった。
ここから、2戦目に入る。

実況者「さあ！2戦目！いつたいどんな試合になるだろうか！」

Roseliaはというと：

友希那「さて、どうしましょうか。」

リサ「そうね。1回負けちゃったし後がないわね。」

紗夜「すいません。」

友希那「紗夜のせいじゃないわ。市ヶ谷さんのプレイングが一枚上手だっただけよ。
そんなに気にすることじゃないわ。」

隣子「そうですね…市ヶ谷さんのデッキが殺人デッキだったのが意外ですね…。」

リサ「どうする友希那？」

友希那「…。」

あこ「あこが行くよ！」

友希那「いいの？」

あこ「うん！」

燐子「あこちゃん、頑張つてね！」

あこ「頑張るね！」

そう言つてあこはバトルフィールドに行く。

そしてホピパはいうと：

香澄「まずは1勝だね！」

たえ「そうだね。」

りみ「でも、油断できないよ。」

有咲「そうだな、次どうするよ。」

沙綾「私行くよ。」

香澄「さーやが行くんだね！」

沙綾「うん、このまま勢いで勝ちたいしね。」

沙綾はバトルフィールドに行く。

実況者「さあ、Poppin' Partyからは山吹沙綾選手！対するRoseliaは宇田川あこ選手！」

沙綾「あこ負けないよ。」

あこ「あこも負けないよ。」

実況者「さあ、お互いのデッキをカット&シャッフル！」

デッキをカット&シャッフルしでえつき置き場に置く。リザーブ、ライフを準備し手札を準備し完了する。

実況者「さあ！2戦目開始！」

沙綾・あこ「ゲートオープン界放！」

実況者「先行はあこ選手！」

あこ「スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で創界神デユオニユソスを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：紫魔神、冥府三巨頭ザンデ・ミリオン、冥府貴族ミュージニ
ー
婦人

あこ「対象のカードは2枚、コアを2個シャージ。ターンエンド。」

あこ

ライフ：5 手札：4

フィールド

ネクサス：創界神デュオニユソスへ2

リザーブ：へソウルコア、1

コアトラッシュ：へ2

バーストなし

2 沙綾「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト
で創界神アヌビスを配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：冥界の処刑人カルノ、闇輝石六将冥恐斬神ディノヴェンジ、ロックシユート

沙綾「対象のカードは2枚、コアを2個チャージ。ロックシユートの効果で創界神アヌビスの効果でトラツシユに送られたとき、手札に加える。そうしたとき、ボイドからコアを1個を自分の創界神に置く。対象は創界神アヌビス。ターンエンド。」

沙綾

ライフ：5

手札：5

フィールド

ネクサス：創界神アヌビス〈3〉

リザーブ：〈ソウルコア、2〉

コアトラツシユ：〈2〉

バーストなし

あこ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ、メインステップ。軽減1、コスト2で旅団の摩天楼をレベル1で配置。配置時効果、デッ

キから1枚ドロ。さらに軽減2、コスト1でNO・23アイランドルートをレベル1で配置。配置時効果、デッキから1枚ドロ。そして、もう1枚、軽減2、コスト1でNO・23アイランドルートを配置。配置時効果でデッキから1枚ドロ。」

実況者「あこ選手、ネクサスを配置しながらデッキをドロしていく！」

あこ「ターンエンド。」

あこ

ライフ：5 手札：5

フィールド

ネクサス：創界神デュオニユソスへ2、旅団の摩天楼へ0、NO・23アイランドルートへ0、NO・23アイランドルートへ0

リザーブ：へソウルコア、1

コアトラッシュ：へ3

バーストなし

沙綾「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減1、コスト3で冥界の角竜人カスモをレベル2で召喚。創界神アヌ

ビスのコアチャージ發揮。アタックステップ、カスモでアタック。カスモのアタック時効果でデッキから1枚ドロロー。」

あこ「フラッシュユなし、ライフで受ける。」

あこ：ライフ5↓4

沙綾「ターンエンド。」

沙綾

ライフ：5 手札：6

スピリット：冥界の角竜人カスモへソウルコア、2◇

ネクサス：創界神アヌビスへ4◇

リザーブ：へ0◇

コアトラッシュユ：へ3◇

バーストなし

あこ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュユステップ、メ

インスタテップ。軽減4、コスト4で冥府神王ガヴァリエール・バツカスをレベル1で召喚。創界神デュオニユソスのコアチャージ発揮。さらにコスト2で紫魔神をバツカスにダイレクトブレイヴ。」

沙綾「デュオニユソスの効果で冥府を持つスピリットがコアなくても動けるのか…。」
あこ「ブレイヴ召喚時、相手のスピリット、アルティメットのコアをリザーブに送る。カスモのコアを1個リザーブに。アタックステップ、紫魔神をブレイヴしたバツカスでアタック。バツカスのアタック時効果、冥界放、相手のフィールドのコアを3個をリザーブに送る。カスモのコアをリザーブに。この効果で消滅したスピリット1体につき、相手のライフをリザーブに置く。」

沙綾：ライフ5↓4

あこ「その後、紫の創界神ネクサスのコアを自分のトラッシュに置くことで、相手のリザーブのコアを5個までを相手のトラッシュに置く。創界神デュオニユソスのコアを3個トラッシュに送ってさーやのリザーブのコアを5個をトラッシュに送る。」

沙綾「キツイね…しかも、4点要求…コアがないから防げないね…フラッシュなし、ライフで受けるよ。」

沙綾：ライフ4↓0

実況者「圧倒的な打点であこ選手の勝利だ〜！」

あこ「やった〜！」

あこは喜びながらチームメイトの元へ戻る。沙綾は悔しいと思ってるが同時にあこと戦えて良かったと思つてチームメイトの元へ戻つていった。

一方で観客席では：

兼続「無魔強いな。」

蓮華「デュオニユソスの神域でカード名に冥府を含むスピリットはコアがなくても動ける。その代わり冥府を含まないカードはトラッシュから回収出来ないけどな。」

明日奈「コアがなくても動ける分、他のほうにコアが使えるんだね…。」

蓮華「ああ。しかもあこの奴、紫魔神なんて入れてるなんてな。」

兼続「入らないのかデッキに？」

蓮華「普通なら入ってない。エクスキューションナーかディオスフリーユージェルを積んでるはずだ。」

兼続「成程な。」

明日奈「じゃああこちゃんの構築って…」

蓮華「雑な脳筋に近いかもな。」

そう話していると携帯に着信が入る。

蓮華はズボンのポケットから携帯を取って携帯の画面を見る。そこには宝塚六花（たからずかりつか）と表示されていた。

明日奈「どうしたの？」

蓮華「ワリイ、ちよっと急用が出来た。」

兼続「おいおいマジかよ…。」

明日奈「試合に間に合う？」

蓮華「自分の試合までには間に合うさ。なんかあつたら連絡してくれ。」

兼続「分かった。気よ付けて行けよ。」

蓮華「ああ。」

蓮華は観客席を去っていく。

場所を変えて、会場近くの喫茶店にて：

蓮華が来客すると「あ！こっちこっち！」と声が出た。

蓮華は声が出た方に行きその席に座る。

？「ごめんね、急に呼び出して。」

蓮華「別に気にしなくていい。自分の試合までに戻ればいいから。」

？「そっか。飲み物、アイスコーヒーでよかったよね。」

蓮華「ああ、ありがとう。それより、家の手伝いはいいのか六花？」

六花「うん、お母さんが店番してるから大丈夫。」

蓮華「なら、大丈夫か。」

注文されていた飲み物が届き、お互い飲み物を飲みながら話すことになった。

蓮華「何か情報は？」

六花「一応何かないか調べたけどネットじゃ凄い話題だよ。」

蓮華「何？」

六花「謎の創界神とか見たことのないカードとかね」

蓮華「やっぱそうなるか…。」

六花「もしかすると予選では出ないけど本戦のほうでその天聖だっけ？創界神が出ると思うよ。」

蓮華「成程な。」

六花「それで六道君が集めていた王の創界神は全部集まったの？」

蓮華「ああ、なんとかな。」

六花「…。」

蓮華「なんだよ。」

六花「昔より感情が出てるね。」

蓮華「あの時は感情なんて無いようなもんだしな。」

六花「そうだね。私と出会うまでは…。」

蓮華「かもな…。」

蓮華はアイスコーヒーを飲んで一服する。

そんな蓮華は思い出していた…

自分^がが王の創界神を集めるため旅に出た時の頃を…そして、いろいろな人との出会いも

六道蓮華の旅日記1

バトスピチャンピオンシップを優勝した六道蓮華。

中学生でありながら強者のバトスピを見せた。

だが、次第に孤独を覚えて：学校生活にて友達さえも避け始めていた。

学校生活が孤独となり始めてからだんだんとバトスピが楽しくなくなってしまうた。

そこから蓮華はただ勝つためのバトスピしかしなくなってしまった。

それから蓮華はんなからこう言われた：「孤高のバトラー」と言われ始めた。六色

使いの蓮華ではなく、孤高のバトラー蓮華としてバトスピをしていた。

それからある日のこと：

蓮華は家に帰るといつものように自分の部屋でカードを弄っていた。そして、夕食の時、妹の香蓮に心配されるが蓮華は「平気。」と言ってそのまま夕食を済ませた。

そんな時、蓮華はあるものに気が付いた。リビングの机に置かれている古い本があったのだ。気になった蓮華はその本を手に取り、読んでみた…。

蓮華「王の創界神？」

聞いたことのない単語だった。

創界神ならまだしも王と書かれている創界神なんて知るわけがなかった。

蓮華は次第に王の創界神が気になり始めた。

翌日、学校から帰ってくるトリピングにはソファアに座りながら本を読んでいる父六道蓮真（ろくどうれんま）がいた。

蓮華「親父。」

蓮真「ん、おお!!蓮華、帰ってきたか。」

蓮華「その本……。」

蓮真「ん、これかちよつとした昔の本でな。」

蓮華「王の創界神の本なんですよ。」

蓮真「読んだのか……。」

蓮華「まあな。」

蓮真「……。」

父蓮真が自分が読んでいる本を読まれてしまつては黙っていることができなかった。

蓮真「王の創界神は一般では知られていない謎のカードなんだ。」

蓮華「謎のカード？」

蓮真「創界神やスピリット、アルティメットが住んでる世界で頂点に立っているのが王の創界神だ。」

蓮華「頂点…。」

蓮真「王の創界神は6いる。赤はイザナギオオカミ、青はノア、緑はユグドラシル、白はアイアンロッド、紫はヴリトラ、黄、イシユタルだ。」

蓮華「それが王の創界神か。でも、存在するのかわ？」

蓮真「実物に関しては見たことないしな。在ったとしたら展示物だな。」

蓮華「…。」

そして蓮華は決意した。

蓮華「探してみるよ。」

蓮真「え？」

蓮華「王の創界神。」

蓮真 「本気で言ってるのか？ 実在するか分からないものを…。」

蓮華 「じいちゃんが…言っていたんだ。」

蓮真 「たとえ幻でも探し求めてもいいじゃないかそれがたとえ無駄だったとしてもそれは…。」

蓮真 「自分を知る冒険にもなるから…だろ。」

蓮華 「ああ。」

蓮真 「じゃあ決まりだな。」

蓮華 「え？」

蓮真 「俺に出来なかつたことをやり遂げて欲しい。」

と言つて本をパンつと閉じた。

蓮真 「母さんには話さなきやな。」

そして、夕食のとき蓮華が母六道華香（ろくどうはなか）に話した。

本来であるなら止めるべきかと思つたが夫の蓮真が頭下げて説得したのだ。

華香は止める必要がなくなつたため息子である蓮華に「旅には氣よ付けて行くの

よ。」と言うのであった。

ただ気になることがあった。そう旅の資金だ。旅するなら当然必要になるからだ。

だが、蓮真は：「旅の資金なら任せろ。お前も大会で優勝して賞金貰ってるだろうがそれじゃ足りんだろ？」とのことだ。

蓮華は「いったい何やるんだよ：」っと思つた。

それを聞いていた妹香蓮は：「私も行きたい！」と言うが蓮華に「お前にはまだ早い。」と言つて止められたのだった。

それから2日後、蓮華が旅をする準備をしていたら母華香から「明日から学校は行かなくてもいいわよ。旅に出るのだから。」と優しく言われた。

そう思うと蓮華は：「（いったい何をしたんだ？）」っと思つた。

通常中学は義務教育なため通い続ける必要がある。

そのため、特例がない限り中退はできないのだ。

母と父がいったいどんな説得したのか気になったのだ。そんな風に思つてると母華香は：「黙秘権を使つておくわ。」と笑顔で言うのであった。

蓮華は「（心を読まれた：）」と思つたのであった。

そして、旅に出る当日。

現在、5月にて蓮華は国外に旅に出るのであった。

両親と妹に見送られて飛行機に乗るのであった。

翌朝、アメリカに着いた蓮華、ここから旅がスタートしたのだった。

2か月かけて、国外を旅していたアメリカの次はロシア、フィリピン、アフリカ、ドイツ、エジプトと様々に渡っていった。

国外にあるとされている王の創界神は1枚もなかった。

本や人からの情報で簡単には見つからない。そう思った蓮華は日本に帰国するのであった。

帰国した蓮華はさっそく北海道行く。

北海道に着いた蓮華、ここから蓮華の日本の旅が始まった。

北海道から青森から秋田など旅をする。

旅をしていく中で、蓮華は勝負を挑まれば勝負をして勝つ。移動の時は新幹線や車に乗せてもらうこともしばしばあれば歩いて移動することも。

ついでに言えば言ったことのある場所には地図に×印が打ってある。

そんな7月31日の大阪にて雨の日だった。

雨の中傘を差さずに歩いている1人の女の人がいた。

蓮華はほっとけないので傘をさしてあげた。

? 「あ…。」

蓮華 「そんなんじゃ体冷やすぞ。」

? 「…。」

蓮華 「なんかあつたのか？」

? 「…彼氏と別れたんです…。」

蓮華 「何？」

? 「正確には別れてないけど…。」

蓮華 「みなまで言うな。それにこのまま雨の中居てもしょうがない。家まで送ろうか？」

? 「はい…。」

蓮華 「(余程ショックだったんだろうな。)」

その後、彼女を家まで送っていた。家の玄関前に来た蓮華。彼女に宿探していると話す。彼女が「ここらへんじゃ宿はないです…。」と言われた。

しょうがないと思った蓮華は野宿を考えていたら…

? 「あの…家でよければ泊っていきますか？」

蓮華「いいのか？」

？「はい…親には私から…。」

蓮華「…そうか…えつと…。」

？「…さよこ…舞柴（まえしば）さよこです…。」

蓮華「六道蓮華だ。」

お互い自己紹介したことでさよこの家に入る。

ずぶ濡れの状態になっていたさよこ。帰ってきた早々、さよこの母が出迎える。

さよこ母「さよこ！大丈夫？ずぶ濡れじゃない！すぐにお風呂で暖まってきたなさい。」

どうやら心配しているらしい。さよこ母は蓮華に気づきお礼を言う。

さよこ母「ごめんなさい、うちの娘を。」

蓮華「いえ、別に。」

さよこ母「玄関で話すのもあれなのでリビングでお茶でもどう？」

蓮華「ご馳走になります。」

そうゆうことでリビングに移動して席に座ると飲み物（麦茶）を提供された。

蓮華「ありがとうございます。」

さよこ母「いえ、さよこをここまで送ってくれてありがとうございます。」

蓮華「ほっとけなかつたので。」

そんなやり取りしているとお風呂から上がってきたさよこがリビングに来た。

さよこ「あ、六道君。」

蓮華「身体は暖まったか？」

さよこ「うん、ありがとうございます。」

そう言つてさよこは蓮華の隣に座る。

さよこ母「六道君だっけ？ 貴方は何処から来たの？」

蓮華「東京ですが…。」

さよこ「東京から来たの?!」

蓮華「ここに来る前は和歌山にいましたけど…。」

さよこ母「もしかして旅をしてるの?」

蓮華「はい。」

感情がないせいか話を聞いている2人はどう反応すればいいか困っていた。話していると玄関から音がした。おそらく、父親が帰ってきたんだろ。

さよこ父「ただいま。」

さよこ母「おかえりなさい。」

さよこ「おかえりなさい…。」

蓮華「お邪魔してます。」

さよこ父「ん、なんだこの男は…。」

さよこ母「さよこを家まで送ってくれたのよ。」

さよこ父「そうか。」

さよこ「ねえ父さん、母さん。六道君を家に泊めちゃダメかな?」

さよこ母「え?」

さよこ父「な、ダメに決まってるだろ！」

さよこ母「落ち着いて。」

さよこ「でも、こちらへんで宿なんてないでしょ！」

さよこ父「若い奴同士が何言ってるやがる！そんなんだから彼氏にも…。」

そんな時、蓮華が席を立ち、さよこ父の前に立つ。

蓮華「それ以上言うなよ。あんたの娘の心を傷つける気かよ…。」

さよこ父「よそ者は黙って…ろ…。」

蓮華の目を見たさよこ父。その目つきがとても鋭く闇を感じた。

蓮華「なあ、アンタは何で語るタイプだ？」

さよこ父「何で語るだど…?」

蓮華「拳で語るのかそれともこいつで語るタイプか？」

こいつのタイミングでバトスピのデッキを取り出して突き立てる。

さよこ父「バトスピか…。」

さよこ「バトスピ？」

蓮華「俺のことはどうだっていい…だが、自分の娘を傷つけて楽しいかよ…。」

さよこ父「…。」

蓮華「アンタが勝ったら俺を好きすればいい…でも、負けたら自分の娘に謝ってもら
う。」

さよこ「え？」

さよこ父「いいだろう…バトルだ。」

蓮華「そうこなくちやな。」

蓮華は再び席につきバトルの準備をする。さよこ父はカバンからデッキを取り出してカバンを邪魔にならないところに置く。

蓮華「準備はいいな。」

さよこ父「ああ。」

蓮華・さよこ父「ゲートオープン解放。」

こうしてバトルが始まった。ターンが重なっていき蓮華のライフは1、さよこ父のライフは無傷の5だった。だが…

蓮華「軽減3、コスト5で光龍騎神サジツト・アポロドラゴンをレベル3で召喚。光導創神アポローンのコアチャージ発揮。」

さよこ父「リバイバル前のカードか…」

蓮華「さらにリユキオースにブレイヴしている輝龍シャイン・ブレイザーをサジツト・アポロドラゴンにブレイヴ。」

さよこ父「…。」

蓮華「そして、フル軽減、コスト2で砲竜バル・ガンナーをサジツト・アポロドラゴンにダイレクトブレイヴ。」

さよこ父「ダブルブレイヴか…。(この男…どこかで…。)」

蓮華「アタックステップ、ダブルブレイヴしているサジツト・アポロドラゴンでアタック。サジツト・アポロドラゴンのレベル3のブレイヴアタック時効果、このスピリットのブレイヴ1につき、BP10000以下の相手のスピリットを破壊する。ボーン・ダイル2体を破壊。そして、砲竜バル・ガンナーのブレイヴアタック時効果、デッキか

らカードを1枚ドローし、BP6000以下の相手のスピリットをする。この効果で破壊されたスピリットは効果が発揮されない。3体目のボーン・ダイヤルを破壊する。」

さよこ父「(防御マジックの軽減が厳しいな…)」

蓮華「そして、光導創神アポロンにブレイヴしている銀河星剣グランシャリオの神域発揮。このネクサスにコアが4個以上あるとき系統光導を持つ本来のコストが5以上の自分スピリットすべてにBP+5000と赤シンボルを追加する。」

さよこ父「…む…。」

蓮華「シンボルは4つ…そして後に控えてるリキオースのアタックで詰みだ。」

さよこ父「どうして言い切れる。」

蓮華「フィールドを見る限りスピリットがないせいで防御マジックの軽減がない。ネクサスは紫の旅団の摩天楼が2枚配置しているが摩天楼はドローと紫軽減。だが、今の状況からして白の防御マジック使えば勝ち筋があるが白軽減がないせいで白晶防壁、リミテッドバリアは打てない。」

さよこ父「アルティミックスフィールドは考えないんだな。」

蓮華「白の創界神がいれば考えた。だが、白の創界神がない以上、アルティミックスフィールドを打ったところで4打点は止められない。アタックステップを終わらせることができないが次のターンで仕留める方法が少ない。」

さよこ父「成程…。」

さよこ父は流石にここまで手を讀まれては何もできまいと思った。

さよこ父「負けたよ。」

蓮華「そうか…。」

さよこ父は負けを認めた。

その後、さよこ父は娘であるさよこに謝った。

コアとデツキをしまい、現在の蓮華の状況を喋った。ただし話せない部分は伏せた。それによりさよこ父は蓮華の宿泊を許した。

蓮華「いいですか？」

さよこ父「旅をしていればお金は大事になってくる。それに探し物をしているなら拠点が必要だろ。」

蓮華「！」

さよこ母「それって…。」

さよこ父「家でよければしばらく泊っていくといい。」

蓮華「ありがとうございます。」

さよこ「よかつたね。」

蓮華「ああ。」

さよこ父「それと部屋なんだが…。」

蓮華「え？」

さよこ父「さよこ、すまないが彼を部屋で寝かせてあげてくれ。」

さよこ「ええ!! // //」

さよこ母「まあまあ。」

蓮華「舞柴はいいのか？」

さよこ「え…えつと…別にいいけど… // //」

顔が真っ赤なさよこ。拒否はしないが恥ずかしいのだろう。
まあ当然だ。異性を自分の部屋に泊めるのだから。

さよこ母「布団なんだけど…。」

蓮華「あ、いいですよ。寝袋あるので。」

国外で多用した寝袋をリュックから出して言う。

さよこ母「そうなのね…。」

準備がいいじゃなくて逆に野宿で旅していたことを心配するように言うのであった。

さよこ父「さて、話がまとまったことだから荷物を部屋に置いてきなさい。さよこ部屋に案内してあげなさい。」

さよこ「う、うん。」

蓮華「すまないな。」

そういつてリビングを出て階段を上り2階の隅っこの扉、おそらくそこがさよこの部屋なのだろう。

さよこ「ここだよ。」

蓮華「あ邪魔します。」

さよこは思った。普通なら異性の部屋に入るのに抵抗があるのにもかかわらずまるで何もないかのように入ったのだ。

やはり、感情がないだけあって抵抗もなにもないのだろう。

部屋に入って蓮華は…

蓮華「荷物なんだが部屋の隅に置かせてもらおうぞ。」

さよこ「うん。」

荷物を置き、リュックの中をガサゴソ漁っていると…

さよこ「あの…。」

蓮華「なんだ…。」

さよこ「バトスピってなに？」

蓮華「バトスピはバトルスピリッツって言うカードゲームだ。今では人気のカードゲームのほずなんだが…知らないのか？」

さよこ「う、うん。」

蓮華「成程…。」

そう言うのと漁っていたりリュックから蓮華はさよこの方に向いて…

蓮華「バトスピを教えてやる。」

夕食を終えて蓮華は風呂も済ませた後、さよこの部屋にてバトスピを教えていた部屋の本真ん中の小さい机でお互い向かい合って座り、机に構築済みデッキによく入っている紙のプレイマットを使用しながらターンの流れカードの種類を教えた。

蓮華「つとまあこんな感じだ。」

さよこ「…。」

蓮華「大丈夫か？」

さよこ「ちよつとね…。」

蓮華「別にいつぺんに覚えろとは言わない。分かんなければ聞けばいい俺でよければ教える。」

さよこ「優しいんですね。」

蓮華「そうだろうか…。」

蓮華はふと思った。

蓮華「そういえば今って学校は夏休みだろ？」

さよこ「うん、そうだよ。」

蓮華「夏休みを利用して色々教えてやる。それと夏休みの宿題で解んないところがあれば教えてやる。」

こうして蓮華の大阪での冒険が始まるのであった…

六道蓮華の旅日記2

翌日から蓮華のバトスピのお勉強と夏休みのお勉強が始まった。

夏休みのお勉強に関して少しずつやっていたそうだ。なのでそこまで苦労はしないだろうと思ったがどうやら分からないところと言うより数学がに苦手なためほとんど手を付けていない感じだった。なので蓮華が教えることに…。

彼氏のことなんだが…蓮華が寝た後、携帯のメールアプリでメッセージで長い文章で謝罪とお別れを告げたらしい。

さよこは少し吹っ切れたらしいが同時にショックが少し残っている。それはそうだろう。なんせ初めての彼氏なのだ。

今ではバトスピと出会い、蓮華と出会ったことで寂しさを少しずつ埋めているらしいが…。

蓮華「さて、数学の課題はここまででいいだろう。」

さよこ「はい、ありがとうございます。」

さよこの数学の課題を教えていた蓮華。現在はさよこの部屋で2人ツきりである。
さよこ夫婦は仕事のため現在不在なのだ。

蓮華「勉強もいい感じだし今日は外に出てバトスピの勉強しようか。」

さよこ「外ですか？」

蓮華「ああ。まずはカードショップで自分の使いたいカードを探すんだ。色でもいいぞ。」

さよこ「六道君は赤中心なの？」

蓮華「別に赤だけじゃない。緑でも白でも使えるぞ。」

さよこ「そうなんだ…。」

蓮華「決めるのはカードショップ行つてからにするぞ。俺はあらかじめ準備できてるから外で待つてるぞ。」

そう言つて蓮華は部屋を出るのであつた。さよこはすぐに準備する。

準備を終えたさよこは蓮華と合流して家を出る。

蓮華はそこまで街に詳しくないのでさよこに案内される感じでカードショップに向かう。

カードシヨップに着いた蓮華とさよこ。まずはカードのシヨウケースを見て使いた
いカードを見ていく。

さよこ「う〜ん。」

蓮華「迷うか？」

さよこ「どんなカードがいいかわからないんです…。」

蓮華「まあそうなるわな…。ちなみに色は決まってるのか？」

さよこ「緑かな…。」

蓮華「緑か…。なら…俺がおすすりできるのは巨蟹武神キャンサードかな。」

さよこ「巨蟹武神キャンサード？」

蓮華「光導12宮蟹座のカードだ。」

さよこ「蟹座のカード…。」

蓮華「12宮のカードだから他にもあるぞ。俺が使っている射手座のカード、サジツ
ト・アポロドラゴン。こいつは赤のカードだけだな。」

さよこ「…。」

蓮華「12宮のカードで組むなら少し考えるが…どうする？」

さよこ「…獅子座のカードって何色ですか？」

蓮華「白だが…。」

さよこ「…緑のキャンサードで組みます。」

蓮華「あきらめ早いぞ…。」

キーとなるカードが決まったのでカードを買っていこうという段階になったのだが…蓮華が気になるシヨウケースを見た。

蓮華「デツキが売っているのか。」

さよこ「デツキ？ 普段は売ってないの？」

蓮華「売つてるところと売ってないところがある。店が出してるオリジナルデツキがあれば人が作ったデツキがある。」

さよこ「デツキが売られてる理由って何？」

蓮華「店がお買い得のカード利用して作って売っている物とこのデツキは使用しないこのデツキを売って新たにデツキを作ろう…もしくはバトスピ引退ってやつが売ってるな…。キャンサードが入ってそうなデツキは…2種類あるな…。」

さよこ「分かるんですか？」

蓮華「まあな。バトスピを長いとあらかたデツキにどんなカードが入ってるか分かる

しな…気になるデツキがあるな…一度見てみてよければ買うか…。」

蓮華は店員を呼んで気になるデツキをショウケースから出してもらい中身を確認する。

中身を確認した末、蓮華は購入をするという。

蓮華は確認したデツキを持って会計しに行く。

会計後、蓮華とさよこはフリースペースに向かい合って座る。デツキの中身を広げ、さよここと確認する。

蓮華「これは良い中身だ。キャンサードのつもりがキャンサードXが入ってる…しかも3枚。他には神話ブレイヴのアラマンディーが3枚とカニキリが3枚か…。」

さよこ「キャンサードとキャンサードXって何が違うんですか？」

蓮華「キャンサードの効果はリバイバル前とリバイバル後では効果テキストが違うんだ。リバイバル前だと系統光導、星魂持つスピリットがアタックしたとき、相手は2体じゃないとブロックできない。ブロックしてきたら2体の内1体とバトルする。レベル2アタック時効果で自分のフィールドにブレイヴスピリットがいる間、このスピリットが相手のライフを減らせば、相手のライフを1個リザーブに送る。リバイバル後だ

と、上の効果が系統神皇、十冠になる。レベル2アタック時効果がブレイブアタック時になっていて異魔神がブレイヴしていないと発動しない。異魔神ブレイヴをしているとき、このスピリットがアタックでライフを減らせれば相手のライフを1個減らせる。そして、ターンに1回復する。」

さよこ「リバイバル前と後じゃ違うんですね。」

蓮華「デツキの組み方が変わってくる。キャンサードXは系統が化神、光導、殺人だ。召喚するための軽減が6色だし、アタック時は系統光導、化神になってる。しかも、レベル2の効果は星界放になっている。」

さよこ「星界放？」

蓮華「光導12宮がXになったときに追加されたやつだ。界放については話したな？」

さよこ「うん。化神が持っている効果だよね。」

蓮華「ああ、キャンサードXの星界放の効果はアタックによってライフを減らしたとき、相手のライフを1個トラッシュに送る。さらに、6色の創界神ネクサスのコアを2個を自分のスピリットに置くことで、ターンに1回、このスピリットは回復する。」

さよこ「へ〜。」

蓮華「お高く買って正解だ。ラグナ・ロックも入った別軸の殺人だしな。」

さよこ「このラグナ・ロック、リバイバル後ですよ。こっちの方が強いんですか？」
蓮華「ああ。アクセルで相手の相手のスピリットをすべて疲労させるし。召喚すれば
コアが6個ブーストできる。しかも、レベル2、3でターン1回、回復するしな。しか
も、アタック、ブロック時だし。」

さよこ「ほえ〜。」

蓮華「ちなみにだがこのデッキ、お前にやる。」

さよこ「え…。」

蓮華「当たり前だろ。お前のために買ったんだ。後は、必要なパーツは俺の余りか
しくはここで買っていくかだ。余りの場合は在庫を確認しないと…。」

さよこ「え…いいですよ！デッキ代でも高いですし！」

蓮華「気にするな。新しくバトスピを始める仲間が出来たんだこれぐらいはさせろ。」

さよこ「そうですけど…。」

蓮華「それに同じ中学生だ。黙って受け取ってくれ…。」

さよこ「…分かりました…ありがとうございます。」

さよこはお辞儀をしてお礼を言う。

蓮華は広げたデッキの中身を整理してさよこに渡す。

蓮華「さて、帰ってデツキの調整をしようか。」

蓮華の言葉に頷くさよこ。2人は席を立ち、店を出ていく。

さよこ宅に着いた後、さよこの両親は帰ってきていた。夕食もできていたので夕食を済ます。

夕食後、お風呂も順番に済ませていく。

お風呂も済ませたので2人は部屋でデツキを組み上げていた。

蓮華「余りのカードで使えるカード利用して組んだが…こんなもんか…。」

さよこ「十分だと思いますが…。」

蓮華「とりあえず回してみるかどんなもんか…。」

さよこ「お手柔らかにお願いします。」

デツキを回してみた結果。勝敗は蓮華の勝利を収めたがさよこのデツキは意外と狂い気味でいたことが分かった。

そのころにはすでに23時を回っていたので就寝することになった。さよこはベッ

ト、蓮華は床で寝袋に眠る。

そんな翌日、蓮華は遅起きであった。起きようと寝袋から出ると…お着替え中のさよこがいた…。

さよこは顔を真っ赤にしてしまい、蓮華は何事もなかったように部屋の外に出ていった。

しばらくすると部屋から出てきたさよこ。蓮華は部屋に入って服を着替える。もうしばらくして蓮華は部屋から出てくる。

さよこは蓮華を見ると顔を真っ赤にする。蓮華は何も思っていないのだ。

お互い出かける準備ができたので2人は共に出かける。

昨日行ったカードショップに行くつもりでフリースペースに男女の人の集まっていた。気になった蓮華は近づくと、さよこも蓮華に続いていく。

そこには1人の女の子がフリースペースに座っていた。その女の子は黒い上着についているフードを被っていて肌から見て少し白い感じだった。

どうやらバトルを申し込んでいるらしい。蓮華は周りを見てい見た。どうやらバトルして負けた連中らしい。

？「誰かおらへんか、バトルする人？」

蓮華はデッキを取り出して「俺がやる…。」と名乗り出た。蓮華は女の子の座っている席の向かい側に座る。

不安そうにさよこは見ていたが蓮華の後を追って蓮華が座っている横に立っていた。

？「ほくん、あんさんがバトルするんか。」

蓮華「ああ。」

？「ふくん、あんさんなんやろーな。すごく強者に見えるが…。」

蓮華「どうだろうな戦って分かると思うぞ…。」

？「せやな。ウチの名前は森近（もりちか）せしる、よろしゅーな。」

蓮華「六道蓮華だ。」

せしる「六道蓮華…聞いたことある名前やな…。」

蓮華「別にいいだろ。やろうかバトル。」

せしる「せやな。」

2人はデッキをシャッフルし手札を用意し、リザーブとライフを準備する。

せしる「準備ええな？」

蓮華「いつでも。」

蓮華・せしる「ゲートオープン解放。」

ターンが重なっていく中、お互いは順番に準備をしていく。動き出したのはせしるだ。

せしる「軽減2、コスト5で双魚賊神ピスケガレオンXをレベル2で召喚。創界神オシリスのコアシャーヅ發揮。」

蓮華「珍しいな、ピスケガレオンXなんて。」

せしる「そうなん？普通なんかと思っただけ…。」

蓮華「妖蛇のデツキに入るか入らないかはどうでもいいがはいつてるデツキは若干珍しくてな。」

せしる「そうなんか。召喚時効果や。相手のスピリット、アルティメットのすべてのコア2個ずつを相手のリザーブに送る。この効果で消滅したスピリット、アルティメット1体につき、相手の創界神ネクサスのコアを3個ボイドに送る。消滅したスピリットはブレイドラX2体、モルゲザウルスX2体やな。」

蓮華「そうだな。創界神のコアは12個ボイドに置かれる。」

せしる「ピンチやないか？」

蓮華「それでもないぞ。」

せしる「まあええけどな。アタックステップ、ピスケガレオンXでアタック。」

蓮華「フラッシュはない、ライフで受ける。」

蓮華はピスケガレオンXのアタックを受けてライフは2となった。」

蓮華「ストライク・ジークヴルム・サジツタの効果、相手か自分のライフが減ったとき、デッキから1枚ドローク。」

せしる「ターンエンドや。」

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減2、コスト4で龍星の射手リュキオースをレベル2で召喚。光導創神アポロンのコアチャージ発揮。召喚時効果で龍射撃発揮。BP20000以下の相手スピリット、アルティメット1体を破壊する。風切りへびを破壊。」

せしる「やるやん。」

蓮華「リュキオースをレベル3にアップさせ。アタックステップ、リュキオースでア

タツク。龍射撃発揮、BP20000以下の相手スピリット、アルティメットを破壊。
ゼオ・デュラムを破壊。」

せしる「破壊時効果、自分の手札を3枚破棄することで、このスピリットは同じ状態でフィールドに残る。うちは手札を3枚破棄しこのスピリットを残す。さらにフラッシュタイミング、軽減2、コスト3でスネークビジョンを使用。相手のスピリット、アルティメットすべてのコアを、それぞれ1個になるようにリザーブに置く。さらに、追加効果で紫の創界神オシリスコアを1個ボイドに置き、相手のスピリット、アルティメットのコアを1個をリザーブに置く。リユキオースを対象。」

蓮華「リユキオースは消滅させる。こちらのフラッシュタイミング、リザーブにあるソウルコアをトラッシュに送り、ストライク・ジークヴルム・サジツタを超神光龍サジツトヴルム・ノヴァに煌臨。」

せしる「!!」

蓮華「光導創神アポロンのコアチャージ発揮。サジツトヴルム・ノヴァの煌臨時効果、BP20000以下の相手スピリット、アルティメットを破壊。ピスケガレオンXを破壊。サジツトヴルム・ノヴァでアタック。」

せしる「フラッシュはない。ライフで受ける。」

せしるはライフを受けることを宣言したことによりライフは0。蓮華の勝利となった。

せしる「いやー、強いなあんさん。」

蓮華「そうでもない。」

蓮華とせしるの周りが少しずつざわざわ始めていたのでせしるが蓮華を連れて店の外に出る。それにつられてさよこも店の外に出た。

せしる「すまへんな、うちここだと強い相手を探してバトルするもんでな。」

蓮華「いいことじゃないか。バトルすればいい交流もあるしな。」

さよこ「蓮華君。」

蓮華「ん、ああさよこ…すまん。」

せしる「なんや、彼女か？」

蓮華「ちげーよ。」

さよこ「あのーえつと…。」

せしる「すまへんな、うちは森近せしる。」

「さよこ「舞柴さよこです。」

せしる「さよこ…どっかで聞いた名前やな…思い出した、確か遊樹（ゆうき）が言つてた子やな。」

蓮華「誰だそいつ？」

さよこ「駒田遊樹（こまだゆうき）先輩です…。」

せしる「つてことは遊樹がナンパして子やな。彼氏がおると聞いていたんやけど…。」

蓮華「色々あつてな…。」

さよこ「別れました。」

蓮華「…。」

せしる「すまへんな。うちの友人がな。」

蓮華「なんだ、知り合いなのか。」

せしる「昔から女遊びが耐えんくてな。」

蓮華「そんなにか？」

せしる「中学入つてからかな。かなり過激になつてな。」

蓮華「そうか。」

蓮華はあまり興味なさそうに言う。

せしる「まあ、ええわ。これからやな。」

蓮華「まあそうだな。さよこはバトスピを始めたばかりだ。」

せしる「そうなんやな。じゃあ、昼からやけどさよつちのバトスピの勉強やな。」

さよこ「え、いいですか？」

せしる「ええよええよ。何かの縁や。」

さよこ「お、お願いします。」

さよこは昼からだがせしると蓮華にバトスピを勉強することになった。当然昼食を取ってからだが…。

六道蓮華の旅日記3

せしると出会った蓮華とさよこ。翌日、カードショップにてさよこのバトスピ教育が始まった。夏休みの宿題は蓮華の教えにより終わっている。

現在、蓮華とバトルしているさよこ。

蓮華 「アタックスステップ。ヤタグロスでアタック。」

さよこ 「フラッシュはありません。」

蓮華 「フラッシュタイミング、コスト3でマジック、デッドリイバランスを使用。相手は、相手の

スピリット1体を破壊する。その後、自分は、自分のスピリットを破壊する。」

さよこ 「ラグナ・ロックを破壊します。」

蓮華 「俺はアタック中のヤタグロスを破壊。さらに破壊されたヤタグロスの効果、ボイドから、このスピリット上に置かれたコア1個につきコア1個を自分のリザーブに置く。ヤタグロスに置かれていたコアの数は10個なためリザーブに10個コアを置く。」

せしる「デツキ構成おかしくない？」

蓮華「別にそうでもないだろ。ターンエンド。」

結果的に言えば蓮華が勝った。スピリットやマジックの効果でコアを増やすという作業しているため言ってしまうえばやりたい放題である。

その後、蓮華は小休憩を取るべくデツキをしまつて店を一度出る。

せしるはさよこにデツキ見直すため、さよこと一緒にいる。

蓮華は近くの自販機でコーヒーを買い、飲みながら考えていた。

蓮華「(王の創界神の情報が無い…どうすれば…)」

そう考えていると一人の人物が蓮華に近づいてきた。

？「すまない、お前が六道蓮華かな？」

蓮華「ああ、そうだが。」

？「そうか、お前が六道蓮華なんだね。俺は名前は富岡志勇(とみおかしゆう)。」

蓮華「富岡…聞いたことがあるな。大きな大会には出ていないがシヨツプ大会ではか

なりの実力と言われている、大きな大会に出れば予選すら圧倒するとかね。」

志勇「別にそんなことはない。それよりもお前と話がしたい。」

蓮華「俺と？」

志勇「そうだ、それと手土産ある。一緒にどうだ？」

蓮華「手土産？」

志勇「ずんだ餅とカフェオレだ。カフェオレに関しては近くのコンビニで買ってきた缶のものだがすまない。」

蓮華「あ、ああ。じゃあ、すぐ近くにベンチあるしそこでいいか？」

志勇「構わない。」

そんなことで蓮華と志勇は近くのベンチで座り、志勇の手土産のずんだ餅を食べながらカフェオレを飲むのであった。

蓮華「話つてのは？」

志勇「お前は何かを探しているのだから？例えば、王の創界神とか。」

蓮華「!?。なんでそれを…。」

志勇「最近噂になっている。見たことのない創界神があると…。」

蓮華「つまり、俺からその王の創界神の情報を探りたいと。」

志勇「いや、あらかたどうゆうものかは分かる。共に旅するのもいいかと思つてな。」

蓮華「成程な。なら実力を知りたい。」

志勇「いいだろう。」

蓮華と志勇はカードショップに移動する。と言つても蓮華がさつきまでいた場所だが。

せしむるときよこと合流した蓮華は「少し顔なじみの奴とバトスピしてくる。」と言いかバンからデツキとコアを出して対戦準備する。

志勇も同様、デツキとコアを出して対戦準備をする。

蓮華「準備は良いか？」

志勇「いつでも。」

蓮華・志勇「ゲートオープン解放。」

ターンが進み徐々にお互いの体制が整えつつあり、ターンは志勇のターン。

志勇「軽減2、コスト1でマジック、ストロングドローを使用。デツキから3枚ドローし、手札から2枚破棄する。手札から蒼穹の霸王カーン・ウルフ（REV）と鋼鉄機士フィロガストを破棄。さらに、軽減2、コスト4で月光龍ストライク・ジークヴルムXをレベル2で召喚。そして、バーストをセットしてターンエンド。」

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減3、コスト3で月紅龍ストライク・ジークヴルム・サジツタをレベル3で召喚。光導創神アポロンのコアチャージ発揮。アタックステップ、ストライク・ジークヴルム・サジツタでアタック。さらに、銀河聖剣グランシャリオの神域の効果、創界神にコアが4つ以上のある時、系統光導を持つ本来のコスト5以上のスピリットすべてにBP+5000し、赤のシンボルを追加する。」

志勇「ダブルシンボルか。その攻撃、ライフで受ける。」

志勇：ライフ5↓3

蓮華「ストライク・ジークヴルム・サジツタの効果、自分か相手のライフが減ったとき、デツキから1枚ドローする。」

志勇「効果によって手札が増えたときバースト発動、水覇刀ジユズマル。」

蓮華「!?」

志勇「バースト効果により相手の手札を見て、その中のマジックカード1枚を破棄する。」

蓮華は志勇に手札を公開する。

志勇「(光龍騎神サジツト・アポロドラゴンが手札にあるか…)ソウルドロローをトラシュに。そして、シュズマルをストライク・ジークヴルムXにダイレクトブレイヴ。」

蓮華「チィ、ターンエンド。」

志勇「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減3、コスト2でネクサス、要塞都市ナウマンシティーを配置。配置時効果、手札にある白のスピリットを1体をコストを支払わずに召喚する。俺は手札から月光神龍ルナティック・ストライクヴルムをレベル3で召喚。」

蓮華「ルナティックだと…。」

志勇「さらに水覇刀ジュズマルをルナティック・ストライクヴルムにブレイヴしストライク・ジークヴルムXのレベルを3にアップ。アタックステップ、月光神龍ルナティック・ストライクヴルムでブレイヴアタック。ルナティック・ストライクヴルムの

レベル2、3のブレイヴアタック時効果でこのスピリットのBP以下のスピリットを手札に戻す。ストライク・ジークヴルム・サジッタを手札に戻す。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ5↓3

志勇「ストライク・ジークヴルムXでアタック。アタック時効果でこのスピリットのBP以下の相手スピリットをデッキ下に戻す。さらにこのスピリットは相手の効果を受けない。ブレイドラXをデッキ下に。」

蓮華「ライフで受ける。」

蓮華：ライフ3↓2

志勇「ターンエンド。」

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減2、コスト3でマジック、ソウルドローを使用。デッキから2枚ドロ。」

志勇「(ソウルコアをコストに使わなかった…)」

蓮華「軽減3、コスト3で再び月紅龍ストライク・ジークヴルム・サジツタをレベル3で召喚。光導創神アポロンのコアチャージ発揮。さらに軽減2、コスト3で輝竜シャイン・ブレイザーをストライク・ジークヴルム・サジツタにダイレクトブレイヴ。アタックステップ、ストライク・ジークヴルム・サジツタでブレイヴアタック。」

志勇「…。」

蓮華「さらにフラッシュユタイミング、ストライク・ジークヴルム・サジツタに置いてあるソウルコアをトラッシュユに送り、超神光龍サジツトヴルム・ノヴァに煌臨。」

志勇「まさか引いたのか…!」

蓮華「サジツトヴルム・ノヴァの煌臨時効果でBP20000以下の相手スピリット、アルティメットを破壊。ルナティック・ストライクヴルムを破壊。」

志勇「…!」

蓮華「加えてフラッシュユタイミング、光導創神アポロンのコアを3個ボイドに送り神技を発揮。水覇刀ジュズマルを破壊しデッキから1枚ドロ。」

志勇「…ライフで受ける。」

志勇：ライフ3↓0

蓮華の勝利が決まり、志勇は少し笑った。

志勇「やはり強いな。防御マジックがないことが分かかっていて攻めてきたのか？」

蓮華「いや、ほとんど勘でやってた。でも、驚いた。水覇刀ジユズマルが入っていたことにな。」

志勇「そうか？」

蓮華「白青のデツキで他にもブレイヴあっただろうに。」

志勇「まあな。相手のマジックを捨てさせるのと手札を把握したい感じあるしな。」

蓮華「成程な。そりやいいな。」

その後、蓮華はせしるとさよこに志勇を紹介しバトスピをした。

そして、蓮華は志勇と旅をすべくさよこ帰宅しさよこの両親に話をする。

両親は静かに受け入れ、蓮華は再び旅の支度をする。出発は明日なのだ。ちなみに志勇はここに来るまでほとんど野宿をしていたのでせしるが志勇を連れていき家に泊めるということになった。

そして翌朝、蓮華はさよこと共に近くの公園で待っていた。

蓮華「案外長居してしまつたな。」

さよこ「そうかな？」

蓮華「俺からすればだけど。」

さよこ「でも、バトスピと出会ってよかつたって思えるよ私は。」

蓮華「まあ、最初なんてバトスピを知らなかつたしな。でもこれからは友達とバトスピ出来るぞ。」

さよこ「確かにですね。」

そう話していると志勇とせしるが来た。

志勇「すまない、遅くなつた。」

蓮華「いや、全然。」

せしる「なんや、最後の別れだし告白でもしとつたんか？」

蓮華「するかよ。」

さよこ「…。」

志勇「蓮華、行くぞ。」

蓮華「ああ。」

さよこ「これからどうやって違う街に行くの？」

志勇「歩いて他の街に行くには少し遠い、だから一度電車に乗る必要がある。」

蓮華「そうか、下手すれば登山になっちまうか。」

せしる「流石にそれは避けたいな。」

志勇「そうゆうことだ。蓮華、それでいいか？」

蓮華「全然、俺は良いぜ。」

せしる「元気でな。」

さよこ「いずれまた会いましょう。」

蓮華「ああ、バトスピを続けていればいすれまた会える。」

志勇「そうだな。」

蓮華「∴。じゃ、行くか。再び長い旅に。」

蓮華と志勇は再び長い旅に出るのであった。さよことせしるに別れを告げて。

おまけ

蓮華「そう言えば、なんであんときの土産がずんだ餅なんだ？」

志勇「偶々立ち寄った店がずんだ餅を宣伝していな。」

蓮華「ああ、お土産屋つてそうゆうところあるよな。ちなみになんだがずんだ餅以外の土産だったら何にする気だったんだ？」

志勇「いちご大福だ。」

蓮華「…。」

志勇「どうした？」

蓮華「逆にそれでよかった気がするよ…。」

志勇「…そうか。」

六道蓮華の旅日記4

大阪を旅だった六道蓮華と新しく旅の仲間になった富岡志勇。

現在2人は九州の熊本に着いてラーメン屋にて豚骨ラーメンを食べている。

蓮華「とうとう九州の熊本に着いてラーメンを食べているよ俺たち。」

志勇「そうだな。」

静かにラーメンを食べる志勇。それにつられて蓮華も食べる。

蓮華「しかし、これからどうするんだ？王の創界神の情報、この辺で集まると思うか？」

志勇「実はお前と会う前にいい情報がある。」

蓮華「なんで、大阪で教えなかつた？」

志勇「あまり他人に教えていい情報じゃないだろ。」

蓮華「まあ確かに。けど、そういう情報は早く教えてくれ。変な道草せずに済んだの

に。」

志勇「…そうだな。」

そう言つてラーメンを食べる。蓮華は替え玉を注文しておかわりをする。

志勇「情報内容だが、沖縄の小さな村に王の創界神の情報を知っている奴がいると聞いた。」

蓮華「沖縄か…。こりや随分と面倒な…。」

志勇「仕方がないだろ。だが、王の創界神が情報だ。ここで引くわけにはいかないだろ。」

蓮華「だな。早速だが沖縄に行く準備するか。」

志勇「そうだな。」

蓮華と志勇はラーメンを食べきつて会計をする（蓮華が支払った。）

その後、蓮華と志勇は沖縄に行くべく必要なもの（食料と飲み物、道具）を買いに行き船で沖縄に行くのであつた。

そんな翌朝、沖縄に到着して船から降り、徒歩で情報のある村へ向かつてた。

村に到着した蓮華と志勇。2人は村を見て思った。「なんだこの村は…。」と。

蓮華「とにかく宿を探そう。そこからだ。」

志勇「ここに宿あるのか？」

蓮華「…。」

そんなことしていたら1人の女の子が近づいてきた。

？「君たち何処から？」

志勇「東京からだ。」

蓮華「!?（志勇も東京から!）」

？「へえー東京からか!あ、アタシ夏本涼香（なつもとりようか）。」

志勇「富岡志勇だ。それと…。」

蓮華「六道蓮華だ。」

涼香「よろしく!宿探してるでしょ。残念だけどここにはなくてね。」

志勇「そうか。」

涼香「家でよければ部屋空いてるけど。」

蓮華「いいのか？」

涼香「家は咲姉とアタシしかいないしアタシは全然いいよ！」

志勇「どうする蓮華？」

蓮華「行こう、宿なしで野宿するよりマシだろ。」

そんなことで蓮華と志勇は涼香の案内で家に行くことになった。

涼香の家に着き、中に入る蓮華と志勇。そこには一人の女性がいた。

？「涼ちゃん？」

涼香「ただいま！」

蓮華・志勇「お邪魔します。」

？「涼ちゃん、この人たちは？」

涼香「実は宿を探していてここになから家でもいいかって！」

？「そう…家でよければいくらでも泊ってください。私は夏本咲（なつもとさき）言います。」

蓮華「六道蓮華です。俺の隣にいるのが富岡志勇です。」

志勇「よろしく頼む。」

咲「よろしくね。それじゃ部屋を案内するわ。」

靴を脱いで部屋に案内される蓮華と志勇。客間に案内され荷物を置く2人。

咲「ここでよければ自由に使ってください。」

蓮華「ありがとうございます。」

志勇「両親はどうしているだ？」

蓮華「そうゆうのは聞かない方がいいぞ志勇。」

咲「両親はこの村を出て都会で仕事してるのよ。」

志勇「すまない、聞くことではなかったな…。」

咲「いいです。私は夕食の準備をしますね。リビングで待っていてください。」

咲は客間から出て台所へ、蓮華と志勇はリビングに移動する。

リビングに移動した蓮華と志勇、リビングには涼香が座ってテレビを見ていた。

涼香は蓮華と志勇に気づき座りながら話しかける。

涼香「あ、来たんだ。」

蓮華「ああ。もうすぐ夕食だというしな。」

涼香「咲姉のご飯はおいしょ！」

蓮華「そうか。」

蓮華と志勇はテーブルの前に座ると咲が料理を運んで来たので夕食を食べるのであった。

夕食後、蓮華と志勇は客間でバトスピのデッキ調整をしていた。

蓮華「うーん。」

志勇「ソウルドロージャなくリバイヴドローにしてみたらどうだ？」

蓮華「確かにリバイヴドローならデッキから2枚ドローするか、トラッシュからスピリットを回収できる効果だしな。リバイヴドローを3詰んでみるか。」

そんな風にカードを弄っていると客間に涼香が入って来た。

涼香「何してるの？」

蓮華「バトスピのデッキを調整してるんだ。」

涼香「バトスピ？」

志勇「知らないのかバトルスピリッツを？」

涼香「ルールは分かるんだけどやったことないんだよね。」

蓮華「なんだ、知ってるじゃないか。」

涼香「そうゆうのに触れてこなかったからね。あ、でも健斗ならやっていた気がする。」

蓮華「健斗？」

涼香「幼馴染でここらへんじゃ数少ないカードバトラーだよ。」

志勇「数少ない…どうゆうことだ？」

涼香「この村はね、アタシたちのような学生…と言うより若い人が少ないっていたほうがいいかな…。」

蓮華「そういえば周りを見たとき老人が多かったな。」

志勇「と言うことはここはかなり昔からある村のようなものか。」

涼香「うん。だからバトスピをする人が少ないんだよね。」

蓮華「そうなのか…。」

志勇「まあいい。蓮華、調整が終わったらバトスピするぞ。」

蓮華「ああ。」

涼香「見てていい？」

志勇「見ててもつまらないだろ。」

涼香「いいじゃん！」

その後、蓮華はデッキの調整を終えて志勇とバトルする。涼香は蓮華と志勇のバトルを見学する。

バトルの結果、志勇の勝利。蓮華はデッキのどこが悪かったかを見つめ直すのであった。

翌日、朝食を食べ終えて涼香と咲は学校へ行った。蓮華と志勇は王の創界神の情報を持っているという老人を探すべく村で情報収集していた。

情報の結果、村外れの街にということだったのでそこに向かった。

蓮華「この街か…。」

志勇「ああ。バトスピおじさんと言われた老人の家はこの街の奥だ。」

そんなことで蓮華と志勇はその家に向かい、インターホンを鳴らした。

家から出てきたのは1人の青年だった。

青年「君たちは？」

志勇「ここにバトスピおじさんがいると聞いてきたんだが…。」

青年「俺のお父さんに？うーん…。」

蓮華「何かあつたんですか？」

青年「俺のお父さんは5年前に亡くなっているんだ。」

志勇「なに!？」

蓮華「5年前…。」

青年「ごめんね。訪ねてきてくれて。」

蓮華「王の創界神…この単語に聞き覚えはないですか？」

青年「王の創界神…そう言えばお父さんなんかそんなことを…待ってて今、本を持ってくる。」

青年は家の奥へ行き本を取りに行く。数分後、青年は本を持って現れた。

青年「これだよ、お父さん持っていた物だけど家の押入れに入っていたから。」

蓮華は本を受け取り、すぐさま本を読む。

蓮華「この本、一部ページが破れている。」

青年「え、本当かい？」

蓮華「まるで重要なことやバレたくないことを隠す感じに破られている。」

志勇「何かわかることあるか？」

蓮華はページを次々めくる。すると手が止まった。

蓮華「うん？」

志勇「どうした？」

蓮華「研究レポートその15。王の創界神はバトスピ中、フィールドに配置されたとき、ライフ減少した瞬間その人間に現実的にダメージが入る。これに耐えられるものはそういなく、一部の研究員は最後までバトルが出来ずその場で力尽きた。結果、この創界神は危険とされ各地に封印することにした。封印者は己の命を引き換えにして…。研究レポートその16。これ以上の研究は不可能と分かり研究所を自爆を決行。だが、研究員は王の創界神の情報を持っているものも多い。そのため、記憶を消すため携帯装

置を使って記憶を消した。研究員全員避難させ研究所を自爆。その後の研究者たちはそれぞれの道に行き日常に溶け込んだ…。この本一部が日記になってる。」

志勇「研究：つまり王の創界神を使って実験をしていたのか…。」

蓮華「分からない。これと同じ本があるかもしれない。」

志勇「成程な。」

青年「うーん。少なくとも俺のお父さんは研究者とかそんなんじゃないしただ単純にバトスピが好きな人だったしな…。」

蓮華「この本、貰っていいですか？」

青年「え、いいけど。」

蓮華「ありがとうございます。」

その後、蓮華は再度お礼をいい、志勇と家を出た。

蓮華と志勇は涼香の家に戻るべく歩いていった。

志勇「しかし、王の創界神を使った実験：考えられないものばかりだな。」

蓮華「まあな。しかしこの本、かなり古いし読めるページもボロボロ。これを書いた人はどうしてこんなことを本に残したやら。」

志勇「情報の一部は空振りだが王の創界神が存在する証拠の内容を手に入ったな。」
蓮華「ああ。」

家に着き、咲に迎えられて夕食を食べる。

夕食後、蓮華と志勇はバトスピをやっていた。

それを見ていた咲と涼香。2人が真剣にバトルしているのを見て微笑ましく感じたのだった。

六道蓮華の旅日記5

六道蓮華は涼香の家の客間にて昨日貰った本を解析してる。

蓮華「ダメだ…破れている…。ほとんどページが穴が空いているのもあるしこれじゃあどうしようもない…。」

本のページをめくっても破れていたり穴が空いてるなどほとんど解析ができない状況になっている。読めるページがあつたことは奇跡なぐらいだ。

蓮華「でも、バトスピを使った実験が行われてるのは確かだ。なのに…実験していた奴が耐えられない実験ってなんだ？」

そんな風に疑問を抱いていると客間の扉が開く。

志勇「蓮華…。まだ、その本を解析しているのか？」

扉を開けたのは志勇だった。

蓮華「ああ、だが、全然だめだ……」

志勇「そうか……」

蓮華「これじゃあ、解析は不可能って感じだ。」

そう話していると、少し大きな声が聞こえた。

蓮華「なんだ？」

志勇「家の外……と言うより庭あたりだな。」

蓮華と志勇は家の庭に行く。

そこには子供が3人と涼香がいた。だが、金持ちそうな少年がいてその男はデツキを
持つて笑っていた。

お金持ちそうな少年「やつぱ弱いな、弱い奴はパトスピなんてやるもんじゃないよ！」

涼香「なんでそんなこと言うの！バトスピは誰もが楽しくやるもんでしょ！」
お金持ちそうな少年「フン！どうだが、弱い奴は狩られ強い奴は強者として弱い奴を狩るんだよ！」

その瞬間、蓮華は心の中に一瞬鼓動を感じた。まるで触れてはならない何かに触れた感じのように。

蓮華「弱い奴は狩られる、聞き捨てならねーな。」

涼香「蓮華…。」

お金持ちそうな少年「ほう…ならお前がやるか？」

蓮華「いいぜ、そこまで言うなら。」

お金持ちそうな少年「なら、アンティールールだ。俺はこのカード、超神星龍ジーク
ヴルム・ノヴァ「REVI」を賭けてやる。」

蓮華「なら、俺は超神光龍サジツトヴルム・ノヴァを賭けてやる。」

志勇「?!」

涼香「蓮華！マサオの賭け事に乗らなくても…！」

蓮華「奴がこの話以外すると思うか？」

涼香「…。」

お金持ちそうな少年マサオは蓮華に期限をつけた。

マサオ「勝負の日は2日後でいいな？」

だが、蓮華は…

蓮華「いや、明日だ。」

マサオ「何？」

蓮華「てめえを倒すのにそんないらぬ。」

マサオ「なら明日の昼でいいな？」

蓮華「構わない。」

そう言うとマサオは高笑いしながら去っていた。

涼香は少年2人を慰めている。

蓮華は客間に戻りデッキを組み始めた。志勇も協力し始める。

蓮華「相手はジークヴルム・ノヴァだ。ならこちらもジークで挑むか。」

志勇「シークか：ノヴァの対抗策はあるのか？」

蓮華「あるにはある。ちまちまやつてもノヴァでライフ回復されていても困るし打点で殴る。」

志勇「アビスか…。」

蓮華「ああ。ネクサスを大量に配置して、大煌海で一気に殴る。」

志勇「創界神の馬神弾、スピキュールドラゴンのアクセルを使われたらどうする？」

蓮華「あんな奴がスピキュールループすると思うか？ないない。創界神の馬神弾もデツキに入っていないよ。」

志勇「何故言い切れる？」

蓮華「あーゆう奴はテキストをちゃんと読んでいない奴だよ。ノヴァが強いから墓地から回収とドローとサーチさえできればいいとしか考えてない。相手のスピリットやアルティメットを破壊したりネクサスで相手の不利を狙うこともバトスピの1つだ。」

志勇「成程な。ネクサスは何を使う？色によっては不利だぞ。」

蓮華「使うとすれば緑、青、紫かな。」

志勇「まさか、召喚時を封じる型か。」

蓮華「青の聖遺物とラインの黄金を使う感じだな。」

志勇「緑はどうする気だ？」

蓮華「あー…遺跡草原使うか。」

志勇「極悪だな。」

蓮華「当たり前だろ。使うスピリットも決まってる。後は…デッキを形にするだけだ。」

蓮華は次々と考えながらデッキを形していく。形ができたのは夕ご飯前だった。

夕食後…蓮華は再びデッキ調整に入る。

だが、ネクサスを中心としたデッキでキャツスル・ゴレムやジークフリード・アビスと言ったカードを使用してても白晶防壁のようなライフを1までしか削れないカードを使われたらシークヴルム・ノヴァで回復されたりするのではと思った。キャツスル・ゴレムはデッキ破棄の効果だからまだ良いが召喚時のため、ラインの黄金のような召喚時を止めるカードを使うと意味がない。

そう思った蓮華は突然あるカードを思い出した。蓮華はカバンの中にあるストレージからそのカードを取りテキストを確認した。

そして、最速でデッキを作った。デッキを作り上げたころもは志勇が部屋に戻ってき

た。

蓮華がデッキを作っていたころ、志勇は咲の手伝いをしていたようだ。

翌日、蓮華は家の庭に用意された机の前に立って待っていた。そして、マサオも来て机の前に立つ。

蓮華「覚悟はあるだろうな？」

マサオ「それは、こっちのセリフだ。」

蓮華とマサオはデッキを取り出して、お互いのデッキをカット&シャッフル。そして、コアの準備をし準備完了。

2人の対戦を見守の涼香、志勇、咲。

蓮華「いくぞ…。」

蓮華・マサオ「ゲートオープン解放。」

マサオ「先行は俺だ。」

蓮華「好きにしな。」

マサオ「スタートステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2、創界神アポローンを配置。」

蓮華「早速来たか…。」

マサオ「配置時効果、デッキから3枚オープン。」

オープンされたカード：煌星第一使徒アスガルディア、黒皇龍ダークヴルム（REV）、煌星龍スピキュールドラゴン

マサオ「対象は3枚、コアを3個チャージ。ターンエンド。」

マサオ

ライフ：5 手札：4

フィールド

ネクサス：創界神アポローン〈3〉

リザーブ：〈ソウルコア、1〉

コアトラッシュ：〈2〉
バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、メインステップ。コスト2で月光のバローネを配置。」

その時、志勇が驚く。

蓮華「配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：夫王神獣スレイ・ウラノス（REV）、月紅龍ストライク・ジークヴルム・サジッタ、スプレッド・トータス

蓮華「対象のカードは3枚、コアを3個チャージ。さらに軽減1、コスト1で馬神弾を配置。配置時効果、3枚オープン。」

オープンされたカード：大神剣アラマンデー、砲凰竜フェニック・キャノン（RE

V)、月光龍ストライク・ジークヴルム

蓮華「対象のカードのカード3枚、コアを3個チャージ。フル軽減、コスト2、大神劍アラマンディーを馬神弾にダイレクトブレイヴ。月光のバローネと馬神弾にコアチャージ。ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5

手札：2

フィールド

ネクサス：月光のバローネへ4、馬神弾（大神劍アラマンディーブレイヴ中）へ4

リザーブ：へ0

コアトラッシュへソウルコア、4

バーストなし

マサオ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減1、コスト3でサンピラー・ドラゴンをレベル1で召喚。創界神

アポローンにコアチャージ発揮。召喚時効果、自分のトラッシュの系統星竜を持つスピリット、ブレイヴカード1枚を手札に戻す。対象は黒皇龍ダークヴルム（REV）を手札に戻す。ターンエンド。」

マサオ

ライフ：5

手札：5

フィールド

スピリット：サンピラードラゴン〈1〉

ネクサス：創界神アポローン〈4〉

リザーブ：〈ソウルコア〉

コアトラッシュ〈3〉

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。フル軽減、コスト1、照準機兵ミューゼスをレベル1で召喚。月光のパローネと馬神弾にコアチャージ発揮。召喚時効果、相手の手札3枚につき、ボイドから

コアを1個をこのスピリットに置く。お前の手札は5枚、ボイドから1個をミューゼスに置く。フル軽減、コスト1でスプレッドトータスをレベル1で召喚。月光のバローネと馬神弾にコアチャージ發揮。召喚時効果、ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。」

見守っている志勇が蓮華のデッキの動きを見て思った。

志勇「まさか俺のデッキの模倣して改造したのか。」

そうゆうと涼香は質問する。

涼香「蓮華と志勇ってお互いそんなに対戦したの？」

志勇「何百と対戦はしていない。やったのは精々数十ぐらいだ。しかし嘗めていた、あそこまでデッキを完成度上げてくるとはな。」

涼香「普通は無理なの？」

志勇「数十回の対戦でまずデッキの中身をすべて把握するのは困難なものだろう。だが蓮華はデッキの一部と推測で組んだのだろう。」

咲は志勇の話聞いてると何かを思い出したかのように言う。

咲「確か蓮華君ってバトスピの全国1位じゃなかったっけ？」

咲がそうゆうと涼香は驚く。

涼香「え、そうなの!？」

志勇「ああ。蓮華は全国1位だ。大会では無敗をかざっている。」

咲「そんな凄い人がなんでこの村に来たんですか？」

志勇「アイツにも色々ある。色んな所を見て回りたいのだろう。」

そう話していると蓮華とマサオの対戦に視点が戻る

蓮華「アタックステップ、照準機兵ミューゼスでアタック。」

マサオ「フラッシュはない、ライフで受ける。」

マサオ：ライフ5↓4

蓮華「ターンエンド。」

蓮華

ライフ：5

手札：1

フィールド

スピリット：照準機兵ミューゼス（疲労中）へ2、スプレッド・トータスへ2

ネクサス：月光のバローネへ6、馬神弾（大神剣アラマンディーブレイヴ中）へ6

リザーブ：へソウルコア、1

コアトラッシュへ2

バーストなし

マサオ「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。自分のライフのコアを1個トラッシュに置くことでコストは1減る。」

マサオ：ライフ4↓3

マサオ「軽減2、コスト1黒皇龍ダークヴルム（REV）をレベル1で召喚。創界神アポロンにコアチャージ発揮。さらにこのスピリットはライフと同じコストになる、フル軽減、コスト0、雷皇龍ジークヴルム（REV）をレベル3で召喚。創界神アポロンにコアチャージ発揮。」

蓮華「（来るか、ノヴァ。）」

マサオ「アタックステップ、雷皇龍ジークヴルム（REV）でアタック時効果、煌激突。相手はスピリット、アルティメットは、可能ならブロックする。」

蓮華「ミューゼスとスプレッド・トータスは重装甲赤・緑がある。効果は受けませんが、フラッシュはないスプレッド・トータスでブロック。ブロック時効果、ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。」

マサオ「ジークヴルム（REV）がブロックされたとき、手札にあるカード1枚をソウルコアをトラッシュに置かずに煌臨で重ねられる。手札にある超神星龍ジークヴルム・ノヴァに煌臨。創界神アポロンにコアチャージ発揮。煌臨時効果、自分のトラッシュのコアすべてをこのスピリットに置く。さらにカード名にヴルムを含むスピリットに煌臨していたとき、自分のライフが5になるように、ボイドからコアを置く。」

マサオ：ライフ3↓5

マサオ「さらに煌臨元のジークヴルム（REV）の自分のアタックステップ効果。このスピリットに煌臨で系統星竜を持つスピリットカードを重ねるとき、相手のライフのコア1個を相手のリザーブに置く。」

蓮華：ライフ5↓4

蓮華「スプレッド・トータスのBPは6000、破壊する。」

マサオ「創界神アポロンの神域（グランフィールド）発揮。系統星竜を持つ自分のスピリットが、相手のスピリット、アルティメットを破壊したとき、相手のライフのコアをリザーブに置く。」

蓮華：ライフ4↓3

マサオ「フルアタックを仕掛けてもいいが、ここはターンエンドだ。」

マサオ

ライフ：5

手札：3

フィールド

スピリット：超神星龍ジークヴルム・ノヴァ（REV）（疲労中）へソウルコア、5、
サンピラー・ドラゴンへ1、黒皇龍ダークヴルムへ1

ネクサス：創界神アポロンへ7

リザーブ：へ0

コアトラツシユへ0

バーストなし

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレツシユステップ、メ
インステップ。照準機兵ミューゼスをレベル1にダウン。軽減3、コスト4で月光神龍
ルナティック・ストライクヴルムをレベル3で召喚。」

マサオ「ルナティック・ストライクヴルムだと…？」

蓮華「月光のパローネと馬神弾にコアチャージ発揮。フル軽減、コスト2で大神剣ア

ラマンデーを月光神龍ルナティック・ストライクヴルムにダイレクトブレイヴ。月光のバローネと馬神弾にコアチャージ発揮。アタックステップ、ルナティック・ストライクヴルムでブレイヴアタック。ルナティック・ストライクヴルムのブレイヴアタック時効果、このスピリット以下の相手スピリット1体を手札に戻す。対象はダークヴルム（REV）。

マサオ「チィ…」

蓮華「大神剣アラマンデーのブレイブアタック時効果、BP10000以下の相手スピリット1体を破壊し、1枚ドロ。破壊対象はサンピラー・ドラゴン。」

マサオ「ふん！（まだ余裕がある。あのブレイヴスピリットを破壊すれば…。）」

蓮華「フラッシュタイムイング、月光のバローネの神技（グランスキル）を発揮。ターンに1回、このネクサスのコア2個ボイドに置き、系統武装、星魂、神星、光導を持つ自分のスピリット1体を回復させる。ルナティック・ストライクヴルムは系統武装、神星、回復する。」

マサオ「回復したところで！」

蓮華「ルナティック・ストライクヴルムの重装甲可変がある。ルナティック・ストライクヴルムはこのスピリットの色の相手のスピリット、ブレイヴ、マジック、ネクサスの効果を受けない。ルナティック・ストライクヴルムは大神剣アラマンデーをブレイ

ヴしている。よって6色の重装甲をまとっている。」

マサオ「なあ……！」

蓮華「シンボル2つ以上を破壊するマジックはマグネティックフレイルムやアクセルでブレイズタイガーを使われても重装甲でケアしてるんだよ。たとえば、アポロンの神技（グランスキル）を使われてミューゼスを破壊したところで打点は足りている。」

マサオ「ライフで受ける。」

マサオ：ライフ5↓3

蓮華「さらに馬神弾の神域（グランフィールド）効果。自分のブレイヴスピリットのバトル終了時、相手のライフ1個をリザーブに置く。」

マサオ：ライフ3↓2

蓮華「再びルナティック・ストライクヴルムでブレイヴアタック。アラマンディーの効果で破壊対象なし、デッキより1枚ドロ。」

マサオ「ら、ライフで……受ける……。」

マサオ：ライフ2↓0

この瞬間、蓮華が勝利した。

普通なら不利かもしれない対戦に対して：

蓮華「約束どうりお前のノヴァを貰うが…：いらぬい。」

マサオ「な、なんだと…：。」

蓮華「ガキから手に入れたところで何になる。俺はただお前みたいながき…：いや、人間が嫌いだから勝負しただけだしな。」

マサオ「…：。」

蓮華「二度とくだらない真似すんなよ。もしやるって言うなら…：地獄の底まで叩き潰してやろうか？」

マサオは反論すらできなくなってしまうた。

むしろデッキとコアを片付けて黙ってその場を去った。蓮華の脅しは考えてみれば普通じゃない。

これが蓮華が大会で経験して喜びがあつたはずなのにそれを失くした瞬間かもしれない…孤高と呼ばれる本当の意味…。

六道蓮華の旅日記6

対戦から2日後、何もなかったように日が過ぎていった。

蓮華はこれ以上、情報は得られないだろうと思い、志勇に話をする。

だが、志勇は「少しはゆっくりしたらどうだ？お前は何かと考えすぎている。」と言われる始末である。

確かに蓮華はここまで来るのに色々あった。と言うよりあり過ぎたともいえる。

何がとは言っても細かい話をすれば長くなるでしょう。

そう考えていると涼香が来て、「バトスピを教えて！」と言ってきた。

涼香は大まかなルールは知っているが細かいルールを知らないため、教えることになった。涼香の姉、咲は村の手伝いで外にいる。志勇は散歩ついでに咲の手伝いに行くのであった。

それから夕方、咲と志勇が帰ってくると蓮華と涼香は2人でデッキを構築をしていた。

志勇は「少しはリラックスできたようだな。」と思った。

志勇は出会ってから日は短いが高孤のバトラーとして言われといる蓮華をケアし

たのだろう。少し言葉なのだろう…。

夕食を食べ終えた蓮華達。そして蓮華はこうつぶやいた。「そろそろ東京に戻らないとな。」と言う。志勇は「そうか、東京から旅を始めたもんな。」と言う。

王の創界神の存在は実物はなくとも存在するという証拠が残っているからだ。東京に戻ればもしかしたら王の創界神の存在を見ることができるかもしれないと蓮華は思った。蓮華が東京に帰るとなれば志勇も同じように東京に帰ることになる。旅のお供とはそうなるのだろう。

蓮華 「つていうか志勇お前、東京に家あんの？」

志勇 「ん、そういえば言っていなかったな。」

蓮華 「会ったに言えよ!」

ツツコミを入れてたところで明日には東京に戻るための準備を始めるのであった。

それから1時間後、準備を終えた蓮華と志勇。これからどうするかを話し合った結果、蓮華は東京に帰り、志勇は一度福岡に行くことになった。

次の日、蓮華と志勇は咲、涼香に見送られ形で外に出た。

志勇「世話になった。」

涼香「いいの、全然。楽しかったしね。」

咲「そうよ、楽しかったわ。」

蓮華「ならよかった。いきなり来て迷惑なこともあったしな。」

咲「そんなことないよ、蓮華君たちのおかげで助かったこともあるしね。」

志勇「それならよかった。」

涼香「ねえ、蓮華。」

蓮華「なんだ？」

涼香「バトスピをし始めて、続けていればまた会えるよね……？」

蓮華「……。」

蓮華は数秒黙っていたが、蓮華は「会えるさ、いつかな……。」と言った。

涼香は嬉しそうな顔をした。

そして、志勇は「行くぞ。」と言い、蓮華と共に村を出た。

村を出た蓮華と志勇を見送った後、涼香はこう言った……「私、東京に行きたい……。」

それを聞いた咲は、驚かずにいた。まるで冷静に聞いていた。そして咲は「そうね、

涼ちゃんが中学を卒業したら……東京に行きましょう。」と言ったのだった。

それから蓮華、志勇はというと…

志勇「話した通り、俺は福岡に行く。」

蓮華「本当にいいのか？」

志勇「ああ。世界は広い、もつとすごいバトラーがいると思うしな。」

蓮華「寂しくなるな…。」

志勇「お前がそう言うとはな。」

蓮華「おかしいか？」

志勇「いや、そんなことはない。」

蓮華「なんだよ…。」

志勇「まあいい。蓮華、いつかまた会おう。今度はバトスピチャンピオンシップで
だ。」

蓮華「ああ、また会おう。」

蓮華と志勇は握手をしてそれぞれに別れた。蓮華は東京に、志勇は福岡に行くので
あつた。

それから蓮華は電車に乗りバスに乗りと東京に向かって乗り継いできた。

東京都豊島区のぞき坂にて…

蓮華 「腹減ったな…近場でなんか買って食うか…。」

そんなことを言っていると、1人の男に鉢合わせた。

? 「うん?」

蓮華 「…うん?」

何故か目が合った、2人。

蓮華 「…えーつと…。」

? 「…。」

蓮華 「すいません、近場で何か食べる場所ありますか?」

? 「目が合って最初に聞くのそれなのか!?!」

蓮華 「なんだ、他に何かあるのか?」

? 「すいませんは分かるよ、近場で何か食べる場所なんだよ!?!」

蓮華「一々面白いな、名前は？」

？「…阿良々木暦。」

蓮華「そうか、俺は六道蓮華。」

暦「六道蓮華って確かバトスピチャンピオンシッポの優勝者だよな。」

蓮華「ん、そうだな。」

暦「なんで、そんな大物がこんなところで…。」

蓮華「旅してたしね。」

暦「なんだ、そうだったのか。…少し移動するけどミ〇ドがあるけど…行くか？」

蓮華「…行こう…腹減った。」

移動して20分、ミ〇ドに来て食べるものを選びの飲み物注文して会計し、向かい合って席に座る。

蓮華「ふう…東京に来てようやく一息だ。」

暦「そんなに長い旅していたのか？」

蓮華「ああ、と言っても大したもののは得られなかったしね。」

暦「そうなのか？意外と楽しく旅しているように見えるがな…。」

蓮華「んなことねーよ。移動がかなりしんどいぞ。」
曆「そうだよな…。」

蓮華はドーナッツを食べて、曆は飲み物を一口飲む。

蓮華「しかし、曆はなんであそこにいたんだ？」

曆「ああ、彼女を家まで送っててさ…。」

蓮華「なんだお前、彼女いたのか。」

曆「いたら変か？」

蓮華「別に…。」

曆「お前間違えなく変だと思つたら?！」

蓮華「んなことねーよ。」

曆「まあいいけど。丁度彼女とバトスピをしていてボロ負けしたんだよ。」

蓮華「その帰りだったのか。でえ、デッキ内容は分かるか？」

曆「彼女のか？」

蓮華「ああ。」

曆「えくつと蟹？」

蓮華「蟹つてことはキャンサードか…。」

暦「なんかあらゆる蟹がいたような…。」

蓮華「キャンサードは通常のキャンサードに加えてXが出たからな…実質キャンサード6枚体制だしな。」

暦「ブロックできなくてライフ削られたし。」

蓮華「辛いな…。」

会話が続き腹ごしらえ終わり店の外に出て話す。

暦「蓮華はこれからどうするんだ？」

蓮華「家に帰るにしても日が大分落ちてるしな。」

暦「なら、家来るか？妹居るけど…。」

蓮華「迷惑じゃなければ…。」

暦「じゃ行くか。」

そんなこともあり蓮華は阿良々木家にお邪魔するのであった。

六道蓮華の旅日記7

阿良々木家に来た六道蓮華。阿良々木曆によつて家にかかるが妹の阿良々木火燐と阿良々木月火よつて兄、阿良々木曆がからかわれたのであつた。

そんなことがあり、曆の部屋に来て蓮華がバナナのソファ―に座り、曆が自分の机の椅子に座る。

蓮華「悪いな、いきなり来て。」

曆「いいよ、そんなこと気にしてないから。」

蓮華「ならいいが…。」

曆「そこまで気にすることか？」

蓮華「…。」

曆「素直に好意は受け取っておけよ。」

蓮華「そうだな、ありがとう。」

曆「どういたしまして。」

蓮華「それより、曆はデツキのコンセプトとかつて…。」

曆「夜族なんだけどね…。」

蓮華「また珍しいところを突いたな。」

曆「ダークヴルム・ノヴァがかつこよくてきつい組んだんだよ。」

蓮華「ダークヴルム・ノヴァはブレイヴキラーだから戦力にはなるがパワーが足りないからな。」

曆「そこは夜族以外の紫を使ってるよ。」

蓮華「例えば？」

曆「アルティメットベルゼビート。」

蓮華「成程、破壊されてもベルゼビートのトリガーで釣ってこれるわけか。」

曆「最初は迷ったよ、冥主のデッキにしようかとかね。」

蓮華「だろうね。どのカードを使いたいかとかあるしね。実際自分が使いたいカードがあまりにも古かったり、種類が少ないとなると形にしにくいしね。」

曆「まあ、そこはなんとかね…。」

蓮華「でも、構築の幅は広くないんだよね。」

曆「言わないでくれよ…。」

冥主のデッキは超煌臨編までのカードプールが少なくないわけではないがテーマ化

していないため混ぜ物しないとうまく組めないこともある。
しかし、現状これが現実である。

蓮華「とりあえずデツキの中身見せてみようか。」

暦「え、いいけど…?」

蓮華が中身を確認したところ、変な形をしたデツキだと分かった。

蓮華「ダークヴルム・ノヴァとレブナントは分かる。なんで魔界七将?」

暦「なんというか…かっこいいから?」

蓮華「ロマンか!」

まさかの理由でデツキに組み込まれている魔界七将。

そこから蓮華のバトスピ講座が始まった。

講座の内容は色ごとの特徴と系統のちよつとした動きを紹介…と言うよりプレゼンをする感じである。

途中から妹のこと阿良々木火燐と月火が聞いていて自分たちのデツキを構築してい

た。

暦も何とか構築をしているが現段階ではいい形が作れないのがすぐ分かった。

次の日、火燐と月火が家に千石撫子を連れてきてバトスピをしていた。千石撫子デッキは暦と同じ紫のデッキであるが系統が妖蛇だった。キースピリットのアルデウス・ヴァイパー+妖刀ムラマサのプレイヴァタックで火燐と月火を倒す。容赦のない3点パンチを食らわしている。

暦も挑んだが惜しくも負ける。

蓮華「強いな。」

撫子「そんなことないですよ。」

蓮華「なら俺とバトルするか？」

撫子「え？」

蓮華「お前がどんだけ強いのか確かめてやる。」

撫子「お、お願いします。」

蓮華「そうこなくちやな。暦、いつまでショック受けてんだ交代だ。」

暦「おう…。」

暦がかなりシヨック受けているも蓮華と席を交代する。

バトルは蓮華は光龍騎神サジツト・アポロドラゴンをレベル3で召喚するも撫子は白蛇帝アルデウス・ヴァイパーをレベル3で召喚している。

お互いキースピリットを召喚してをり戦闘態勢。先に仕掛けたのは撫子で、アルデウス・ヴァイパーに紫電の靈剣ライトニング・シオンダイレクトブレイヴし、アタックをする。アタック時の効果で召喚していた太陽神龍ライジング・アポロドラゴンが消滅し、蓮華はライフで受け残りライフが1となる。追撃として白騎竜ホワイト・ペンドラゴンでアタックするも蓮華が白晶防壁でホワイト・ペンドラゴンを手札に戻す。

蓮華のターンになりサジツト・アポロドラゴンに輝竜シャイン・ブレイザーをダイレクトブレイヴさせ、アタック。フラッシュユタイミングで蓮華がバーニングサンを使用し輝きの聖剣シャイニング・ソードを効果で召喚しブレイヴ、そこから回復する。ライフを3削り、再びアタック。それにより蓮華が勝利する。

蓮華「危なかった、下手すると次のターンで確実にやられていた。」

撫子「蓮華お兄ちゃん、強いですね。」

蓮華「そんなことないよ。むしろ、あの状態から逆転狙うのはかなりしんどかった。」
暦「つて言いながらサラッとやるなよ。」

蓮華「結構手札厳しかったんだよ。最悪、防御マジック引かなかつたら間違ひなく敗北。次のターン、ホワイト・ペンドラゴンと他、何か召喚してアタックすればライフは0になるからな。」

暦「あーそうなるか。」

蓮華「妖蛇のデツキはドロ一枚数が多く、防御マジック引くこともある。場合によってはスピリットやネクサスを展開して相手を困らせるっていうプレイングをすることが出来る。」

暦「そうか…でも、俺の夜族デツキだと相手のコアを外すことが多いけど妖蛇はそういう動きが出来るのか。」

撫子「暦お兄ちゃんはあるんまり知らなかったの？」

暦「知らなかったってよりそんな風に動けるってことが知らなかっただけだよ。」

蓮華「暦の場合、デツキコンセプトが古いのをチョイスしてるし、むしろ、始めた時期が悪かったってこともあるかも。」

暦「言うなよ…。」

そんなことしていると玄関のチャイムが鳴り暦が対応するとそこには羽川翼が来ていた。

おそらく阿良々木火燐と月火によって呼ばれたのではないかと思われる。そう言うことで蓮華とは初対面なので挨拶スタートからバトルする。

結果は蓮華の勝利だが彼女も強いプレイングを見せたのであった。

蓮華「驚きだ、剣獣のデッキにあそこまで手間取るとは……」

翼「そんなことないよ。蓮華君の動きはやっぱ達人だね。」

蓮華「達人ね……達人と言えるほど強い動きを見せてないけどな……」

翼「でも、どのタイミングでマジック撃つか決めてたでしょ？それこそ見極め方が凄かったし普通ならどのタイミングで撃つかなんて決められないよ？」

蓮華「うーん、そんなもんかな……」

翼「そんなもんだよ。」

説得力ある言い方に蓮華も少し困惑する。

その後、翼と暦でバトルするも、翼の勝利。

暦全敗である。

時刻は夕方になり、解散。夕食を取って風呂に入り、暦と蓮華は暦の自室にて構築を考える。

そして次の日、再び阿良々木火燐と月火に挑むも何とか勝利、遊びに来た撫子と翼には負けたが。

そんな夕方、蓮華は曆達に理由を話す。

再び蓮華は自宅に向かって歩いて行くのであった。見送りとして翼と曆がいるのであった。

自宅向けて歩いているとカードショップ Galaxy という場所を見つけた。初めて見る場所なので中に入って周りを見渡す。

? 「ここは初めてか?」

蓮華 「?」

? 「おっと、自己紹介しなきゃな。私は佐藤（さとう）ますき。親しい奴からはマスキングって呼ばれてるよ。」

蓮華 「六道蓮華。」

マスキング 「六道蓮華…もしかしてバトスピチャンピオンシップでソロ優勝した人か!？」

蓮華 「だとしたら?」

マスキング 「勝負を挑むね!」

蓮華「いいだろう、勝負だ。」

蓮華とマスキングは勝負するためテーブルに着く

蓮華「準備いいな？」

マスキング「いつでもいいぞ。」

蓮華・マスキング「ゲートオープン解放！」

バトルが始まりお互い盤面を整えていく。

そして…

マスキング「軽減3、コスト4で辰の十二神皇ウロヴオリアスをレベル2で召喚。」

蓮華「(ウロヴオリアス!?) 珍しいデッキだな。」

マスキング「そうか？」

蓮華「ああ、十二神皇を使うプレイヤーは結構限りがあるしね。」

マスキング「そうなんだな。召喚時でリザーブからソウルコアをライフに置く」

蓮華「封印か。ここから厄介になるか…。」

マスキング「アタックステップ、ウロヴオリアスでアタック。」

蓮華「(下手にライフで受けるとウロヴオリアスの効果でライフが削られる。)フラッシュタイミング、コスト4でマジック、リミテッドバリアを使用。コスト4以上のスピリット、アルティメットのアタックではライフは減らない。」

マスキング「ターンエンド。」

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。」

マスキング「ウロヴオリアスの呪縛の効果で各ステップ開始時に相手のリザーブ、スピリットのコア1個を相手のトラッシュに置く。スタートステップからメインステップの開始時なのでコア5個をトラッシュに置く。」

ブレイドラX2体からコア2個、モルゲザウルスXから1体から1個、リザーブから2個コアをトラッシュに置く。」

蓮華のブレイドラX2体、モルゲザウルスXはコアがなくなり消滅。

だが、蓮華は冷静に対処する。

蓮華「軽減2、コスト4で月紅龍ストライク・ジークヴルム・サジツタをレベル2で

召喚。光導創神アポロンと馬神弾にコアチャージ発揮。アタックスステップ、ストライク・ジークヴルム・サジツタでアタック。」

マスキング「フラッシュはない。」

蓮華「フラッシュタイミング、ソウルコアをトラッシュに置き、超神光龍サジツトルム・ノヴァを月紅龍ストライク・ジークヴルム・サジツタに煌臨。」

マスキング「サジツトルム・ノヴァ!?なんてもんをもつてやがる!」

蓮華「光導創神アポロンと馬神弾にコアチャージ発揮。煌臨時効、BP20000以下の相手スピリット、アルティメットを破壊する。対象はウロヴオリアス。」

マスキング「!」

蓮華「これで少しは自由に動ける。残りはライフを0にするのみ。」

マスキング「ダークネスワイバーンでブロック。」

蓮華「ターンエンド。」

マスキング「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。フル軽減2、2コスト、混沌の魔術師アマルデイをレベル1で召喚。召喚時で自分のデッキを上から3枚破棄。」

破棄されたカード：タツミ、戌の四騎龍ホワイトライダー、龍魔神

マスキング「その後、トラッシュにあるブレイヴカードか自身以外の紫のスピリットカードを手札に加える。ウロヴォリアスを手札に、ターンエンド。」

蓮華「スタートステップ、コアステップ、ドローステップ、リフレッシュステップ、メインステップ。軽減2、コスト2で銀河星剣グランシャリオをサジットヴルム・ノヴァにダイレクトブレイヴ。馬神弾にコアチャージ発揮。サジットヴルム・ノヴァをレベル3にアップ。アタックステップ、サジットヴルム・ノヴァでブレイヴアタック。サジットヴルム・ノヴァのアタック時効果でBP2000以下のスピリット、アルティメットを1体を破壊。混沌の魔術師アマルデイを破壊。」

マスキング「(リミテッドバリアを使用してアタシのライフは0になる。リミテッドバリアは効果でのライフ減少は防げない。馬神弾がある限りブレイヴスピリットの攻撃でライフが1点削られる…なら。)フラッシュはない、ライフで受ける。」

マスキングは地道にライフが削られるより豪快にライフを削られることを決めた。

実力は蓮華が上であるのが分かるため潔く負けを認めた。

だがマスキング本人は悔しそうではあつたが。

マスキング「強い、これがソロ優勝した人間の強さ。」

蓮華「そんなことない、アンタも強かったよ。盤面を読み間違えれば負ける。カード一枚引くだけでどんな逆転するか考えるのもあるしね。」

マスキング「そうなのか…。」

蓮華「楽しかったよ、また機会があれば会おうぜ。」

蓮華はそう言い残しデツキをしまい、席を立つてその場を去った。

マスキングは「ああ、今度は絶対に勝つ！」と蓮華に言う。

店を出た蓮華は街を歩く。歩いていると突然蓮華は声を掛けられる。

？「アンタ、全国をソロ優勝した人でしょ。」

蓮華「だから何だ。」

？「ワタシは球手ちゆ、一部からはチュチュと呼ばれているわ。」

蓮華「へ〜。(子供にしては自信に満ち溢れている感はあるな。プレイングに自信がある奴か。)」

チュチュ「アンタに勝負を申し込む、六道蓮華。」

蓮華「勝負か…いいよ、ただしどれだけ強いか確かめさせてもらうよ。」

場所を移し公園のテーブルでバトスピをする。

バトルを開始をするも、蓮華のプレイングはあまりにも化け物染みていた。

どのタイミングでマジックを使うか、ハツタリと見せかけたアタック。そのことから
チュチュの盤面が更地にさせられる。

チュチュ本人も驚愕である。プレイングに自信があるはずがここまで崩されている。
その結果、蓮華の勝利。

チュチュ「な…なんなのアンタのプレイング…。」

蓮華「全国行くとここまでやらないと勝てないしな。楽しいバトスピしたいのならこ
こまでやんないよ。」

チュチュ「ワタシとのバトルは楽しくなかったの!？」

蓮華「そうじゃないよ。真剣勝負を挑んできたからやっただけで…。」

チュチュ「限度があるでしょ!？」

まさかの負け方に怒るチュチュであった。

蓮華「でえ、俺になんか用な訳。真剣勝負以外にも何かあるんだろ。」

チュチュ「……。」

蓮華「なんだよ？」

チュチュ「六道蓮華、アンタに頼みがある。」

蓮華「ん？」

チュチュ「アンタにワタシが組むチームのコーチもしくはチームに入って欲しいの。」

蓮華「チームのコーチ、チーム加入？」

チュチュ「そう、ワタシは今メンバーをスカウトもしくはコーチのスカウトしてるの。特にアンタはみたいに全国行ってる人なら戦力になる。コーチになってもチームの戦力になる。」

蓮華「そうか……でも、悪いな生憎俺は今旅の途中なんだ。こんなところで縛られるわけにはいかないんだよ。」

そうやって蓮華はその場を去った。

チュチュはそれを聞いて呆然とした。

寄り道を射てしまった蓮華はようやく家に到着、久々の家だ。

自宅の鍵を開けて家に入る。リビングに入ると机には手紙があった。

内容によると……

1 : 両親は仕事の関係上一時的に外国に。

2 : 妹のこと、六道香蓮は修行のため家を出た。

3 : 学校に関しては編入届が男子高に出しているので5日後に学校に行くこと、制服は自室に用意している。

4 : 生活費は両親が振り込んでいる。食費だけどうにかして欲しい。

5 : 収入が欲しければバイトをおすすめする。

と言う内容であった。

蓮華は内容を理解し、今後の生活を取り組むのであった